

ISSN 0910-7282

大阪府立図書館紀要
第44号
2016年3月

Bulletin of Osaka Prefectural Library No. 44

大阪府立中之島図書館
大阪府立中央図書館

目 次

大阪府立中央図書館における蔵書点検の変遷について	徳森 耕太郎	P 1
(館資料)「長田富作資料」目録 <書簡の部>	垣口 弥生子 平野 翠 門上 光夫	P 7
『大阪府史』の修史事業について	大北 智子	P32
翻刻『[大坂城代阿部播磨守御用留]』	佐藤 敏江 小笠原 弘之 北川 敬子 苗村 昌世 日置 将之 八木 美恵 山田 瑞穂	P34
翻刻『京阪在役中随筆』	佐藤 敏江 八木 美恵	P99
大阪府立中之島図書館所蔵 『萬色一瞞』目録稿 一乾三の部 承前一	小林 孔 高井 悠子	一頁

編集後記

大阪府立中央図書館における 蔵書点検の変遷について

徳森 耕太郎（大阪府立中央図書館）

1. はじめに

大阪府立中央図書館（以下「当館」という）は平成 8 年 5 月の開館以降、平成 9 年度より毎年一度ずつ蔵書点検を実施している。平成 28 年で開館 20 周年を迎えるにあたり、本稿では 19 回分の蔵書点検を振り返り、その変遷を報告する。

構成は次のとおりである。まずその作業内容を確認した上で、点検期間の変遷についてみる。そして当館蔵書点検の特徴のひとつである開館しながらの実施について言及し、次に作業件数の変遷、最後に点検対象について報告する。

2. 主な作業内容

変遷をみる前に、前提として当館での蔵書点検作業内容について確認する。当館では次のような流れで蔵書点検を行うのが通例である。

- (1) 書架の資料を正しく並べ替え、整頓・清掃する（以下「番号揃え」という）。
- (2) ポータブル端末により各資料に貼付したバーコードを読み取り、データ上の所在や状態と一致しているかを確認する（以下「点検作業」という）。
- (3) データと齟齬のある資料等を複数の帳票で抽出し、調査する（以下「調査作業」という）。
- (4) その他、(1)(3)等で発見した各資料の修理やデータ訂正、書架調整等を行う。

まず「(1)番号揃え」を係員の手で確実に言い、(2)や(3)の作業効率を高めると同時に、(4)の作業対象となる要修理資料の抽出等も行う。次に蔵書点検の核となる「(2)点検作業」を行う。そして(2)によって判明した所在不明等資料について「(3)調査作業」を行う。また並行して「(4)その他作業」を行う。但し、当館の蔵書規模では、(1)番号揃えや(2)点検作業を

短期間で全ての所蔵資料について行うことは難しい。よって、一度の蔵書点検で対象とするのはその一部であり、数年をかけて全ての資料の点検を行うこととしている。

この一連の蔵書点検作業を毎年行うことにより、開館以来受け継いだ蔵書の秩序が維持され、今日の図書館サービスの基盤となっているものと認識している。

次章より、蔵書点検の具体的な変遷について確認する。

3. 点検期間

はじめに、蔵書点検の期間についてみる。【表 1】はその変遷、【表 2】は日数の推移をグラフにしたものである。

点検期間【表 1】

る。

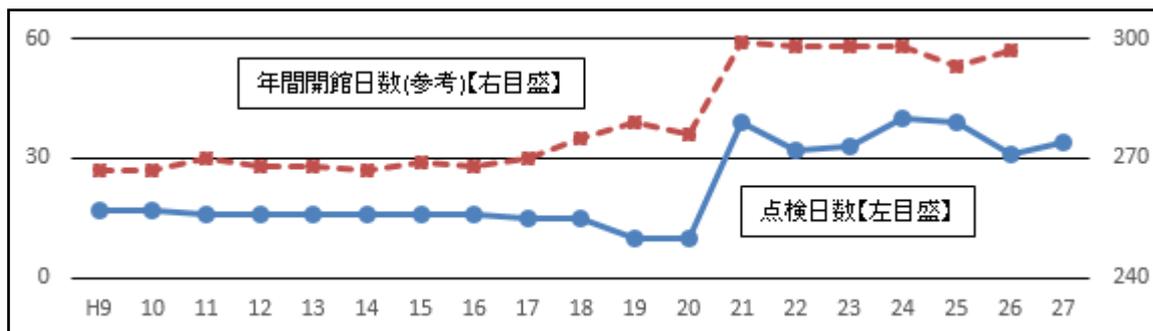
実施時期は概ね 5 月から 6 月となっている。平成 22 年度は、5 月に国際児童文学館の移転開館を行ったこと、また委託による蔵書点検作業導入の準備等により、11・12 月での点検実施となっている。平成 27 年度に期間が飛び石となっているのは、祝日後の休館日にも一部作業を行ったことによる。

次に点検日数をみると、平成 9 年度は 17 日間の蔵書点検期間を確保し、休館して作業を実施している。

	期間	日数
平成 9 (1997) 年度	6/3 (火) ~6/19 (木)	17
10 (1998)	6/9 (火) ~6/25 (木)	17
11 (1999)	6/15 (火) ~6/30 (水)	16
12 (2000)	6/20 (火) ~7/5 (水)	16
13 (2001)	6/19 (火) ~7/4 (水)	16
14 (2002)	6/18 (火) ~7/3 (水)	16
15 (2003)	6/10 (火) ~6/25 (水)	16
16 (2004)	6/8 (火) ~6/23 (水)	16
17 (2005)	6/21 (火) ~7/5 (火)	15
18 (2006)	6/6 (火) ~6/20 (火)	15
19 (2007)	6/5 (火) ~6/14 (木)	10
20 (2008)	6/10 (火) ~6/19 (木)	10
21 (2009)	5/12 (火) ~6/19 (金)	39
22 (2010)	11/9 (火) ~12/10 (金)	32
23 (2011)	5/9 (月) ~6/10 (金)	33
24 (2012)	5/7 (月) ~6/15 (金)	40
25 (2013)	5/7 (火) ~6/14 (金)	39
26 (2014)	5/7 (水) ~6/6 (金)	31
27 (2015)	5/7 (木)、5/11 (月) ~6/12 (金)	34

それ以降、利用者の利便性を考慮し、作業を効率化する等休館日数の縮減に取り組み、平成 19 年度には 10 日間まで点検期間を短縮している。ところがそれ以上の効率化は難しく、10 日間を下回る期間短縮は断念することとなる。そこで平成 21 年度には、開館しながらの蔵書点検の実施を試みることとなった。

点検日数推移【表 2】



4. 開館しながらの蔵書点検

これは作業対象室のみ部分休室し、それ以外は通常どおり開館しながら蔵書点検を実施するもので、点検期間自体は長期化したものの、蔵書点検による休館日は実質 0 日となった。

当館は 4 階全体が人文系資料室、3 階全体が社会・自然系資料室、1 階にこども資料室や国際児童文学館等を配置している。一定の規模をもつこれら 4 室を順に部分休室し、点検実施する形である。

この点検方法について、平成 21 年度の点検期間中とその前後に利用者アンケートを実施したところ、全館休館し、短期で点検期間を終了する方法よりも、全館休館を避け、部分休室しながら長く点検期間を取る方法が支持される結果となった。これを受け、以後は部分休室の形で蔵書点検を行っている。

とはいえ、その手法は試行錯誤が続いた。平成 21 年度点検では、日毎に点検対象の区画だけをパーティションで区切り、利用停止とした。例えば、今日は 4 階人文系資料室の半分が利用停止、翌日はもう半分が利用停止、といった具合である。これは利用停止対象資料を最小限にとどめ、利用者の利便性に配慮したものだが、利用停止対象資料が短期間で移り変わることで、また点検作業による機械音・作業音が同一フロアの閲覧環境に影響を及ぼすこと等、かえって一部混乱を招いた。よって翌年以降は、室単位での部分休室の形に

変更した。それ以外にも、地下書庫の各資料群を利用停止とするタイミングや、図書館情報システム上のフラグの工夫等、様々な面での検証や改善を必要とした。

開館しながらの蔵書点検は、休館日が発生しないという大きなメリットがある。一方で、点検期間の長期化や、開館部分は資料が動き続けることから全体的に点検精度が落ちてしまう点、また利用者サービスと蔵書点検作業を両立させるための人員確保の必要性等、デメリットも複数存在する。導入の際は、館の状況等を鑑み慎重に検討する必要がある。

5. 作業件数

次に、作業件数についてみる。【表 3】はその変遷である。

番号揃え件数・点検作業件数共に、増加や減少の明確な傾向はみられないが、年によっては大きな増減がある。

例えば平成 13 年度は、点検作業件数が大きく減少している。これは、この点検期間中に全館の端末入替を実施し、その作業との兼合いから点検作業数を調整したものである。また平成 17 年度は、期間中に図書館情報システムの大規模更新を実施したことから、同じように点検作業件数が減少している。他にも、開館後数年はこの期間中に大掛かりな書架棚調整等を実施した。一定の期間・人員を必要とする大規模な作業は、それが確保できる年に一度のこの期間を待ち、集中的に実施していた。それらの多寡が作業件数に影響していることがみてとれる。平成 21 年度以降は、開館しながらの蔵書点検に移行したため、こういった大掛かりな作業を期間中に行うことは難しい状況となった。

点検件数【表 3】

	番号揃え	点検作業
平成 9 (1997) 年度	927,000	1,031,900
10 (1998)	950,000	763,600
11 (1999)	800,000	672,700
12 (2000)	745,000	808,900
13 (2001)	1,390,000	277,000
14 (2002)	1,100,000	518,800
15 (2003)	1,460,000	468,000
16 (2004)	930,000	772,000
17 (2005)	1,600,000	313,400
18 (2006)	1,311,800	899,100
19 (2007)	1,341,000	696,800
20 (2008)	1,560,000	616,400
21 (2009)	1,580,000	625,100
22 (2010)	1,800,000	736,800
23 (2011)	1,250,000	752,500
24 (2012)	1,620,000	704,000
25 (2013)	1,263,000	788,000
26 (2014)	1,292,000	797,000
27 (2015)	1,239,000	768,000

さて一方で、平成 22 年度以降は概ね安定した件数であることがみてとれる。これは、蔵書点検の定型的作業に委託を導入したことによる。具体的には、基本的に番号揃えと点検作業を委託し、その後に行う調査作業等は従来通り職員が担当する形としている。

平成 21 年度までは、事前計画範囲の作業が想定以上に進捗した場合、別の個所に着手することもあった。作業対象資料群により資料状態や判型等様々な傾向があるため、作業効率は大きく異なる場合があり、作業時間が事前想定と異なるケースが起り得る。そのため柔軟性をもった作業計画の下、計画を上回る進捗の年もしばしばあった。

蔵書点検作業の委託後は、それらをできる限り事前に検証し、一層入念なシミュレーションを行った上で計画を策定することが必要となった。また受託業者の（臨時的な雇用形態である場合も多い）作業員が確実に計画をこなせるよう、マニュアル整備や事前説明、指示・表示等に一層配慮を行うこととなった。一方で、一度に多くの作業員が投入できる点や、職員が調査作業や通常の図書館サービスに専念できる、といった効果が出ている。

6. 点検対象

当館の蔵書規模では、一度の点検期間で全所蔵資料を対象とすることができないのは先に述べた。よって過去 19 回の蔵書点検では、毎回点検対象資料が異なっている。中長期的な視点に立ち、また利用頻度等も勘案しつつ、計画策定を行っている。

毎年必ず点検対象としているのが、開架資料群である。これらは最もよく利用され、動きの大きい資料群であり、それにより配架の乱れや紛失が最も起きやすい資料群でもある。よって毎年必ず蔵書点検の対象とすることで、蔵書を確実に管理する狙いがある。

次にほぼ毎回点検対象としているのが、各階書庫の資料群である。当館は地下書庫をもち、大多数の資料をそこに収蔵しているが、各階・各室バックヤードにも小規模の書庫を設けている。ここには比較的利用の多い参考図書類等を収蔵しており、開架資料群と同様の理由から点検周期を密にしている。

地下書庫については、平成 9 年度から 21 年度頃にかけては、概ね 3 年程度で全資料を網羅する周期にて点検を行っていた。大まかに、旧夕陽丘図書館資料群、中之島図書館移管資料群、当館開館後受入資料群の 3 つの資料群を 3 年で循環する形である。その後の所蔵資料の増加に伴い、現在この周期は概ね 5 年となっている。

7. おわりに

以上、当館の蔵書点検についてその変遷をみた。例年実施する中で、利用者のニーズに合わせて改善点を模索し、少しずつ変化していることがわかる。

現在の当館の蔵書は、大阪府立図書館が1904年の開館以来受け継ぎ、維持してきたものである。この府民の貴重な財産である資料群を維持し、確実に次代に伝えるため、蔵書点検を今後も適切に実施し、今日の利用者と後世の利用者に資するべく、引き続き努めたい。

参考

- ・日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学会用語辞典 第4版』丸善出版 2013
- ・日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編『図書館ハンドブック 第6版補訂版』日本図書館協会 2010
- ・小黒浩司編著『新現代図書館学講座 8 図書館資料論 新訂』東京書籍 2008
- ・「中之島百年-大阪府立図書館のあゆみ」編集委員会編『中之島百年-大阪府立図書館のあゆみ』大阪府立中之島図書館百周年記念事業実行委員会 2004
- ・大阪府立中之島図書館ホームページ；蔵書点検のはなし[<http://www.library.pref.osaka.jp/site/nakato/zoten.html>]

(館資料)「長田富作資料」目録 <書簡の部>

編纂：垣口 弥生子（桃山学院大学兼任講師）(1)

平野 翠（奈良大学非常勤講師）(2)

門上 光夫（大阪府立中央図書館）

2011（平成 23）年から始めた大阪府立図書館第 2 代館長長田富作の遺したすべての資料の整理を今年度に終えることができた。文書については先に整理を終え、『大阪府立図書館紀要』第 42 号（2013 年）で報告した。今回目録を公開するのは若干の文書と個人および団体の書簡である。

なお、「長田富作資料」の来歴および長田富作については、『大阪府立図書館紀要』第 42 号 26-34 頁に記載している。

(凡例)

一 <文書の部>補遺 【請求記号 F】

(1) <文書の部>と同様に資料の作成者別に 5 類に分け、全 9 種の小見出しを付けた。

(2) 5 類 9 種は以下の通り。

- 1 大阪府立図書館・大阪府関係 1.1 庶務 1.2 展示会 1.3 貸出文庫・読書会
- 2 大阪・近畿地方図書館関係 2.1 大阪図書館協会関係 2.2 近畿図書館協議会関係 2.3 大阪文化施設協会関係
- 3 日本図書館協会関係
- 4 中央図書館長協会関係
- 5 その他

なお、「2.3 大阪文化施設協会関係」と「4 中央図書館長協会関係」については今回対象となる資料はなかった。

(3) 各類の詳細は、『大阪府立図書館紀要』第 42 号の 43 頁の「凡例」を参照されたい。

二 <書簡の部>【請求記号 G】

(1) まず書簡全体を、書簡の宛先（差出）別に、「長田富作宛」、「上松寅三宛」(3)、「長田富作差出」「その他宛」の 4 類に区分した。

(2) 各区分内は差出人（2 の長田富作差出は宛先）の 50 音順に配列した。

(3) 差出人、宛先人が複数の場合は、さらに作成順に配した。作成は消印で判断し、消印の判読ができない場合は書簡に記された年月日を参照した。

(4) 差出人、宛先人には肩書きを付し、() には住所を記した。

(5) 「長田富作宛」、「上松寅三宛」には差出人の見出しを配した。

(6) 文書として一括してまとめられていた書簡については文書としてまとめている。先に公開した<文書の部>の目録を参照されたい。

【註】

(1) 元・大阪府立中之島図書館（在職 1980 - 2006）。『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』編集委員。現在、桃山学院大学、佛教大学等で非常勤講師（「図書館史」）。

(2) 元・大阪府立中之島図書館（在職 1970—2006）。在職中『大坂本屋仲間記録』翻刻・出版事業に参加。現在、奈良大学、京都橘大学等で非常勤講師。

(3) 上松寅三は大阪府立図書館司書。今井貫一在職 25 周年を記念して発行された『石山本願寺日記』（1930 年）の編纂に携わった。

長田富作資料
 <文書の部>補遺

1 大阪府立図書館・大阪府関係

1.1 庶務

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-7		履歴書					「宮内省図書寮九」と書かれた封筒にあり
F-7	1	履歴書	湯村昇三	昭和3年12月1日	手書き	1枚	枠外に鉛筆書きで「岡村監視紹介十二月一日三年」とあり
F-7	2	履歴書	野間定之		手書き	1枚	
F-7	3	履歴書	梅本長太郎		手書き	1枚	
F-7	4	履歴書	横内可平	昭和4年5月	手書き	1枚	
F-7	5	履歴書	山下一郎	昭和6年1月	手書き	1枚	弘前市富田 桜木〇〇 三浦圭三 両名より差出 封筒 (昭和6年1月31日消印)
F-7	6-1	履歴書	三ヶ尻浩	昭和6年3月	ガリ版	3頁	同一物2部あり
F-7	6-2	書簡	三ヶ尻浩		手書き	2枚	
F-7	7	履歴書	弘田保	昭和6年6月8日	手書き	2頁	福岡県浮羽中学校長田中秀次郎より差出。封筒(昭和6年7月21日)
F-7	8	書簡	出家祐吉	昭和6年7月22日	手書き	1枚	
F-7	9	履歴書	石川良一	昭和6年8月	手書き	1枚	同内容2枚。観諷社石川富峰より差出。封筒
F-7	10	履歴書	田野稔	昭和6年12月	手書き	1枚	
F-8		履歴書					
F-8	1-1	履歴書	潮崎俊一	昭和9年4月12日	手書き	1枚	兵庫県武庫郡 本人より差出。封筒(昭和9年4月13日消印)。大阪府大谷社会課長差出封筒に入っていた。
F-8	1-2	書簡	潮崎		手書き	1枚	館長宛
F-8	1-3	名刺	村上寛			1枚	
F-8	2-1	履歴書	寺脇捨蔵	昭和9年5月8日	手書き	2枚	本人より差出。封筒(昭和9年6月18日消印)
F-8	2-2	書簡	寺脇捨蔵	6月17日	手書き	1枚	
F-8	3	履歴書	村上不二雄	昭和10年	手書き	1枚	
F-8	4	履歴書	亀井宇尹	昭和12年2月9日	手書き	1枚	「西岡君」と書かれた封筒
F-8	5	名刺	岸江憲一			1枚	独逸国有鉄道中央観光局日本支局の肩書
F-9		履歴書	大里輝子	昭和7年5月25日	手書き	1枚	同内容2部。封筒
F-10		履歴書	高塚義治		手書き	2枚	長田による下書き。「高塚義治氏略歴」の封筒
F-11		履歴書	貞吉武夫		手書き	1枚	長田による下書き。大阪府立図書館用箋。封筒
F-13		MEMO年代便覧〔メモ〕	〔長田富作〕		手書き	1冊	『年代便覧』の注文者部数メモ
F-14		上申書	杉田みち・井上アサ子・菅井二三子・洲浜シズエ・三中菊枝	昭和5年8月26日	手書き	1枚	今井貫一宛
F-22		前館長伝記資料〔メモ〕			手書き	4枚	大阪府立図書館用箋
F-23		大阪図書館年報(第二)	大阪図書館	明治39年6月30日	印刷	1冊	赤字で「永久保存」
F-27		資源回収代替○需要量明細調査票			印刷	1枚	

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-35		メモ	長田富作		手書き	5枚	「東西連合古本大即売会」の封筒

1.2 展示会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-12		〔郷土先儒遺著展覧会関係資料〕					
F-12	1	郷土先儒遺著展覧会目録	大阪府立図書館	昭和13年10月	印刷	1枚	会期：昭和13年10月16日～18日
F-12	2-1	猪熊信男宛出陳依頼状	大阪府立図書館長 長田富作	昭和13年9月5日	印刷	1枚	公印あり、未送付
F-12	2-2	書簡	猪熊信男	昭和13年9月11日	手書き	1枚	出陳依頼に対する返信
F-12	2-3	書簡	猪熊信男	昭和13年10月17日	手書き	1枚	礼状
F-12	3-1	書簡	石浜純太郎	昭和13年9月5日	手書き	1枚	展覧会プラン
F-12	3-2	書簡	石浜純太郎	昭和13年10月3日			封筒のみ
F-12	4-1	書簡	伊藤晋	昭和13年10月14日	手書き	1枚	ハガキ。出陳依頼了承の件
F-12	4-2	書簡	大阪府立図書館長 長田富作	昭和13年10月20日	印刷	1枚	伊藤晋宛（印刷文、封書入り、未送付）
F-12	5-1	岩崎佐一宛出陳依頼状	大阪府立図書館長 長田富作	昭和13年9月5日	印刷	1枚	公印あり、未送付
F-12	5-2	書簡	岩崎佐一	昭和13年9月12日	手書き	1枚	出陳依頼に対する返信
F-12	5-3	書簡	岩崎佐一	昭和13年9月25日	手書き	3枚	展覧会出品に関する件
F-12	6-1	書簡	内海景普	昭和13年9月2日	手書き	1枚	所蔵品問い合わせに対する返信
F-12	6-2	書簡	内海景普	昭和13年9月14日	手書き	1枚	東京木崎氏の所蔵品について等
F-12	6-3	書簡	内海景普	昭和13年10月19日	手書き	1枚	展覧会欠席の詫び状
F-12	7	大谷大学図書館長宛出陳依頼状	大阪府立図書館長 長田富作	昭和13年9月5日	印刷	1枚	「手紙を以て依頼ズミ」と書込みあり
F-12	8	書簡	狩野直喜	昭和13年10月24日	手書き	1枚	ハガキ。『郷土先儒遺著聚英』受贈の礼
F-12	9-1	書簡	玉樹香文房	〔昭和13年〕9月7日	手書き	4枚	資料借入先の紹介
F-12	9-2	書簡	玉樹香文房	昭和13年9月29日	手書き	1枚	ハガキ。資料貸出の段取りについて
F-12	10	中野康章宛出陳依頼状	大阪府立図書館長 長田富作	昭和13年9月5日	印刷	1枚	キャプションあり。
F-12	11	書簡	新見虚舟	昭和13年10月12日	手書き	1枚	ハガキ。展観お知らせの礼。
F-12	12	書簡	石橋重吉	〔昭和13年〕10月13日	手書き	1枚	封筒欠。展観目録の寄贈願
F-12	13	吉井太郎宛出陳預状	大阪府立図書館長 長田富作	昭和13年9月27日	印刷	1枚	
F-12	14	龍谷大学図書館長宛出陳依頼状	大阪府立図書館長 長田富作	昭和13年9月5日	印刷	1枚	
F-31		国史展覧会往復文書					
F-31	1	皇紀二千六百年国史展覧会〔案内状〕	大阪府立図書館長 長田富作	昭和15年1月10日	印刷	1枚	裏面にメモあり。
F-31	2	〔出展のための借り受けメモ〕			手書き	1枚	
F-31	3	〔預かり書〕	図書館長 長田富作	昭和15年1月11日	印刷	1枚	佐佐木信綱宛。封筒あり

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-31	4-1	図書借用願	大阪府立図書館長 長田 富作	昭和14年12月18日	手書き	1枚	宮内省圖書寮頭金田才平宛。リストあり。宮内大臣松平恒雄宛封筒に入る
F-31	4-2	図書撮影出版願	大阪府立図書館長 長田 富作	昭和14年12月18日	手書き	1枚	宮内省圖書寮頭金田才平宛。リストあり。宮内大臣松平恒雄宛封筒に入る
F-31	4-3	御物図書日本書紀御貸下ノ件	大阪府立図書館長 長田 富作		手書き	1枚	宮内大臣松平恒雄宛封筒に入る
F-31	5	〔ハガキ〕	石山寺	昭和13年12月7日	手書き	1枚	
F-31	6	〔ハガキ〕	猪熊信男	昭和14年1月31日	手書き	1枚	
F-31	7	〔書簡〕	猪熊信男	昭和14年12月21日		1枚	封筒のみ
F-31	8	〔ハガキ〕	小川睦之輔	昭和14年12月4日	手書き	1枚	
F-31	9	〔書簡〕	宮内省図書寮 宮良當壯	昭和14年12月6日	手書き	1枚	宮内省用箋
F-31	10	〔ハガキ〕	鈴鹿三七	昭和14年12月1日	手書き	1枚	
F-31	11	〔書簡〕	尊経閣文庫 今井吉之助	12月23日	手書き	1枚	
F-31	12	〔書簡〕	京都帝国大学図書館 竹 林熊彦	昭和14年12月28日	手書き	1枚	
F-31	13	〔書簡〕	大札記念金沢市立図書館 長 毎田周治郎	昭和14年12月20日	手書き	1枚	
F-31	14	〔ハガキ〕	宮良當壯	昭和14年12月20日	手書き	1枚	
F-31	15	〔ハガキ〕	保井芳太郎	昭和15年1月3日	手書き	1枚	
F-31	16	〔ハガキ〕	京都帝大図書館 山鹿誠 之助	昭和14年12月1日	手書き	1枚	
F-31	17	〔ハガキ〕	山鹿誠之助	昭和14年12月28日	手書き	1枚	
F-31	18	〔ハガキ〕	〔東寺観智院〕	昭和14年11月30日	手書き	1枚	
F-31	19-1	〔電報のメモ〕			手書き	2枚	
F-31	19-2	〔電報〕	イノウマ	昭和14年12月16日	印刷	1枚	
F-31	19-3	〔電報〕	イ	昭和14年12月17日	印刷	1枚	
F-31	19-4	〔電報〕	イ	昭和15年1月10日	印刷	1枚	
F-31	19-5	〔電報〕	ミワ	昭和15年1月10日	印刷	1枚	
F-31	19-6	〔電報〕		昭和15年1月12日	印刷	1枚	
F-31	19-7	〔電報〕		昭和15年1月12日	印刷	1枚	
F-31	19-8	〔電報〕		昭和15年1月12日	印刷	1枚	
F-31	19-9	〔電報〕		昭和15年1月13日	印刷	1枚	
F-31	19-10	〔電報〕		昭和15年1月18日	印刷	1枚	
F-31	20	〔ハガキ〕	石山寺貫主 鷲尾光遍	昭和14年11月15日	手書き	1枚	大阪府立図書館長宛
F-31	21	〔ハガキ〕	東京帝国大学 龍肅	昭和15年1月22日	手書き	1枚	大阪府立図書館長宛
F-34		猪熊〇出陳目録	猪熊信男		手書き	1枚	
F-45		『昇平宝筏』展覧会キャプション					

1.3 貸出文庫・読書会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-19		国民精神総動員文庫協議会					

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-19	1	草稿〔議長挨拶〕			手書き	1枚	
F-19	2-1	国民精神総動員文庫規程			手書き	1枚	他メモ（断簡）。大阪府立図書館用箋
F-19	2-2	〔下書き〕			手書き	2枚	豊中市長宛。大阪府立図書館用箋
F-20		大阪府巡回文庫協議会〔昭和12年〕					
F-20	1	協議案		昭和12年2月3日	手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
F-20	2	協議会に就いて			手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
F-20	3	大阪府立図書館巡回文庫貸出文庫協議会			手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
F-20	4	大阪府図書館協議会			手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
F-20	5	〔挨拶草稿〕			手書き	5枚	大阪府立図書館用箋。紙背
F-20	6	巡回文庫ノ現状ト将来			手書き	14枚	大阪府立図書館用箋
F-20	7	〔協議題メモ〕			手書き	1枚	

2 大阪・近畿地方図書館関係

2.1 大阪図書館協会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-18		大阪図書館協会〔昭和10年〕					
F-18	1	〔公共図書館費国庫補助法制定に関する請願について〕	大阪図書館協会理事長 長田富作	昭和10年2月25日	印刷	1枚	同一物2部
F-18	2	大阪図書館協会理事会〔メモ〕			手書き	10枚	大阪府立図書館用箋
F-18	3	大阪図書館協会理事会〔メモ〕			手書き	4枚	
F-18	4	書簡	山岡亮三郎	昭和10年2月19日	手書き	1枚	宮田孝二宛
F-21		大阪図書館協会第9回総会メモ		〔昭和8年11月〕 18日	手書き	2枚	大阪府立図書館用箋

2.2 近畿図書館協議会関係

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-16		〔第25回近畿図書館協議会〕					
F-16	1	第廿五回近畿図書館協議会出席者名簿			印刷	1枚	
F-16	2-1	（添付ノ一）橋本曇齋先生百年記念会々則	〔橋本曇齋先生百年記念会〕	〔昭和10年5月〕	印刷	1枚	
F-16	2-2	（添付ノ二）橋本曇齋先生略年譜	〔橋本曇齋先生百年記念会〕	〔昭和10年5月〕	印刷	1枚	
F-16	2-3	（添付ノ三）橋本曇齋先生学統略図	〔橋本曇齋先生百年記念会〕	〔昭和10年5月〕	印刷	1枚	
F-16	2-4	（添付ノ四）橋本曇齋先生功績の概要	〔橋本曇齋先生百年記念会〕	〔昭和10年5月〕	印刷	1枚	
F-16	3-1	第二十五回近畿図書館協議会収支概算書	〔近畿図書館協議会〕		印刷	1枚	
F-16	3-2	第二十五回近畿図書館協議会経費決算書	〔近畿図書館協議会〕		印刷	1枚	
F-16	4	〔近畿図書館協議会準備メモ〕			手書き	11枚	
F-17		〔第30回近畿図書館協議会〕					

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-17	1	和中金助氏所蔵紀州関係資料展覧目録	和歌山県立図書館	昭和16年5月2・3・4日	印刷	1枚	同一物2部
F-17	2	名刺			印刷	5枚	和中金助・加藤等・伊達安朋・福井栄一・山口藤次郎
F-17	3	北島貞顕氏略歴			手書き	3枚	
F-17	4	北島館長記念品代〔メモ〕			手書き	3枚	趣旨。大阪府立図書館用箋。袋
F-17	5	書簡	竹林熊彦	昭和16年9月8日	手書き	1枚	北島前館長記念事業の件返事
F-17	6	書簡	内藤乾吉	昭和16年9月4日	手書き	3枚	北島前館長記念事業の件返事
F-17	7	〔下書き〕	近畿図書館協議会代表発起人		手書き	2枚	北島前館長記念事業の件
F-17	8	〔下書き〕			手書き	1枚	北島前館長記念事業の件
F-29	1	〔メモ〕			手書き	1枚	大阪府立図書館用箋ウラ
F-29	2	〔書簡〕長田富作宛	谷口月典二	9月17日	手書き	1枚	図書に存する細菌検査に関して
F-30		昭和十六年十一月十八日文部省長島孝氏来阪ヲ機トシテ近畿公立図書館長協議懇談会		〔昭和16年〕	手書き	3枚	大阪府立図書館用箋

3 日本図書館協会

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-25		全国図書館総合協議会			手書き	1枚	
F-26		電報	マツムト	昭和19年	印刷	1枚	長田富作宛
F-28		十一月四日理事会〔メモ〕			手書き	1枚	大阪府立図書館用箋
F-32		〔電報〕	マツモト	昭和10年2月12日	印刷	1枚	長田富作宛
F-33		〔書簡下書き〕	〔長田富作〕		手書き	5枚	大阪府立図書館用箋。「勅令改正案の案文により奏任員数を算出セルトキハ」とある。

5 その他

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-1		〔昭和10年大橋図書館開館カレンダー〕	財団法人大橋図書館		印刷	1枚	裏は「MEMO」と館内閲覧料金。同一物3部。他に「切取注意」(7×5)(5×5)と「貴重」(9×6)。「大阪府立図書館長 長田富作」の封筒に「大橋図書館」と記述されたものがある。
F-2		名刺〔安井英二〕			印刷	1枚	表に「御礼」。裏にメモあり。
F-3		名刺〔高安六郎〕			印刷	1枚	表に「長田館長殿」とあるメモあり。
F-4		北村西望作小日向定次郎先生肖像	小日向先生還暦記念事業会	昭和11年6月	印刷	1枚	
F-5		出納部会 昭和十二年一月			手書き	2枚	「記」と記されたメモ2枚(20×45)(20×32)あり。大阪府立図書館封筒にあり
F-6		犬鳴山七寶瀧寺本堂再建浄財勸進の疏	犬鳴山七寶瀧寺 法印覚照	昭和11年	印刷	2枚	
F-15		内藤家政					

袋番号	枝番	タイトル	制作者	年月日	記述法	頁	内容
F-15	1	書簡	内藤治	昭和18年2月18日	手書き	1枚	長田富作宛
F-15	2	書簡	内藤治	昭和18年2月2日	手書き	1枚	長田富作宛
F-15	3	小田裁縫家事研究所〔概要〕	小田裁縫家事研究所		手書き	5枚	
F-15	4	〔財団法人設立〕第一次手続			手書き	3枚	
F-15	5	小田家政女学校又ハ小田裁縫女学校（案）			手書き	13枚	
F-15	6	小田裁縫家事研究所入所案内	小田裁縫家事研究所		印刷	1枚	
F-24		東国と其後	きよ子	昭和6年11月	手書き	1冊	
F-36		西村の君の親子の文通をよみて 五首	長田富作		手書き	1枚	短歌
F-37		土佐派大和絵源平盛衰期六枚折屏風一雙			手書き	1枚	
F-38		七宝瀧寺本堂再建寄進願下書き			手書き	2枚	書体・内容の違うもの1部ずつ
F-39		下書き			手書き	1枚	
F-40		〔包紙〕				1枚	
F-41		〔芳菲〕				1枚	包み
F-42		WORCESTER FREE PUBLIC LIBRARY BULLETIN	WORCESTER FREE PUBLIC LIBRARY		印刷	84頁	
F-43		メモ			手書き	1枚	
F-44		原稿箋（カード）目録					8枚
F-46		絵ハガキ				3枚	

長田富作資料

<書簡の部>

長田富作宛

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
青田銀雄							
G-1	青田銀雄		3月30日	借用の朝鮮本『古文真宝』3冊返却	封書	自筆	封筒欠
青戸精一							
G-2	文部省科学局調査課長 青戸精一(東京都麹町区霞が関)	昭和19年6月29日			封書		封筒のみ
秋岡梧郎							
G-3	東京市立王子図書館秋岡梧郎	昭和17年1月18日	1月17日	公共図書館部会の意見、副部長人事の助言の礼	封書	自筆	
G-4	東京市立王子図書館秋岡梧郎(東京市王子区岸町)	昭和17年2月5日	2月4日	協会副部長人事について、富山加藤氏推挙、予め内諾を得たく	封書	自筆	
G-5	東京市立王子図書館秋岡梧郎	3月10日	3月9日	来る20日第一回公共図書館部会開催の件について	封書	自筆	
G-6	東京市立王子図書館秋岡梧郎	6月7日	6月17日	協会理事辞任の慰留、理事推薦の断り、帝大図書館長市河三喜氏に交代	封書	自筆	
G-7	東京市立王子図書館 秋岡梧郎		10月26日		封書	自筆	
秋山雅雄							
G-8	岡山県西大寺高等女学校 秋山雅雄	昭和7年2月26日	2月26日	私信(二女就職先斡旋依頼の返事)	封書	自筆	永杉寿秀1月16日発の長田宛。二女就職先斡旋依頼の返事同封
朝日新聞大阪本社							
G-9	朝日新聞大阪本社(北区中之島)	昭和19年7月2日	昭和19年7月3日		ハガキ		
飯田稔甫							
G-10	飯田稔甫(大阪市天王寺区大道)	昭和10年10月13日		(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)詠歌添書出陳の件	ハガキ	自筆	
池田多助							
G-11	池田多助等発起人12名		昭和12年10月	広島高等師範恩師堀卓次郎謝恩金募集	印刷	封書	封筒欠、孔版
石黒立							
G-12	島根県立青年師範学校 石黒立(出雲市)	昭和19年6月5日	6月4日		封書		
石山寺執事							
G-13	石山寺執事(大津市)	昭和15年1月11日	1月11日		ハガキ	自筆	
和泉郷土文庫							
G-14	和泉郷土文庫	昭和15年1月1日		リーフレット「小谷家展望」(昭和14年12月1日発行)	封書	印刷	
一海弘道							
G-15	一海弘道(京都市上京区紫竹梅ノ木町)	昭和12年12月27日	12月27日	史料調査の際の援助へのお礼	封書	自筆	
市来崎慶一							
G-16	市来崎慶一		4月25日	目録、『聖忠録』寄贈の礼状。及川大将への寄贈の分も届けたところ、至極満悦。独逸特許の件、日独間に交通便なく、役に立つことむつかしく……	封書	自筆	封筒欠、便箋6枚
市村其三郎							
G-17	大阪高等学校 市村其三郎	昭和10年10月14日	10月14日	(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)自費出版出陳の件	ハガキ	自筆	
一柳信之丞							
G-18	一柳信之丞(大阪市東淀川区国次町)	昭和10年10月28日	昭和拾年拾月中拾八日	佐久良東雄先生遺墨展に短冊拾枚、軸一幅出品*大阪府立図書館長宛	封書	自筆	佐久良東雄先生遺墨展
伊藤純一郎							
G-19	伊藤純一郎(豊中市南轟木)	昭和12年3月12日	昭和12年3月12日	娘すみこ図書館閲覧の礼	ハガキ	自筆	絵ハガキ(榊原紫峰画「秋晴」)
伊藤由三郎							
G-20	伊藤由三郎(大阪市北区曾根崎)			『銀行法律問題大完』?(543.2/53#)発刊の辞執筆依頼に関する件	封書	自筆	封筒欠
稲葉岩吉							

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-21	稲葉岩吉(京城和泉町官舎)	昭和10年3月28日	三ノ二三	内藤湖南展不参加、目録希望	封書	自筆	
井上五七							
G-22	井上五七(京都市左京区岡崎)	昭和4年9月23日		年代便覧100部代金問い合わせ	往復ハガキ	自筆	
猪熊信男							
G-23	あのみま生(山科寺西町)	昭和14年1月15日	15日朝	『明月記』土橋氏の分は、安貞の節、八月、九月のニヶ月のものに候。	ハガキ	自筆	
G-24	猪熊信男(京都市東山区)	昭和14年12月9日	12月9日夜	会議により貸出不可の旨あり	封書	自筆	
G-25	あのみま生(京山科)	判読不能	11日	15日朝東京へ出発。近衛家展を観覧、宮内省にて類聚国史など閲覧予定。宿泊は第一ホテル。	ハガキ	自筆	
G-26	宮内省図書寮御用掛猪熊信男(在・東京)	昭和14年12月18日	12月17日夜11時	東京帝室博物館より、『真福寺本古事記』の大阪図書館への持ち出し許可あり。	封書	自筆	封書表に「博物館寄託中のもの拝借手続在中」と記載。第一ホテル用箋の追伸あり。
G-27	あのみま生(東京第一ホテル)	昭和14年12月23日	23日	今夜帰洛。25日は林丘寺へ本とりに行き、27日終日恩賜博物館にも行く予定	ハガキ	自筆	
G-28	あのみま生(京)	昭和14年12月25日	24日夜	『勅版職原事抄』仮補御出来にて候	ハガキ	自筆	
G-29	あのみま生	昭和14年12月25日	24日夜	史料大成第36冊巻頭に大谷大学山田文昭師本が掲載。	ハガキ	自筆	
G-30	あのみま生(京山科)	昭和14年12月26日	26日	今村順蔵氏よりの『職原抄』の尋ねについて、新村博士に電話をかけ尋ねること。	ハガキ	自筆	
G-31	あのみま生(京山科)	昭和15年1月22日	22日朝	目録の誤植訂正。「曼殊院が曼珠院となり…」	ハガキ	自筆	
G-33	猪熊信男(京都市山科)	昭和15年2月8日	6月7日	11日紀元節在邸。此日ならば御来駕好都合。	ハガキ	自筆	
G-34	猪熊信男(京都市東山区)	昭和15年2月10日	2月9日夜	9日来訪の節聖鷹氏古書籍調査のため留守、15日図書館訪問、のち大原孫三郎氏入札に参加。	封書	自筆	
G-35	あのみま生(京山科)	昭和15年2月16日	16日	昨日御優待感謝、美術倶楽部入札。	ハガキ	自筆	
G-39	猪熊信男(京山科)	昭和16年3月27日	26日夜	内務省図書目録作成のために上京	封書	自筆	
G-40	猪熊信男(京山科)	昭和16年3月29日	29日	内務省図書目録作成状況の報告			
G-41	猪熊信男(香川県白鳥本町)	昭和19年3月5日	昭和19年3月5日夕	ご来臨の礼。	封書	自筆	19年3月14日ハガキ同封。車折神社の所蔵は六韜ではなく三略(訂正)
G-32	猪熊信男	昭和15年1月30日	29日		ハガキ	自筆	
G-36	猪熊信男(京都東山七条)	昭和15年4月24日	24日		封書	自筆	
G-37	あのみま(京山科)	昭和15年9月24日	22日		ハガキ	自筆	
G-38	いのみま	昭和15年11月27日	26日		ハガキ	自筆	
G-42	あのみま生(京東山山科)	12月10日	12月9日夜	社寺課長(?)に、府立の件言い忘れたので、書簡をだした。	ハガキ	自筆	
G-43	あのみま				封書	自筆	封筒欠。
巢文堂書荘							
G-44	巢文堂書荘(京都市中京区寺町通丸太町)	郵便別納料金			封書		封筒のみ、「決戦倭文」の毛筆メモ書きあり
今井秀一							
G-45	富山県立富山高等女子師範学校 今井秀一	昭和7年2月26日	2月26日	私信(二女就職先輪旋依頼の返事)	封書	自筆	
今澤慈海							
G-46	日本図書館協会図書館用語統一調査委員会 委員長 今澤慈海(京都市神田区駿河台図書館内)	昭和9年10月5日	昭和9年10月	用語統一のために閲覧関係用紙類、閲覧規則、庶務規程等の提供の願い	書簡	印刷	
今西嘉蔵							
G-47	今西嘉蔵(兵庫県有馬郡)	判読不能	昭和12年8月16日	書庫建設につき業者紹介願い	封書	自筆	「三田中学校」用箋
G-48	今西嘉蔵	昭和15年10月6日	昭和15年10月6日	佐藤某氏就職の件	封書	自筆	
入江昌喜事績顕彰会							
G-49	入江昌喜事績顕彰会(大阪市阿倍野区橋本町)	昭和19年5月13日	昭和19年5月10日		封書		
色川俊次郎							
G-50	色川俊次郎(大森区新井宿)	昭和10年10月14日	10月13日	(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)所持出陳せず	ハガキ	自筆	
岩井大慧							
G-51	東洋文庫岩井大慧(京都市本郷駒込)	判読不能	昭和16年7月26日	撮影許可の礼、京都大学図書館での報告。	封書	自筆	「東洋文庫」用箋

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
岩井武俊							
G-52	岩井武俊(京都市下鴨)	昭和15年1月23日	1月22日	『国史善本展』の礼	封書	自筆	
G-53	岩井武俊(京都市下鴨泉川町)	昭和17年9月3日	9月3日	南方渡海展の案内礼状	封書	自筆	
岩橋繁雄							
G-54	大阪府立今宮中学校長岩橋繁雄	昭和16年3月1日	2月28日	プール寄付金、『十七条憲法』、法隆寺管長講和の受領	封書	自筆	
上田駿一郎							
G-55	上田駿一郎		9月4日	昨秋九州旅行の俳日記寄贈	封書	自筆	封筒欠
上野精一							
G-56	朝日新聞社 上野精一(大阪市北区中之島)	昭和12年12月28日	昭和12年12月28日	礼状	封書	自筆	
上野吉兼							
G-57	厚生大臣官房総務課 上野吉兼	昭和19年6月6日	昭和19年6月		ハガキ		
植村亭一							
G-58	植村亭一(広島市白鳥)	昭和10年2月3日	2月3日	大阪近辺でも就職依頼*履歴書同封	封書	自筆	
鶴澤忠							
G-59	横浜市図書館長鶴澤忠		5月2日		封書		
内海景清							
G-60	内海景清(大阪市天王寺区)	昭和10年3月3日	3月3日	生野高女校長宮田氏との面会報告(礼状 長田氏紹介)	封書	自筆	
内海景晋							
G-61	内海景晋(大阪朝日新聞)	昭和10年2月26日	昭和10年2月16日	近畿図書館会の件、上野承諾。	封書	自筆	朝日新聞封筒、用箋使用。
G-62	内海景晋(大阪天王寺区細工谷町)	昭和10年3月18日	17日	文楽座の件について、土佐太夫からの返書について	封書	自筆	
G-63	内海景晋(天王寺細工谷町)	昭和10年5月14日	13日夜	文楽座観覧券2枚承諾	封書	自筆	
G-64	内海景晋(大阪市天王寺区)	昭和12年12月1日	12月1日	長田氏への返信。上野氏の件	書簡	自筆	
G-65	内海景晋	[昭和12年]12月18日	18日	文選の件ほか	書簡	自筆	封筒欠
G-66	内海景晋(大阪市天王寺区)	昭和13年1月9日	1月9日	上野本文選の件	書簡	自筆	長田館長による返信下書き同封
G-67	内海景晋(大阪市天王寺区)	昭和13年2月14日	2月14日	手紙の礼、文選の複写と斯波氏のこと等	書簡	自筆	長田自宅宛
G-68	内海景晋(大阪市天王寺区)	昭和13年4月7日	7日	依頼した特許に関する件	書簡	自筆	擦染機械の特許についてのメモ(2通)。
G-69	内海景晋(大阪市天王寺区)	昭和13年4月17日	4月17日	先の特許に関する件の続き	書簡	自筆	
G-70	内海景晋(大阪市天王寺区)	昭和16年1月4日	1月4日	館訪問時の礼	封書	自筆	
G-71	内海生(北区中之島朝日新聞社)		17日		ハガキ	自筆	
江崎政忠							
G-72	江崎政忠(鴻池家)		9月13日	粟野秀穂君紹介	封書	自筆	
G-73	政忠			『調査報告書 第4輯』返却	封書	自筆	封筒欠
及川弥平							
G-74	及川弥平(福島市曾根多)	昭和7年8月19日	8月19日	残暑見舞い、富子の就職先訪ね	ハガキ	自筆	
大井二郎							
G-75	大阪朝日新聞社東亜部 大井二郎(豊能郡豊中町)	昭和8年8月25日	8月25日	調査協力のお礼	封書	自筆	
大河原壽							
G-76	大河原壽(兵庫県川辺郡稲野村)	昭和13年3月25日	3月24日	埋骨式の出欠問合せ 封筒入	書簡	自筆	
大阪朝日新聞社社会事業団							
G-77	大阪朝日新聞社社会事業団(杏文社玉樹安造)	昭和9年11月30日	昭和9年12月1日	12月1-3日の古書即売会併設の稀書展に出品願	封書	印刷	「大阪古書籍即売会联合会」封筒使用
大阪市立育英図書館							
G-78	大阪市立育英図書館		昭和19年5月26日		封書		
大阪文化施設協会							
G-79	大阪文化施設協会(大阪市北区中之島)	昭和19年6月1日	昭和19年6月1日		封書		
大須観音宝生院							
G-461	大須観音宝生院(名古屋市中区)	昭和10年10月12日	10月12日	メモ在中「江崎氏へ回送分百八十八名」のメモ在中	封書	自筆	参考員中島清一、院代鈴木快聖とあり
大谷繁次郎							
G-80	大谷繁次郎	10月31日		同封の明治5年大阪府告示に対する所感		自筆	半紙に謄写刷り。封筒欠

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
岡田健蔵							
G-81	市立函館図書館・函館共愛図書館長岡田健蔵	昭和15年2月11日			ハガキ	自筆	
岡田米太郎							
G-82	大阪商船株式会社社長岡田米太郎(大阪市北区宗是町)	昭和18年4月28日	4月28日	高千穂丸遭難の見舞いに対する礼状	封書	印刷	
岡村平兵衛							
G-83	丁子油屋 岡村槐軒(堺市向陽町)	昭和10年6月6日		寄贈申し出	ハガキ	自筆	
G-84	丁子油屋 岡村平兵衛(槐軒)(堺市向陽町)	昭和10年8月9日	9日	寄贈申し出と会見願	書簡	自筆	
小川季四郎							
G-85	小川季四郎(兵庫郡魚崎町)	昭和8年8月28日	8月27日	残暑見舞い	ハガキ	自筆	
奥田							
G-462	奥田〇〇(鹿児島県立図書館)		5月21日	館見学の礼	ハガキ	自筆	写真(鹿児島県立図書館)
小倉正恒							
G-86	住友合資会社 小倉正恒(大阪市東区北浜)		2月2日	館長就任祝いの案内	封書	自筆	
長田寛之							
G-87	長田寛之(京都)	昭和16年2月11日	2月11日	訪問の礼状	ハガキ	自筆	絵葉書(京都市記念動物園丹頂鶴)
乙部泉三郎							
G-463	乙部泉三郎(県立長野図書館)	昭和12年12月23日	昭和12年12月23日	中央図書館長会議に提示の「公立図書館司書兼任官待遇に関する『調査』」について	封書	自筆	
G-88	乙部泉三郎(県立長野図書館)	昭和18年5月8日	5月8日	中央図書館長会議の件について	封書	自筆	△三通綴じ
小野清彦							
G-89	小野清彦(大阪府北河内郡枚方町)	昭和19年5月29日	5月29日		封書		
小原外幹							
G-90	小原外幹(金沢市桜島)	昭和10年3月6日	3月3日	知人の就職幹旋依頼、履歴書同封	書簡	自筆	封筒の日付3月5日
甲斐							
G-91	大阪毎日新聞学芸部 甲斐	昭和13年6月2日		館訪問の御礼	ハガキ	自筆	
学習院							
G-464	学習院	昭和10年10月22日	昭和10年10月22日	「佐久良東雄展」乃木希典書出陳不可	封書	自筆	学習院用箋
片岡長信							
G-92	片岡長信		11月21日	弘川寺(南河内郡河内村)住職ご紹介	書簡	自筆	名刺同封
片山謙二							
G-93	片山謙二(西宮市仁川百合野)	昭和18年5月16日	昭和18年5月16日	片山清吉著『蒸気タービン』の「著作権にかかわる始末書」	封書	自筆	付:関連、清吉自筆書簡
加藤栄							
G-94	加藤栄(八戸)	昭和15年2月11日	2月11日		ハガキ	自筆	
加藤常次郎							
G-95	釜山公立中学校元校長 加藤常次郎(京都市左京区銀閣寺)	昭和7年7月14日	14日	知人の就職幹旋依頼、学業証明書、写真一葉同封	書簡	自筆	
加藤諦見							
G-465	諦見(高野山中院龍光院)	昭和6年7月17日	7月16日	『年代便覧』の礼状	封書	自筆	
G-358	中院諦見(高野山)	昭和10年3月20日		招待の礼	ハガキ	自筆	
G-359	紀州高野山龍光院加藤諦見	昭和10年4月1日		恭仁山荘善本展目録受領の礼	ハガキ	自筆	
G-360	高野山中院加藤諦見	昭和15年1月28日	昭和15年1月21日		封書	印刷	
加藤虎之亮							
G-96	加藤虎之亮(東京市淀橋区西大久保)	昭和13年2月10日	2月9日	重友氏、資料閲覧の便宜依頼	書簡	自筆	
G-97	加藤虎之亮(東京市西大久保)	昭和13年2月18日					封筒のみ
G-98	加藤虎之亮(東京市淀橋区西大久保)	昭和13年3月13日	昭和13年3月13日	礼および重友氏紹介	書簡	自筆	
G-99	加藤虎之亮(東京市淀橋区西大久保)	昭和13年3月19日	昭和13年3月19日	見舞いの礼	書簡	自筆	
G-100	加藤虎之亮(東京市淀橋区西大久保)	昭和13年3月22日	昭和13年3月22日	重友氏の件の礼と近況	書簡	自筆	
G-101	加藤虎之亮(東京市淀橋区西大久保)	昭和13年10月28日	昭和13年10月28日	『郷土先儒遺著聚英』受贈の礼	書簡	自筆	
加藤宗厚							

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-102	加藤宗厚(東京上野帝国図書館内)	昭和9年4月2日		会見の礼状	ハガキ	自筆	
G-103	加藤宗厚(富山県立図書館長)	昭和18年5月7日	昭和18年5月7日	中央図書館長会議の件について	封書	自筆	△三通綴じ
香取秀真							
G-104	香取秀真(東京市外田端)	昭和4年7月8日	昭和4年7月7日	年代便覧の礼	ハガキ	自筆	
金子道啓							
G-105	埼玉県立本庄中学校長 金子道啓	昭和7年2月24日	2月24日	私信(同郷の知人、二女就職先幹旋依頼の返事)	封書	自筆	
上方郷土研究会							
G-106	上方郷土研究会(大阪市西成区南吉田町)						封筒のみ
亀田正							
G-107	亀田正(全州)	昭和12年9月27日	9月27日	銭貨志についてのレファレンス等	ハガキ	自筆	
川崎南郎							
G-108	川崎南郎(津市)	昭和11年1月8日	1月8日	私信	ハガキ	自筆	
川瀬一馬							
G-109	東京文理科大学学生 川瀬一馬(岡山市小橋町 田中三郎方)	昭和4年8月27日	昭和4年8月26日	府立図書館長宛書簡「干支年号表」寄贈依頼	書簡	自筆	封筒の日付8月25日。今井貫一宛
G-110	川瀬一馬(岡山市小橋町 田中三郎方)	昭和4年8月29日	昭和4年8月29日	「年代便覧」受取りの礼と追加購入希望	書簡	自筆	
G-111	川瀬一馬(東京市小石川区宇津木方)	昭和6年9月14日	9月13日	長田氏著書についての私見等	書簡	自筆	
菊池勝之助							
G-112	菊池勝之助(宮城県図書館長)	昭和18年5月11日	日付なし	中央図書館長会議の件について	封書	自筆	△三通綴じ
岸江憲一							
G-113	岸江憲一	昭和13年1月29日	1月28日	ベルリンより	書簡	自筆	
岸本憲明							
G-466	岸本憲明・神幸生(広島文理科大学附属図書館)		5日	館見学の礼	封書		自筆
喜田亀太郎							
G-114	喜田亀太郎(南河内郡黒山村)	昭和9年2月23日	1月23日	長田氏依頼の知人就職先幹旋不調の件	書簡	自筆	
北島貞顕							
G-115	北島貞顕(京都市左京区永観堂町)	昭和16年11月30日	11月卅日	記念品受領の礼状送付の報告*京都帝国大学司書官 竹林熊彦・大阪府立図書館長長田富作より近畿図書館協議会会員宛「京都府立図書館長退職記念品費募集趣意書」(封書)と礼状同封			
橘井清五郎							
G-116	宮内省図書寮 橘井清五郎	昭和9年11月29日	1月28日	館訪問の際の礼	書簡	自筆	
G-117	宮内省 図書寮 橘井清五郎	昭和10年10月25日	10月24日	展覧会に寄れなかった詫びと目録受領の礼	書簡	自筆	
G-118	橘井清五郎	昭和12年6月9日	6月8日	満州到着のしらせ	ハガキ	自筆	
G-119	橘井清五郎(東京世田谷)	昭和19年6月23日			ハガキ		
木戸幸一							
G-120	文部大臣木戸幸一		昭和13年5月3日	食事会招待	封書	印刷	
木村百樹							
G-467	木村百樹(県社英賀神社々司 兵庫県飾磨町)	昭和12年3月18日	3月15日	恵我の地名について	封書	自筆	神社用箋 附・『県社英賀神社由緒』 『天然記念物神木影向の竹柏の記』
九州帝国大学区図書館							
G-468	九州帝国大学区図書館	昭和8年4月12日		4月4日付の大阪府立図書館貸出図書送付状(府立図書館用箋)	封書	自筆	封筒のみ、付8年4月2日付封書
桐谷岩太郎							
G-121	大阪府立夕陽丘高等女学校 清香会長 桐谷岩太郎	昭和16年4月21日	昭和16年4月20日	創立35周年祝賀会への招待状	封書	印刷	
金晋變							
G-469	金晋變(京城帝国大学附属図書館)	4月7日	4月7日	館見学の礼	封書	自筆	
熊原政男							
G-122	熊原政男(神奈川県庁)	昭和11年11月1日	11月1日	館訪問の礼状	ハガキ	自筆	

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
栗田元次							
G-123	栗田元次(広島市上流川町)	昭和10年3月19日	3月19日	恭仁山荘善本展招待の礼と目録寄贈依頼	ハガキ	自筆	
厨川肇							
G-124	行啓記念山口県立山口図書館長 厨川肇	3月5日	3月5日	館訪問の礼状	封書	自筆	
神戸大丸企画部							
G-125	神戸大丸企画部(神戸市神戸区明石町)	昭和19年3月	昭和19年3月1日		封書		封筒のみ
郡山難吉(か)							
G-126	大阪府庁郡山難吉(力)	昭和16年1月17日	1月16日夜	地理書送付の礼、東洋史関連書入手の予算の件			
故財津愛象君遺児教育資金募集発起人							
G-127	故財津愛象君遺児教育資金募集発起人(大阪市東区豊後町懐徳堂内)	昭和7年8月26日	昭和7年8月24日	故財津愛象君遺児教育資金募集始末報告書	封書	印刷	
小谷方明							
G-128	小谷方明(泉北郡上神谷村)	昭和10年7月16日	7月15日	『和泉国村々名所旧蹟』解題執筆の催促	書簡	自筆	
G-470	小谷方明(大阪府泉北郡上神谷村)	昭和10年8月22日	8月21日	和泉村検知についての調査報告 付・和泉郷土文庫用箋による祿高記載3枚	封書	自筆	
G-129	小谷方明	昭和10年8月29日	8月28日	解題執筆のお礼	書簡	自筆	
G-130	和泉郷土文庫 小谷方明(泉北郡上神谷村)	昭和13年2月7日	2月7日	文庫目録題字揮毫のお礼	書簡	自筆	
児玉孝顕							
G-131	児玉孝顕(大阪府泉北郡濱寺町)		8月26日	図書拝借の礼状	封書	自筆	名刺同封
近衛文麿							
G-132	財団法人陽明文庫総裁 近衛文麿(京都市右京区宇多野)	昭和17年10月9日	昭和17年10月	陽明文庫所蔵品展観案内	書簡	印刷	
小島康郎							
G-133	大阪市立電気科学館長 小島康郎(大阪市西区西長堀)	昭和19年6月8日	昭和19年6月7日		封書		
小林英純							
G-134	小林英純(東淀川区)	昭和13年5月16日	昭和13年5月15日	4月分俸給受取りの礼など。元職員	書簡	自筆	
小林勝正							
G-135	小林勝正(三重県員弁郡稲部村)	昭和19年3月31日			封書		
小宮山雄介							
G-136	小宮山雄介(岡山市)	[昭和11年]1月13日	1月12日	病気見舞い手紙の礼と経過報告。職員	書簡	自筆	
G-137	小宮山雄介(岡山市)	昭和11年1月20日	1月19日	明日退院し、静養後帰阪出勤予定のこと。職員	ハガキ	自筆	
小山隆							
G-138	小山隆(東京市麹町区霞ヶ関文部省文化施設課)		8月3日	貴館司書優遇策について内閣等と折衝中	封書	自筆	
小山利介							
G-139	小山利介(神戸市兵庫区湊町)	昭和10年10月21日	10月21日	(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)短冊出陳の件	ハガキ	自筆	
西園寺公望執事							
G-140	西園寺公望執事(静岡県興津町)	昭和10年3月31日	3月30日	恭仁山荘善本展目録受領の礼	書簡	自筆	
佐伯有義							
G-141	佐伯有義(東京市淀橋区)	昭和10年11月28日	11月28日	館訪問の際の礼	書簡	自筆	
佐伯芳彦							
G-142	官幣大社三島神社宮司 佐伯芳彦	昭和16年8月10日	8月11日	資料調査の依頼	書簡	自筆	
坂井鉄太郎							
G-143	故瀧尻與三吉君遺児教育資金募集発起人 坂井鉄太郎(石川県輪島町)		昭和7年9月	報告書、礼状	封書	印刷	
阪谷俊作							
G-144	市立名古屋図書館長阪谷俊作(名古屋市昭和区鶴舞公園内)	昭和18年10月15日	昭和18年10月15日	開館20周年記念式典来臨・祝辞の礼状	封書	自筆	
坂間棟治							
G-145	大阪市長 坂間棟治(大阪市北区中之島)		昭和19年6月		封書		

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-146	大阪市長 坂間棟治(大阪市北区中之島)		昭和19年6月		封書		
佐々憲三							
G-471	佐々憲三(京都帝国大学阿武山地震観測所)	昭和11年3月19日		阿武山地震観測所の案内	ハガキ	印刷	「昭和11年2月21日奈良県地震の記録」絵ハガキ
笹川良一							
G-147	国粋同盟総裁 衆議院議員 笹川良一(東京市赤坂区)		昭和18年7月	山本元帥遺墨複製, 送付状	封書	印刷	
鹿田松雲堂書店							
G-148	鹿田松雲堂書店				封書		封書のみ
重友毅							
G-149	重友毅(東京市外吉祥寺)	昭和13年3月17日	3月17日	便宜の礼	書簡	自筆	
G-150	重友毅(東京市外吉祥寺)	昭和13年3月22日	3月22日	礼および館訪問の日時連絡	書簡	自筆	
G-151	重友毅		3月14日	資料閲覧願ひ	封書	自筆	封筒欠。加藤虎之亮氏による紹介状
斯波六郎							
G-152	斯波六郎(広島市皆実町)	昭和12年11月11日	11月10日	館訪問の際の礼	書簡	自筆	
G-153	斯波六郎(広島市皆実町)	昭和12年11月25日	11月25日	上野氏所蔵文選閲覧の便宜依頼	書簡	自筆	
G-154	斯波六郎(広島市皆実町)	昭和12年12月3日	12月3日	文選閲覧の日程調整ほか	書簡	自筆	
G-155	斯波六郎(広島市皆実町)	昭和12年12月7日	12月7日	文選閲覧の日程調整つぎと礼	書簡	自筆	
G-156	斯波六郎(広島市皆実町)	昭和12年12月21日	12月21日	礼と24日上阪のこと	書簡	自筆	封筒入。上野氏から内海氏への連絡メモ同封
G-157	斯波六郎(広島市皆実町)	昭和13年2月18日	2月18日	文選写真本閲覧の礼、内海氏への礼など	書簡	自筆	
G-158	斯波六郎(広島市皆実町)	昭和15年2月6日	2月6日	国史展覧目録の御礼	封書	自筆	
芝川又四郎							
G-159	芝川又四郎(大阪市東区伏見町)	昭和13年7月26日	昭和13年7月27日	忌明けのあいさつ	封書	自筆	長田館長による礼状の下書きも同封
柴田							
G-160	柴田(東京)	昭和12年6月25日	6月24日	『孝経善本集影』受領の礼	ハガキ	自筆	
柴田和夫							
G-161	柴田和夫(東京都中野区桃園町)	昭和18年10月14日	昭和18年10月14日	故父善三郎忌明け礼状	封書	印刷	
渋江武							
G-162	渋江武	昭和15年1月20日	1月20日	国史展観覧の礼	ハガキ	自筆	
朱自清							
G-163	国立清華大学図書館主任 朱自清	1936年5月27日		漢文“国立清華大学図書館主任之章”押印	書簡	自筆	国立清華大学図書館用箋
G-164	国立清華大学図書館長 朱自清		6月6日	「蒋山僊残稿」写真撮影の件	封書	自筆	
晋焱鐘							
G-165	晋焱鐘(東京市中野区)	昭和7年11月22日	昭和7年11月22日	内閣書記官長への紹介状依頼	書簡	自筆	
新見吉治							
G-236	広島文理科大学 新見吉治	昭和4年5月29日	5月29日	年代便覧の件	ハガキ	自筆	
G-237	広島文理科大学 新見吉治	昭和4年6月24日	6月23日	年代便覧送付依頼と誤字訂正	書簡	自筆	
G-238	新見吉治(広島市八丁堀)	昭和4年7月9日	7月9日	年代便覧の件	ハガキ	自筆	
G-239	新見吉治(広島市八丁堀)	昭和8年11月2日	11月1日	礼状	書簡	自筆	
G-240	新見吉治(広島市八丁堀)	昭和9年1月24日	1月24日	館訪問の際の礼と卒業生の採用願	書簡	自筆	
G-241	新見吉治(広島市八丁堀)	昭和9年9月25日		風水害被害お見舞い	ハガキ	自筆	
G-242	新見吉治	昭和10年3月31日	3月31日	恭仁山莊善本展覧目録の礼	ハガキ	自筆	
G-243	新見吉治(広島市八丁堀)	昭和10年5月7日	5月6日	特許発明に関する図書展覧目録の礼	ハガキ	自筆	
G-244	新見吉治(広島市八丁堀)	昭和10年10月25日		真福寺善本展覧目録の礼	ハガキ	自筆	
G-245	新見吉治(広島市八丁堀)	昭和11年11月9日					封筒のみ
G-246	新見吉治(広島市八丁堀)	昭和13年10月20日	10月20日	郷土先儒遺著展覧目録の礼	ハガキ	自筆	
G-247	新見吉治		11月9日		封書	自筆	封筒欠。昭和11年11月8日付の小野政彦から新見宛の書簡あり。
G-248	新見吉治		11月11日		封書	自筆	封筒欠。昭和11年11月10日付の小野政彦から新見宛の書簡あり。
新見先生還暦祝賀会発企人							

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-249	新見先生還暦祝賀会発行人(広島市千田町)		昭和10年11月10日	「新見博士還暦祝賀会」案内、「新見先生還暦祝賀会醸金者芳名簿」および「新見博士肖像画」、新見吉治の礼状ハガキ(11月25日消印)同封	書簡	印刷	
鈴鹿三七							
G-472	鈴鹿生・山鹿誠之助	昭和9年10月19日	10月19日	「故内藤湖南遺書」の展示について	封書	自筆	
G-166	鈴鹿三七(京都市吉田本町)	昭和10年3月24日	3月23日	恭仁山荘善本展招待の礼と訪問予定日	ハガキ	自筆	
G-167	鈴鹿三七(京都市吉田本町)	昭和16年1月11日	1月11日	国史展覧図録の御礼	封書	自筆	
G-168	鈴鹿生(京都市吉田本町)	昭和16年1月23日	1月23日	著作『十七条憲法』寄贈の礼	ハガキ		
G-169	鈴鹿生(京都市吉田本町)	昭和16年1月26日	正月26日	著作『十七条憲法』寄贈の礼			
薄恕一							
G-170	薄恕一(布施市)	昭和17年2月26日	昭和17年2月26日	館内見学と優待券の礼			『資治通鑑』用紙使用、薄氏の名刺同封(17. 2.23スタンプ押印)
鈴木壽							
G-171	宮城県角田高等学校 鈴木壽	昭和15年5月		女学校長就任届。	印刷	自筆	封筒欠。
G-473	鈴木壽(宮城県角田高等学校)		昭和15年5月	角田女学校長就任あいさつ状	ハガキ	印刷	ハガキのみ、封書なし
鈴木登							
G-172	京都府庁 鈴木登	昭和11年6月5日	6月5日	挨拶状	絵ハガキ	自筆	
G-173	京都府庁 鈴木登	昭和11年11月4日	11月4日	過日会見の際の礼	絵ハガキ	自筆	
鈴木賢祐							
G-174	『図書館雑誌』編集部 鈴木〔賢祐〕(東京帝国大学附属図書館内)	昭和16年3月12日	昭和16年3月12日	今井翁一周忌への原稿依頼	書簡	自筆	
G-175	『図書館雑誌』編輯所 鈴木賢祐(東京帝国大学附属図書館内)	昭和16年3月27日	3月27日	先の不手際の詫びと原稿再依頼	書簡	自筆	
鈴木安兵衛							
G-176	鈴木安兵衛(横浜市磯子区)	昭和5年7月5日	昭和5年7月5日	『年代便覧』1部寄贈願い	郵便書簡	自筆	
鈴木勇次郎							
G-177	群馬県立前橋高等学校校長 鈴木勇次郎	昭和7年2月26日	2月26日	私信(二女就職先幹旋依頼の返事)	封書	自筆	
関菊治							
G-178	関菊治	昭和12年4月16日	4月16日	私信	絵ハガキ	自筆	
関戸力松							
G-179	日本セルロイド時報社主幹 関戸力松(大和生駒郡富雄)	昭和19年6月25日	昭和19年6月24日		ハガキ		
関谷恒通							
G-180	外国特許研究会関東支部「関谷恒通」(東京市世田谷区世田谷)	昭和19年3月7日	3月6日	外国特許研究会解散の件につき、抗議。研究会員を図書館員に雇用する件についても応じ兼ねる。歩合制、月給制でも東京滞在許可を……	封書	自筆	封書差出人「関谷恒通」のみペン書き、あとは印刷、速達便封筒表「至急親展」とあり。関東支部用箋
孫桓均							
G-181	孫桓均	昭和13年5月7日	昭和13年5月6日		書簡	自筆	
大丸宣伝部							
G-182	大丸宣伝部(京都市四条高倉)	昭和19年6月8日			封書		封筒のみ
高城昇							
G-183	高城昇・富増修(宇治山田市外神宮文庫)	昭和15年1月22日	1月22日	展覧会観覧の礼	ハガキ	自筆	
高志浄観							
G-474	高志浄観(南河内郡河内村弘川寺)	昭和12年10月5日	10月初5	『河内摺古小識』「弘川寺」の項についての問い合わせ	封書	自筆	
G-475	浄観(南河内郡河内村弘川寺)	昭和12年10月9日	10日	上記に対する回答の礼	ハガキ	自筆	
高島尋常高等小学校							
G-184	高島尋常高等小学校(長野県諏訪郡上諏訪町)	昭和4年8月29日		年代便覧65冊注文	ハガキ	自筆	
高田豊三郎							
G-185	高田豊三郎(大阪市住吉区桑津町)	昭和16年4月30日	昭和16年5月1日	採用願と履歴書	書簡	自筆	
高津範							
G-186	高津範(淀橋区下落合)	昭和15年1月22日	21日	展覧会開催は有意義	ハガキ	自筆	

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
高橋清次郎							
G-187	尾道市立図書館・高橋清次郎	昭和15年8月27日	8月26日	館内見学の礼、特許公報等に感心	ハガキ		尾道風景絵葉書
高松遼郎							
G-188	高松遼郎(兵庫県明石郡垂水町)	昭和8年7月18日	7月18日	工業高校での在校生、就職斡旋依頼	書簡	自筆	
高柳賢三							
G-189	日本図書館理事長 高柳賢三(東京市麹町霞ヶ関 文部省内)	昭和17年9月15日	9月17日	9月22日理事会開催通知および出欠返信用ハガキ(未送付)	書簡		秋岡梧郎氏の書簡同封。「公共図書館部会の強化・中央図書館分科会、都市図書館分科会設置の組織原案の作成依頼と組織に関する委員会出席の案内について」(9月15日付)
瀧川規一							
G-190	瀧川規一(第三高等学校)		昭和12年7月15日	館訪問の礼、P.D.Perkins氏の礼状同封	書簡	自筆	
武内義雄							
G-191	武内義雄(仙台市元柳町)	昭和8年10月11日		原稿の校正依頼	書簡	自筆	
伊達							
G-192	伊達	昭和8年11月15日	11月15日	“其後中央図書館問題如何ご進捗にや…”	ハガキ	自筆	伊達友俊か。神戸市立図書館長
伊達友俊君慰労会発起人一同							
G-193	伊達友俊君慰労会発起人一同	昭和13年5月27日	昭和13年5月27日	伊達友俊(元神戸市立図書館長)病氣退職に際しての餞金お礼、「餞金者芳名」、伊達友俊氏本人の礼状同封	封書	印刷・自筆	
谷馨							
G-194	谷馨(大阪市西成区)		昭和13年2月	(西華女学校)退職の挨拶	封書	印刷	封筒欠。裏面「出雲風土記」等メモあり(長田筆か)。
玉井敬泉							
G-195	玉井敬泉(金沢市十三間町)	昭和15年2月17日	2月17日	昨冬の「神皇正統記」の教示および、「国史善本展」目録寄贈の礼	封書	自筆	
玉井弥平							
G-196	玉井弥平(東京市豊島区)	昭和16年3月19日	19日	間宮不二雄に所望した『十七条憲法』の礼	ハガキ		
沈承弼							
G-197	沈承弼(京城府)	昭和4年9月22日	9月22日		封書		封筒のみ、手紙欠
津田正志							
G-198	青森県立木造中学校地歴科主任 津田正志	昭和5年11月30日	11月31日	年代便覧の購入について	ハガキ	自筆	
G-199	青森県立木造中学校 津田正志	昭和5年12月17日		年代便覧の礼	ハガキ	自筆	年代便覧12月21日荷送のメモ書き
出口米吉							
G-200	出口米吉(大阪市西淀川区大仁元町)	昭和10年1月13日	1月12日	礼状	書簡	自筆	
寺沢智了							
G-201	寺澤(神戸市湊東区大倉山)	昭和13年2月13日	2月13日	東雄歌集拝受の礼	ハガキ	自筆	寺澤智了か。
G-202	神戸市立図書館 寺沢智了(神戸市湊東区大倉山)		6月28日		ハガキ		
同窓並母校学園関係出征将士後援会							
G-203	同窓並母校学園関係出征将士後援会		昭和15年5月	餞金願。振込票同封	書簡	印刷	
G-204	同窓並母校学園関係出征将士後援会(東京都渋谷区)		昭和19年3月	呼びかけ文と振込み用紙	封書		
頭山満							
G-205	頭山満, 大竹貫一, 佃信夫, 葛生能久, 末永一三(東京市麹町区永田町)	昭和15年11月6日	昭和15年10月27日	憲法擁護の檄	封書	印刷	
東洋文庫							
G-476	東洋文庫(東京市本郷区駒込)	昭和11年10月27日	昭和11年10月27日	北平精華大学図書館写真複製希望の件について*『蔣山備残稿』等複製の件	封書	自筆	付:大阪府立図書館よりの返信
戸隠神社社務所							
G-206	戸隠神社社務所(長野県上水内郡戸隠村)	昭和15年2月3日	2月1日	展覧会目録・年代便覧の御礼	ハガキ	自筆	
徳富猪一郎							
G-207	徳富猪一郎(東京市大森)	昭和15年2月14日			ハガキ	印刷	

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
戸田豊三郎							
G-208	〔戸田〕豊三郎	昭和10年7月8日		私信	ハガキ	自筆	
G-209	戸田豊三郎(広島市東平塚町)	昭和16年1月20日	1月19日	近況報告	封書	自筆	
G-210	青山師範学校 戸田豊三郎(東京府)		10月20日		ハガキ	自筆	
富田寿男							
G-211	三菱銀行梅田出張所 富田寿男(北区曾根崎中)		4月2日	第13回同期生会の案内状	封書	自筆	
鳥飼生駒							
G-212	鳥飼生駒(平壤)	昭和8年10月22日		館長就任のお祝い	ハガキ	自筆	
内藤治							
G-213	内藤治(熊本市下通町)	昭和16年	2月8日	放送(12月23日)記録雑誌寄贈の礼			
内藤乾吉							
G-214	内藤乾吉(京都市上京区相国寺)	昭和9年7月27日	昭和9年7月26日	忌明けの挨拶状	書簡	印刷	
中井木菟麻呂							
G-215	中井木菟麻呂(京都市左京区田中大堰町)	昭和15年1月22日	1月21日	「国史展覧会」足疾のため不参	ハガキ	自筆	
中垣正光							
G-477	中垣正光(高知高等学校)		7月初七	明治22年7月十津川洪水についての「朝日新聞」の記事について閲覧	封書	自筆	
中川鹿之助							
G-216	中川鹿之助(大阪市西成区)	昭和5年8月18日	8月20日	年代便覧の礼	ハガキ	自筆	
長島							
G-217	長島(孝)(文部省成人課)	昭和15年5月21日	5月21日	東京での発表の礼	ハガキ	自筆	絵葉書(愛馬の日)
G-218	長島(東京)	昭和16年2月10日	2月10日	帰京報告、三輪への礼	ハガキ		
G-219	長島(東京)	昭和16年10月16日	16日	長田上京時の礼	ハガキ		
中島松次郎							
G-220	中島松次郎(京都市下谷区西黒門町)	昭和10年10月14日	10月14日	(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)所持せず	ハガキ	自筆	
中田邦造							
G-221	石川県立図書館長中田邦造	昭和10年10月26日	10月25日	「真福寺善本図書展覧会」観覧時の礼、「軍戦記展覧会」への図書貸出願(貸出希望図書リスト、趣意書同封)	封書	自筆	石川県立図書館用箋、趣意書は孔版
G-222	中田邦造(京都市堺町竹屋通り各村一太郎方)	昭和10年11月3日	11月3日	展覧会図書に「義経記大全」追加願	封書	自筆	
G-223	石川県立図書館長 中田邦造	昭和13年2月26日	2月26日	長田館長より石川県鳳至郡宇出津町立図書館用地寄附の申し出受理の件及び必要書類の件	書簡	自筆	同封:長田館長から中田氏宛の寄附申し出書状、寄附採納願(雛形)、土地平面図
G-224	石川県立図書館長 中田邦造	昭和13年3月14日	3月14日	上記手続の続報	書簡	自筆	同封:宇出津町長より中田氏宛書簡 昭和13年3月11日
G-225	石川県立図書館 中田邦造(石川県金沢市兼六園)		5月25日	レファレンス依頼(個人的なもの)と町立図書館用地寄附の件続報	書簡	自筆	
G-226	石川県立図書館 中田邦造(石川県金沢市兼六園)	昭和13年7月21日	7月20日	松本帝国図書館長と中央図書館長協会の事業推進策を相談の結果、雑誌を発行することになったので協力を依頼する旨	書簡	自筆	
G-227	中田邦造		6月18日	長田の日本図書館協会理事辞任の件		自筆	封筒欠。日本図書館協会用箋
長田捨三郎							
G-229	審鶴堂 長田捨三郎(大阪市東区)	昭和15年1月26日	昭和15年1月		封書	印刷	
中村敬吉							
G-230	中村敬吉(広島県豊田郡中野村)	昭和19年6月14日	昭和19年6月13日		ハガキ		
中村多麻							
G-231	中村多麻(東京市四谷区)	昭和10年12月1日	30日	貴重図書閲覧の礼	書簡	自筆	
中村不折							
G-232	中村不折(東京市淀橋区上落合)	昭和10年10月28日	10月27日	(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)出陳の件	ハガキ	自筆	
永山時英							
G-233	永山時英	昭和10年1月7日		年賀	ハガキ	自筆	

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
那須滋乃							
G-234	那須滋乃(西淀川区)	昭和13年1月22日	1月22日	恩給の件、相談の礼	書簡	自筆	
浪岡具雄							
G-235	オーム社浪岡具雄(大阪市北区堂島浜通)	昭和16年8月23日	8月24日	大朝出版局業務部発行係主任は大久保恒次氏	ハガキ	自筆	
西井力松							
G-250	西井力松(宇治山田市外神宮皇学館)	昭和13年3月28日	昭和13年3月28日	来季展覧会に『日本書紀』第二元禄三年写出陳予定	封書	自筆	
西村貫一							
G-251	西村貫一(神戸市栄町)	昭和15年2月1日	昭和15年1月31日夜	国史展覧会観覧および目録受領の礼	封書	自筆	
G-252	西村貫一		昭和16年3月31日	英支両文『工業日本精神』大阪図書館宛寄贈藤原銀四郎氏に依頼、承諾の手紙到着	封書	自筆	封筒欠
G-253	西村貫一(神戸市神戸区栄町三丁目西村旅館)	昭和18年9月3日	昭和18年9月3日	『十人集』発刊とともに、パンフレット作成。印刷でき次第送付。	封書	自筆	
G-254	西村貫一		昭和18年12月26日	大丸塩路氏の展覧会について	封書	自筆	封筒欠
G-255	「西村貫一」(神戸市神戸区栄町西村旅館)	昭和19年1月6日	昭和19年1月6日	大毎の中山君、大丸の塩路君と一度お会い下されば幸い...	封書	自筆	付①:1月9日、自宅にての毎日新聞特派員前芝確三の時局講演会の案内 付②:1月13日西村邸での集いの和歌の下書き・推敲(?)
G-256	西村貫一(神戸市栄町)	昭和19年6月19日			ハガキ		
西村周昌							
G-257	岡山県観生高等女学校 西村周昌	昭和7年2月27日	2月27日	私信(二女就職先輪旋依頼の返事)	封書	自筆	
西村真琴							
G-258	西村真琴(豊能郡南豊嶋村)	昭和9年7月18日	7月18日	正平版論語研究の礼	書簡	自筆	
西村旅館							
G-259	西村旅館(神戸市栄町)	昭和17年6月16日	昭和17年6月15日	西村旅館のパンフレット同封	書簡	自筆	
G-261	西村旅館(神戸市神戸区栄町)	昭和19年6月1日	昭和19年5月31日		封書		
G-260	西村旅館(神戸市神戸区栄町)		昭和19年5月23日		封書		
二宮忠八							
G-262	二宮忠八(京都府八幡町)	昭和10年4月25日	昭和10年4月24日	飛行器発明上申書類陳列の礼	封書	自筆	
日本図書館協会							
G-263	社団法人日本図書館協会(東京市麹町区文部省内)	昭和10年3月1日	昭和10年3月1日	3月8日の評議員会出欠有無督促	ハガキ	印刷	
日本名宝展覧会事務所							
G-264	日本名宝展覧会事務所(東京市京橋区読売新聞社内)	昭和5年3月1日	昭和5年3月1日	府立図書館発行「年代便覧」購入希望について	封書	自筆	
野村伝四							
G-265	奈良県立図書館 野村伝四		5日	5日	書簡	自筆	
橋本秀一							
G-266	豊斎橋本宗吉玄孫橋本秀一(東京市本所)	昭和10年5月22日	5月22日	上本町念仏寺にて贈位奉告祭の案内	封書	印刷	
橋元真一							
G-478	橋元真一(神戸市立図書館)	昭和13年2月7日	2月6日	佐久良東雄短冊貸与の件の礼	ハガキ	自筆	
橋本曇斎先生百年記念会							
G-267	橋本曇斎先生百年記念会(大阪市北区大阪府立図書館内)		4月10日	橋本曇斎先生百年記念会式典案内	封書	印刷	式次第、返信ハガキなど同封、東京事務所「東京市麹町区電気奨励館内」
長谷川乙彦							
G-268	長谷川乙彦		9月14日	正平版論語研究の借用願	ハガキ	自筆	
長谷川敏正							
G-269	長谷川敏正	昭和15年10月28日	10月27日	館内見学と三輪司書への礼			
波多野賢一							
G-270	東京市立駿河台図書館長 波多野賢一(東京市神田区駿河台)	昭和15年6月18日	昭和15年6月18日	理事辞任と後任推薦の件承諾の事	封書	自筆	
八田徳治郎							
G-271	八田徳治郎(奈良市般若町)	昭和16年3月8日	3月7日夕	生野高女の寄贈本増刷の節送付。女性事務員の件断り			

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-272	八田徳治郎			仕事遅れの詫び状、香宗我部の分も仕上げ役事可仕覚悟	封書	自筆	持参書簡か
G-228	八田徳治郎		2月23日		封書	自筆	
花田正							
G-273	朝鮮全州府庁花田正	昭和12年9月14日	9月14日夕	筆写料の金額(概要)について問い合わせ	自筆	ハガキ	
花林尚雄							
G-274	岐阜県立岐阜図書館 花林尚雄(岐阜市司町)	昭和13年3月22日	3月22日	館訪問の際の礼状	封書	自筆	
林							
G-278	林生		12月24日	閲覧券拝受、方面委員制度も順調	封書	自筆	封筒欠
林市蔵							
G-275	林市蔵(兵庫県武庫郡本山村)	昭和17年1月7日		『詩韻含英』、作詩の必携本の購求願			
G-276	林市蔵(兵庫県武庫郡本山村)	昭和17年1月11日	1月7日	書名『詩韻含英』に間違いはない			
G-277	林市蔵(兵庫県武庫郡本山村)	昭和17年1月23日	1月23日	『詩韻含英』、無事南京の送付			
林秀一							
G-279	林秀一(岡山市門田)	昭和12年6月15日	6月14日	資料閲覧の礼	自筆	ハガキ	
平島哲郎							
G-280	平島哲郎(山口萩市)	昭和12年11月8日	11月8日	館見学の礼、私蔵書は望む人もあり、持ち帰った。帰途寒霞溪をめぐる。	自筆	封書	
平野小学校山校舎							
G-281	平野小学校山校舎(長野県岡谷)	9月27日	9月26日	年代便覧60部代金問い合わせ	ハガキ	自筆	
広島文理科大学東洋史学研究生旅行団一同							
G-479	広島文理科大学東洋史学研究生旅行団一同	昭和11年11月13日	11月15日	館見学の礼	封書	自筆	
福井保							
G-282	蓬左文庫福井保(京都市豊島区目白町)	昭和11年1月13日	正月13日	蓬左文庫目録送付	自筆	封書	
福岡県小倉中学校							
G-283	福岡県小倉中学校		10月11日	故校長波多野俊夫葬儀案内	ハガキ	印刷	
福士繁吉							
G-284	福士繁吉(於東京)	昭和16年3月19日	3月18日朝	東京の報告、宿泊所隣室に石黒立氏宿泊云々	ハガキ		東郷神社絵葉書
G-285	新竹州商工経済会常務理事福士繁吉(新竹州新竹市柴町)		昭和19年5月		封書		
福島正夫							
G-286	福島正夫(豊中町桜塚)	昭和7年9月26日	9月25日	関西大学在学中、学資のため雇用願、履歴書添付	自筆	封書	
藤田嘉通比古							
G-287	陸軍輜重兵中尉 藤田嘉通比古		10月30日	『日本及日本人の起源』の戦地への貸出の件	封書	自筆	
藤田規一							
G-288	新聞教育便・藤田規一	昭和16年1月17日		著作『十七条憲法』寄贈の礼			
藤野重次郎							
G-289	藤野重次郎(東京都杉並区神戸町)		10月15日	館参上の礼、自著御笑覧。弘田、日向へもよろしく。	ハガキ	自筆	
藤原道頭							
G-290	藤原道頭(神戸市平埜祥福寺内)	昭和12年6月22日	なし	図書館見学断状	自筆	ハガキ	
宝寿院							
G-291	宝寿院(和歌山県高野山)	昭和19年7月1日			封書		封筒のみ
法隆寺執事							
G-292	法隆寺執事	昭和15年2月17日	2月17日	申し出の件につき了承	封書	自筆	
毎田周治郎							
G-293	大礼記念金沢市立図書館長毎田周治郎	昭和6年1月11日	1月21日	ラジオ郷土講座拝聴の報告、加越能郷土辞彙の件	自筆	封書	
G-294	大礼記念金沢市立図書館長毎田周治郎	昭和8年9月30日	昭和8年9月30日	『年代便覧』5部寄贈願	自筆	封書	金沢市立図書館用箋
G-295	大礼記念金沢市立図書館長毎田周治郎	昭和8年10月29日	10月28日	『年表』の礼、『正平版論語』の研究刊行への期待、金沢市立図書館展示計画など	自筆	封書	
G-296	金沢市立図書館毎田周治郎	昭和11年3月4日	3月3日	館見学の礼、特許公報、巡回文庫の施録は好模範	自筆	封書	

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-297	大札記念金沢市立図書館長毎田周治郎	昭和15年12月26日	12月26日	ラジオ講演(特許公報の件)、局にて別途拝聴、奈良図書館大会で館訪問するつもりが、大会流れて不能となったことなど	印刷	封書	特許公報製本帳票つき
G-298	大札記念金沢市立図書館長毎田周治郎	昭和16年1月17日	1月17日	増加目録の礼、また特許公報整理方法教授の礼	自筆	封書	
毎日新聞社文化部							
G-299	毎日新聞社文化部(大阪市北区堂島上2丁目)	昭和18年8月12日		文化欄「読書随想」への原稿依頼	封書	自筆	
前田長三郎							
G-300	前田長三郎(堺市少林寺町)	昭和10年10月26日		(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)色紙短冊出陳の件	封書	自筆	未使用ハガキ一通
牧田利作							
G-301	群馬県立伊勢崎高等女学校長 牧田利作	昭和7年2月25日	2月25日	私信(二女就職先斡旋依頼の返事)	封書	自筆	
松木親男							
G-302	大阪府女子師範学校 松木親男	昭和10年10月17日		(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)短冊歌集出陳の件	ハガキ	自筆	
松本卯之丞							
G-303	松本卯之丞	昭和4年6月20日		年代便覧の件	ハガキ	自筆	
松本喜一							
G-304	松本喜一(京都市上野公園帝国図書館)	昭和18年5月3日	5月3日	館参上の礼と中央図書館長会議日程調整	封書	自筆	
間宮不二雄							
G-305	間宮不二雄		昭和15年6月7日			自筆	封筒欠。青年図書館員連盟本部用箋
丸山文喜							
G-307	秋田県湯沢高等学校 丸山文喜	昭和7年2月26日	2月26日	私信(二女就職先斡旋依頼の返事)	封書	自筆	
三浦圭三							
G-308	弘前高等学校三浦圭三	昭和15年1月21日	2月21日	国史善本展覧会招待の礼	ハガキ	自筆	
G-309	三浦圭三(弘前市富田町弘高官舎)	昭和15年2月4日	2月4日	「国史善本展覧会」目録の礼、および高校の郷土史展開催の件	封書	自筆	
G-310	三浦圭三(弘前市富田町)	1月2日	1月1日夕	館見学お礼	自筆	ハガキ	
水野喜一郎							
G-312	水野喜一郎(大阪府泉北郡高石町南)	昭和10年11月16日	11月26日	佐久良東雄展に所蔵品出品願い	自筆	封書	
G-311	水野喜一郎(大阪府泉北郡高石町)	昭和10年10月28日		(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)短冊出陳の件	ハガキ	自筆	
水野平次							
G-313	水野平次(奈良市法連佐保川町)	昭和11年11月6日	11月5日	館見学の礼	自筆	封書	
水無瀬神宮社務所							
G-314	官幣大社水無瀬神宮社務所(三島郡島本町)	昭和15年10月26日	15年	宝物館展観案内		印刷	
三根繁太							
G-315	日本工作機械製造工業組合 三根繁太(京都市麴町区)	昭和12年1月20日	昭和12年1月20日		封書	自筆	
宮崎諦寛							
G-317	和歌山県立粉河高等学校長 宮崎諦寛	昭和7年3月3日	昭和7年3月2日	私信(二女就職先斡旋依頼の返事)	封書	自筆	
宮田宗兵衛							
G-318	大阪府立生野高等学校校長 宮田宗兵衛	昭和16年3月17日	昭和16年3月17日	『十七条憲法』の礼と生野高女15周年記念式典報告			
宮西光雄							
G-319	京大図書館 宮西光雄(京都市左京区)	昭和19年			ハガキ		
美山梅吉							
G-320	国際通運株式会社大阪支部 美山梅吉(大阪市北区曽根崎新地)	昭和4年7月4日	昭和4年7月4日	「年代便覧」分との礼と3部追加依頼	封書	自筆	
宮本金七							
G-321	宮本金七(文部省)	昭和9年4月2日	4月2日	便宜の礼、山村君へもよろしく	ハガキ	自筆	絵葉書(森白甫画「池心洋洋」)

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
毛利家執事							
G-322	毛利家執事(京都市淀橋区)	昭和15年5月17日	5月17日	図書借用依頼断り、図書は紅葉山文庫にあり			
望月茂							
G-323	望月茂(東京豊島区巢鴨)	昭和11年6月26日	6月25日	『経世評論』10号、12号の所蔵調査	自筆	封書	
森草三							
G-324	宝塚音楽舞踊学校 森草三(川辺郡小浜村)	3日			封書		封筒のみ
森安三郎							
G-325	東方文化事業総委員会総務委員 森安三郎(北平)	民国25年5月21日	昭和11年5月21日	館蔵「蒋山備残稿」写真撮影の件	封書	印刷	
森田博三							
G-326	森田博三(南河内郡古市町)	昭和15年2月10日	2月10日	目録受領礼状	封書	自筆	
諸熊壮一							
G-327	大阪府立佐野工業学校長・大阪府立佐野第二工業学校長 諸熊壮一(大阪府泉南郡佐野町)	昭和19年6月28日			ハガキ		
安井英二							
G-328	文部大臣 安井英二(京都市芝区)	昭和12年7月12日	昭和12年7月	文部大臣就任に際しての送別会と在阪中の礼	封書	印刷	
安嶋外喜雄							
G-329	安嶋外喜雄(大阪市住吉区天王寺)	昭和10年10月18日		〔佐久良東雄先生遺墨展覧会関係〕短冊出陳の件	ハガキ	自筆	
柳美津梅子							
G-330	柳美津梅子(京成同校普通学校)	昭和13年11月2日	11月2日	近況(母校同窓会出席の感想)	ハガキ	自筆	
山川七左衛門							
G-331	山川七左衛門(大阪府泉北郡高石町)	昭和10年3月15日	3月15日	恭仁山荘善本展の案内の礼	封書	自筆	封筒差出名は印刷
山岸徳平							
G-332	山岸徳平(京都市豊島区長崎南町)	昭和10年10月14日		〔佐久良東雄先生遺墨展覧会関係〕所持せず	ハガキ	自筆	
山口康太郎							
G-333	山口康太郎(大阪市住吉区松虫通)	昭和10年10月15日	10月15日	〔佐久良東雄先生遺墨展覧会関係〕竹外山水(東雄讃)出陳の件	ハガキ	自筆	
山下							
G-334	山下(羽田山荘にて)	昭和12年11月6日		三段峡に滞在	ハガキ	自筆	絵葉書(三段峡)
G-336	山下生		11月14日	館見学と尊著『年表』贈与の礼	封書	自筆	封筒欠
G-335	山下生	3月26日		書籍追加予算の件、その他。	自筆		断簡。封筒欠。
山下寅次							
G-337	山下寅次(広島市国泰寺町)	昭和6年6月1日	6月1日	貴重目録『論語』(展示目録)の寄贈の礼	封書	自筆	書簡の差出名「山下生」、用箋はG-336と同じ
山下実							
G-338	広島文理科大学漢文学研究室山下実	昭和12年11月1日	11月1日	「上阪の節、御引見、御教示」の礼	封書	自筆	
山田市治郎							
G-339	大阪絵具染料同業組合組長 山田市治郎(大阪市東区唐物町)	昭和13年3月17日	昭和13年3月19日	『絵具染料商工史』出版記念式出席と祝辞のお礼	封書	自筆	
山田茂保							
G-340	長野県諏訪郡湖南尋常高等小学校長 山田茂保		昭和4年10月24日	府立図書館発行「年代便覧」寄贈依頼	封書	自筆	
G-341	湖南小学校長 山田茂保(長野県諏訪郡)	昭和4年11月2日	昭和4年11月1日	年代便覧15部受け取り支払いの件	ハガキ	自筆	
G-342	湖南小学校長 山田茂保(長野県諏訪郡)		昭和5年2月22日	年代便覧15部代金遅延のお詫び	書簡	自筆	
山中樵							
G-344	山中樵(台北)	昭和16年6月6日	6月6日	善本展目録の礼	ハガキ	自筆	
G-345	台湾総督府図書館長 山中樵	昭和16年7月23日	7月21日	理事当選の祝いと承諾願	封書	自筆	山中樵用箋
山中恒							
G-346	山中恒	5月29日	5.29	参館の礼状	ハガキ	自筆	絵葉書(角板山鉄線橋)
山森三郎							

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-347	山森三郎(金沢市下胡桃町)	3月4日	3月3日	娘の病状と阿倍野区に移転先見つけ、今までの世話の礼。現在は戦局決戦の段階。	封書	自筆	
由井長太郎							
G-348	由井長太郎(島根県能義郡島田村)	昭和17年9月19日	9月19日	当地産二十世紀梨を送付する	封書	自筆	
横山藤吉							
G-316	横山藤吉	昭和12年10月26日	昭和12年10月25日	和泉池上の枯草庵*にて *佐久良東雄仮寓の庵	ハガキ	自筆	
吉沢義則							
G-349	吉沢義則(京都修学院)	昭和8年12月24日	12月24日	『国文古注釈大系』に『万葉集名物考』『義経記大全』を加えたく	封書	自筆	
吉田祥三郎							
G-350	吉田祥三郎(大阪市阿倍野区帝塚山中)	昭和15年5月5日	5月5日	『十三経注疏』献上の下賜として、白羽二重一匹受領の報告。	封書	自筆	昭和18年4月23日付、宮内庁松平恒雄名義羽二重発送書一枚添付
吉房末吉							
G-351	日羅公黨蹟顕彰記念会 代表 吉房末吉		昭和13年1月	日羅公建碑式(昭和13年1月30日)への招待状	封書	印刷	封筒欠
吉村定吉							
G-352	京城帝大図書館司書官吉村定吉	昭和13年4月7日	昭和13年4月7日	帰京中の館長鳥山喜一図書館参上希望	封書	自筆	封書表「至急開報」とあり
陸軍天谷部隊本部							
G-353	陸軍天谷部隊本部	昭和16年3月25日	昭和16年3月20日	陸軍雇員田中繁信『モルモットの飼ひ方』返納証	封書	印刷	
若月保治							
G-354	若月保治(東京小石川区)	昭和10年10月24日	10月24日	来る26日京都へ行く前に図書館訪問(絵浄瑠璃本閲覧)	封書	自筆	上松寅三共同あて、「女性の光原稿用紙」使用
和歌山県立図書館							
G-355	和歌山県立図書館	昭和11年8月6日	昭和11年8月6日	近畿図書館協議会の日程案内	封書	自筆	県立図書館長室町尚武名
渡辺得次郎							
G-356	渡辺得次郎(兵庫県芦屋三条会)	昭和10年10月15日		(佐久良東雄先生遺墨展覧会関係)所持せず	ハガキ	自筆	
差出人不明							
G-357	長〇〇作(朝鮮全州大正町)	昭和4年7月13日		年代便覧の礼	絵ハガキ	自筆	
G-451		昭和10年3月5日		死亡通知	電報		発信局佐世保
G-361	中〇清一(名古屋東区千草)	昭和11年7月22日		臺中見舞い	ハガキ	自筆	
G-362	政彦(東京)	昭和12年6月25日	24日	在阪時の礼状	ハガキ	自筆	

上松寅三宛

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
石川清和堂							
G-363	石川清和堂(大阪市南区)	昭和9年12月23日	昭和9年12月22日	注文書『南嶺遺稿』等2点発送	ハガキ		
井上書店							
G-364	井上書店(東京帝国大学正門前)	昭和9年12月27日	昭和9年12月27日	注文書『医心方』の断り	ハガキ	自筆	
猪熊信男							
G-406	あのみま生(京一条寺町)	昭和10年10月19日	10月18日	昼食の御礼			
彙文堂書店							
G-365	彙文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和9年11月8日	昭和9年11月7日	『皇明〇台奏議』1冊発送	ハガキ	自筆	
G-366	彙文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和9年11月11日	昭和9年11月11日	『白雲和尚御詠並び解説』発送	ハガキ	自筆	
G-367	彙文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和9年11月24日	昭和9年11月24日	『蒙兀児史記』の件(大津市右文閣よりの断りのハガキ同封)	封書	自筆	
G-368	彙文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和9年11月26日	昭和9年11月	新刊広告	ハガキ	印刷	
G-369	彙文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和9年11月29日	昭和9年11月29日	注文書『書目答問補公』発送	ハガキ	自筆	
G-370	彙文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和10年1月19日	1月18日	『蒙兀児史記』、『国文学文庫西斎雜著』発送、注文の『説郛』は本国へ問い合わせ中、『柳井蔡文集』は持ち合わせなし。	封書	自筆	
G-371	彙文堂書店(京都市中京区寺町)		1月22日	『蒙兀児史記』、『国文学文庫西斎雜著』発送。(右文閣『蒙兀児史記』予約募集広告、発注票、請求書式等同封)	封書	自筆	
G-372	彙文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和10年9月18日	9月18日	『国文学文庫』17-20はすでに納入済	ハガキ	自筆	

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-374	豪文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和10年9月20日	昭和10年9月20日	注文書『国学文庫』17、18発送	ハガキ	自筆	
G-373	豪文堂書店(京都市中京区寺町)	昭和10年9月25日	9月25日	『国学文庫』14、15品切れ	ハガキ	自筆	
G-375	豪文堂書荘(京都市中京区寺町)			「展覧会御案内」と表書きあり。			封筒のみ。
大阪朝日新聞社会事業団							
G-376	大阪朝日新聞社会事業団	昭和9年11月30日	昭和9年12月1日	12月1日～3日古書即売会併設稀書展覧会出品願	封書	印刷(孔版)	「大阪古書即売会联合会」封筒使用
懐徳堂記念会							
G-377	財団法人懐徳堂記念会(大阪市東区豊後町)	昭和10年9月25日	昭和10年10月1日	10月5日「懐徳堂記念祭典」招待状(式次第同封)	封書	印刷	
其中堂京都支店							
G-378	其中堂京都支店(京都市寺町通り三条北)	昭和10年1月12日	12日	注文書12点送付	封書	自筆	
巖松堂書店							
G-379	巖松堂書店(京都市神田区神保町)	昭和10年10月14日	昭和10年10月13日	注文書『大日本山林史』等2点送付(見積書。請求書、納品書同封)	封書	自筆	注文書(ハガキ)別途あり
巖松堂和本部幽学社							
G-400	巖松堂和本部幽学社(京都市神田区神保町)		昭和9年11月22日	注文書発送	印刷	ハガキ	書名・金額は自筆
皇典社							
G-380	皇典社(大阪西区)			道頓堀倶楽部での古書店案内	ハガキ	印刷	日付は開催日
斎藤兼蔵							
G-403	琳琅閣書肆斎藤兼蔵(京都市本郷区)	昭和10年9月11日	昭和10年9月10日	購入図書送付状	自筆	ハガキ	大阪府立図書館宛、ハガキ表に「式点返送済み」のメモ書きあり
鹿田静七							
G-381	鹿田静七			鹿田松雲堂主催秋季古本即売展〔目録〕第1回 10月11日～19日	封書	印刷	
G-382	鹿田静七			鹿田松雲堂主催秋季古本即売展〔目録〕第2回 10月21日～31日	封書	印刷	
G-383	鹿田静七				封書		封筒のみ
杉本要							
G-401	梁江堂杉本要(大阪市南区八万筋)			大阪三越第9回古書即売会の案内	印刷	封書	25と同じ
玉樹香文房							
G-384	玉樹香文房(大阪天下茶屋)	昭和10年10月9日		古書代金決済願	ハガキ	自筆	
辻善之助							
G-385	東京帝国大学史料編纂所長辻善之助	昭和8年11月4日	昭和8年11月2日	調査員派遣時の礼	印刷	封書	史料編纂所用箋 印刷はタイプ
内外書籍株式会社							
G-386	内外書籍株式会社(京都市小石川区)		昭和10年1月	故事類苑38-45回8冊送付(振込用紙同封)	印刷	封書	一部破れ
中井木菟麿							
G-387	中井木菟麿	昭和2年7月19日	7月17日	大阪史料展覧会出品の件	自筆	封書	書簡1枚目欠
中尾松泉堂							
G-388	中尾松泉堂(大阪東区淡路町)			大阪三越第9回古書即売会の案内	印刷	ハガキ	9月24日(火)
中野康章							
G-389	皇漢法専門医院 中野康章(大阪市此花区上福島)	昭和10年10月20日		〔目録〕訂正申し込み	自筆	ハガキ	
G-390	皇漢法専門医院 中野康章(大阪市此花区上福島)	昭和10年10月20日		第二回〔目録〕訂正申し込み	自筆	ハガキ	
G-391	皇漢法専門医院 中野康章(大阪市此花区上福島)	昭和10年10月20日		第三回目録訂正申し込み	自筆	ハガキ	
楠林安三郎							
G-392	南陽堂本店楠林安三郎(京都市本郷区)	昭和10年1月9日	昭和10年1月8日	注文書発送	印刷	ハガキ	書名・金額は自筆
G-393	南陽堂本店楠林安三郎(京都市本郷区)	昭和10年1月13日	昭和10年1月12日	返品書受領(返品願い1月10日付ハガキ同封)	印刷	封書	
G-394	南陽堂本店楠林安三郎(京都市本郷区)	昭和10年9月21日	昭和10年9月21日	「武道伝来記」1部写本につき注文断り	自筆	ハガキ	
文求堂書店							

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-395	文求堂書店(京都市本郷区)	昭和10年1月12日	1月12日	注文書の在庫調査	自筆	封書	裏に、17日到着図書礼状の下書き
G-396	文求堂書店(京都市本郷区)	昭和10年1月15日	JAN 15 1935	注文書発送(請求書・見積書同封)	自筆	封書	
G-397	文求堂書店(京都市本郷区)	昭和10年1月17日	1月16日	注文の『蒙兀児史記』の件についての返書	自筆	封書	
細川信吾							
G-398	細川信吾(京都市麴町区)	昭和9年12月19日		注文書売り切れ	自筆	ハガキ	
矢野泉仏							
G-399	矢野泉仏(熊本県井戸北郡佐藤町)	昭和10年11月12日		注文書『稿本佐敷城史』発送	自筆	ハガキ	
臨川書店							
G-402	臨川書店(京都市左京区東今出川)	昭和10年10月24日		『臨川書店新収書目』第4号、『金氏梅花草堂展観即売書目』	印刷	封書	
和田不二男							
G-404	恩賜京都博物館長和田不二男(京都市東山区)	昭和10年9月23日	昭和10年9月22日	近衛家熙公200年修祀器年展観の案内状	印刷	封書	
G-405	恩賜京都博物館長和田不二男(京都市東山区)	昭和10年10月5日	昭和10年10月5日	近衛家熙公200年修祀器年展観終了の礼状	印刷	封書	

長田富作差出

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-407	上田林次郎(茨城県筑波郡)あて			書簡		自筆	宛名者ナシにより戻り分、未開封
G-408	内海様			「文選」拝借の礼		自筆	書簡下書き
G-409	大阪府立図書館職員	昭和9年2月28日	27日	足利にて、和歌2首			絵ハガキ「足利学校」
G-410	高野山			先師光栄大和尚の御風幸を拝し等参堂の礼、『正平版論語之研究』別便で送付。			
G-411	富岡益太郎 京都市上京区			「春雨物語」等拝借の礼、拝借證		自筆	書簡下書き
G-412	(メモのようなもの)		昭和〔9以降〕年			自筆	書簡下書き 私信

その他宛

本記号	差出人肩書・氏名(住所)	消印日付	書簡日付	内容(概略)	宛先	封書・ハガキ	自筆・印刷	備考
G-413	木谷蓬吟(大阪府下中河内郡長瀬村)	昭和10年2月23日	4月22日		内海景普	封書	自筆	
G-414	杏林温故会(住吉区清明通)	2月22日			大塚鏡	ハガキ	印刷	3月6日(日)第11回例会案内
G-415	十二期生 島田喜久子(東成区南中道町)	2月19日	2月19日	図書館退職の報告	宮田宗兵衛(生野高女校長)	封書	自筆	
G-416	竹本土佐太夫(住吉区聖天下)	昭和10年4月22日	4月22日		内海景普	封書	自筆	
G-480	永田諒(広島第二中学校)	昭和4年6月23日	6月22日	『年代便覧』の礼状	三誠社(大阪市此花区)	ハガキ	自筆	
G-417	東京帝国大学附属図書館 山田珠樹	昭和4年12月19日	12月19日	「年代便覧」10部頒布希望	今井貫一	封書	自筆	
G-418	労働科学通信社		昭和25年1月1日		近畿図書館員組合	封書	印刷	労働科学通信第11号
G-481	杏(?)		29日	「年表」の礼		ハガキ	自筆	
G-482				『報国児童』第一号の祝電				「六日二打電、九月七日」とのメモ書きあり。登龍閣「小林弥一」の名刺あり。
G-419	(差出人判読できず)	(年月日不明)	6月24日	「年代便覧」希望の件	今井貫一	書簡		封筒欠

「大阪府史」の修史事業について

大北智子（大阪府立中之島図書館）

「大阪府史」全8巻（通史編7巻・別巻）の刊行は大阪府が昭和46年から本格的な修史事業として取り組み平成3年に終了した。この「大阪府史」は上古から幕末にいたるまでの通史を刊行することにより、日本史の中で大阪府の占めてきた位置づけを解明し、郷土に対する認識を深めさらに先人の努力の成果を将来に引きついでいくことを目的として着手された。

これ以前に大阪府が府史として編集したものといえば明治36年第5回内国博覧会開催時に編纂された「大阪府誌」第1編～第5編、「大阪府全志」巻之1～巻之5（大正11）、昭和43年、開府百周年記念事業の一環として発行された「大阪百年史」がある。

「大阪府史」編集の経緯

- | | |
|----------|--|
| 昭和 29.9 | 「大阪府史編集資料室」を設置。（総務部文書課所管） |
| 昭和 45.11 | 「大阪府史編集室」と改称。（企画部総合企画課所管） |
| 昭和 46 年度 | 「大阪府史編集策定要領」が定められ大阪府における本格的な修史事業がスタートする。当初、5カ年計画で先史時代から明治維新までを内容とする通史編全4巻、約4000頁を編集刊行することとなる。史料収集及び調査研究を大阪府史研究会（会長 黒羽兵治郎）に委託し、同時に府史編集委員会、府史編集専門委員会を設置した。 |
| 昭和 48 年度 | 「大阪府史執筆要綱」を策定。 |
| 昭和 49.7 | 基本となる史資料が多く、その解読研究に予想外の日時を要したこと、当初計画の再検討の必要性等の理由により5カ年計画を7カ年に全4巻を全5巻に変更。 |
| 昭和 52.5 | 7カ年計画を9カ年に全5巻を全7巻に再び変更。 |
| 昭和 53.3 | 第1巻（古代編Ⅰ）刊行。 |
| 昭和 53.4 | 「大阪府史編集室」が企画部から教育委員会・中之島図書館所管となり「府史編集班」を設置。 |
| 昭和 54.11 | 第3巻（中世編Ⅰ）刊行。 |
| 昭和 56.5 | 第4巻（中世編Ⅱ）刊行。 |
| 昭和 59.4 | 「府史編集室」と名称変更。 |
| 昭和 59.12 | 府史編集専門委員の再編がなされる。 |
| 昭和 60.5 | 第5巻（近世編Ⅰ）刊行。 |
| 昭和 62.3 | 第6巻（近世編Ⅱ）刊行。 |
| 昭和 63.4 | 別巻の発行が決まり、全8巻に計画変更。 |
| 平成 1.3 | 第7巻（近世編Ⅲ）刊行。 |

- 平成 2.3 第 2 卷（古代編Ⅱ）刊行。
平成 3.3 別巻（第 1 巻補遺・年表・索引）刊行。
平成 3.3 「府史編集室」を閉室。

平成 3 年度～7 年度、5 カ年計画で大阪府史原稿、収集資料等の整理を行ない、以後、大阪府史関係の事務等は大阪資料・古典籍課が引き継ぐ事となった。

昭和 60 年、大阪府公文書館へ府史編集収集資料の一部を移管した。

翻刻『大坂城代阿部播磨守御用留』

くすりの道修町資料館 佐藤 敏江

大阪府立中之島図書館 小笠原 弘之・北川 敬子

大阪府立中央図書館 苗村 昌世・日置 将之

八木 美恵・山田 瑞穂

はじめに

原文書は大阪府立中之島図書館蔵(四九八／一四二)簿冊一(三十・五×二十一cm)表・裏表紙各一、本文二一〇丁。

本冊は、文化元年(一八〇四)九月から十月の間に、当時の大坂城代・阿部播磨守正由が江戸の老中らにあてて提出した公文書等を書写したものである。阿部播磨守正由は、武蔵忍藩の第八代藩主で、文化元年(一八〇四)一月二十三日から文化三年(一八〇六)十月十二日まで大坂城代を務めた。大坂における行政機関としては、大坂城代のほかに大坂城京橋口定番・玉造口両定番があり、東西町奉行を含めた三者で常に寄合をし、江戸の老中と緊密に連絡を取りながら、警備や行政、西国支配などの案件について意思決定をしていた。

本冊では九月(現在の十月頃)という季節柄か、河川の増水による手紙の到着の遅延や淀川・大和川の水害の報告が多数見受けられる。中には大坂の町人天文学者・間重富に関する記述もあり、高橋至時とともに寛政の改暦という大事業を成し遂げた間重富が、高橋至時の没後、至時の遺業を完成させるため、跡を継いだ至時の息子景保の補佐役として幕府より出府の命令を受けたものの、江戸参府が遅れている事情が記されている。

凡例

原本の忠実な翻刻を原則とし、旧漢字はそのまま表記した。

本文における朱字はそのまま朱字とした。

異体字は標準の字体に改めた。但し方(より)・歟(か)・べ(しめ)はそのままとした。かなの古体・変体は原則として現行の平かなを使用した。但し、江(え)・与(と)・者(は)・茂(も)・而已(のみ)などの慣用字は、原本のままとし小字で表記した。

反復記号「ヽ」「と」「く」等は原本の通りに表記した。

判読不能の文字は□で、確定できなかった文字 誤字 脱字 衍字等は原本のまま翻字し、(カ)(ママ)(虫損)等、その旨傍注を付した。

『大坂城代阿部播磨守御用留』

文化元甲子年從九月迄十月

御用留

猶以益

御機嫌能被成御座候条 可御心易候 次御自分御無異御勤 珍重被存候 各無事在之候 以上

去月廿三日去五日十二日之御別紙乞拝見候 公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 御膳等御快被 召上候間 可御心易候 去六日羅漢寺筋江被為 成候 将又其許御城内外相替儀無之由令承知候 次御自分御無事御勤 珍重存候 此方無異在之候 以上

八月廿四日

青山下野守

土井大炊頭

牧野備前守

戸田采女正

阿部播磨守様

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝被成御勤仕 珍重御事御座候 以上

去月廿四日之尊礼拝見仕候 公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 御膳等御快被 召上恐悦奉存候 去月六日羅漢寺筋江被為 成候旨被仰下 誠以恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕 珍重之御事御座候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

九月六日

阿部播磨守

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参尊報

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝或被御勤仕 珍重之御事御座候 以上

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕 珍重之御事御座候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

九月六日

阿部播磨守

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人々御中

覚

一淀川通出水之儀ニ付 當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

一淀川通洪水ニ付 西国海道筋往來難相成趣 當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

一恩知川筋満水ニ付 奈良街道往來難相成所 追々水落候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

一淀川通満水ニ付 此表出火之節人数難差出旨松平遠江守家來共申聞候趣申上候書付壹通

一大和川出水之儀 堺奉行申聞候趣申上候書付壹通

一堺大和橋大御修復之儀 相伺置候処 出水ニ付切落押流候付仕様替仕 追而相伺可申旨堺

奉行申聞候趣申上候書付壹通

但矢部駿河守差出候書付壹通

一御下知之通出府申渡置候者病氣ニ付出立延引之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

但町奉行共差出候書付壹通

一此地市中川浚人足小頭賃銀之儀御下知之通申渡候儀當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

但町奉行共差出候書付壹通

一當子年御本丸方 其外御修復御入用帳差上候儀 此地破損奉行申聞候趣申上候書付壹通

但破損奉行共差出候帳面老冊老箱

一事濟御答省略之儀申上候書付壹通

右之通書付 都合只拾三通 帳面老冊進達之仕候 以上

九月六日

阿部播磨守

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

淀川通出水之儀ニ付 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

去月廿五日夜方雨降續 淀川通出水仕 同廿九日寅刻天満橋下ニ而常水共九尺 卯刻九尺七寸ニ相成 追々致増水 同晦日寅刻壹丈六寸ニ相成 同刻方追々引落 去朔日巳刻八尺ニ相成候旨 水野若狭守 佐久間備後守申聞候

一 洪水ニ付中津川筋 神崎川筋為見廻 若狭守 備後守組之者差遣候處 摂州西成郡之内拾式ケ村馬踏迄水湛 根崩又者樋洩水等致候付 土俵畳等を以保留候處 去月晦日寅刻迄同州同郡柴嶋村領国役堤押切 内郷村々水入ニ相成候旨 組之者方注進有之候付 先水防為手當 同州同郡南中嶋村々江加勢人足之儀觸書差出候旨 若狭守 備後守申聞候事

一 淀川通柴嶋村堤切所為見分 備後守罷越候處 凡四拾間程茂押切 内郷村々多分水込入 未一圓ニ相満候ニ者無之 百姓共儀茂雜物等取片付 追々近郷地高之場所江立退 人牛馬怪我等無御座 夫食等之差支無之様子相聞候旨 備後守申聞候事

一 右堤切所之儀者堤方御代官手代共差遣 領主 地頭 役人等茂相詰 追々手當仕候得共 猶又町奉行方も組之者附置 夫々手配申付 備後守儀者引取申候 右場所之儀者切所々切出来致候得者 内郷込入候水者神崎川流末海手江拔候得者 早速引落可申段 詰合候者共申之ニ付 專仮築留之手當申付候旨 備後守申聞候事

一 摂州西成郡柴嶋村堤切ニ付 北中嶋在々江水込入 式拾五ケ村床上卷丈式尺 或者軒先迄水入候 下野守殿 御城代御勤役中 去々戌年淀川筋洪水之節者 格別之儀ニ付 摂河在々水難村々江者 夫食等手當之儀相同 御指図を以御蔵米請取候得共 此度之儀者格別水入之場所場廣ニ茂無御座 篠山十兵衛支配所者同人方々夫食手當茂仕候得者 旁別段其儀ニ茂及中間敷候得共 併右水附ニ相成候村々難儀之趣ニ相聞候付 猶又當前後之ため此度茂水難之村々江相應之米錢等差遣候様仕度勘弁仕候處 御蔵米并御手當金申聞候程ニ茂無御座候間 御役所急入用之節遣ひ方ニ相成候 仮納銀六拾貫目之内を以差略仕差遣候方ニ茂可有之 左候ハ、米五拾石鳥目五拾貫文村高并水入之甲乙ニ随ひ 夫々江割渡遣候積リニ御座候旨若狭守 備後守申聞候付 伺之通指図仕候 且水難村々江當地市中々施業物持運候付 通ひ船之儀差支無之様 是又手當申付置候旨 右兩人申聞候事

一 堤奉行 御代官木村周蔵儀御預所為檢見 去月廿八日致出立候得共 右出水ニ付水防為手配 檢見先々直ニ致廻村候處 河州交野郡渚村 摂州西成郡柴嶋村 甲村 福村 南西嶋新田 秀野新田 加嶋村 葎嶋村 国役堤及切所并同郡野田村 国役堤及上切所 田畑家居共水押ニ相成候付 難捨置場所之分を早速仮々切可申付段 周蔵申聞候旨 若狭守 備後守申聞候 其後 追々水引落 一兩日中ニ者仮々切も出来可仕哉之旨 猶又兩人申聞候事右之段申上候 以上

九月六日

淀川通洪水ニ付 西国海道筋往來難相成趣 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

淀川通洪水ニ付 摂州西成郡柴嶋村堤押切 西国海道筋往来難相成趣ニ相聞候ニ付 見分之者差遣替道之儀取調可申聞旨 水野若狭守 佐久間備後守申聞候付 此段申上候 以上

九月六日

恩地川筋満水ニ付 奈良街道往来難相成處 追々水落候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付
阿部播磨守

恩地川筋満水ニ付 河内郡吉田領堤切 奈良街道往来難相成候旨 同州同郡松原村庄屋断出候段申聞候処 追々水落 一昨四日方往来相成候旨 右村方方断出候段 猶又水野若狭守 佐久間備後守申聞候付 此段申上候 以上

九月六日

淀川通満水ニ付 此表出火之節人数難差出旨 松平遠江守家来共申聞候趣申上候書付
阿部播磨守

淀川通満水ニ付 柴嶋村堤押切 加嶋村一圓ニ水湛 尼崎方此地迄往還人馬通路難相成候ニ付 此表若出火之節人数難差出 尤往来有之次第人数差出可申旨 去二日松平遠江守家来共方申聞候 依之此段申上候 以上

九月六日

大和川出水之儀、堺奉行申聞候趣申上候書付
阿部播磨守

去月廿五日夜方雨天ニ而大和川出水仕 翌廿六日方水相増候ニ付 組与力 同心共差出 水防之手當申付候処 同夜亥刻ニ至 追々水落候処 同廿七日夜又々出水仕候付 組与力 同心共差出 水防之手當申付候処 翌廿八日未刻頃方大和橋下ニ而水丈壹丈四尺余ニ相成 矢部駿河守ニ茂罷出 水防之指図仕候処 追々水勢強 水丈壹丈六尺余ニ茂相成 仮橋危候ニ付 同早刻過辺方往来差止候處 同夜方別而水増 翌廿九日晝頃ニ者本橋渡口江茂水越候程ニ相成 卯刻迄大和橋凡式拾間余切落 右橋杭不残 并除杭式拾本 仮橋過半流失仕 南詰橋臺石垣崩落 永井日向守御預り所 住吉社領入組摂州住吉郡七道 領国役堤切所出来仕候付 防方手當仕候得共 追々水勢強難防留 凡六拾間余切崩 堤際ニ繫有之候劔先舩ニ艘流失仕 並松之内 茶店小屋九軒押流 右領内地續 摂州南嶋新田 泉州平田新田 同州松屋新田 同州山本新田水込ニ相成 堺表堀川并惣堀江水入 戎嶋新橋 戎橋流失并吾妻橋両橋臺 其外川

端石垣欠崩相成 石原庄三郎御代官所 同州大鳥郡北庄村 中筋村田畑之内江茂水込入 七道濱方地續与力屋敷 同心屋敷并拾九ヶ町水込入 地継之場所ニ而者床上又者床下迄茂水付ニ相成候処 南嶋新田海面之堤能切崩等出来 追々水干落申候 尤人牛馬怪我等無御座候 且又袋町牢屋敷水附 牢内江茂水押入可申哉ニ付 囚人共湊村長吏小屋江遣置 水干落候付 同晦日囚人共牢内江入置申候 大和川追々水引落 去朔日卯刻ニ至 水丈八尺ニ相成候付 先渡船申付 往来為致申候 委細之儀者追而可申聞旨 駿河守申聞候付 此段申上候 以上

九月六日

堺大和橋大御修復之儀相伺置候処 出水ニ付切落押流候付仕様替仕 追而相伺可申旨堺奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

先達而大和橋大破ニ付 大御修復之儀伺帳一件 物老袋 堺奉行差出候付 進達之仕置候処 去月廿五日夜方大雨降續 同廿七日夜ニ至出水 追々満水仕 同廿九日大和橋切落押流 橋墓崩等有之并仮橋過半流失仕候 右ニ付大御修復仕様目論見替仕 猶又取調追而可奉伺旨 申上候書付老通 矢部駿河守差出候付 進達之仕候 以上

九月六日

先達而大御修復奉伺置候 堺大和橋切落押流橋墓崩候付仕様替仕 追而可奉伺旨申上候書付

矢部駿河守

先達而堺表大和橋大破ニ付 大御修復之儀仕様帳 絵図面入札帳写相添奉伺候書付奉差上置候処 去月廿五日夜方大雨之上降續 同廿七日夜ニ至出水 追々満水仕 同廿九日大和橋南詰凡式拾間余切落 橋杭除杭共押流 橋墓石垣崩落并仮橋過半流失仕候 右ニ付大和橋大御修復仕様目論見替仕 猶又取調追而可奉伺奉存候 依之此段申上置候 以上

子九月朔日

矢部駿河守

御下知之通出府申渡置候者 病氣ニ付出立延引之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

大坂町人間五郎兵衛出府之儀 病氣ニ付追々出立延引仕 治定者不仕候得共 先月下旬ニ者出立可仕心得ニ罷在候旨 七月中申上置候処 未氣力付兼出立難仕 依之今暫養生加江當月中旬ニ者出立可仕心得御座候得共 病氣之儀ニ付治定者難仕旨 名代之者を以断出候ニ付 出立延引仕候儀申上候書付老通 水野若狭守 佐久間備後守差出候付進達之仕候 以上

九月六日

依御下知出府可仕者 猶又出立延引仕候儀申上候書付

水野若狭守

佐久間備後守

大坂町人

間五郎兵衛

右之者依御下知出府可仕候処 病氣ニ付追々出立延引仕 治定者不仕候得共 當月下旬二者出立可仕心得ニ罷在候旨 名代之者を以申聞候間 其段先月中申上置候処 未氣力付兼此節出立難仕 依之今暫養生加江 来ル九月中旬二者出立可仕心得ニ御座候得共 病氣之儀ニ付治定者難仕旨 名代之者を以断出候 猶出立日限相極申出候節可申上候得共 右出立延引仕候儀申上置候 以上

子八月

水野若狭守

佐久間備後守

此地市中川浚人足小頭賃銀之儀 御下知之通申渡候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

此地市中川浚場所江附置候人足小頭賃銀被下方之儀ニ付 御下知之通申渡候儀 申上候書付 壹通 水野若狭守 佐久間備後守 差出候付進達之仕候 以上

九月六日

市中川浚小頭賃銀之儀 御下知之趣御請申上候書付

水野若狭守

佐久間備後守

此地市中川浚場所江附置候人足小頭賃銀被下方之儀 近來上荷茶船船持共出銀被来候処 船仲間之者追々及困窮難儀ニ付 右出銀 御免之儀相願 以前川浚御入用之内ニ而被下候儀 茂有之 無餘儀筋ニ付 船仲間共出銀差免 以來川浚冥加金之内を以小頭五人江一日壹人賃銀式匆五分宛相渡候積 伺之通取計候様御下知之趣 御書付を以被仰渡奉承知候 以上

子八月

水野若狭守

佐久間備後守

當子年御本丸方 其外御修復御入用帳差上候儀 此地破損奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

當子年御本丸方 追手方 京橋方 玉造方 御加番方 川崎方 御修復御入用帳壹冊 野沢八三

郎 水嶋十兵衛 大久保彦大夫差出候付 進達之仕候 以上

九月六日

袋上

文化甲子年

御本丸方

追手方

當子年

京橋方

玉造方

御加番方

御修復御入用帳

川崎方

大坂御破損奉行

八月

野沢八三郎

水嶋十兵衛

大久保彦大夫

(付箋)未

内訳書略之

事済御答省略之儀申上候書付

阿部播磨守

先達而從是申上候儀 御別紙被仰下承知仕 事済候儀御答省略仕候 以上

九月六日

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝被成御出仕 珍重之御事御座候 以上

一筆啓上

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕 珍重之御事御座候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

阿部播磨守

九月十日

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人々御中

一筆啓上仕候 私在府中相伺候通 去亥年稲葉丹後守持参仕候 御黒印御下知状 此度小菅猪右衛門 一色源次郎帰府仕候付相渡之 入念持参差上候様申達候 右之段為可申上 若斯御座候 恐惶謹言

九月十日

阿部播磨守

御老中四人様

参人々御中

覚

一御黒印御下知状之写御目付江相渡 稲葉丹後守方相渡置候写引替候儀申上候書付壹通

一箱訴状壹封 御目付就帰府持参仕候儀申上候書付壹通

一道中川々出水三付 坂本小大夫 榊原隼之助延着之儀申上候書付壹通

右之通書付都合三通 進達之仕候 以上

九月十日

阿部播磨守

御老中四人様

御黒印御下知状之写 御目付江相渡 稲葉丹後守方相渡置候写引替候儀申上候書付

阿部播磨守

一私頂戴之 御黒印御下知状之写 先例之通請取申度旨 小菅猪右衛門 一色源次郎申聞候付

於其表私發足前相伺候通 右写猪右衛門 源次郎江相渡申候

一稲葉丹後守勤役中御目付江相渡置候御黒印御下知状之写 此度引替私方江請取申候 以上

九月十日

箱訴状壹封 御目付就帰府持参仕候儀申上候書付

阿部播磨守

此表御目付交代前 如例先月廿七日訴状箱差出候 右箱訴状壹通 小菅猪右衛門 一色源次郎 私連印之封印仕 猪右衛門 源次郎江相渡 今日其表江持参仕候付申上候 以上

九月十日

道中川々出水三付 坂本小大夫 榊原隼之助延着之儀申上候書付

阿部播磨守

坂本小大夫 榊原隼之助儀 去月廿八日上松駅迄罷越候處 同駅須原駅之間出水ニ而所々橋落 右駅三日逗留仕 去朔日仮橋出来ニ付即刻被駅出立仕 同三日太田駅迄罷越止宿仕候處

長良川 呂久川満水ニ而船渡相留 其上所ニ水入ニ相成 河渡駅 美江寺駅通路難相成 右駅
一日逗留 前後四日滞留仕候由ニ而今十日到着交代仕候 此段申上候 以上
九月十日

一筆啓上仕候 各様弥御堅達被成御勤仕 珍重御事御座候 就者當正月以来被遣候宿次御證
文数通 溜有之候付 別紙目錄之通 此度小菅猪右衛門 一色源次郎交代帰府仕候付 相渡
返上仕候 右之段為可申上 如斯御座候 恐惶謹言

九月十日

阿部播磨守

御老中四人様

参人ニ御中

覚

宿次御證文 四通 采女正殿

同 七通 御同人

同 安部撰津守 松平日向守 水野若狭守 佐久間備後守江被遣之

同 四通 備前守殿

同 壹通 御同人

同 稻葉丹後守江被遣之

同 七通 御同人

同 安部撰津守 松平日向守 水野若狭守 佐久間備後守江被遣之

同 六通 大炊頭殿

同 四通 御同人

同 安部撰津守 松平日向守 水野若狭守 佐久間備後守江被遣之

同 五通 下野守殿

右之通都合三拾八通返上之仕候以上

九月十日

阿部播磨守

御老中四人様

當地江差下候御用瓦代銀證文之儀 瓦師藤右衛門相願候旨 町奉行申聞候證文調遣候間可
被請取候 以上

八月廿九日

青山下野守

土井大炊頭

牧野備前守

戸田采女正

阿部播磨守殿

覚

一銀壹貫六百九拾七匁八分

内

八百四拾目 去亥十二月為内貸相渡

残而

八百五拾七匁八分此度可相渡方

右者御作事方 小普請方定式追増 御用瓦代銀之事 書面之通水野若狭守 佐久間備後守裏
判手形を以相渡 重而可有勘定候 以上

文化元子

八月 下野印

大炊印

備前印

采女印

水野若狭守殿

佐久間備後守殿

勝屋庄左衛門殿

高野一郎左衛門殿

石川七左衛門殿

日根野甚五郎殿

覚

采女正

一其表ニ有之候大筒之内 御餘慶之儀御鉄炮奉行相糺候趣 被申越候書付忝通

但御鉄炮奉行共差出候書付忝通

大炊頭

一證文被相返候儀被申越候書付忝通

但町奉行共差出候囚人宿次證文忝通

一佐久間備後守組同心 清原佐六郎老衰ニ付 願之通御暇申渡 数年無懈怠相勤候付 御褒美
被下候段 別紙を以相達 被致承知候儀付書付忝通

一松平日向守組同心 此度林弥御宛行被直下候證文之儀被申越候書付忝通

但御藏奉行共差出候證文下書一通

一去ニ戌去亥兩年樋川除国役御普請御入用高之儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通
但町奉行共差出候書付忝通

一御赦申渡候儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通

一其地町奉行掛吟味 六ヶ月以上未済書付 被差越之候儀ニ付書付忝通

但町奉行共差出候帳面忝冊

右之通書付都合拾貳通并帳面忝冊

證文忝通同下書忝通被差越之到来候 以上

八月廿九日

青山下野守

土井大炊頭

牧野備前守

戸田采女正

阿部播磨守殿

覚

一忠勤之者江御褒美之儀相達候通被申渡候儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付一通

但町奉行共差出候書付忝通

一其地地役人悴共 藝術見方之儀ニ付 御定番申聞候趣被相伺候書付忝通

但地役人共差出候書取忝通

右之通書付都合四通被差越之到来候 以上

八月廿九日

青山下野守

土井大炊頭

牧野備前守

戸田采女正

阿部播磨守殿

覚

一御貸附銀利銀之内を以 被下方之儀ニ付相達候趣 答被申越候儀 其地町奉行申聞候趣被申

越候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

一仮納銀償戻之儀ニ付相達候趣 答被申越候儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

一相達候通出府申渡置候者病氣ニ付出立延引之儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

一遠嶋之者御赦申渡候儀ニ付 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

一囚人牢領相勤候同心御褒美之儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通 例書忝通

一堺大和橋破損ニ付 大御修復并右御入用銀出方之儀 堺奉行相伺候趣被申越候書付忝通

但矢部駿河守差出候何帳并一件書物一袋

一來丑年御鉄炮菓御調合年ニ付 御鉄炮奉行相伺候儀被申越候書付忝通

但御鉄砲奉行共差出候書付四通一冊

一増山備中守儀 御目通差控之格相達候趣被申聞候儀被申越候書付忝通

一長興寺村御焰硝藏近在出火之儀被申越候書付忝通

右之通書付都合拾九通忝冊 例書忝通 并伺帳一件 書物一袋被越之到来候 以上

八月廿九日

青山下野守

土井大炊頭

牧野備前守

戸田采女正

阿部播磨守殿

覚

一撰州 河州国役御普請ニ付 相達候趣被致承知候儀被申越候書付忝通

一其地破損奉行加藤久五郎 跡役之儀被申越候書付忝通

一其地町奉行所御貸附銀年賦取立相済候付 与力 同心江御褒美之儀 難被及御沙汰 且御貸

附銀取扱諸入用并与力 同心江手當之儀者伺之通可被致段 相達被致承知候儀被申越候書

付忝通

一其地町奉行所餘時入用銀并洪水一件入用銀償戻方之儀 相達被致承知候儀 被申越候書付

忝通

一其地破損奉行三組手代 組頭并御材木蔵番江御扶持方被下候ニ付 證文被差越被致落手候

儀被申越候書付忝通

一松平日向守組同心齋藤林弥儀 御宛行願之通被 仰出候付 日向守御礼之儀被申越候書付

忝通

一堺表御困穀御蔵御普請中差出候与力 同心扶持方之儀 矢部駿河守申聞候趣被申越候書付

忝通

但堺奉行差出候書付忝通 例書忝通

一其表市中川浚所ニ召仕候小頭賃銀之儀ニ付 町奉行相伺候趣被申越候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

一其地御本丸粗(カ)ニ重御櫓 同西續御多門并瓦御塀 同西丸御鉄炮方預七御蔵御修復之儀

破損奉行申聞候趣被申越候書付忝通

但破損奉行差出候書付忝通 帳面四冊

一事済答省略之儀被申越候書付忝通

右之通書付都合拾五通 例書忝通 帳面四冊被越之到来候 以上

八月廿九日

青山下野守

阿部播磨守殿

土井大炊頭
牧野備前守
戸田采女正

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御出仕 珍重之御事御座候 以上

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕 珍重之御事御座候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

九月十六日

阿部播磨守

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人と御中

(付箋) 子の年
宮中

覚

一 宿次御状箱川支ニ而延着仕候儀申上候書付壹通

一 瓦代銀御證文被遣落手仕候儀申上候書付壹通

一 柴嶋村国役堤切所仮ノ切出来 御入用銀積方之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

但町奉行共差出候書付壹通

堤奉行御代官差出候書付写壹通

一 淀川通洪水ニ付 西国海道筋往來難相成 替道之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

一 大和川出水ニ付 猶又堺奉行申聞候趣申上候書付壹通

但堺奉行差出候帳面壹冊 龜絵圖壹枚 書付壹通

一 木村周藏儀 増地被 仰付候御禮之儀申上候書付壹通

一事濟御答省略之儀申上候書付壹通

右之通書付都合拾通 帳面壹冊 龜絵圖壹枚 進達之仕候 以上

九月十六日

阿部播磨守殿

御老中四人様

宿次御状箱川支ニ而延着仕候儀申上候書付

阿部播磨守

去月廿九日出之宿次御状箱 馬入川 木瀬川 大井川 矢作川出水 矢作橋窪之 通路無之相
滞 去十三日朝到着仕候 此段申上候 以上

九月十六日

瓦代銀御證文被遣之落手仕候儀申上候書付

阿部播磨守

其御地江差下候御用瓦代銀御證文御調被遣之 則御金奉行江相渡申候 以上

九月十六日

柴嶋村国役堤切所仮ノ切出来 御入用銀積方之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

先達而申上候摂州西成郡柴嶋村国役堤切所仮ノ切 去六日出来仕候 右御入用銀積方之儀
堤奉行 御代官方當地町奉行江差出候書付写老通 町奉行方私迄差出候書付壹通 水野若狭
守 佐久間備後守差出候付 入御披見候 以上

九月十六日

国役堤切所仮ノ切之儀ニ付 堤奉行御代官申聞候儀申上候書付

水野若狭守

国役方年番

佐久間備後守

此間中申上置候摂州西成郡柴嶋村国役堤切所仮ノ切 去ル六日出来仕候間 右御入用銀
大積可申出筈ニ御座候得共 外切所共一同ニ目論見帳之内江積込餘時御普請相伺候節可
申出旨 堤奉行 御代官篠山十兵衛 木村周藏連名書付を以申聞候付 承置申候 依之則差
出候書付写相添 此段申達候 以上

子九月

水野若狭守

国役方年番

佐久間備後守

写

覚

淀川通

字細貝

田安領知

国役堤切所凡長四拾間余

撰州西成郡

一仮ノ切凡長八拾間

柴嶋村

右者撰州西成郡柴嶋村国役堤切所之儀 早速仮ノ切手當申付候処 尤水下村ノ江者御奉行所方助人足御觸被下 去ル六日仮ノ切出来仕候 尤仮ノ切御入用銀大積可書出處切所數多之上目論見伺帳之内江仮ノ切御入用銀高茂組入 且常例銀高ニ而者引足不申餘時御普請相伺候様追而一同目論見帳を以申上候様可仕 外右場所之儀 元堤跡押堀ニ相成 水深ニ有之急速仮ノ切難出来候間 耕地之内江廻シ水留 仮ノ切出来仕候 依之御届申上候 以上

子九月

篠山十兵衛

木村周蔵

淀川通洪水ニ付 西国海道筋往来難相成 替道之儀當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

淀川通洪水ニ付撰州西成郡柴嶋村堤押切 西国海道筋往来難相成趣ニ相聞候付 見分之者差遣候段者先達而申上置候 本道者未水湛候所茂有之 往来難相成候付 上之手之内薬師堂村より十八条村迄之往還通水引落候間替道ニ仕 夫ノ建札仕候段 水野若狭守 佐久間備後守申聞候ニ付此段申上候 以上

九月十六日

49

大和川出水ニ付 猶又堺奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

大和川出水 大和橋切落 橋基崩 撰州住吉郡七道領国役堤押切候ニ付 堺町中水込ニ相成候趣 去六日申上候 以後追々取調候書付帳面老冊 籠絵圖老枚 矢部駿河守私迄差出候付 入御披見候事

一 去月廿七日夜方之出水ニ而 同廿九日河州 撰州 石川 大和川通国役堤押切所出来ニ付 去三日矢部駿河守組川役与力 同心共召連罷越 石川 大和川筋切所見分仕候処 田畑水押ニ相成候場所茂御座候得共 怪我人等茂無御坐 勿論堤奉行 御代官木村周蔵儀茂場所見分仕候由ニ而切所減水ニ随心 早々仮ノ切ニ為取掛候段 木村周蔵申聞候趣 駿河守私迄差出候書付老通 入御披見候事

右之段申上候 以上

九月十六日

大和川出水 堤切 大和橋切落 橋臺崩 堺町中水込等之儀 猶又御届申上候書付

矢部駿河守

當月朔日先御届申上候 先月廿八日方之大雨ニ而大和川出水仕 大和橋切落 橋臺崩并永井日向守御預り所 住吉社領入組撰州住吉郡七道 領国役堤切崩候付 堺町中水込ニ相成 郷橋 野通ニ橋 茶店 小屋流失 樹木根倒 内川川端欠崩 其外破損所等之儀追々取調候 處 左之通御座候

登端重松之内
水茶屋菓子店煮賣屋

一小屋流失

間口四間
入 三間

壹ヶ所小屋主

宿屋寺町宝珠院境内
野口定右衛門支配借屋

住吉屋龜松

幼少ニ付代判 儀右衛門

同所

同断

一同

間口三間
入 貳間半

壹ヶ所小屋主

海松町貸屋長兵衛借屋

油屋彦七

同所

同断

一同

間口七間
入 壹間

壹ヶ所小屋主

右同人

同所

同断

一同

間口三間半
入 貳間半

壹ヶ所小屋主

小桜町海部屋半兵衛借屋

河内屋いと

代判 清兵衛

同所

菓子賣水茶屋

一同

間五間半
入 貳間

壹ヶ所小屋主

右同人

同所

釵先船荷物置場

一同

間口六間
入 貳間

壹ヶ所小屋主

山口壹丁目大和屋九右衛門借屋

河内屋弥左衛門

登端重松之内
菓子賣水茶屋

一 小屋流失

間口六間
入 貳間

老ヶ所小屋主

北馬屋町

河内屋弥市

同所

同断

一同

間口四間
入 貳間

老ヶ所小屋主

海松町柴屋吉兵衛借屋

油屋弥兵衛

同所

同断

一同

間口三間半
入 老間半

老ヶ所小屋主

櫛屋町永野屋嘉兵衛

幼少二付代判傳兵衛借屋

松原屋勘六

一 公儀橋凡貳拾貳間余切落流失

大和橋

一 南之方橋墓石垣不残道敷(カ)共崩落

同所

但崩落候間 数等者水尾筋三相成 未水高難相分御座候

一 請負仮橋凡五拾間切落流失

同所

一 郷橋流失

戎嶋新橋

一 同流失并橋墓欠崩 老ヶ所

同所戎嶋

一 同橋墓石垣欠崩 老ヶ所

同所吾妻橋

一 野通ヒ板橋石垣流失崩落 三ヶ所

七堂濱公儀地

一 松倒木 老本

北瓦町公儀地

一 梅檀倒木 老本

七ヶ所

一 内川川端石垣欠崩

七堂濱公儀地

一 鉄炮遠町場打墓崩

櫛屋農人町山合若右衛門

一 納屋崩 梁間老間 桁行貳間 老ヶ所

右 同人

一 練塀崩長拾老間半

新樽屋町塀屋清兵衛

一同 長四間

宿屋農人町野口屋与次兵衛

一 掛塀倒長五間

同町鍋屋五郎兵衛

一同 長三間

同町綿屋善兵衛

一 掛塀倒長四間

梅香町河内屋藤七

一同 長貳間

同町灰屋源兵衛

一同 長三間

一同 長四間 山伏町難波屋源兵衛
 一同 長老間半 同町銅屋善兵衛
 一同 長四間 小桜町平野屋久兵衛
 一同 長四間 同町和泉屋嘉右衛門
 一同 長三間半 同町會所屋敷
 一 木戸門崩 老ヶ所 小桜町
 一 北与力屋敷其外町内ニ而居宅床方水丈老尺方四尺迄水附候町と左之通

北与力屋敷
 小桜町
 梅香町
 蛤町
 海船町
 山伏町
 北木挽町
 北馬屋町
 北瓦町
 綾山口町
 新樽屋町

但右町と町内ニも地高建家高之場所者床上江不込入も御座候
 一 居宅床下入口蹴放迄水込ニ相成候組同心屋敷 牢屋敷并郷屋敷其外町と左之通

東同心屋敷
 牢屋敷
 垣外郷屋敷
 大黒町
 弓場町
 九間農人町
 柳農人町
 北絹屋町
 東農人町
 神明農人町
 宿屋農人町
 南御坊前町
 中濱老丁目
 北材木農人町
 錦之町濱

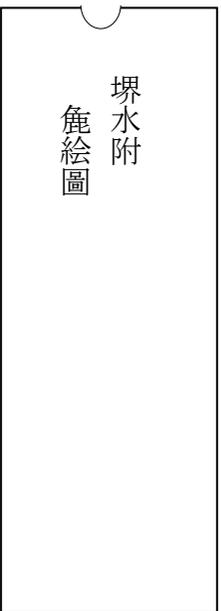
綾堀屋敷町
柳之町下濱
九間町濱
神明町濱
榎屋町濱
東之町濱
北材木町之濱
宿屋町濱
北鏡屋町
南鏡屋町
柳綿両大工町
戎之町濱
榎屋東大工町
東東大工町

但右之町と町内ニ而茂地低之所者床上四五寸水込ニ相成候茂御坐候

右之通御座候 尤先月廿九日卯之刻過 堤切崩候より 追々水込入 同日未之刻頃頂上ニ而 其外追々干落 濱手之方ハ當日又者翌日ニ者不殘干落候得共 其外者去ルニ日迄ニ干落當 時町内水込入落兼候場所茂無御座 尤水先ニ而茶店 煮賣小屋等流失仕候得共 家内之者 前以逃去罷在 其外町内江者次第ニ込入候儀ニ付 水附人共仕覺茂有之 溺死 怪我人 斃牛 馬等無御座候 国役堤切所間数等之儀 石川 大和川筋共見分仕候処 土砂入水込田畑有 之候得共 人家押流 怪我人 牛馬損無御座候 委細之儀者堤奉行 御代官間数等相改申聞 次第突合候上 并自普請堤切所等も其節一同可申上 且大和橋并仮橋流失 橋臺 石垣崩 等之儀者御普請目論見替之節 委細可申上候得共 右橋切落間数未水高候ニ付橋臺道敷欠 崩迄者難相分候得共 其外町中水込場所破損所等之儀 鹿絵圖老枚相添此段申上候 以上

子九月六日

矢部駿河守



河州 撰州 石川 大和川通国役堤切所間数并仮橋切申付候儀申上候書付

矢部駿河守

大和川通

木村周藏當分御預所

江川筋汐浦

摂州住吉郡

一 国役堤切所凡長五拾貳間余壹ヶ所

南嶋新田

同川通

同所

一 同切所凡長三拾六間余壹ヶ所

同新田

同川通

同所

一 同上切所凡長五間余壹ヶ所

同新田

同川通

同所

一 同上切所凡長四間余壹ヶ所

同新田

同川通

江口(九)

一 同切所凡長六拾貳間余壹ヶ所

南嶋新田同新田

同川通

同所

一 同切所凡長九間余壹ヶ所

同新田

同川通

同所

一 同切所凡長四拾八間余壹ヶ所

同新田

同川通

同所

一 悪水樋流失壹ヶ所

同新田

同川通

豊田

一 国役堤切所凡長貳拾五間余壹ヶ所

同新田

同川通

同所

一 同切所凡長拾間余壹ヶ所

同新田

同川通

同所

一 同上切所凡長拾八間余壹ヶ所

同新田

同川通

同所

一 同上切所凡長貳拾間余壹ヶ所

同新田

同川通

南堤四番

一 同切所凡長百壹間余壹ヶ所

七道領

内拾壹間余大和橋通敷并橋基左右開キ之取付ニ御座候

同川通

西浦

片桐熊蔵知行所

河州丹北郡

永井日向守領分入組
住吉社領 摂州住吉郡

一同切所凡長拾間余壺ヶ所

同川通

江堤

一同上切所凡長拾壺間余壺ヶ所

石川通

戸崎

一同切所凡長拾貳間余壺ヶ所

同川通

大黒坂下

一同切所凡長五拾四間余壺ヶ所

同川通

中堤

一同切所凡長五間余壺ヶ所

同川通

七尾

一同切所凡長七拾四間余壺ヶ所

同川通

なかれ

一同切所凡長貳拾四間余壺ヶ所

同川通

京海道

一同裏切所凡長八拾七間余壺ヶ所

同川通

山家海道

一同裏切所凡長四拾間余壺ヶ所

同川通

欠田

一同切所凡長六拾九間余壺ヶ所

同川通

野上

一同切所凡長七拾三間余壺ヶ所

同川通

岸之下

一同切所凡長拾四間余壺ヶ所

大堀村

同州大縣郡

築田

七拾五ヶ村立合

木村周藏當分御預所

同州安宿部郡

片山村

渡辺大学頭領分

同州古市郡

大黒村

同村

篠山十兵衛御代官所

壺井權現八幡社領
通法寺領

入組

壺井村
通法寺村

立會

木村周藏當分御預り所

同州石川郡

山中田村

小出主水知行所

同州同郡

板持村

同村

同村

篠山十兵衛御代官所

同州同郡

喜志村

同村

右者先月廿七日夜方之出水ニ而 同廿九日国役堤切所出来仕 追々注進仕候ニ付 當三日組
川与力 同心共召連 私儀罷越 両川筋切所見分仕候処 書面之通御座候 尤田畑水押ニ相成
大堀村 片山村者内郷共水押ニ相成候場所も御座候得共 怪我人等茂無御座 勿論堤奉行御

代官木村周藏儀茂場所見分仕候旨ニ而前書切所減水ニ随ヒ早々仮ノ切為取掛候段 右周藏申聞候依之此段申上候 以上

子九月

矢部駿河守

木村周藏儀増地被 仰付候御禮之儀申上候書付

阿部播磨守

木村周藏儀 老万石増地被 仰付候旨 猶其御地被仰渡 難有仕合奉存候段 檢見廻村先方此表中帰仕候ニ付 為御禮私宅江罷出候 此段申上候 以上

九月十六日

事濟御答省略之儀申上候書付

阿部播磨守

先達而從是申上候儀御別紙被仰下 承知仕 事濟候儀御答省略仕候 以上

九月十六日

先達而被仰下候大筒之儀 壹貫目位之唐銅筒三挺 五六百目位方三百目位迄之筒九挺 右之方者唐銅筒斗ニ而者揃兼可申候間 鉄筒取交可御用立分取調 委細可申上 尤右之分追而外御用ニ相成候而茂御差支之筋有之間敷哉 是等之趣得与致了簡可申上旨被仰下奉得其意候 則御鉄奉行江申達候処 御筒数書付老通差出候ニ付 入御披見申候 追而外御用ニ相成候而も御差支之筋無御座候 此段申上候 以上

九月十六日

阿部播磨守

老貫百目玉 貫目玉并六目玉方三百目玉迄御筒取調申上候書付

坂原儀左衛門

河内左太郎

御石火矢

阿蘭陀筒

一壹挺 老貫百目玉

唐銅御筒

惣尺八尺九寸三分

一式挺 老貫目玉

銃鉄御筒

惣尺六尺八寸三分

阿蘭陀筒

一老挺 六百目玉

唐銅御筒

惣尺四尺五分

一式挺 六百目玉

銃鉄御筒

惣尺六尺八寸三分

一 壹挺 三百五拾目玉 唐銅御筒

惣尺五尺八分

一 貳挺 三百目玉 唐銅御筒

此内

壹挺者惣尺五尺八寸四分

貳挺者惣尺四尺六分

一 三挺 三百目玉 銃鉄御筒

惣尺六尺壹寸五分

合拾貳挺

私共御預大筒之内 壹貫目位之御筒三挺 五六百目位より三百目位之御筒九挺 右之分唐銅之御筒斗ニ而揃兼申候者 鉄筒取交御用立候分取調可申上旨 奉畏候 尤右之分追而外御用ニ相成候而茂御差支之儀茂御座有間敷奉存候付 右玉目相認分奉入御覽候 以上

子九月

坂原儀左衛門

河内左太郎

一 筆啓上仕候

公方様 大納言様益御勇健被成御座 恐悦奉存候 猶以御機嫌奉伺之度存候 當御城内無別條御番衆無異勤仕 町方迄相替儀無御座候 此外之儀者以別紙申上候 恐惶謹言

阿部播磨守

九月十九日

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人ゝ御中

覚

一 長崎奉行方差越候草籠状箱以刻附差上候儀申上候書付壹通 右之通書付壹通進達之仕候以上

阿部播磨守

九月十九日

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

長崎奉行方草籠状箱以刻附差上候儀申上候書付

阿部播磨守

長崎奉行方去八日出刻附草籠狀箱老致来着候付 従是茂以刻附差上申候
差急私一名ニ而申上候 以上

九月十九日

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御勇健被成御座恐悦奉存候 猶以御機嫌奉伺之度存候 當御城内無別
條御番衆無異勤仕 町方迄相替儀無御座候 此外之儀者以別紙申上候 恐惶謹言

阿部播磨守

九月廿五日

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人ニ御中

覚

一長崎奉行方差越候草籠狀箱以刻附差上候儀申上候書付老通

右之通書付老通進達之仕候 以上

九月廿五日

阿部播磨守

御老中四人様

参人ニ御中

長崎奉行方草籠狀箱以刻附 差上候儀申上候書付

阿部播磨守

長崎奉行方去十四日出刻附草籠狀箱老致来着候付 従是茂以刻附差上申候 差急私一名ニ而
申上候 以上

九月廿五日

(付箋)
文政返書也
六月

其地御鉄砲合薬来丑年調合之儀ニ付 御鉄砲奉行差出候書付被越之 到来被申越候趣令承
知候 去亥年遣残焰硝硫黄相用ハ 此度焰硝百六拾老貫目 硫黄七拾四貫目 其外諸式とも
御賈上申付 御鉄砲薬都合五百貫目調合之積伺之通取計候様 御鉄砲奉行江可被申渡候 委
細之儀は御勘定奉行方其地町奉行江申達候様申渡候 以上

九月十二日

青山下野守

阿部播磨守殿

土井大炊頭
牧野備前守
戸田采女正

堺表江取建候酒造役 米囲蔵出来 右掛り相勤候堺奉行 組与力 同心共江御扶持方被下候
様いたし度旨 矢部駿河守相願 同人差出候書付共被越之 到来被申越候趣令承知候 右与
力式人江御扶持方拾人扶持宛 同心四人江式人扶持宛 勤日数を以被下之 内式人江者堺奉
行御役所御勘定銀を以米代銀ニ而相渡し其餘御扶持米渡方之儀ハ先格之通取斗候様駿河守
江可被申渡候 以上

九月十二日

青山下野守
土井大炊頭
牧野備前守
戸田采女正

阿部播磨守殿

其地御金蔵江相納候 但石州灰吹銀江戸表江取寄候儀 其度ニ宿次證文被相渡候様相達来
候得共 年々定例之事ニ茂有之間 向後者灰吹銀納候節之御勘定奉行方其地町奉行御金奉行
江灰吹銀取下之儀申遣候様申渡置候間 宿次證文之儀 町奉行方申立候ハ、是迄之通宿次
證文相渡候様可被致候 以上

九月十九日

青山下野守
土井大炊頭
牧野備前守
戸田采女正

阿部播磨守殿

其地御蔵奉行堀内藤四郎事御用之偽候間 當地江罷下候様御勘定奉行江申渡候 妻子等召
連其表引拂候様是又相達候間 可被得其意候 以上

九月十九日

青山下野守
土井大炊頭
牧野備前守
戸田采女正

阿部播磨守殿

其地大御番在番小屋之内先達而梁損落候様なる沙汰茂相聞候 右躰損落候迄可打捨置事ニ
ハ有之間鋪儀ニ候得共 若左様之事茂有之候而者如何敷次第ニ付候得与内ニ被相糺候而早ニ

被申越候様ニ与存候 以上

九月十九日

戸田采女正

阿部播磨守様

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝被成御出仕 珍重之御事御座候 以上

(付箋)とらとみ

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕 珍重之御事御座候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

阿部播磨守

九月廿六日

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人々御中

當地大御番在番小屋之内先達而梁損落候様なる沙汰御承知被成候間 右躰損落候迄打捨置候事ニ有之間敷儀ニ候得共 若右様之事茂有之候而者如何次第(マ)ニ付 得与内と相糺候而早と可申上旨被仰下候趣奉得其意候 得与相糺 追而可申上候 以上

阿部播磨守

九月廿六日

戸田采女正様

覚

一此地御鉄砲合薬調合之儀伺之通取計候様 御鉄砲奉行江可申渡旨被仰下 承知仕候儀申上候書付壹通

一堺表酒造役米御囲蔵御普請中掛り相勤候与力 同心江御扶持方被下候儀被仰下 承知仕候儀申上候書付壹通

一灰吹銀江戸表江御取寄之節 宿次證文之儀被仰下候趣 承知仕候儀申上候書付壹通

一當地御蔵奉行堀内藤四郎儀 其御地江罷下候様被仰渡候趣 承知仕候儀申上候書付壹通

一 佐久間備前守悴御番入之儀願書差出候儀申上候書付壹通

但

佐久間備後守差出候願書壹通

一 淀川通洪水ニ而水入ニ相成候村々之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

但

町奉行共差出候書付壹通帳面壹冊

一 西國海道筋道替申付置候処 水引落往来相成候儀當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

一 此地出火之節松平遠江守人数前々之通差出候旨同人家来共方申聞候趣申上候書付壹通

一 御下知之通出府申渡置候町人出立延引之儀當地町奉行申聞候趣申上候書付壹通

但

町奉行共差出候書付壹通

右之通書付都合拾壹通願書壹通帳面壹冊進達之仕候 以上

九月廿六日

阿部播磨守

御老中四人様

此地御鉄砲合藥調合之儀 伺之通取計候様御鉄砲奉行江可申渡旨被仰下 承知仕候儀申上候書付

阿部播磨守

此地御鉄砲合藥来丑年調合之儀ニ付 御鉄砲奉行差出候書付相添申上候趣御承知被下 右者去亥年遣残焰硝硫黄相用心 此度焰硝百六拾老貫目硫黄七拾四貫目其外諸式共御買上申付 御鉄砲藥都合五百貫目調合之積伺之通取計候様御鉄砲奉行江可申渡旨 尤委細之儀者從御勘定奉行此地町奉行江申達候様被仰渡候段被仰下奉得其意 則河内左太郎江申渡候以上

九月廿六日

堺表酒造役米御困蔵御普請中掛り相勤候与力 同心江御扶持方被下候儀被仰下 承知仕候儀申

上候書付

阿部播磨守

先達而申上候堺表江御取建酒造役米御困蔵出来 右掛り相勤候堺奉行組与力 同心共江御扶持方被下候様仕度候 矢部駿河守相願候書付相添申上候趣御承知被下 右与力式人江御扶持方拾人扶持宛 同心四人江式人扶持宛勤日数を以被下之内 同心式人江者堺奉行御役所御定銀を以米代銀ニ而相渡 其餘御扶持米請取方之儀者 先格之通取計候様駿河守江可申渡旨被仰下奉得其意則申渡候 以上

九月廿六日

灰吹銀江戸江御取寄之節 宿次證文之儀被仰下候趣承知仕候儀申上候書付

阿部播磨守

當地御金藏江相納候 但石州灰吹銀江戸表江御取寄ニ相成候儀 其度ニ宿次證文相渡候様被
仰下候得共 年々御定例之事ニ茂御座候間 向後者灰吹銀納候節ニ御勘定奉行方當地町奉行
御金奉行江灰吹銀御取下之儀申遣候様被仰渡被置候付 宿次證文之儀町奉行方申立候者是
迄之通宿次證文相渡候様被仰下候趣奉得其意候 以上

九月廿六日

當地御藏奉行堀内藤四郎儀 其御地江罷下候様被仰渡候趣承知仕候儀申上候書付

阿部播磨守

此地御藏奉行堀内藤四郎事御用之儀御座候間 其御地江罷下候様 御勘定奉行江被仰渡候
妻子等召連此表引拂候様 是又被仰達候旨被仰下候趣奉得其意候 以上

九月廿六日

佐久間備後守忰御番入之儀願書差出候儀申上候書付

阿部播磨守

佐久間備後守養子惣領右京御番入之儀 備後守願書差出候付 入御披見候 宜御沙汰被成
可被下候 以上

九月廿六日

忰御番入之儀奉願候書付

佐久間備後守

大坂町奉行

備後守養子惣領

佐久間右京

子二拾二歳

右右京儀御番入奉願候 以上

子九月

佐久間備後守

淀川通洪水ニ而水入ニ相成候村々之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

去月晦日淀川筋洪水ニ而摂州西成郡柴嶋村堤切所有之 北中嶋村々江水込入候ニ付申上候
書付老通 村名書老冊水野若狭守 佐久間備後守差出候付進達之仕候 以上

九月廿六日

洪水ニ而水入ニ相成候村々之儀ニ付申上候書付

水野若狭守
佐久間備後守

先月晦日淀川筋洪水ニ而摂州西成郡柴嶋村堤切所有之北中嶋村と江水込入候付其節一ト通阿部播磨守江相達其後追と水引落候付猶又村と相糺候處人牛馬怪我無之候得共潰家
有之候付別紙村名書相添此段申上候以上

去と戊年撰河在と水入ニ相成候節夫食等手當仕候得共此度之儀者格別水入之場所場廣ニ茂無之候付播磨守江相達仮納銀六拾貫目之内を以米五拾石鳥目五拾貫文村高井水入之甲乙ニ随割渡遣候處一統難有奉存候旨申之候

一右村と江親類見廻其外志を以致旅行候ものも有之候處通船無之往来難相成候付右通船差出遣右為差略組之ものも差出申候

子九月

水野若狭守
佐久間備後守

水入村名書

水野若狭守
佐久間備後守

田安領知
摂州西成郡

増嶋村
高畑村

南方

新家村
蒲田村

篠山十兵衛御代官所
同州同郡

南方村
川口村

西村

潰家 三軒潰
納家 八ヶ所
潰灰小屋 八ヶ所
潰家 壱軒

川口新家村
小島村
山口村
十八条村
今里村

(付箋) 文政
寅元

潰家

式軒

三津屋村

潰家

式軒

加島村

潰家

八軒

御幣嶋村

福村

中村

同御代官所 入組

小笠原源右衛門知行所

同州同郡

木寺村

野中村

土井大炊頭殿領分

同州同郡

堀村

閑院宮家領

同州同郡

南宮原村

堀上村

雨森権左衛門知行所

同州同郡

北宮原村

永井日向守御預り所

野里村

右之通御座候 尤人家水入ニ不相成村方者相除申候 以上

子九月

西國海道筋道替申付置候處 水引落往来相成候儀 當地町奉行申聞候趣書付

阿部播磨守

淀川通洪水ニ付撰州西成郡柴嶋村堤押切 西國海道筋往来難相成候付 當分替道仕夫と建
札仕候段 先達而當地町奉行申聞候趣申上置候處 此節右海道筋水引落往来差支無之候付
替道建札為引取申候段 水野若狭守 佐久間備後守申聞候 依之此段申上候

九月廿六日

此地出火之節松平遠江守人数前々之通差出候旨 同人家来共方申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

淀川通満水ニ付尼崎方當表迄往還人馬通路難相成候付 此地若出火之節人数難差出 尤往
来有之次第人数差出可申旨 去二日松平遠江守家来共方申聞候段 先達而申上候処 此節通
路相成候付 前々之通人数差出申候旨 同廿一日遠江守家来共方申聞候 依之此段申上候

以上

九月廿六日

御下知之通出府申渡置候町人出立延引之儀當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

大坂町人間五郎兵衛出府之儀 病氣ニ付追々出立延引仕 當月中旬ニ者出立可仕心得ニ罷在
候旨 其度々申上置候 然ル處支度相調兼候間 出立日限来月初旬迄猶豫之儀相願候 尤日
限治定之儀者 今一應申聞候段 五郎兵衛申出候付 出立延引仕候儀申上候書付 彦通 水野若
狭守 佐久間備後守 差出候付進達之仕候 以上

九月廿六日

依御下知江戸表江出府申渡置候町人出立延引之儀申上候書付

水野若狭守

佐久間備後守

大坂町人

間五郎兵衛

右之者依御下知出府可仕候處 病氣ニ付追々出立延引仕 當月中旬ニ者出立可仕心得ニ罷在
候旨 其度々申上置候 然ル處支度相調兼候間 出立日限来月初旬迄猶豫之儀相願候 尤日
限治定之儀者 今一應申聞候段 五郎兵衛申出候付 右 日限治定之儀申聞次第可申上候得
共 先此段申上置候 以上

子九月

水野若狭守

佐久間備後守

(別紙)

追々冷気相催候処先以
御家内様御揃愈々御
勇健御座被遊珍重奉存候
然者御染もの大巾ニ延引
仕候段 不悪御承知可被下候

貴内様

然者今日方大勢参り
定而御世話様之預り候間
何卒宜敷奉願上候
右者御願迄如此御座候

早々

九月朔日

迫(カ)仁兵衛

富田屋様

玉下御預用

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御勇健被成御座 恐悦奉存候 猶以御機嫌奉伺之度存候 當御城内無別条御番衆無異勤仕 町方迄相替儀無御座候 此外之儀者以別紙申上候 恐惶謹言

阿部播磨守

十月三日

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人ゝ御中

覚

一長崎奉行方差越候草籠状箱以刻附差上候儀申上候書付忝通
右之通書付忝通進達之仕候 以上

十月三日

阿部播磨守

御老中四人様

長崎奉行方草籠状箱以刻附差上候儀申上候書付

阿部播磨守

長崎奉行方去月廿一日午下刻出 草籠状箱忝致来着候付 従是茂以刻附差上申候差急 私一名ニ而申上候 以上

十月三日

猶以益

御機嫌能被成御座候条可御心易候 次御自分御無事御勤珍重存候 各無異在之候 以上

去月十七日 廿二日 去六日 十日之御別紙令拜見候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座御膳等御快被 召上候間 可御心易候 去四日 大納言様高田筋江 御成 同八日 公方様東叡山 浚明院様御靈前 御廟所御参詣 同十三日 一橋外明地江 御成 同十九日 公方様 大納言様王子筋江 御成 昨廿三日紅葉山御宮并 惣御靈屋被遊 御参詣候 将又其許御城内外 相替儀無之由 令承知候 次御自分御無事御勤珍重存候 此方無異在之候 以上

九月廿四日

青山下野守

土井大炊頭

牧野備前守

阿部播磨守様

戸田采女正

覚

一其許御本丸所々御修復奉行相勤候御番衆兩人御扶持方之儀 并勤日数等書付 番頭差出候ニ付書付忝通

但番頭差出候書付三通

一其地町奉行 組同心 囚人宰領相勤候付 御褒美被下候儀 相達承知被致候書付忝通

一其地市中川浚場所江附置候人足小頭賃金被下方之儀相達被致承知候儀書付忝通

一其表御城京橋口 玉造口御番所附 御鉄砲袋并小道具御修復之儀 相達被致承知候儀書付忝通

一事濟答省略之儀被申越候書付忝通

右之通書付都合九通被越之到来候 以上

九月廿四日

御老中四人

阿部播磨守殿

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝被成御出仕 珍重之御事御座候 以上

去月廿四日之尊札拝見仕候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座御膳等御快被 召上恐悦奉存候 去月四日 大納言

様高田筋江 御成 同八日 公方様東叡山 浚明院様 御霊前 御廟所御参詣 同十三日

一橋外明地江 御成 同十九日 公方様 大納言様王子筋江 御成 同廿三日紅葉山御宮

并 惣御靈屋被遊 御参詣候旨 被仰下誠以恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕珍重之御事候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

阿部播磨守

十月六日

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参尊報

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝被成御出仕 珍重之御事御座候 以上

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕 珍重之御事御座候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

阿部播磨守

十月六日

御老中四人様

参人、御中

覚

采女正殿

一御證文返上之儀申上候書付忝通

但御蔵奉行共差出候宿次御證文忝通

一御下知之通出府申渡候町人出立日限之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

一蓬砂賣出高相極宗對馬守留守居江申渡候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

一洪水ニ付水主共居宅床上沓水入ニ相成候付 拝借金之儀 石川靱負相願候趣申上候書付忝通

但石川靱負差出候書付忝通例書忝通

一當表玉造口築違御門銅物紛失一件 御仕置町奉行相伺候趣申上候書付忝通

但町奉行共差出候帳面忝冊

一事濟御答省略之儀申上候書付忝通

右之通書付都合拾通御證文忝通例書忝通帳面忝冊進達之仕候 以上

十月六日

阿部播磨守

御老中四人様

采女正殿

御證文返上之儀申上候書付

阿部播磨守

此地御米蔵江半櫃被差遣候 宿次御證文忝通御蔵奉行差出候付返上之仕候 以上

十月六日

御下知之通出府申渡置候町人出立日限之儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

大坂町人間五郎兵衛出府之儀 病氣罷在快氣仕候得共 支度調兼出立延引仕候旨 追々申上置候処 去四日出立仕候旨申出候儀書付 老通 水野若狭守 佐久間備前守 差出候付進達之仕候 以上

十月六日

依御下知出府申渡置候町人出立日限之儀申上候書付

水野若狭守

佐久間備後守

大坂町人

間五郎兵衛

右之者依御下知出府可仕處 病氣ニ罷在 快氣仕候得共 支度調兼出立延引仕候旨 追々申上置候処 明四日出立仕候旨申出候依之申上候 以上

子十月三日

水野若狭守

佐久間備後守

蓬砂賣出高相極宗對馬守留守居江申渡候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

朝鮮産物之内蓬砂賣出高相極宗對馬守留守居江申渡候儀申上候書付 老通 水野若狭守 佐久間備後守 差出候付進達之仕候 以上

十月六日

朝鮮産蓬砂賣出斤数相極申渡候儀申上候書付

水野若狭守

佐久間備後守

朝鮮産物之内唐方同銘之品取計方之儀 七年以前午年八月先役成瀬因幡守并若狭守連名を以奉伺 翌未四月御下知之趣宗對馬守留守居江申渡候節 蓬砂之儀者唐方与朝鮮産打交候得者相分兼ル品ニ候処 拾老年已前寅年始而差登候品ニ付 追手差登候節取調之上斤数之儀可及沙汰段 申渡其趣申上置候處 其後年々之登高 左之通ニ御座候

一 蓬砂

九拾七斤

同十二年

一 同

貳百貳拾九斤 老合

享和元酉年

一 同

三百貳拾七斤

同二戊年 四百五拾斤
一 同
同三亥年 四百七拾五斤
一 同
斤数

合千五百七拾八斤壹合
五ヶ年平均
二百拾五斤六合余

右平均斤数高二相成候付 壹ヶ年二百斤を向後之賣高二差極 其余積登候共 翌年江致融通
賣出候様取計候積を以 長崎表差障之儀成瀬因幡守江及掛合候處 右之通ニ有之候得共 於
彼地差支無之旨返書差越候間 此節對馬守留守居呼出 右之通賣出高相極其余積登候共 翌
年江致融通賣出候様申渡候 依之申上候 以上

子十月

水野若狹守
佐久間備後守

洪水ニ付水主共居宅床上迄水入ニ相成候付拝借金之儀 石川鞞負相願候趣申上候書付

阿部播磨守

當八月下旬方大雨打續出水之處 去々戌年同様之洪水ニ而御船手与力并水主共屋鋪内一躰
地低ニ而水押入候處 水主共之内拾五人居宅床上迄水入八月廿九日方晦日迄二日之内水湛
候故 家作及大破少給之者共 修復之儀難洪仕候趣 相歎拝借金之儀石川鞞負迄相願候付
右居宅見分仕候處 破損相違無御座候付 可相成儀御座候者 先格茂御座候間 水主拾五人江
拝借金被 仰付被下候様仕度旨 相願候書付壹通并例書相添鞞負差出候付入御披見候 且
又右拝借金上納之儀去々戌年出水之節先役柴田七九郎相願床上水揚候者共江 願之通拝借
被 仰付 翌年冬御切米ニ而上納可仕旨被仰渡 則去亥年冬上納皆済仕候 然處少給之者共
ニ付取續等甚難洪之上 三ヶ年兩度之出水ニ而 別而困窮仕候儀實々相違茂無御座候間 何卒
拝借被 仰付上納之儀可相成候者 年賦ニ被成被下候様奉願度段鞞負私迄差出候書付壹通
是又入御披見候 宜御指図被成可被下候 以上

十月六日

組水主奉願候拝借書付

石川鞞負

當八月下旬方大雨打續出水之處 去々戌年同様之洪水ニ而私御預之与力并水主共屋鋪内一
躰地低ニ而水押入候處 水主共之内 拾五人居宅床上迄水入從八月廿九日晦日迄二日之内
水湛候故 家作及大破 少給之者共修復之儀 甚難洪仕候趣 相歎拝借金之儀 私迄相願申候

因蔭居宅見分仕候處 破損相違無御座候付 可相成儀御座候者先格茂御座候間此度居宅為
修復右水主拾五人江拜借被 仰付候様 仕度奉存候 尤先格例書相添差上申候 右願之通被
仰付被下候様 於私茂奉願候 以上

子十月

石川鞞負

例書

石川鞞負

例書

一大坂御船手八木勘四郎相勤候節 寶永四亥年十月大地震ニ付 水主居宅崩候者江 金五兩
宛拜借被 仰付候處 翌年上納之儀 御免被成下候

一大坂御船手石川四郎左衛門相努候節 正徳元卯年八月大風高汐ニ而居宅大破仕 拜借金
奉願候處 与力江金拾五兩充 水主江金拾五兩充被下之候

一大坂御船手菅谷兵庫相努候節 寶曆六子年九月大風雨洪水ニ而居宅床上迄水入大破仕
拜借奉願候處 翌年巳年正月与力江金拾兩充 水主江金貳兩充拜借被 仰付同冬渡御切
米之内を以 上納被 仰付候

一大坂御船手柴田七九郎相努候節 享和二戌年七月大風雨洪水ニ而水主居宅床上迄水入大
破仕 拜借奉願候處 同年十一月右水主江金貳兩宛拜借被 仰付 翌年亥年冬渡御切米之
内を以 上納被仰付候

右之通御座候 以上

子十月

石川鞞負

御内慮窺

石川鞞負

當八月出水ニ付 組水主共居宅床上水揚候者共拜借金別紙願書奉指上候 右拜借上納之儀
去々戌年出水之節 先役柴田七九郎奉願床上水揚候者共江 願之通拜借被 仰付 翌年冬御
切米ニ而上納可仕旨被仰渡 則去亥年冬上納皆済仕候 然處少給之者共ニ付 取續等甚難涉
之上 間茂無御座ニケ年兩度之出水ニ而別而困窮仕候儀 實々相違茂無御座候間 何卒拜借
被仰付上納之儀可相成候者年賦ニ被成下候様奉願度 依之御内慮奉伺候 以上

子十月

石川鞞負

當表御城内玉造築違御門銅物紛失一件御仕置町奉行相伺候趣申上候書付

阿部播磨守

當表御城内玉造築違御門銅物紛失一件 吟味仕候趣 帳面老冊水野若狭守 佐久間備後守
差出御仕置之儀 黄紙下ケ札を以 相伺申候 依之右伺書老冊入御披見相伺候 宜御差図被

成可被_レ候 以上

十月六日

玉造築違御門銅物紛失一件吟味伺書

水野若狭守

佐久間備後守

松平日向守持場玉造築違御門外側之銅物致紛失候處 右者御門内江為通辞同所外ニ有之箱番所ニ差置候 同人召仕中間佐兵衛同源兵衛仕業ニ可有之哉与不審相掛右両人之者呼出候処 源兵衛儀者罷出候得共 佐兵衛儀者其砌方行衛不相知右御門際之御堀江入 溺死罷在源兵衛儀者日向守方ニ而一通相糺候得共 吟味難行届由 依之先達而申上置候通私共御役所江 請取佐兵衛死骸者仮片付源兵衛者入牢申付一件吟味仕候趣 右之通御座候

松平日向守召仕

子五月七日牢内ニ留置

中間

同月九日入牢

源兵衛

同月廿二日牢死

此源兵衛儀 玉造築違御門及通辞致番候処相番死亡
佐兵衛仕業与相聞 右御門之銅物はつし盜取候儀
不存非在候段不束ニ付 存命ニ候ハ、三十日押込
可申付者ニ候段 一件之ものへ可申渡候哉

右之者吟味仕候処 前書築違御門内江 夜中御用之節 為通辞同所外ニ有之箱番所ニ 同中間死亡 佐兵衛一同毎夜番いたし罷在候得共 右御門外側之銅物致紛失候儀 一切不心付當五月四日御門番所江出番之同心心付 日向守江相届 其節ニ至初而心付驚入候由 尤昼之内者_聞之扉開有之 右同心番所者御門内ニ有之 御門外迄見通ニ相成 心付容易成儀者難成 夜中辻茂右御門其外所と御仕切之御門_り候故 外方罷越盜取候儀者難相成儀ニ付此者并佐兵衛両人江 不審相掛 日向守方江呼出候砌方 佐兵衛行衛不相知所と尋有有之候処 右御門際之御堀江入 溺死罷在候者 全く同人身分悪事之覚有之難遁存 捨身いたし相果候儀ニ可有之 一切覚無之夜分御門次等之御用有之節 致通辞候迄之儀ニ付 代り合臥候儀有之候間 熟睡之透茂考 佐兵衛儀右銅物追とはつし盜取 其辺ニ隱置 昼之内自分用向等有之砌者 其頭江相断御城出いたし候儀有之候付 左様之節 竊ニ御城外江持出し 賣拂候儀ニ茂可有之哉 外ニ不審心當無之旨申之候得共

書面紛失銅物賣拂先之儀段と風聞等為承合候処 前書死亡佐兵衛方當時無宿平七事
源藏江賣拂 世話之儀相頼 同人方撰州九条村釜屋佐七儀 右銅物買取所持罷在候段
相聞候付 兩人共召捕吟味仕候処 佐七儀當四月廿六日 同五月二日 兩度ニ買請候旨
申之 源藏儀茂同事ニ申之罷在 吟味仕候 委細之儀者奥之ケ条ニ申上候通ニ而佐七儀
兩度ニ買請候儀 相違茂無之并右御門銅物はつし取候儀茂 佐兵衛仕業与相聞申候 乍
然同人死亡之上者盜取候日限不相知候得共右之趣ニ而者當四月廿六日以前方紛失仕有
之儀ニ御座候処 最初日向守方私共迄申聞候趣ニ而者 當五月四日御門番所出番之同心
共心付 相届候由ニ御座候 左候者其節迄不心付罷在候儀与相聞候付 右出番同心其外
朝暮開閉取計之儀 承合候処 右出番之儀 組同心百人之内小頭并役方相勤候者 相除
之其余之者共 順番ニ相勤候由 毎日明六ツ時御門御鍵玉造口大番所當番同心ニ為持
遣御門次ニ而 右築違御門番所之當番同心江相渡 御門為開暮六ツ時ノ候節者日向守家
来用人大目付役之者ニ為見届 同組与力 同心支配役之者立會候由 大番所ニ罷在候當
番同組与力方茂不時之儀者心付 及差図候勤方ニ御座候由 尤別段見廻之儀從來不致
来候得共 此度之一條ニ付 以後者時と見廻之儀改 厳重ニ申付置候旨 日向守方申越
候間 當五月四日迄之内 右御門番所ニ相詰候同心共并開閉之節携候者共 一同不心
付罷在候儀者相聞候得共 右御場所之様子阿部播磨守江相達候上 私共組之者差遣 一
通為見候処 御門大扉并同扉脇（註）之上 同扉脇筋銅又者柵下之根卷銅物何れ茂不目立
所を考候儀与相見 所とニ而はつし取 都合拾ヶ所紛失仕有之尤御門建物木柄今以至
極丈夫ニ者御座候得共 木地色薄黒相成 銅物茂錆有之はつし取候跡 右錆染込色合不
際立見紛候様ニ相成有之 且又御門内之同心番所方扉際迄凡拾三四間斗茂有之 殊夜
分者御門ノ切候事ニ付 風雨等有之砌外側銅物はつし取候物音等 右同心番所江相聞
申間敷哉与被存候旨私共江申聞 全く日向守家来并同組之者共不心付罷在候段無余
儀趣ニ相聞申候

相番ニ罷出候上者右之通敷ヶ所之銅物はつし盜取候儀を 不存可罷在筈無之全 此者儀
佐兵衛申合盜取候儀ニ候得共 同人相果候儀ニ付 前書之通申立候儀ニ可有之旨 察力
度申聞 重々嚴敷吟味仕候処 曾而左様之儀ニ者無之旨申之候得共 右始末不束之旨吟味
詰候処 可申立様無之由申之候 然ル処病死仕候

書面之通重々吟味仕候得共 申口不変其上奥之ケ条ニ吟味仕候趣申上候 源藏并佐七
とも打合吟味仕候處 兩人共源兵衛者知人ニ無之 勿論同人方銅物賣拂之世話被頼又者
買請候儀無之旨申之 死亡佐兵衛老人之仕業無相違相聞申候間 黄紙之通奉伺候儀ニ
御座候 尤落着申渡候趣者 其節日向守江茂相達置候様可仕与奉存候

當時無宿

子五月十一日入牢

平七事

同月廿四日牢死

源藏

此源藏儀 死亡佐兵衛方賣拂之儀相頼
候品 御城内之銅物を同人盜取候儀ニ茂可
有之与乍心付引請 佐七并賣拂遣
代錢之内徳用取候段 旁不届ニ付存命
ニ候ハ、敲之上重追放可申付ものニ候段 一件
之もの江可申渡候哉

右之者吟味仕候處 此者先達而所々武家方中間奉公相勤候砌 前書死亡佐兵衛与者傍輩ニ
相成候儀有之 心易仕候処 當四月廿六日途中ニ而出会候砌 佐兵衛儀幅四寸程有之 長サ
壹尺余又者七八寸程宛ニ打切候板銅 同鋌釘賣拂之儀相頼 同五月二日同事之品致持参
又候相頼候付出所之儀者不申聞候得共 佐兵衛儀御城内ニ中間奉公相勤居候儀者 前以此
者存罷在 右躰之品可致所持筈無之 殊更通例町家ニ而用ひ候銅物共不相見 全御城内之
銅物ニ候 佐兵衛儀はつし盜取候儀ニ茂可有之哉与者心付候得共 賣拂遣徳用取可申与欲
心ニ迷ひ 兩度ニ都合板銅打切候數七枚 同鋌釘拾本引請佐兵衛者為待置 釜屋佐七儀者
古銅賣買いたし候付 同人方江右品不殘持参仕 掛目相改候処 壹貫四百八拾目有之代
錢貳貫六百六拾四文ニ佐七江賣渡 右代錢之内貳貫四百文佐兵衛江渡遣殘貳百六拾四文
者此者徳用ニ仕 當座ニ遣捨候由 右之外賣買之世話等仕候儀無之旨申之候得共 右迄ニ無
之外江茂賣捌遣候 先々可有之買請候者之身分等を厭 陳罷在候儀ニ可有之旨 察度申聞
重々敲敷吟味仕候処 曾而外江賣捌遣候儀者無之旨 申之候得共右始末不届之旨吟味詰候
処 無申披旨申之候 然ル処病死仕候

篠山十兵衛御代官所

摂州西成郡九条村

木屋くま借屋

釜屋

子五月十一日入牢

同月廿七日重病ニ付下宿所預

佐七

子貳拾八歳

此佐七儀 死亡佐兵衛仕業ニ而盜取候御城内之
銅物与申儀者不存候共 古銅古道具屋組合ニ
加致賣買候身分ニ而 仲ヶ間定法相背無宿之
源藏持参之品出所怪敷乍心付 徳用ニ拘
買請候段 不届ニ付諸色取上輕追放可申
付候哉

右之者吟味仕候處 此者儀古銅古道具屋株ニ加致渡世罷在 前書源藏方當四月廿六日同

五月二日兩度ニ都合板銅打切候 数七枚 同鉦釘拾本掛目壹貫四百八拾目 代錢貳貫六百六拾四文買請候儀 源藏申口ニ付合仕 尤古銅古道具屋株仲ヶ間法ニ致買物候節 賣主ニ相應之品ニ候者能ト承札買可申 且宅江持来候品者買不申段 存知之者ニ而茂直段相對之上 代銀者賣主方江致持參代口物請取筈之申合ニ候処 源藏儀無宿者之儀 殊不相應之品ニ而出所怪敷心付候得共 下直ニ買取置候ハ、徳用茂可有之与存 欲心ニ迷ひ下直ニ買請 其俣致所持罷在候處

書面之板銅打切候数七枚同鉦釘拾本共取上置候付 日向守江懸合同人組与力御破損役之者呼出見セ候処 紛失之銅物ニ相違無之旨申聞候 然ル処板銅幅三寸方五寸迄長壹尺壹寸方六尺壹寸迄 取交数拾五枚紛失仕候旨 日向守方申越候儀ニ御座候処 書面取上候板銅四寸方壹尺貳寸迄打切候数七枚有之 日向守方申聞候紛失之板銅数拾五枚与見合候得者 余程不足ニ付右不足之分賣先追ト為承合候得共 相知不申候 尤取上置候銅物之儀落着之節 右御破損役与力江相渡候様可仕与奉存候

右者御城内紛失之銅物ニ候処 死亡中間佐兵衛儀 右源藏江賣拂之儀相頼候事之由 吟味之上初而承之驚入候旨申之候得共 右始末不屈之旨吟味詰候処無申披旨申之候

右吟味仕候趣書面之通御座候 御仕置之儀黄紙下ヶ札を以奉伺候 且又前書無宿源藏吟味書之内朱書ニ申上候通 築違御門番所日向守組同心百人之内 小頭并役方相勤候もの相除之 其除之者共順番ニ當番相勤 毎日明六ツ時御門御鍵玉造口大番所方當番同心ニ為持遣 築違御門番所之同心江相渡 御門為開 暮六ツ時候節者 日向守家来 用人大目付役之ものニ為見届 同組与力之内支配役之者立会 外大番所當番之同組与力方茂不時之儀者心を付 及差ちが候勤方ニ御座上者 五月四日出番之同心共心付候節迄銅物紛失之儀 不存罷在候段 一同不念之儀ニ者御座候得共 此度吟味ニ付御場所之様子見セニ差遣候 私共組之者共方申聞候通 御門之銅物はつし取候跡 不際立銅物之有無見紛れ候様相成有之趣ニ而者無余儀相聞申候 乍然何れニ茂御門開閉之節 可心付處 無其儀段 勤方等閑ニ御座候間 右同心支配役之与力并日向守家来共御門番所出番相勤候同心共急度叱り置 大番所當番相勤候同組与力者叱り置候様可仕候哉 尤右御場所之儀前之朱書ニ申上候通 是迄別段ニ見廻之儀重来不致来候得共 改見廻り方等日向守方ニ而 此度方申付候趣ニ御座候得共 猶又取締方之儀 組之者并家来江茂得与可申付置旨 是又同人江相達置候様可仕候哉 右之趣共奉伺候 以上

子十月

水野若狭守

佐久間備後守

(付箋) 巳年

事濟御答省略之儀申上候書付

阿部播磨守

先達而從是申候儀 御別紙被仰下承知仕 事濟候儀御答省略仕候 以上

十月六日

先達而被仰下候當地大御番在番小屋之内 梁損落候様成沙汰御承知被成候 右躰損落候迄 打捨置候事二者有之間敷儀ニ候得共 若左様之事茂有之候而者如何敷次第ニ付 得与内ニ相 糺候而 早ニ可申上旨被仰下候付相糺候処 西御番衆川勝頼母罷在候小屋 當四月中梁落住 居難相成候処 同御番衆小林重助去亥年十月中病死仕候 右明小屋江頼母儀引移 未明小屋 ニ相成居申候処 大破ニ付破損奉行見分之上 去月中外急破御修復一同申立候付 伺之通差 凶仕候 右躰梁落候者 追ニ朽損候事ニ可有御座候処 是迄御修復申立茂無御座候儀与相聞 如何ニ御座候得共 年ニ交代仕候小屋之儀全天井上之儀ニ付 孰茂心付無之是迄申立茂不仕 捨置候儀与奉存候 御尋ニ付内ニ相糺候趣 一卜通申上候 以上

十月六日

阿部播磨守

戸田采女正様

其地御城追手口市御多門 同所大番所屋根 其外共御修復御用相勤候 御定番組與力其外江 御扶持方被下候様 破損奉行相願候書付 別紙共被越之到来被申越候趣令承知候 前ニ之通 与力江拾人扶持充 同心式人扶持充 御自分家来者人江拾人扶持 下役江式人扶持 何茂平扶 持之積勤日数を以被下候間 請取方之儀茂先格之通可取計旨可被申渡候 以上

九月廿九日

御老中四人

阿部播磨守殿

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝被成御出仕珍重之御事御座候 以上

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御出仕珍重之 御事御座候當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

十月十日

阿部播磨守

御老中四人様

参人ニ御中

覚

一此地御城追手口市御多門 其外共御修復御用相勤候御定番組与力其外江 御扶持方被下

候儀被仰下承知仕候儀申上候書付忝通

一安部撰津守御城内屋敷見廻之儀ニ付在京之御目付老人掃坂仕候儀申上候書付忝通

一大和川洪水ニ付居宅床上迄水入ニ相成候組與力共江拝借金之儀堺奉行相願候趣申上候書付忝通

但堺奉行差出候書付忝通例書忝通

右之通書付都合四通例書忝通進達之仕候以上

十月十日

阿部播磨守

御老中四人様

此地御城追手口市御多門 其外共御修復御用相勤候御定番組与力其外江御扶持方被下候儀被

仰下承知仕候儀申上候書付

阿部播磨守

此地御城追手口市御多門 同所大番所 屋根其外共御修復御用相勤候御定番組与力其外江御扶持方被下候様仕度旨 破損奉行相願候書付相添申上候処 御承知被下 前々之通与力江拾人扶持宛 同心江式人扶持宛 私家来忝人江拾人扶持 下役江式人扶持 何平扶持之積勤日数を以被下候間 請取方之儀者先格之通可取計旨可申渡之旨 被仰下奉得其意則松平日向守江申達候処 難有奉存候旨 私共御禮申聞候 且又私家来江茂御扶持方被下置難有奉存候以上

十月十日

當八月廿八日方之大雨ニ而大和川出水仕 同廿九日堤切 堺郷中水入ニ相成 堺奉行組與力四人者共屋鋪地低之場所ニ御座候間 右居宅床上迄水込入 八月廿九日方去月朔日迄三日之間水湛候故 家作大破仕一躰甚不如意之者共御座候處 去冬以来米穀別而下直ニ付漸取續相勤候儀ニ茂御座候上 修復之儀甚難洪仕候趣ニ而相歎 拝借金之儀 矢部駿河守迄相願候付 右居宅同人見分仕候處 破損相違無御座候付 可相成儀御座候者 右与力四人江拝借金被 仰付被下候様仕度旨 相願候書付忝通并他御役所之儀ニ者候得共 例書相添駿河守差出候付入御被見候 且又元文中大和川出水堤切与力 同心居宅水附ニ付 水谷信濃守勤役中拝借金奉願候処 其砌江戸小日向辺出水御座候処 拝借不被 仰付候間 不被及御沙汰候段 被仰渡候趣書留相見候得共 時節茂違 其上不如意之者共ニ御座候間 可相成儀御座候者何卒願之通拝借金被 仰付被下候様仕度旨 駿河守申聞候付 此段申上候 宜御差図被成可被下候 以上

十月十日

大和川洪水ニ付堤切居宅床上迄水附候組与力共江拝借金之儀申上候書付

矢部駿河守

組与力

中村宇右衛門

渡辺又八郎

岸 一九郎

堀山哲五郎

當八月廿八日方之大雨ニ而大和川出水仕 同廿九日堤切 堺郷中水入ニ罷成 右四人之もの
共屋鋪地低之場所ニ御座候而 右居宅床上迄水込入 八月廿九日方九月朔日迄三日之間水
湛候故 家作大破仕 一躰甚不如意之者共御座候處 去冬以來米穀別而下直ニ付 漸取續相
勤候儀ニ茂御座候上之儀、修復之儀甚難渋仕候趣ニ而相歎 拝借金之儀私共相願申候 右ニ
付居宅見分仕候處 破損相違茂無御座候間 居宅為修復右与力四人江拝借金被 仰付候様
仕度奉存候 他御役所之儀ニ者御座候得共 別紙例書差上右之趣申上候願之通何卒被 仰
付被下候様 猶私茂奉願候 以上

子十月

矢部駿河守

他御役所之儀ニ者御座候得共 水附拝借金仕候例申上候書付

矢部駿河守

一大坂御船手菅谷兵庫相勤候節 寶曆六子年九月大風雨洪水ニ付 居宅床上迄水入大破仕
拜借金奉願候處 翌五年正月与力江金拾両充 水主江金貳両充拝借被 仰付 同年冬渡御
切米之内を以上納被 仰渡候

一大坂御船手柴田七九郎相勤候節 享和二戌年六月大風雨洪水ニ付 水主拾五人居宅床上
迄水入大破仕 拜借金奉願候處 右拾五人江金拾五両拝借被 仰付 翌亥年冬渡之御切米
之内を以上納被仰渡候

右之通大坂御船手与力水主床上水附之節 拝借金被仰付候趣 承傳仕候付 猶又石川鞞負江
承合候處 前文之通申聞候間 當表与力 同心元文五申年八月五日大和川出水堤切居宅水附
ニ付 水谷信濃守勤役中拝借金奉願候處 其砌江戸小日向辺出水御座候處 拝借金不被 仰
付候間 不被及御沙汰候段 被仰渡候書留相見候得共 他御役所之儀ニ者御座候得共 右之
例茂御座候間 水附仕難渋仕候儀故 拝借之儀申上候書付奉差上候 以上

子十月

矢部駿河守

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝被成御出仕珍重之御事御座候 以上

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 恐悅奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕珍重之
御事御座候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

十月十六日

阿部播磨守

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人ゝ御中

覚

一坂本小太夫上京仕候儀申上候書付忝通

一堺表御困穀御蔵御普請御用相勤候与力 同心江 御扶持方被下候御證文之儀申上候書
付忝通

但御蔵奉行共差出候御證文下書忝通

一御金蔵仮納銀償方手當之儀 當地町奉行相伺候趣申上候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

右之通書付都合四通并御證文下書忝通進達之仕候 以上

十月十六日

阿部播磨守

御老中四人様

坂本小太夫上京仕候儀申上候書付

阿部播磨守

安部撰津守御城内屋鋪見廻之儀ニ付 坂本小太夫帰坂仕候處 右相濟去十一日上京仕候
依之此段申上候 以上

十月十六日

堺表御困穀御蔵御普請御用相勤候与力 同心江御扶持方被下候御證文之儀申上候書付

阿部播磨守

堺表御困穀御蔵御普請御用相勤候 矢部駿河守組与力 同心江 勤日数を以御扶持方被下候
御證文之儀 御蔵奉行江申渡下書差出候付進達之仕候御證文御調被遣被下候様仕度奉存候
以上

十月十六日

覺

一拾人扶持充

矢部駿河守

与力式人

一式人扶持宛

同断

同心式人

右者塚表御囲穀御藏御普請御用相勤候与力 同心書面之通 御扶持方勤日数を以被下候間 駿河守裏判手形を以断次第可相渡候 以上

文化元子

何月 御連印

大坂

御藏衆

御金藏仮納銀償方手當之儀 當地町奉行相伺候趣申上候書付

阿部播磨守

御金藏仮納銀過料欠所金を以償戻候處 近年仮納銀償ニ可相成欠所物等無数有之 償方手當之儀奉伺候書付尅通 水野若狹守 佐久間備後守差出候付入御被見相伺候 宜御差図被成可被下候 以上

十月十六日

御金藏仮納銀欠所銀ニ而償戻難出来 償方手當之儀奉伺候書付

水野若狹守

佐久間備後守

御金藏仮納銀六拾貫目之内式貫目者兵庫西宮勤番所手當ニ差遣金五拾八貫目遣〇方ニ請取過料欠所金を以償戻候處 近年仮納銀償ニ可相成欠所物等無数有之 當時之様子ニ而者此末年ニ仮納銀償方引足可申儀無覺束 既ニ去ル酉年以來洪水其外臨時入用有之 仮納銀遣〇切 定式右償ニ可相成 兩御役所欠所金銀等無数格別償不足ニ相成 洪水一件拂方ニ差支候間 旁其砌御役所ニ有合貸附ニ可相成不正之唐物賣買一件 過料并取上物代銀等を以償 洪水入用拂方等ニ相弁可申哉之旨相伺 先般伺之通御下知有之 夫ニ相賄候得共 以來迎茂余計之償不足出来仕 仮納銀格別及減少候上ニ茂 自然非常之儀有之 前書酉年以來之通償不足拂方等相嵩出口無之取計方相伺候仕儀ニ至可申哉 其上御下知有之候迄之内ニ茂差支之程難計 尤去ル戌年右取計方相伺候節者 不正唐物一件ニ而余計之欠所銀等有之 償方元立之申上ニ茂相成候得共 是迎茂不足之儀ニ付難差極 此後仮納銀償不足等ニ而減少仕臨時入用差支以上ニ茂非常急入用等出来仕候節之手當無之候而者 差掛御用向差支可申儀 茂難計 依之兼而右償方手當之儀 私共勘弁仕候処 先年不正唐物一件ニ而追々取上候一角

都合掛目凡拾貳貫六百目余 未御役所ニ囲置有之

右一角之内掛目七貫目余之儀者 安永八亥年取上ニ相成候品ニ御坐候處 入札直段不相
進候付 其候囲置 追而宜時節承合尚又可申上哉之旨 翌子年京極伊豫守相伺 伺之通御
下知有之候付 其後茂右ニ准 追々取上ケ候 一角本文之通囲置有之候

右一角直段相進候期を見合候而者際限茂無之永々囲置候儀茂 却而御不益ニ付 此節為試唐
菓問屋菓種仲買年行司共江直入為仕候處 惣躰ニ而凡代銀五拾九貫九百目余ニ可相成旨申
之候間 於當表相拂代銀を百姓町人江丈夫之引當取之利銀月八朱程ニ而貸附候得者 十三ヶ
月分利銀凡六貫貳百目余有之候間 追々右利銀を除御 役所ニ差置 前書仮納銀償方ニ仕候
者 永年共御手當ニ罷成右仮納銀遣切候節 償方別段御銀出方無御座候様可相成奉存候

右類之貸附銀者當時利銀月四朱ニ而貸渡候得共 右利ニ而者急速備方出来不仕候間 月八
朱ニ貸付仮納銀償方備相調候ハ、四朱ニ引下ケ候様可仕与奉存候

尤遣ひ方之儀者年々勘定仕上ケ候様可仕哉 此段奉伺候 以上

子十月

水野若狭守
佐久間備後守

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御勇健被成御座 恐悦奉存候 猶以御機嫌奉伺之度存候 當御城内無別
条 御番衆無異勤仕 町方迄相替儀無御座候 此外之儀者以別紙申上候 恐惶謹言

十月廿二日

阿部播磨守

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

覚

一長崎奉行方差越候草籠状箱差上候儀申上候書付忝通

右之通書付忝通進達之仕候 以上

十月廿二日

阿部播磨守

御老中四人様

長崎奉行方差越候草籠状箱差上候儀申上候書付

阿部播磨守

長崎奉行方去七日出之草籠状箱忝致来着候付 進達之仕候外 差當御用茂無御座候間 私一
名ニ而申上候 以上

十月廿二日

先達而申達候 其地大御番在番小屋之内 梁損落候儀ニ付 委細相糺被申越候趣 致承知候
被申越候通 天井上之事ニ而 其上年と交替ニ候得者 申立等無之儀ニ茂可有之哉之段者 被
申越候通ニ茂候半敷 然ル處右八小屋者 近年御修復有之 未間茂無之哉ニ候 左候得者御修
復仕様等不宜事と相見候間 其節相勤候御破損奉行等 不念之筋ニ茂相當リ候 都而御修復
出来後無間茂損等有之候得者 御修復掛不調法を茂申聞候儀ニ候 乍然此度梁落候小屋ハ暫
く御修復等無之事ニ候哉 是等之趣被相含候而 猶得与被相糺被申越候様ニ与存候 以上
十月十七日
戸田采女正
阿部播磨守

一筆啓上仕候 松平撰津守病氣養生不相叶 去十六日卒去之処 公方様 大納言様御機嫌被
為替候御儀無御座候段 承知仕 乍憚御様躰為可奉伺之棒愚札候 恐惶謹言

十月廿四日

阿部播磨守

御老中四人様

参人と御中

同文言

安藤對馬守様

参人と御中

覚

一長崎奉行方差越候草籠状箱并御用物被差越候儀被申越候書付忝通
右之通書付忝通被越之到来候 以上

十月九日

青山下野守
土井大炊頭
牧野備前守
戸田采女正

阿部播磨守殿

覚

一長崎奉行方之草籠状箱被差越候儀ニ付書付忝通
右之通書付忝通被越之到来候 以上

十月九日

御老中四人

阿部播磨守殿

覚

一其地御鉄炮含菓調合之通伺之通取計候様 御鉄炮奉行江可申渡与相達 承知被致候儀被
申越候書付忝通

一堺表酒造役米御困蔵御普請中掛り相勤候与力 同心江御扶持方被下候儀相達 被致承知
候儀被申越候書付忝通

一灰吹銀江戸表江御取寄之節 宿次證文之儀相達候趣被致承知候儀 被申越候書付忝通

一其地御蔵奉行堀内藤四郎儀當地江罷下候様相達候趣被致承知候儀被申越候書付忝通

一佐久間備後守忝御番入之儀願書差出候儀被申越候書付忝通

但佐久間備後守差出候願書忝通

一淀川通洪水ニ而水入ニ相成候村之儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

帳面忝冊

一西国海道筋 道替申付置候処 水引落 往来相成候儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付
忝通

一其地出火之節 松平遠江守 人数前之通差出候旨 同人家来共方申聞候趣被申越候書付
忝通

一相達候通 出府申渡置候町人出立延引之儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通

但町奉行共差出候書付忝通

右之通書付都合拾忝通 願書忝通 帳面忝冊被越之到来候 以上

十月九日

御老中四人様

阿部播磨守殿

覚

一長崎奉行方差越候草籠状箱以割附被差越候儀被申越候書付忝通

右之通書付忝通被越之到来候 以上

十月九日

御老中四人様

阿部播磨守殿

長崎奉行方差越候草籠状箱七月十二日之宿次ニ被差越候儀 被申越候書付忝通被差越之到
来候 以上

十月九日

御老中四人様

阿部播磨守殿

一長崎奉行を差越候草籠状箱并御用物差越候儀被申越候書付忝通

一長興寺村御焰硝藏近在出火之儀被申越候書付忝通

右之通書付都合式通被差越之到来候 以上

十月九日

御老中四人様

阿部播磨守殿

覚

一采女正證文返却之儀被申越候書付忝通

但證文忝通

一相達候趣請致候儀 其地町奉行申聞候趣被申越候書付忝通

但水野若狭守 佐久間備後守差出候書付忝通

一忠勤いたし候者御褒美之儀 其地町奉行相伺候趣被申越候書付忝通

但水野若狭守 佐久間備後差出候

帳面忝冊

一組同心之内五拾年余相勤候者御褒美之儀 佐久間備後守申聞候趣被申越候書付忝通

但佐久間備後守差出候書付忝通

一御鉄炮奉行支配鳴野御焰硝藏番御褒美之儀 難被及御沙汰段相達 御鉄炮奉行江被申

渡候儀 被申越候書付忝通

右之通書付都合七通例書忝通 帳面忝冊 證文忝通被越之到来候 以上

十月九日

御老中四人

阿部播磨守殿

猶以益

御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅勝被成御出仕珍重之御事御座候 以上

一筆啓上仕候

公方様 大納言様益御機嫌能被成御座 恐悦奉存候 将又各様弥御堅達被成御勤仕珍重之

御事御座候 當御城内外相替儀無御座候 恐惶謹言

十月廿六日

阿部播磨守

戸田采女正様

牧野備前守様

土井大炊頭様

青山下野守様

参人ゝ御中

覚

一當表御金奉行仮役 御藏奉行仮役江御扶持方御證文相渡候儀申上候書付忝通
一安部撰津守跡御役被 仰付候付 松平日向守御禮之儀申上候書付忝通
一組同心之内五拾年余相勤候者御褒美之儀 水野若狹守申聞候趣申上候書付忝通
但水野若狹守差出候書付忝通

例書忝通

一當八月淀川通出水ニ付国役堤切所等見分仕候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付忝通
但町奉行共指出候書付忝通

一當八月大和川出水ニ付国役堤仮切見分等之儀 堺奉行申聞候趣申上候書付忝通
但堺奉行差出候書付忝通

一此地町奉行掛吟味六ヶ月以上未済書付差上候儀申上候書付忝通

但町奉行共差出候帳面忝冊

一六ヶ月以上吟味未済四年以前酉年十一月書上置候処 願相止候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付忝通

但町奉行共差出候書書付忝通

一六ヶ月以上吟味未済去ル戌年九月書上置候處 願止候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付忝通

但町奉行共差出候帳面忝冊

一六ヶ月以上吟味未済當正月書上候處 落着仕候儀 堺奉行申聞候趣申上候書付忝通

但堺奉行差出候帳面忝冊

一事済御答省略之儀申上候書付忝通

右之通書付都合拾五通并例書忝通 帳面四冊進達之候 以上

十月廿六日

阿部播磨守

御老中四人様

當表御金奉行仮役御藏奉行仮役江御扶持方御證文相渡候儀申上候書付

阿部播磨守

爰許御金奉行仮役石川七左衛門 日根野甚五郎 御藏奉行仮役浅原善右衛門 大久保熊五郎
江被下置候御扶持方御證文 高木主水正 細川長門守差出候付 則御藏衆江相渡申候 以上
十月廿六日

御證文写

大坂

御藏衆

覚

- 一 拾四人扶持
 - 高木主水正組
 - 高四百俵
 - 石川七左衛門
 - 細川長門守組
 - 高三百俵
- 一 拾式人扶持
 - 日根野甚五郎

右者大坂御金奉行仮役小林鉄次郎 服部安右衛門代被 仰付 在役中如書面御扶持方被下候間 當子八月分方番頭以裏判手形可被相渡候事

- 一 拾老人扶持
 - 高木主水正組
 - 高式百五拾俵
 - 浅原善右衛門
 - 細川長門守組
 - 高式百俵
- 一 拾人扶持
 - 大久保熊五郎

右者大坂御藏奉行仮役南條太兵衛 毛呂源五右衛門代被 仰付 在役中如書面御扶持方被下候間 當子八月分方番頭以裏判手形可被相渡候事 以上

- 文化元子
- 八月
 - 下野印
 - 大炊印
 - 備前印
 - 采女印
 - 大坂御藏衆

安部撰津守跡御役被 仰付候付 松平日向守御禮之儀申上候書付
阿部播磨守

安倍撰津守跡御役被 仰付 難有奉存候旨 松平日向守私共申聞候間 此段申上候以上
十月廿六日

組同心之内五拾年余相勤候者御褒美之儀 水野若狹守申聞候趣申上候書付
阿部播磨守

水野若狹守組同心組頭北村半左衛門与申者及老衰 別而當二月以来病氣ニ而今以相勝不申候付 今度御暇相願候由 然ル處宝曆四戌年御雇見習勤申付 同十辰年御抱入申付 寛政八

辰年方組頭役申付 数年無滞相勤候者御座候間 相應之御褒美被下置候様仕度旨 若狹守私
迄申聞候 依之御褒美被下置候様仕度奉存候 則若狹守差出候書付老通 例書老通入御披見
候 宜御差図被成可被下候 以上

十月廿六日

當八月淀川通出水ニ付 国役堤切所等見分仕候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

當八月淀川通出水ニ付 村ノ国役堤切所并八月晦日風波強海表新田国役堤崩所出来 實ニ
難捨置 急破御普請常例国役御入用月目(カ)當銀ニ而者引足申間鋪 餘時御入用ニ可相伺積
之旨 堤奉行御代官篠山十兵衛 木村周藏 連名書付を以申立候付 佐久間備後守罷越 周藏
立會見分仕候間 切所崩所 間敷等書付老通 水野若狹守 備後守私迄差出候付入御披見候
以上

十月廿六日

国役堤切所并海表新田堤崩所見分仕候儀申上候書付

水野若狹守

国役方年番

佐久間備後守

87

河州交野村

渚村

淀川通

字わらひ

一 国役堤切所 長四間

字脇田

一 同切所 長拾九間

摂州西成郡

柴島村

同川通

字洞貝

一 同切所 長四拾間

同州同郡

申村

神崎川通

字村上

一 同切所 長七拾五間

同所

一 同切所長五拾六間

同州同郡

福村

同川通

字村下

一 同切所 長貳拾九間

字宮下

一 同切所 長九間

字巳ノ新田

一 同切所 長拾七間

同所

一 同切所長拾三間半

同州同郡

加島村

同川通

字頭田

一 同切所 長貳拾間

同州同郡

秀野新田

中津川通

字中尾

一 同切所 長貳拾六間

神崎川通

字神尾

一 同切所 長三拾四間

同所

一 同切所 長貳拾間半

同州同郡

南西嶋新田

同川通

字北卷番割

一 同切所 長拾八間

字北三番割

一 同切所 長六間
字北四番割
一 同切所 長三拾間

同州同郡
野田村

逆川通
字逆川
一 同切所 長拾貳間

同州同郡
蕨嶋村

中津川通
字赤淵
一 同切所 長貳拾九間

同州同郡
中嶋新田

海表五番
一 同崩所 長三拾間
同六番
一 同崩所 長三拾間
同八番
一 同崩所 長三拾二間
同九番
一 同崩所 長拾七間
同拾番
一 同崩所 長拾貳間
同拾貳番
一 同崩所 長七間
同拾三番
一 同崩所 長貳拾六間
同拾四番
一 同崩所 長四拾四間
同拾五番
一 同崩所 長八拾間
同拾六番
一 同崩所 長拾貳間
同拾七番
一 同崩所 長三拾間
同拾九番
一 同崩所 長貳拾八間

〔付箋〕
寅年

- 同式拾老番
- 一 同崩所 長三拾間
- 同式拾貳番
- 一 同崩所 長拾五間
- 同式拾參番
- 一 同崩所 長三拾貳間
- 同式拾肆番
- 一 同崩所 長式拾六間
- 同式拾伍番
- 一 同崩所 長三拾間
- 同式拾陸番
- 一 同崩所 長八間
- 同式拾柒番
- 一 同崩所 長拾間
- 同式拾捌番
- 一 同崩所 長拾貳間
- 同式拾玖番
- 一 同崩所 長拾貳間
- 同式拾拾番
- 一 同崩所 長拾間
- 同式拾壹番
- 一 同崩所 長拾間
- 同式拾貳番
- 一 同崩所 長六間

同州同郡

矢倉新田

- 同式番
- 一 同崩所 長式拾五間
- 同三番
- 一 同崩所 長七間
- 同所
- 一 同崩所 長式拾貳間
- 同四番
- 一 同崩所 長四拾七間
- 同五番
- 一 同崩所 長四拾八間
- 同所
- 一 同崩所 長式拾貳間

同州同郡

西嶋新田

- 同老番
- 一 同崩所 長四拾間

- 同三番
- 一 同崩所 長五拾間
- 同四番
- 一 同崩所 長九間

同州同郡
嶋屋新田

- 同三番
- 一 同崩所 長六拾六間
- 同四番
- 一 同崩所 長四拾九間
- 同五番
- 一 同崩所 長八拾六間
- 同六番
- 一 同崩所 長式拾三間
- 同九番
- 一 同崩所 長拾貳間
- 同所
- 一 同崩所 長拾貳間

同州同郡
田中新田

- 字子ノ割六番
- 一 同崩所 長九拾八間

同州同郡
泉尾新田

- 南方五番
- 一 同崩所 長拾八間
- 同四番
- 一 同崩所 長拾五間
- 同三番
- 一 同崩所 長式拾貳間
- 同貳番
- 一 同崩所 長八拾間

右者當八月廿九日方同九月朔日迄之出水ニ付村ノ国役堤切所并八月晦日風破強海表新田
 国役堤崩所出来 實ニ難捨置 急破御普請常例国役御入用目當銀ニ而者逆茂引足申間敷餘
 時御入用ニ可相伺之旨 堤奉行 御代官篠山十兵衛 木村周藏連名書付を以申立候付 備後
 守罷越 周藏立合見分仕候処 切所崩所間数書面之通御座候 尤右切所仮ノ切見届候處一

同丈夫ニ出来立有之候 且海表崩所之分茂 仮養いたし有之候得共 波當強危ケ所者 此上手
當いたし候様申談置候 依之申上候 以上

子十月

水野若狭守

国役方年番

佐久間備後守

當八月大和川出水ニ付国役堤仮ノ切見分等之儀 堺奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

當八月大和川出水ニ付国役堤切所仮ノ切為見分 矢部駿河守罷越候儀書付志通 堤切所仮
ノ切并丈夫附申付候諸式之分 追而一同御普請之内江組入候積之旨 堤奉行 御代官篠山十
兵衛 木村周藏申聞候書付志通 堤切所仮ノ切為見分 組川役与力 同心共差遣 見分為仕候
儀書付志通 都合ニ通 駿河守私迄差出候付 入御披見候 以上

十月廿六日

矢部駿河守

国役堤切所仮ノ切見分仕候儀申上候書付

小出主水知行所

河州錦部郡

石川通

欠田

一 国役堤切仮ノ切 長六拾九間余 板持村

篠山十兵衛御代官所

壺井権現社頭入組

八幡 通法寺領

同川通

同州古市郡

七尾

一 同切所仮ノ切 長七拾四間余 壺井村 立合
通法寺村

渡辺大学頭領

同州同郡

同川通

大黒坂下

一 同切所仮ノ切 長五拾三間半 大黒村

右切所長五拾四間余之處左右切口
片側小々充相殘候所江取附候付
仮ノ切間數半間余相減申候

篠山十兵衛御代官所

同州石川郡

同川通

野上

一 同切所仮ノ切 長六拾五間半 喜志村

右切所長七拾三間余之處右同斷ニ付

仮ノ切之方七間半余相減申候

右村々先達而申上候国役堤切所ヶ所之内仮ノ切取掛候處 右場所々水留出来仕候旨 尤此
上出水之節 防方手當申付置候段 堤奉行 御代官篠山十兵衛 木村周藏申聞候間 仮ノ切取掛
中組之者為見廻候得共 猶又私儀組川役與力 同心共召連罷越見分仕候處 仮ノ切出来形不
丈夫之儀相見不申 十兵衛 周藏儀檢見廻村ニ付不罷出 堤方手代共差出候付 見掛無之土
俵下等之儀相尋候處 不丈夫之儀無御座候段申聞候 將又国役堤喜志村岸下 大黒村中堤
山中田村切所者 仮ノ切不及候場所ニ付 仮ノ切不仕 片山村 大堀村切所者自普請を以 仮ノ切候
付 別段仮ノ切不申付候段 是又十兵衛 周藏申聞候 依之此段申上置候 以上

子十月

矢部駿河守

大和川 石川通堤切所仮ノ切并丈夫附申付候諸色之分 追而御普請之内江組入候儀 堤奉行 御代官
申聞候儀ニ付申上候書付

矢部駿河守

永井日向守領分
住吉社領 入組

大和川通
南堤四番

撰州住吉郡

一 国役堤切所 凡長百壹間余 七道領

木村周藏當分御預所

同川通

同州同郡

江川筋汐浦

一 同切所 凡長五拾貳間余 南嶋新田

同川通

同所

一 同切所 凡長三拾六間余 同新田

同川通

一 同切所 凡長六拾貳間余

同新田

同川通

同所

一 同切所 凡長九間余

同新田

同川通

同所

一 同切所 凡長四拾八間

同新田

同川通

豐田

一 同切所 凡長貳拾五間余

同新田

同川通

同所

一 同切所 凡長拾間余

同新田

渡辺大学頭領分

石川通

大黒坂下

河州古市郡

一 同切所 凡長五拾四間余

大黒村

右村と先達而御届申上候国役堤切所之内 七道領ノ切場所之儀者水深ニ茂有之 保方無覚束御座候付 猶又丈夫ニ築留方申付 南嶋新田江川筋堤切所并大黒村切所仮ノ切申付候分共 追而一同御普請之内江組入候積 尤諸色之儀者請負人共江申付為見廻仮ノ切仕候段 堤奉行御代官篠山十兵衛 木村周蔵申聞候 依之此段申上候 以上

子十月

矢部駿河守

国役堤切所村方自普請を以仮ノ切仕候付 組川役与力 同心共見分為仕候儀申上候書付

矢部駿河守

片桐熊蔵知行所

大和川

西浦

河州丹北郡

一 国役堤切所仮ノ切 長拾四間余

大堀村

木村周蔵當分御預所

石川通

戸崎

同州安宿部郡

一 同切所仮ノ切 長拾貳間余

片山村

右者先達而申上候国役堤切所之内御座候處仮ノ切之儀者右村と方自普請を以ノ切仕候旨 尤此上出水之節防方茂申付置候段 堤奉行 御代官篠山十兵衛 木村周蔵申聞候付 組川役

与力 同心 共差遣見分為仕候処 出来形丈夫ニ茂相見候而 勿論土俵下等見掛り無之儀茂相
尋候所 不丈夫之儀無御座候段 村役人とも申候旨申聞候 依之此段申上候 以上
子十月
矢部駿河守

此地町奉行掛吟味六ヶ月以上未済書付差上候儀申上候書付

阿部播磨守

吟味六ヶ月以上未済書付老冊 水野若狭守 佐久間備後守差出候間 入御披見候 以上
十月廿六日

吟味六ヶ月以上未済書付

水野若狭守
佐久間備後守

若狭守
備後守 掛

敷屋町

兵庫屋与兵衛借屋
阿波屋次郎兵衛下人

津国屋市兵衛事

文化元甲子年四月六日方吟味
一 出所不正鼈甲賣買仕候一件
新兵衛

右二携候者共

右一件及吟味候処 遠国引合之者又者病氣之者吟味延引仕候

備後守掛

菊屋町

池田屋源助同居俵

文化元甲子年四月七日方吟味
一 女を及殺害自害仕損候一件
源三郎

右二携候者共

右一件及吟味候処 病氣之者有之吟味延引仕候

備後守掛

南渡邊町

座摩社社務

文化元甲子年四月八日方吟味
一 氏地争論出入
願方
渡辺撰津

上難波町

仁徳天王社社務

相手方
甲田筑前

右二携候者共

右一件及吟味候處 證拠ニ可相成書物取調差出候儀 隙取追々日延相願其上病氣之者有之吟味延引仕候

右三口六ヶ月以上吟味相濟不申候付申上候 以上

子十月

水野若狹守
佐久間備後守

六ヶ月以上吟味未濟四年以前西十一月書上置候處願相止候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

六ヶ月以上吟味未濟四年以前西十一月書上置候處 願相止候付申上候書付壹冊 水野若狹守 佐久間備後守差出候間 入御披見候 以上

十月廿六日

六ヶ月以上吟味未濟四年以前西十一月書上置候處 願相止候付 申上候書付

水野若狹守
佐久間備後守

若狹守掛

酒井雅樂頭領分

播州加東郡廻瀨村

庄屋

組頭

百姓代

訴訟方

享保元辛酉年五月十六日方吟味

持山松木理ふ尽

一 伐取候出入

鳥居丹波守領分

同州同郡

黒谷村

同領

同州同郡

倚鹿谷村

土井大炊頭殿領分

同州同郡

土井村

右三ヶ村

相手方

庄屋
年寄
百姓代

右一件吟味未済之儀 四年以前酉十一月書上置候処 病氣之者快氣之上及吟味候内 訴訟方不行届儀有之旨ニ而願止書付差出候付 當月廿二日承届申候
右者先達而書上置候六ヶ月以上吟味願相止候付申上候 以上

子十月

水野若狭守
佐久間備後守

六ヶ月以上吟味未済去ル 戌年九月書上置候處願相止候儀 當地町奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

六ヶ月以上吟味未済去ル 戌年九月書上置候處願相止候付申上候書付 卷冊 水野若狭守 佐久間備後守 差出候間 入御披見候 以上

十月廿六日

水野若狭守
佐久間備後守

六ヶ月以上吟味未済去ル 戌年九月書上置候處願相止候付申上候書付

備後守掛

浅野隼人知行所

播州赤穂郡寺田村

庄屋

享和二年戊辰三月五日迄吟味
一 立木伐取出入

訴訟方

年寄

頭百姓

松平遠江守領分

同州同郡下田村

政右衛門

相手方

庄屋

年寄

右一件吟味未済之儀 去ル 戌年九月書上置 追々及吟味候處 訴訟方不行届儀有之趣を以願 相止度旨書付差出候付 當月十五日承届申候

右者先達而書上置候六ヶ月以上吟味願相止候付申上候 以上

子十月

水野若狭守

佐久間備後守

六ヶ月以上吟味未済當正月書上置候處落着仕候儀 堺奉行申聞候趣申上候書付

阿部播磨守

六ヶ月以上吟味未済當正月書上置候處落着仕候儀申上候書付 壹冊 矢部駿河守差出候間
入御披見候 以上

十月廿六日

六ヶ月以上吟味未済當正月書上置候處落着仕候付申上候書付

矢部駿河守

岡部左膳領分
泉州日根郡佐野浦

享和三癸亥年七月十二日方吟味

一 仙臺通用之鑄錢

賣買いたし候一件

利兵衛
外一件之者

右及吟味候處 追々人数相増遠国引合之もの共有之吟味延引仕候段 當正月申上候上 御城
代阿部播磨守江相達候処 差函相濟候付御仕置申渡候

右者先達而書上置候六ヶ月以上吟味未済落着仕候付申上候 以上

子十月

矢部駿河守

事濟御答略之儀申上候書付

阿部播磨守

先達而從是申上候儀 別紙被仰下承知仕 事濟候儀御答省略仕候 以上

十月廿六日

先達而當地大御番小屋之内梁損落候儀ニ付 内々相糺申上候趣御承知被成候 然ル處右八
小屋者近年御修復有之 未間茂無御座候哉 左候得者御修復仕様等不宜事与相見候間 其節
相勤候破損奉行等不念之筋ニ茂相當り候 都而御修復出来後無間茂損等有之候得者 御修復
掛不調法を茂申上儀ニ候 乍然此度梁落候小屋者暫く御修復等無之事ニ候哉 是等之趣相含
候而 猶得与相糺可申上旨被仰下奉得其意候 相糺追而可申上候 以上

十月廿六日

阿部播磨守

戸田采女正様

翻刻『京阪在役中随筆』

くすりの道修町資料館 佐藤 敏江

大阪府立中央図書館 八木 美恵

はじめに

原文書は大阪府立中之島図書館蔵(三三八/一三八八)簿冊一(十五×二十二cm)本文五十丁。

本冊は、因幡国鳥取藩の藩士・山崎篤允が、父助右衛門の名代として大坂警衛御手当詰を拝命した文久三年(一八六三)元旦から同年十一月十八日までの約一年間に渡る大坂および京都における業務日誌である。嘉永六年(一八五三)のペリー来航以来、幕府は海防を強化しており、諸藩に命じて交替で海岸警衛を実施させていた。安政五年(一八五八)

六月、鳥取藩は岡山藩・高知藩とともに、幕府より摂海(大阪湾)守備警衛を命じられ、以降大坂天保山(目印山)の守備についている。警衛の指揮官である番頭配下の組頭として勤務していた山崎は、通常は田蓑橋南詰、中之島にあった鳥取藩蔵屋敷から天保山御台場に出張し、異国船御用の任務に就いていたが、京都で非常事態が起こった際には京都御所の警衛にも出番している。

文久三年当時、朝廷では攘夷派が勢力を増しており、開国に踏み切った幕府は朝廷からの度重なる攘夷の要請に苦慮していた。当時の鳥取藩は、尊王攘夷思想の中心である水戸藩主の息子であり、同時に幕府の中枢にいる徳川慶喜の兄にもあたる池田慶徳を藩主として迎えており、家中において佐幕派と攘夷派の対立が深まっていた。そんな中で起こったのが、六月十四日の鳥取藩兵による英国船の砲撃である。この際、むやみに異国船を攻撃しない旨の幕命を順守する番頭・荒尾隼人と攘夷の朝命を遂げようとする岩越佐久右衛門との間で意見が分かれ、岩越が強引に砲撃した。砲弾は届かなかったが、船は逃去り、国元に知らせが届くと藩主は大いに喜んだという。攘夷派の勢が増す中、佐幕派との対立はさらに深まり、八月十八日には佐幕派の鳥取藩重臣が京都・本圀寺で藩士・山口謙之進ら攘夷派に殺害される、俗にいう「本圀寺事件」が発生した。攘夷派の勢力が強まるかと思われたところ、その翌日には会津藩・薩摩藩の公武合体派が長州藩を中心とする尊王攘夷派を京都から追放する「八月十八日の政変」が起こり、鳥取藩は一旦幕府の意向に沿う方向へと進んでいくことになった。政変の後には、山崎ら摂海警衛の番士たちは残らず京都警衛の任に就くこととなっている。

本冊は、文久三年の情勢を伝える通達や事件が多数記録されている。それらを見ると、当時の鳥取藩内では攘夷についての藩論が不統一であり、藩としての方向性がゆらいでいるがゆえに、末端で命令を受ける立場の番士たちの職務にもその状況が多大な影響を与えていたことがよくわかる資料となっている。

参考

- 「鳥取県史 三 近世」鳥取県編集 鳥取県 一九七九年
「鳥取藩史 第一卷 世家・藩士列伝」鳥取県編集 鳥取県立鳥取図書館 一九六九年
「鳥取県の歴史 県史」内藤正中著 山川出版社 一九九七年

凡例

原本の忠実な翻刻を原則とし、旧漢字はそのまま表記した。
異体字は標準の字体に改めた。但し方(より)・メ(しめ)はそのままとした
かなの古体・変体は原則として現行の平かなを使用した。但し、江(え)・与(と)・者(は)・
茂(も)などの慣用字は、原本のままとし小字で表記した。
反復記号「ゝ」「ゝ」「ゝ」等は原本の通りに表記した。
判読不能の文字は□で、確定できなかった文字 誤字 脱字 衍字等は原本のまま翻字し、(カ)
(ママ)(虫損)等、その旨傍注を付した。
活字のない文字は□にルビで表記し、()内に文字の説明を付した。

『京阪在役中隨筆』

文久癸亥歲

京阪在役中 史簿

隨筆

文久三年亥正月元日より

一元日

昨大晦日 頭香河被為 召 大坂表御警衛詰被 仰付候趣ニ而 左之通り申来ル

一此度大坂表御警衛御手當詰被 仰付候間 此旨銃頭并組中江も通達可有候 以上

右後醍院名當

一別紙之通り被 仰付候ニ付 一手之内壯年之者相撰 明日中可被申達候 以上

十二月晦日

後醍院名當

右之通り後醍院方廻紙ニ而申来り 元日昼後早と後醍院江相組中寄合ニ而 左之通り頭迄申達ス

後醍院半左衛門 落合勝次郎 箕浦東之進 宮城権之進

佐治幾之丞 石黒弥太郎 横野半之助 佐藤辰之丞

桂 六蔵 木村次郎太夫 荒木甚平 吉田熊太

笠田楨蔵 山崎助右衛門 今村卯兵衛 右之内

横野半之助 荒木甚平 吉田熊太 今村卯兵衛

右之面と者近と年来ニも罷成り 其上疝氣ニ而難儀仕候ニ付 御断可申上候

宮城権之進 後醍院半左衛門 桂 六蔵 木村次郎太夫

山崎助右衛門

右之面とハ近と年来ニ罷成り 其上疝痛ニ而難儀仕候ニ付 忝御遣ひ被為下候ハ難有仕

合奉存候旨 即夕後醍院方香河へ申遣ス

一四日 左之通り香河方申来ル

左之面と儀御用之儀有之候間 明四日五ツ半時御月番江可被罷出候

此旨銃頭并ニ組中江も通達可有候 已上

正月三日

半左衛門名代 後醍院半之丞

落合勝次郎

箕浦東之進

権之進名代

宮城久之丞

佐治幾之丞

石黒彌太郎

同日五ツ半時御月番荒尾千葉之助殿宅江罷出ル 左之通被
其方儀此度大坂表御警衛御手當詰用意次第急と出足被 仰付旨被 仰渡候
御請左之通り

御家老御月番 荒尾千葉之介
御中老月番 白井重之進
但し今日限り
御旗頭 池田兵庫介
頭 香河伊賀
荒尾但馬

右之外御請状等江戸大坂共不入
今日箕浦東之進宿ニ而相組中寄合致し万事相談致候

山崎篤允

私儀此度大坂表御警衛御手當詰被 仰付候ニ付 来ル十一日御国表出立仕度奉存候 此
段 御達し申上候 以上

正月

山崎篤允

私儀此度大坂表御警衛御手當詰被 仰付 来ル廿一日御国表出立仕候ニ付 人足左之通
り継通し申度奉存候 此段御達し申上候 以上

正月

一人足 忝人

外ニ用意忝人

以上

皮籠者宮城久之丞江相頼 道中同道左之通り
後醍院半之丞 箕浦東之進 宮城久之丞 木村□□_(主携)

山崎篤允

左之通浅井与一郎江相頼候

御渡し金 金高十三兩也

槍持
槍印

一拾日 今日御達しとして左之通り也

御月番 荒尾千葉之介

御旗頭 池田兵庫介
御中老月番 矢部能登
香河留主中 宮脇縫殿之助
組預り

以上

今日槍持相渡候

茂三郎

一十一日 今朝明ヶ六ツ時出立 上ノ茶屋ニ而待合同道 智頭江同宿ス

智頭 かぢや甚右衛門

一十二日 平福 玉田や喜三郎

一十三日 姫路 金吾

一十四日 大蔵谷

一十五日 西ノ宮

今日 中将様西ノ宮御泊ニ付御伺申上候

一十六日 西ノ宮方船ニ而大坂江晚七ツ半時到着 三田屋江下宿候所 三田屋方魚や太兵衛
へ案内致し候付魚や太兵衛へ下宿致○早速落合勝次郎江書状遣し候処 御門出時同様
申越候ニ付○荷物等其俣ニ而白木綿上着踏込割羽織ニ而御門前江参ル處 落合勝次郎 佐
治幾之丞 石黒彌太郎 佐藤辰之丞 桂修助 御門内迄罷出候 右着ニ付御門内江入 右五
人江御渡し之御小屋江一夜泊り申候

御請へ参り候所左之通り

御家老代り

安養寺丹後

三浦舍人

赤座為蔵

御使番

岩越作之右衛門
福原惣之助

伊丹造酒之助

柄本竹之助

御使役

諸嶋御目附

真田忠次郎
美田源太郎

日雇御小屋御渡しニ相成候

一十七日 右御小屋江移り申候 左之通口出ス

一御小人 耆人

右者此度家来立ニ而致御借候ニ付御渡し可被申候 以上

亥正月 日

山崎篤允○

人割場

右者出立前手人召抱無之ニ付申談し 右之手形江赤座之押切取裏判江相廻ス 右者耆詰中
銀十枚ニ而十枚を三度ニ上納致ス由也
今日御小人相渡ス

知頭郡知頭宿

平助

左之通り御扶持方請取通相認メ石井江相廻ス

如斯池田田式(イ、イ、イ)折ニ而左之通り

御渡米之通

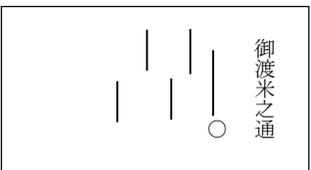
御渡し米之通

山崎篤允○

主従二人

石井十右衛門殿

亥正月十六日着



右之通り相認メ紙袋江入置毎月廿日頃遣し置事也 右者玄米ニ而六合宛之割合也 依之裏判方から臼を借シ舂ス 尤御門札ヲ遣し臼の輪を貸置事 又俵ぬかハ家来江遣ス事也 左之通り御目付江遣ス

以 手紙得御意候 弥御堅固被成御勤珍重奉存候 然者御警衛御人数御改ニ付左之通召遣イ居申候 右之段為可得御意 如斯御座候 以上

正月十七日

山崎篤允

御渡し人 平助

真田忠次郎様

美田源太郎様

山崎篤允

右之通り毎月十八日ニ者御目附江可被申達事

左之通御門札請取手形御徒目付へ相渡候

覚

一御門札

壹枚

右之通受取申候 追而返斎之節此手形与引替可申候 已上

文久三年亥正月

山崎篤允○

山瀬庄蔵殿

岡村傳之助殿

長野秀之進殿

左之通御達し致ス

山崎篤允

私儀去ル十一日御国表出立仕當表江罷越候節宿ト人足左之通り継通し申候 此段御達し申上候 以上

亥ノ正月

一人足

参人

但シ用意共

以上

昨日香河方明十七日於御殿御條目有之候ニ付可罷出候旨申聞候ニ付 罷出候様先着之者

方申聞候ニ付 今朝六ツ半時罷出ル
右御條目御目付読渡ス

左之趣出立前被 仰出候得共 到着之上写ス

其方儀此度大坂表御警衛御手當詰被 仰付候処 右ニ付而者御條目可被 仰渡答ニ
候得共 火急之出立ニ付右被 仰付立ニ相成り 御條目之趣大坂表ニ而承置候様并右
御警衛詰ニ付而者品と被 仰出候趣も有之ニ付 先輩承合候之様 且又右両様之趣相
組江も可被申聞候 以上

正月四日

一去ル十四日 御意之趣有之候而香河被為 召候趣 右写し拝見致し左之通り

昨日委細申聞候通り 攘夷御一決ニ付而者撰海防禦守衛之儀深く御案し被為在 被惱
震襟候趣度と奉伺何共恐入候義 就而者我等参 内之節も改而尚手厚候様両卿被申渡
殊非常之以 褒勅御衣之御召拜賜被 仰付不計蒙過當之 朝恩候段 後世之面目深
畏入事ニ候 猶於学習院評議之節も此方持場之儀者乍不及臣眼之黒き内者必通し申聞
敷共 安 叡慮候様申上候上者 万一持場方通り過き乗込セ、且者打破れ候節者天下之

恥辱無此上 就而者我等再ひ生て可拜 朝哉 実ニ此度之儀者各働き之擾劣智謀功拙

ニ依て我身命ニも預り候儀故一同格別ニ憤發 右之非常臨時与相心得 頭目者配下之面
と子之如く 親の配下之面と者頭目を親父之如く思ひ 譬以下之者足輕輕輩ニ候共 今
日以死臨戦候上ニ於て者何ぞ相違あるべきや 布而輕輩如き 尤軍際ニ出る者ニ候得者
別して慈愛を尽し可申 下と難義筋も候へ者上分尺候へ共 下を祐助可被致 猶其上ニ
も不都合之儀者勘弁可致条可申聞 過日来滞留中詰之者共武術稽古出精之様子承り満
足ニ候 猶更不致怠惰出精之様存候條者日向江も申聞置候間可存其趣也

丹後始

番頭其外

頭目組中

末と迄

邪氣一入乱毫愚弁推覽可致候

一十八日

今日昼飯後岩越作之右衛門方内と明日御陣屋江引越しニ相成候処 香河御屋敷違ひニ
付沙汰致し候段 筆頭落合江申越し候ニ付其用意致ス 右ニ付左之通り金扶持受取石井江
相廻し置

覚

豎紙

一金壹両貳歩

右者御警衛御用与して相詰候ニ付當月分御渡し金ニ而請取申候 以上

亥正月

山崎篤允〇

石井十右衛門殿

一十九日

今朝左之通り香河方申来ル

其方儀明十九日五ツ時御陣屋江引越候様被 仰付候間 銃頭并組中江も可有通達候
以上

正月十八日

今朝五半時引越し之達し相組揃之上安養寺江相達し 夫方安養寺方裏判江申遣しニ而御
徒目付下吟味等立會ニ而御小屋引渡候 相組揃て出ル 荷物者御上方御船ニ而足輕宰領ニ
老入付御陣屋迄相廻候 御蔵屋敷ニ而者其御船入方積出ス 御陣屋江者安治川江付ル 御門
札者御蔵屋敷方請取候分御徒目付江遣し 御陣屋御門札と引替相渡ス 御陣屋方御蔵屋
敷引越し之節も御陣屋御徒目付方御蔵屋敷御門札と引替之由
今日増組到着

阪田猪太 浅井又蔵 田中岩之丞 鵜沼鉄太郎

平岡権内

一廿日

左之通り申通し

此度到着之面々人別書御目付江書廻し可被申并ニ毎月廿日前夫々書廻し可被申候此
旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

正月廿日

一廿一日

左之趣被 仰出候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

正月廿一日

當表御警衛詰之面々兼而銘々之職掌も有之候処 臨時之節時宜ニ依てハ其身者請前ニ
無之向ニ而も御差図被成候儀も可有之ニ付 左様被相心得其節ニ至り 彼是論ケ間敷儀
無之様 都而頭々之差図ニ相随ひ可申旨被 仰出候
今日早昼飯相仕舞御場所見分として 香河同道ニ而銃頭初メ御組不残足輕共天保山江罷
出ル并ニ左之通り申通し

拙者儀 旗頭出張迄諸事御用向取扱被 仰付候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江
も可有通達候 以上

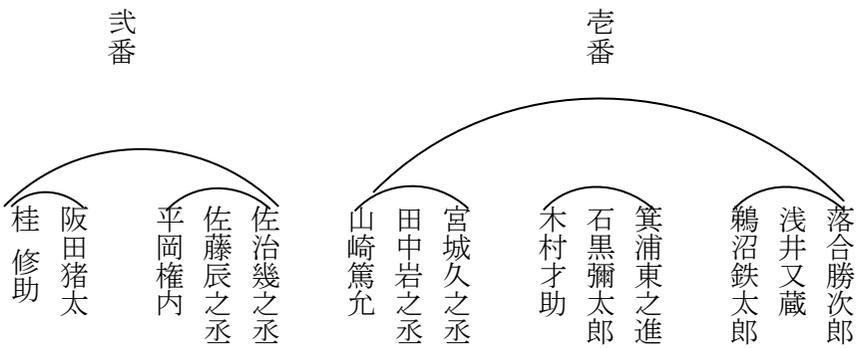
正月廿一日

一別紙之通り御番帳相改候間 左様被相心得 此旨組中江も可有通達候 以上

正月廿一日

別紙 定番之次第

後醍院半之丞



右者隔日無懈怠 當分一伍三人宛御場所可相廻 病人有之貳人方少き時者 次之一伍
 二而代り合可相勤 尤組頭者月二四度右二同道罷出可有巡見もの也

正月

右同夥割之通り三人組非番之節 御門外致し候節者 三人同道二而御門出入之事 壹人先
 江帰り候共 入る事不相成候由 假非番二而御門外致し候共 在番之組三組之内二組者御門
 外不苦 是非一組者残り可申候由

御場所廻り衣服割羽織 小袴 股引 脚半ニ而不苦 家来者槍を持 法被 笠を被らせ候事
 御場所廻り又私用出共 頭江出入相達し可申候事

一廿三日

明廿四日方廿五日 天神祭りニ付 兩日御門止觸ル

明廿四日於天保山実丸打試有之候ニ付 相組之内心懸有之候面とハ 今晚迄ニ申可達旨組頭
 方申通候ニ付 田中岩之丞 鷗沼鉄太郎罷出ル并ニ左之通り申来ル

明廿四日於天保山大砲実丸打試有之候ニ付 御場所廻り相見合可被申候 此旨組中
 江も可被申渡候 以上

正月廿三日

一今朝湊橋之上真中江 梟首ニツ有之候趣 是者矢張井伊江屬し候者之由也
 一廿五日

組頭方到着出立之日限申達し候様香河方申聞候趣ニ而左之通り相達し 尤到着之節香河江只今到着之段御達致し置候得共 口達ニ而者相済不申候趣也

山崎篤允

私義去ル十一日御国表出立仕 同十六日至着仕候ニ付 此段御達し申上候 以上

正月廿五日

今日御番帳左之通り改る

定番之次第

壹番

後醍院半之丞

落合勝次郎
浅井又蔵
木村才助

宮城久之丞
田中岩之丞
山崎篤允

阪田猪太
桂 修助

貳番

中村彌市

箕浦東之進
石黒彌太郎

佐治幾之丞
佐藤辰之丞
平岡権内

坪井善太郎
鵜沼鉄太郎

右奥書前之通り

一中将様姫路方京都江御引返しニ相成り申候旨 右京都方之早追として京都御目付 財原甚之進 罷出候後 當年之分金扶持今日相渡ル 尤組頭相組一統之分受取帰り 組頭御小屋江取ニ参ル

金壹両貳歩

右之通り

一廿九日

左之通申通し

當表御警衛詰之面と兼と武藝致出精候儀者有(カ)之候得共猶又此度稽古日等御二相成り依之御門出之御法も有之候得共稽古之儀者御陣屋御屋敷通行格別ニ此以後被成御免候間厳重ニ御門出入致し可申候且又左之面と義左之通り被仰付候間諸事同人江申談し格別ニ致出精候様被仰出候間左様被相心得此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候以上

正月廿九日

武藝頭取 荒尾隼人

弓術世話役 福家和左衛門

同 菅佐賀之助

同 建部半之丞

鎗術世話役 岩越述人

劔術世話役 小林幾蔵

炮術世話役 遠藤義兵衛

柔術世話役 谷口昇平

猶以稽古日割等之儀者世話役江承り合可被申且又銃頭并ニ組中江も可被申渡候以上

○二月三日

今日御飛脚到来 御国状相達ス

一四日

左之通り申通し有之

左之通り諸稽古定日ニ相成り候間左様被相心得 非番之面と御蔵屋敷江可被罷出候此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

二月四日

武術稽古御定日

弓術 日と

但し射込隔日終日之事

馬術 五日目

但し御陣屋馬一疋宛受番之事

槍術 朝種田流 昼疋田流

三日 五日 七日 九日 十三日 十五日 朝

三日 五日 七日 十一日 十三日 十五日 昼

朝疋田流 昼種田流

十七日 十九日 廿三日 廿五日 廿七日 廿九日 朝

十七日 十九日 廿一日 廿三日 廿五日 廿七日 廿九日 昼
劔術朝試合之分

二日 四日 六日 十日 十二日 十四日 十六日 廿日 廿二日 廿四日
廿六日 晦日

同 昼試合無之分

二日 四日 六日 八日 十日 十二日 十四日 十六日 廿日 廿二日

廿四日 廿六日 廿八日 晦日

柔術

昼朔日 朝八日 十一日 十八日 廿一日 廿八日

以上

一八日

左之通り被 仰出候

左之通り炮術稽古定日ニ相成り候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候
以上

二月八日

組頭一人 銃頭御頭一人

三日卯刻出 組士九人 午刻出 足輕十五人

銃頭一人 大砲小頭一人

炮手五人 足輕三人

組頭一人 銃頭小頭一人

四日卯刻出 組士九人 午刻出 足輕五人

銃頭一人 大砲小頭一人

炮手四人 足輕三人

此余中甸下旬共右ニ準ス

別紙

一 御蔵屋敷御陣屋稽古出候儀被 仰出候処 右途中通行之刻限半時限ニ相成り候間 左様
被相心得道寄等無之様 銃頭并ニ組中江も可被申聞置候 以上

二月八日

別紙

一 攘夷御内定之上者 當表御持場近辺ハ夷船渡来致し候得共 時宜ニ寄り御差図無之内ニ而
も御人数差出しニ相成り 若夷人不作法之儀も有之節者 成丈ケ手真似を以て申添 万一
不致承引節者臨時之取計致し候様 尤御役人中ハ御差図有之筈ニ付 其節者神速之取計
致し候様被 仰出候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

二月八日

猶以上荷船五艘船頭共 公邊方申渡しニ相成候筈ニ付 左様被相心得 此旨も可被

申渡候 以上

別紙

一 此度左之通り相定り候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

二月八日

臨時之節 是迄者御蔵屋敷詰一番出張ニ候所 已後者御陣屋詰之面と一番ニ天保山江出張
御蔵屋敷之面と者一旦御陣屋迄罷越し 夫々自分受場所江出張之事

一 十一日

左之通被 仰出候

御陣屋詰之面と自分出是迄一ヶ月二度ニ有之候処 此已後御蔵屋敷詰同様一ヶ月六度
宛御門出被成御免旨被 仰付候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候
以上

二月十日

一 十三日

左之通り申通し

御警衛詰之面と御門出之節 同夥之次第有之候所 此已後稽古出之分者御蔵屋敷詰御
陣屋詰共 右不及同夥勝手ニ罷出候様被 仰付候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中
江も可被申渡候 以上

二月十三日

一 十七日

左之通申通し

御場所廻り左之通り相改り候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以
上

二月十七日

御蔵屋敷御場所廻り

- 一日 安粮寺丹後一手
- 二日 大西儀左衛門一手
- 三日 安粮寺丹後一手
- 四日 大西儀左衛門一手
- 五日 猶村孫兵衛手

余者右ニ準ス

右者朝六ツ半時揃 御殿前より御使番ハ合図役を召れ 長聲員を立候時者 御場所廻
り之當番着到帳ニ付 即時ニ相揃順と罷出候事

但し長聲之九聲に相外れ候ハ、期ニ後るゝとして人数之列ニ不加事
御陣屋御場所廻りも右ニ準ス 尤九ツ半時揃事

御陣屋御場所廻り

一日

香河伊賀一手

- 二日 三浦舍人一手
- 三日 荒尾隼人一手
- 四日 香河伊賀一手
- 五日 三浦舍人一手
- 六日 荒尾隼人一手
- 七日 山本玄蕃手

余(カ)者右ニ準ス

別紙

一 明十八日小笠原図書頭様 公義御船御乗試 安治川沖辺江御越し之趣ニ付 御持場廻り相見合可被申候 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

二月十七日

尚以雨天之節者日送り之趣ニ付 是又可被申渡候 已上

一十九日

左之通申来ル

御番左之通り相改り候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

二月十九日

別紙 定番之次第

壺番 同夥前之通り故略ス

式番 右同断

右者無懈怠御場所廻り當分可致者也

今晚六ツ半時俄ニ香河伊賀從京都被為 召明廿日朝五ツ半時迄ニ京都江罷出候様被

仰付候趣後醍院方申参り 直様香河御小屋江罷出て 出立五ツ半過ニ而通用御門迄見立

ニ罷出ル并ニ御用之子細者不相分 右被為 召ニ付而 留主中ニ浦舍人江相頼、置候様

被申聞 即夜見立之帰り組頭兩人ニ浦江御請ニ罷出ル

一廿二日

今朝曉六ツ半時香河京都方罷帰ル 右被為 召者勅書御渡しニ相成り申候ニ付而之事之

由

一廿四日

今朝五ツ半時組頭 後醍院半之丞 銃頭ニ而野間造酒之助 香河江麻上下ニ而被為 召勅

書御渡し 右者一統ニ可罷出候所 御小屋手狭ニ付右之通りニ相成ル 其後後醍院勅書両

通持参ニ而拝見仕候 右御請として平服ニ而香河江御請ニ罷出ル 勅書写し左之通り

攘夷拒絶之期限於一定者開國之人民勦心可勵忠誠者勿論之儀候 先年来有志之輩以

誠忠報國之純忠致周旋候儀 叡感不斜候 依之猶又被洞開言路雖草莽微賤之言達叡

聞忠告至當之論不論没壅塞様与之深重之 思召ニ候間 各不韜忠言學習院江参上御

用掛之人々江可揚言被 仰出候間 乱雜之儀無之様 相心得可申出候事

連日從巳刻限申刻於九之日廿六日者自午刻限申刻一又一通之方

近來醜夷逞猖獗數覬覦 皇國夷不容易形勢ニ付 萬一於有汚國體欽 神器之事者被為
對 列祖之神靈是全 當今寡德之故与深被痛 震哀候ニ付 蛮夷拒絶之 叡思ヲ奉ニ固
有之忠勇ヲ奮起ニ速建掃攘之功上安 震襟下救萬民令點虜永絶覬覦之念不汚 神州不
損國體様之 叡慮ニ被為仕候事

一廿五日

左之通り申来ル

織田監物儀御旗頭出張迄 諸事御用向取扱被 仰付致到着候ニ付 右御用向引渡候ニ
付左様被相心得 銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

二月廿五日

一廿八日

左之通り申来ル

拙者儀明廿九日御藏屋江引越候ニ付 左様被相心得 其方共江も引越被 仰付候ニ付
組中江も可被申渡并ニ銃頭江者小頭 足輕共召連罷越候様可被申渡候 以上

二月廿八日

今晚暮六ツ時左之通り申来ル

明廿九日交代之儀申渡し置候所 京地御模様柄も有之ニ付見合申来候間 左様被相心
得此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

二月廿八日

別紙

一頃日横濱港英利軍艦渡来 不容易形勢 不日開兵端候之旨 撰海邊江渡来難計趣 非常
急務之御時節ニ付賜御暇候間 早と持場江罷越し防禦尽力可有之御沙汰之事

右者廿七日夜半學習院江御留主居被為 召被 仰渡

一晦日

左之通り申通し

明朝日被成 御下坂候ニ付 左之面と今日御陣屋江引越し候様被 仰付候間 御小屋
割等之儀も可有之候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申聞候 以上

二月晦日

大西儀左衛門一手不殘

猶村孫兵衛一手不殘

外 香河伊賀大砲

小頭足輕共

別紙

一中将様明朝日當表江被成 御着駕候間 非番之面と為御迎例之處江罷出候様被 仰付
候間 左様被相心得 此旨銃頭并組中江も可被申渡候 以上

二月晦日

今晚七ツ時香河方後醍院呼ニ参り候而早と後醍院罷出候処 兵庫沖合江異國船相見之趣

ニ付今日廻り番之面と是方明日迄相詰候心得ニ而 手廻し次第天保山江相詰候様申参り
明日迄之兵粮用意致し出張致ス 尤未夕陣之所不分り也ニ付 具足箱等者残し置 小袴而
已ニ而 家来志人召連レ 跡之所者非番之同宿江頼置并ニ夜具者御上江御廻しニ相
成り候ニ付 船場江差出し候様申参り候ニ付 家来之分共御門外大川迄差出ス
當夕御使役備役山下清太夫罷出ル并ニ夜中一伍ツ、交り合海邊相廻ル 諸家様共江夫と
之御請場江打燈見ゆる下宿者兼而被仰付有之候 吉や茂兵衛方江休足ス
御目付下奉行共罷出ル

○三月朔日

今朝左之通り御陣屋方吉屋江申来ル

中村彌市殿

香河伊賀

當御模様柄ニ付 昨晚方當番之面と天保山江相詰候様被 仰付候処 異船退帆之趣
相聞候ニ付 引取候様可被申渡候 以上

三月朔日

組頭 後醍院半之丞

落合勝次郎

宮城久之丞

阪田猪太

浅井又蔵

田中岩之丞

桂 修助

木村才助

山崎篤允

銃頭 野間造酒之助

足輕十五人

以上

右ニ付香河江引取之段相達ス 今日者右相詰候面と非番ニ付御迎ニ可罷出候處 右相詰候
ニ付 組頭中村弥市方右御迎御用不参之義申通ス 依而不罷出

天保山方御陣屋江引取時刻昼九ツ時

今日 御着駕 暮六ツ時前之由

一一日

左之通り申通し

明日上巳之処 御旅中ニ付御流ニ被 仰出候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可
被申渡候 以上

三月二日

一三日

今朝左之通申通し両通有之

○去ル廿七日御諸司代牧野備前守殿方御留守居御呼出し二付 左之趣御達し有之候之間
左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

二月廿日

此度横濱港江英吉利軍艦渡来 昨年嶋津三郎儀 江戸出立掛ヶ生麦おゐて 三郎家来
英利人を殺害ニおよひ候義ニ付 三ヶ条之儀申立 何れも難承届之筋ニ付 其趣を以
て可及應接候間 速ニ兵端を開候哉も難計候而者 銘と藩辱之任ニ有之候ニ付 夫と
備向手當方も可看候間為心得之相達し候事

○今日傳 奏野宮宰相左中將様方御留守居御呼出しニ而別紙之趣被為蒙 仰候ニ付
左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

二月廿九日

此頃英夷撰海江渡来も難計ニ付 大坂海軍當分総督之心得を以て軍政ニ預り 諸事致
差図候様 猶又手配行届候上者 国許防禦隱岐應接等之儀も申心得 且一先致帰国候
様被 仰出候事

二月

今日昼後方御陣屋江被為 入 夫方天保山江被為 入候ニ付 御迎として御陣屋表御門
外江罷出候様組頭方申聞罷出候所 御出懸ケ新堀通り御乗切りニ而 御下りわくがはなニ
而御乗船ニ而天保山江被為入 御帰りも御乗船ニ而御上りニ相成り候而 御陣屋江者不被為
入御乗船其俣ニ而安治川橋迄被為入 夫方御乗切との御様子ニ而引取 尤昼後早と御迎ニ
罷出候処 御陣屋江不被為入候ニ付 船場ニ而御時宜之上一旦引取 同八ツ時迄罷出居候
所又不被為入候ニ付引取候事七ツ半過也

一五日

左之通り申通し

此度京都方被為蒙 仰候趣ニ付 明後七日 御發駕被遊 御上京旨被 仰出候間
左様被相心得為御見立 例之通り例之所江可被出候 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡
候 以上

三月五日

明後七日曉七ツ時之御發駕之趣ニ相聞候ニ付 猶又聞合セ候様別ニ申来候事

一六日

公方様去ル四日御上洛被為 在候与の噂也

此度 御家様御上京被為 在候ハ 此度攘夷御一定ニ付而者 諸国万民無難防禦致し御祈
禱之ためニ加茂之社江雲上 御幸行ニ付 其御供と申風説之事

一七日

今朝曉七ツ前為御見立与御蔵屋敷江罷出ル 當御陣屋御門御鍵之儀者 夜前香河方御目付
江言廻しニ相成ル

御發駕朝六ツ半時 帰り五ツ半時也 尤御蔵屋敷御殿方表御門河岸御乗場迄御駕籠 夫方

御乗船ニ而伏見江被為入 明八日京地御着之趣也

今日天保山御家江御引渡しニ相成り申候由承ル并ニ左之通申通し

黒田日向儀在坂大奉行被 仰付候間 左様被相心得 銃頭并ニ組中江も可有通達候
以上

三月七日

一十一日

今日加茂江 御幸之由承ル

左之通申通し有之

詰中武宮丹治 遠藤儀兵衛江致入門 炮術手續等致修行候之様被 仰付候間 此旨
銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

三月八日

別紙

此度別紙之通り被 仰出候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以
上

三月十一日

猶以只今迄御場所廻り之儀者 暫時相止メ候様被 仰付候間 是又可有通達候 以
上

別紙

天保山昼夜番

十二日
同夜

織田手 當番
香河手 同

十三日
同夜

大西手
三浦手

十四日
同夜

荒尾手
遊隊鉄砲頭

十五日
同夜

織田手
香河手

十六日
同夜

大西手
三浦手

十七日
同夜

荒尾手
遊隊鉄砲頭

十八日
同夜

香河手
織田手

十九日
同夜

三浦手
大西手

廿日
同夜

遊隊鉄炮頭
荒尾手

廿一日
同夜

香河手
織田手

廿二日
同夜

三浦手
大西手

廿三日
同夜

遊隊鉄炮頭
荒尾手

右者御持場昼夜詰之割 朝六ツ時出 夕八ツ半時出ニ而半隊之内六更ニ割巡行之事
其外猥ニ御小屋外江罷出之儀無用之事

一十二日

今晚八ツ半時天保山江御番江罷出ル 今朝方織田手一番組相詰是与交代致ス 翌朝六ツ半時
大西二番組と交代并ニ御使番方左之通り申聞有之候事

一天保山近辺者勿論安治川口等江異人乗込申儀無之様ニとの被 仰付之事

一船三艘船頭共引付有之ニ付 万一之節乗出し可申事 其外上荷船十五艘申付有之候ニ
付 右者異船渡来之節か 或ハ何か御用之節者芳屋茂兵衛江申付候ハ、早と差出し都

合之事并ニ万と一異船渡来之節者公邊方上荷船五十艘御渡しニ相成り候由

二百艘共言

一御持場付御馬老疋 是者異船相見へ申候節 御陣屋江注進之ため也 右者御組筆頭乗
備候事御番帳拵へ置候事

一十六日

中将様御下坂之趣ニ付 明十七日御迎として可罷出様 今夕内沙汰有之

一十七日

中将様今日弥御下坂之御様子ニ付 例之所江御迎与して罷出候様口達候而頭方申来ル 夫
方昼飯相仕舞罷出ル 伏見方御乗船ニ而御下り 昼八ツ過御下坂并ニ左之通り申来ル

中将様明十八日 御發駕被 遊候付 非番之面と例之通り例之所江御見立与して可
被罷出候 此旨銃頭并ニ組中江も通達可有候 以上

三月十七日

一十八日

今朝六ツ時御持場御番江罷出ル并ニ 中将様今日御屋敷御乗場方御乗船ニ而天保山江被
為 入 御備之御筒悉空炮手續き御覽 夫方同所湊石橋之向入御菓屋江御小立ニ相成り
番頭 御使番御組共被為 召 右御小立御内縁江被為 入 右同内縁前迄被為 召 御元
被 仰渡難有仕合 右御請組頭方一統共申上ル 夫方天保山東舟入ニ而御乗船ニ付 右同
所迄御見立申上ル 夫方波除杭外迄被為 入 川船方海船江御乗替りニ相成 其節御船之
上ニ而御扇子ニ而御招ニ相成り 御使番伊丹 岩越 福原罷出候処 御手内ニ而御菓子箱

一ツ惣躰江頂戴被 仰付候趣ニ而 早と持帰り申渡一統陸ニ而拝ス 夫を其俣西ノ宮迄御乗船ニ而被為 入候事

今朝ニ番組御蔵屋敷江御見立ニ罷出候處 同所ニ而御見立不申上 天保山江罷出候様被仰出一統罷出ル 尤非番之内ニ浦 荒尾手之内半隊宛都合一隊御陣屋江相残り候事左之通り被 仰出

此度製造役場にて大坂詰之面と但炮手迄之番善物御世話申遣出来ニ付被成御渡候之間 裏判手を請取可申 尤代銀之儀者勘定所承合可致上納 尤御役替等被 仰付候節者製造役場江致返納候者 其節代銀同所を差返し可申候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

三月十七日

一廿一日

今日式番組昼御番之所 左之通御蔵屋敷を楠本行之助馬ニ而御持場江罷出ル

兵庫御急状

今廿日八ツ時蒸気船ニ艘佛蘭西軍船ニ而横濱去ル八日出船致し 長崎江通船之筈ニ而加田 浦戸を明石江乗り通之由之処 右之内一艘少と損し所有之 西風高波ニ而通船難相成趣を以て兵庫迄乗戻し碇泊仕候由 横濱を水先ニ乗組候日本人之申出ニ有之由 尤兩艘共長サ五十間計乗組人数二百人宛之趣ニ御座候

右軍艦ニ有之候得共 何も相変候儀無之 例のみかん 玉子等調度由ニ御坐候

三月廿日 亥ノ下刻達シ

右之趣ニ而福原惣之助一人當夕芳屋江宿し候由 但し御番之面と者余余無之ニ付交代致ス

一廿三日

左之通り申し来ル

遠藤半兵太夫儀鎗術世話致被 仰付候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

三月廿三日

一廿四日

左之通り申通し

乾雅楽之助儀此度御警衛詰被 仰付到着致し候ニ付 此段拙者を御沙汰申置候間 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

三月廿四日

當表御警衛詰之面と末と迄病氣之節 銘と望之醫師御治療相頼候儀者勿論之事ニ候然ル処を御手當此度御国表を醫師御呼寄ニ相成り 格別之御趣向を以薬店を醫師方江薬種類無差支為相納 追と病者之治療差支無之様御世話被成下候 是迄迎も薬種等 等閑ニ相心得候而無之者勿論ニ候得共 多人數之内ニ者無余儀不都合手支等致出来候而 不任心庭自然等閑ニ相成り候向 追と出来申間敷共難申 萬と一左様之向有之而者 忽医師及迷惑候ニ付 其節之次第柄ニ寄及指図儀も可有之ニ付 兼而何れも

様相心得藁札等 等閑ニ不致様無急度及沙汰置候事
別紙左之通り 御沙汰有之候段京都表方申来候事

英夷渡来関東之事情切迫ニ付 防禦之為大樹帰府之儀 尤之訳柄ニ候得共 京師并ニ
近海守備警衛之策略大樹自指揮可有之候 且攘夷決戦之折柄君臣一和二無之而者不
相叶之所 大樹関東江帰府東西相離候而者 君臣之際情意不相通 自然関隔之姿ニ相
成り 天下之形勢不可救之場ニ至可申候 當節大樹帰府之儀者於 叡慮不被安候間
滞京有之守衛計略厚被相運奉安 宸襟候様 恩召候 英夷ニ應接之儀者浪花湊江相
廻り拒絶談判可有之 開兵端候節者大樹自出張□事被指揮候ハ、 皇国之元氣挽
回之機會ニ可有之 思召候 関東防禦之儀者可然人才相撰被申付候様 御沙汰之事
一廿八日
左之通り申通シ

當表御警衛詰之面ニ自分并従者之着具其外銃炮惣而的道具之品ニ修覆中ニ而御国
江残し置 或ハ獨歩ニ而罷越し不得止 御国江残置候面ニ者其段願出候者此度限り
御上作廻ニ而御廻し被遣候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候以
上

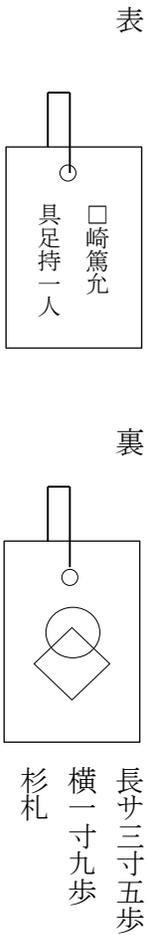
三月廿八日

○四月朔日

今日御組江御渡し之御筒相渡りケヘル筒一挺受取

一五日

左之火兵札相渡ル



右者出張之節具足箱江相添御小屋前江出し置候ハ、右之札見合御上方人参り御場所江
持参り候事

一八日

左之通り乾方香河江申参り御切紙ニ而組頭後醍院江申参 後醍院頭江罷出候所 左之通り
被 仰付候事

京都表方壮健之者十人御用ニ付 大急差向候様 同所方申越し候ニ付 但し内兩人明
九日晚方迄ニ京着致し候様被 仰付候間 名前相撰直ニ當人江可被申渡候間 只今
之内右名前可被申渡候 以上

四月八日

右ニ付則左之通り被 仰付

左之兩人儀京都表江大急御用ニ付 明九日晚方迄ニ致京着候様被 仰付候間此段可
被申渡候 以上

四月八日

落合勝次郎

桂 修助

右ニ付兩人罷出ル十五日下坂致し候事

一十三日

左之通り被 仰出

只今迄御條目之節御陣屋詰之面と者不罷出候得共 此以後罷出致拜聞候之様被 仰付候

依之左之通被成御改候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

四月十三日

御條目

毎月 朔日

十五日

但し正月者朔日流れ之事

一地之御役人者只今迄之通り朔日計罷出可申事

一御警衛詰之面と者御蔵屋敷詰 御陣屋詰 妙徳寺詰之分共 一手を半隊宛二分 兩日

ニ罷出可申事

猶以御時刻之儀者只今迄之通り五ツ時揃ニ候間 是又左様被相心得 此旨も可有通達

候 已上

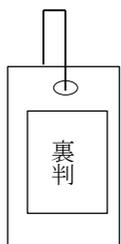
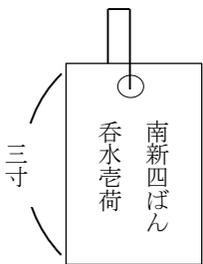
一十五日

左之通り申通し

御陣屋詰之面と此節香水差支難渋之趣ニ付 當分日と香水御廻し被遣候間 委細之 儀者同所裏判手承り合可被申候 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

四月十四日

右ニ付今日方水被遣之依而左之木札日とニ裏判方配り 夫方其札を持水と引替ニ致ス



表出41

一廿一日

明日 公方様當表江御入 城ニ付 今日明日兩日御門止メ相觸并ニ左之通申し通し

此廿日御城代方御留守居御呼出しニ而左之通り御達有之候間 左様被相心得 此旨銃 頭并ニ組中江も為心得之可被申渡候 以上

四月廿一日

撰海者極要之地ニ付 形勢為 御覽置 公方様明廿一日此地江被為 成候旨被 仰出候

尤右清水社江御參詣 夫方此地江被為 成候事ニ付条京地老衆方申參り候間 此段御達し申候

一廿二日
左之通り申し通し

瑞軒山御陣屋御手持ニ付 此度福島明德寺御備詰ニ相成り 大西儀左衛門一手相詰居申候処 同寺御門出門等始諸事 御蔵屋敷之通り相心得候様被 仰付候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

四月廿二日

公方様此度 御在坂中御持場所猶又被成御嚴重ニ候様 昨日町御奉行方御留守居御呼出し沙汰之趣も有之候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

四月廿二日

今日御目附衆方御留守居御呼出しニ而 公方様海岸為御見分明朝六時之御供揃ニ而被遊 御出船候旨 且右ニ付左之趣御達し有之候間 左様被相心得 天保山江可被出候 以上

四月廿二日

猶以右御達し之趣 銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

海岸

御覽置御順書

一安治川沖手方神崎川川筋 御覽置 撰州地方通 兵庫 御上陸 同所和田ヶ崎方御船江被為召 海岸通 淡州松尾崎 御上陸 夫方沖手 御通船 同国由良浦 御上陸 沖ヶ嶋沖通り御廻り紀州加田浦 御上陸 岸和田 堺海岸沖手方 御覽置 安治川口ニ而川 御座船江御召替被遊候積

一御通船相成り候御道筋之内 領分又者御固場所等有之面々御警衛方之儀者虚師者勿論無益之手数等相掛不申様相心得 持場江者其所詰合罷在候人数等を以 実備專一ニ行届候之様重役之者指揮可致 尤 御通船之節者海岸持場内江平伏罷在不苦候事

一廿三日

公方様今日六ツ時之御供揃ニ而安治川通り御下り 沖碇泊之蒸氣船ニ御乗替り 夫方兵庫江被為 入 晩七ツ時今朝之處江御帰リニ相成り 御川船ニ御乗替リニ相成り 安治川口迄被為 入 天保山東松原土手ニ而 御上陸ニ而御帰 城ニ相成り 昨日右之通り被 仰出置候得共 御模様代り兵庫計ニ相成り申候由 右ニ付當番非番なく天保山江惣出張ニ而半日五ツ時引取

一廿四日

左之通り申通し

此度御城代方御留守居御呼出しニ而左之趣御達し有之候間 左様被相心得 此旨銃頭

并ニ組中江も可被申渡候 以上

四月廿四日

攘夷之儀五月十日可及拒絶段御達しニ相成り候間 海岸防禦筋彌以嚴重ニ相備襲来之節者掃攘致し候様可被致候

右之通り万石以上以下之面と江も不洩様可被相觸候

四月

一廿五日

今日九ツ時香河方組頭呼ニ参り候所 先日 勅使姉小路少将様當表へ被下候所 今日天保山江御出ニ付 香河ニ浦之二隊御持場御固メ与して罷出候様申来り 早速出張致し候所 九ツ半時安治川筋方船ニ下られ 天保山ニ而上陸ニ而被為入 空炮御所望ニ而二挺ニ而三発ッ、炮発ス
後又御乗船ニ而沖蒸気船ニ御乗替 兵庫方淡州 紀州江被為入候与の事也 依て八ツ半過惣引取ニ相成ル

一廿六日

左之通り申通し

去ル廿三日傳 奏野宮宰相中将様方別紙両通之通り御達し有之候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

四月廿六日

攘夷期限之事来ル五月十日無相違拒絶決定仕候間及 奏聞候 猶列藩江も布告可致候事

四月二十日

家茂

別紙

拒絶之事来ル廿三日期限之処延引之次第委細言上之事 大樹上洛前滞京十日与被仰出上京参 内仕候前度、御使等被下 就中賀茂行幸供奉之節者蒙別段之寵遇感戴之至情速東下致し候ニ不恙勿論其比英船渡来不穩形勢候得共 攘夷之儀 大樹留守中ニ而も可行届存候間 旁今暫滞京致し 攘夷之儀者水戸中納言差遣度奉仰願處 関東人心只管大樹之在帰を渴望致し居 士氣難成掃攘行届兼候段 老中ヨリ遂ニ申越し 尾張大納言方茂同様之儀急飛を以て申越し候次第ニ而関東之形勢大樹東下不仕候而者 内地之人心澳散致し攘夷難仕勢ひニ相成居候故 不趣己期限延引ニ相成候事 一ツ橋帰府拒絶應接振如何哉之事
當時帰府之上拒絶應接振之儀者其期臨之言葉之順席も有之候得共 大意者一時和親 交易所詰候處 元来奏 聞を不経開港候事故 □(ぐにがまえに蓋) 国人心不居合之廉を以 断然拒絶之及應接候事

一廿七日

左之通り申通し

姉小路様明廿七日兵庫方御帰りの筈ニ付 拙者一手為御固四ツ時天保山江罷出候様

簾頭方申来り候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

四月廿六日

猶以當番之面々者例之刻限方罷出候様是又可被申渡候 以上
右之通り被仰出候得共 昨夜御帰リ之旨ニ而當番之外不出

一廿八日

去ル廿二日方當表江 公方様御入 城ニ相成り候ニ付 當分御門止メ被 仰出置候所今
日四ツ時此右御門止メ御宥免ニ相成り候旨相觸候事并ニ左之通り申通シ

公方様近海為 御覽置 今廿八日七ツ半時之御供揃ニ而泉州堺御奉行御役宅ニ而 御
昼休 夫方蒸氣船江 御乗移り 泉州沖手方淡州由良浦御上陸 友ヶ島沖手 御通船
紀州加田浦 御上陸 同州大川又者泉州岸和田辺ニ而 御碇泊 翌日淡州松尾崎 御
上陸 夫方摂州地方御通船 安治川口目印山御上り場方被為 上堤通り 安治川町筋
還御之旨 昨日御目附衆方御留守居御呼出し被申達候間 諸事此間之通り相心得
一手組中配下共召連明朝五ツ時迄ニ天保山江致出張候様申来り候間 左様被相心
得 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

四月廿八日

右之趣ニ付明朝七ツ半時方天保山江罷出候様組頭江申通之事

一廿九日

今朝六ツ時天保山江罷出ル 尤御蔵屋敷 福島詰 御陣屋詰共不残出張 同晚七時安治川口
沖ニ而川御船江御乗替り 天保山東御上り場ニ而 御上陸 御持場東御路次口方御臺場北
側玉除ヶ土手江 御床几被為 懸御据付 大筒不残空砲三発ツ、手續き 御上覽 已後乾
織田 香河 大西 三浦 荒尾 伊丹 岩越 福原 赤座被為 召候并ニ今日御固メ北御路次口
方御臺場迄之御道筋江配備 夫方南御路次口方還 御ニ相成り 暮六ツ時御陣屋江引取并
ニ左之御方様御供ニ而被為 入候事

水戸 備前様

餘四鷹様

右之通り被為 入惣下坐
左之通り申通シ

此已後於當御地左之藝術稽古左之日限見分有之候間 左之趣ニ被相心得 此旨銃頭
并ニ組中江も可被申渡候 以上

四月廿九日

- 一當時稽古之俣を致見分候儀ニ付勿論着用向并次第柄等不及相改諸事平常之通り可
致修行 尤猥ケ間敷儀無之様申合可致出精事
- 一諸事頭取世話役被申談し同人方之随差図可事
- 一御警衛詰之面々者當番之外成丈ケ繰合不參不致様出席可致事
- 一御用不參并病氣故障等ニ而無據難罷出節者其度ニ頭取迄嚴重ニ可被申達事
- 一御警衛詰之御役人并定詰御役人共御用向繰合付候ハ、可致出席事

但し定詰御役人不参之儀者別段不及御断事

見分定日

二日

昼弓術

柔術

日限之儀者右二日之定

馬術

十三日

朝種田流鎗術

十五日

昼正田流鎗術

廿日

朝試合之分釵術

廿四日

昼試合無之分釵術

右者於蔵屋敷

晦日

炮術

右者於御陣屋

以上

○五月朔日

今日之非番三番組御蔵屋敷江御條目 罷出ル 御時刻者例之通り

左之通り三通被 仰出候

公方様昨廿九日天保山江被為 入 御臺場早ク見事ニ出来 何れも致心配候儀可有之

与御大慶 思召 猶乍此上心付候様 此旨一統江も可申聞旨 御意之趣 板倉周防守

殿を以被 仰渡候間 左様被相心得 銃頭并組中江も可被申渡事

五月朔日

右者昨廿九日頭役迄面々御臺場玉除土手江被為 召候色々 御意之趣之旨 尤 御直命

之所板倉様御取成し被成候旨

別紙

一 左之趣無急度及噂候間 左様被相心得 觸口支配等有之面々者右觸口支配末々迄并

自分家来江も可被申渡候事申通し

但し今日不参之面々江者向々方不洩様通達之事

御警衛詰之面々他行之節心得方之儀者兼而被 仰出も有之 何れも右弁居申事二者

候得共 此砌公方様御在坂中之儀ニ付 別而相慎無作法異論ケ間敷儀等無之様相心得

可申事

一 追々暑氣之折柄ニ相成り候ニ付而者御警衛詰之面々市中徘徊之節思立相用候ハ勿論

之儀ニ付 何れも其心得二者可有之候得共 若任弁利日傘相用候向共有之候而者御警

衛詰二者別而不似合ニ付 右等之風躰不致様相心得 末々迄一統ニ日笠相用可申事

一 外御長屋住居之面々者内御長屋与違ひ高ケタ高突等迄も相嗜 勿論連子越しニ持或

者致對話等連子ニ干物等致し候儀不相成 右等之義者何れも相心得居申事二者可有之

候得共 猶又急度相慎可申事

五月朔日

別紙

一左之趣無急度及噂候之間 左様被相心得 觸口支配等有之面と者觸口支配江も可被申渡事申通し

但し今日不参之面と江者向と方不洩様通達之事

御家中之面と 公用者素方自用ニ而も事柄ニ寄支配頭役預仲ケ間 相組 同役等者猶又無腹臆申談合候之様ニ与之儀者 兼而被 仰出居申候儀ニ付 何れも遺失者有之間敷候得共 銘と格式或者役場之意地を張り合 他方仕向方不心ニ落儀有之候共 先方江熟談も不致 直ニ支配頭役頭江自分之考を申立 他之不念を察し候而も 不告知も却而蔭方致誹謗等 尤當時右等之向有之与申候者無之候得共 其等之勤方ニ而者一向和順之氣味合無之 兎角何事も和順無之而者不相成所を 中将様江も深く被遊 御配意度と 御沙汰之趣も被為在 殊ニ當今之時勢 軍勢之儀者聊之事ニ而不覺を取候而も 御大事ニ懸り候場合ニ付 銘と心付候儀者 他組 他役場之無隔 懇志を主として互ニ心を付合又詰所之御用向者不及申 御為筋等存付候儀有之候へ、無遠慮其向江得与申談合 右談しニ預り候向も存意を不包無腹臆及示談 兎角不寄何事一統ニ隔意無候様和親を以談合行届候様相成り度事

右者組頭香河御小屋江呼出し右之通被 仰出候由

一三日

左之通り被 仰出候事

公方様明四日七ツ半時之御供揃ニ而幸町五丁目河岸船場方 御乗船 木津川口松平

○此御方御固場之海岸 御船中ら△

土佐守殿御固場○ △御覽 右沖手ら蒸氣船江 御乗移り 夫方淡播州浦と江 御

上陸 還御之節安治川口嶋田新田松平備前守様砲臺 御覽 川御船ニ被為 召移

土佐筋川筋被遊 御廻船旨被 仰出候間 明四ツ半時大砲懸り之面と天保山江為御

固罷出候様申渡し候間 左様可被相心得候 以上

五月三日

猶以安治川口 還御之趣ニ付 何時ニ而も詰場江出張之心得ニ而 銃頭并ニ組中江も

被申渡置并於御場所之猥ケ間敷儀無之様相慎罷在候様 是又可被申渡置候 以上

一四日

今夜御番出勤然ルニ朔日被 仰出候趣ニ付 織田手不残 三浦手不残御固として罷出候処 晚迄御帰りニ相成り不申ニ付 暮前比惣引取ニ相成り 右ニ付御使番方申聞候ニ者 只今迄御帰り無之ニ付當夕も相詰可申之處 是も難知ニ付先引取候ニ付 万一御帰り之節者御差図ニ随ひ御取計可申との事ニ而裏判役人耆人相詰居候所 同夜九ツ半過御座船下り候ニ付 見受候処 御帰之御様子 其内御役人町与力ら面談致し度旨ニ而則當番之者應對致し候所 御通船ニ相成り申候御川筋甚た困り候間 同所安治川鼻之御邊方末廣橋迄之間江数ヶ所 篝焼候様申候付 自分家来等足輕共江申聞薪相運セ焼セ 無子細 還御ニ相成り 八ツ半 比詰所江引取候事

一五日

今朝例之通交代致ス 但し忝番之方者昨夜還御之趣風説者承り居申候所 乾方御固として
天保山江罷出候様申参り候由ニ而 御固として忝番組罷出候得共 昼比引取ニ相成ル
一左之通申通し

左之趣申通し

一馬術見分日二日ニ至り取極候筈之処 以後左之通り治定ニ相成り候事

晴雨之模様ニ寄り

毎月七日 八日両日之内忝度

但し両日共雨天候ハ、流し

一天保山當番并出張之面と間ニ者炮臺江登り 或ハ野狩 外江出候族も有之様相聞候処
此以後右等之儀一切不相成 若し相背此余不作法之躰有之候ハ、其手御役方嚴敷
差咎候筈ニ候間 左様被相心得家来末と迄急度可被申付事

一七日

左之通り申来ル

拙者儀織田監物と交代被 仰付候間 明後九日四ツ半時御蔵屋敷江引取申候并ニ其
方共組之面と儀も引取被 仰付候間 左様被相心得 此旨組中江も可被申渡 同様名
札之所江引取可被申候 以上

五月七日

猶以左之面と左之者共者左之通り候間 左様被相心得置 此旨銃頭江可被申聞候以
上

銃頭

小頭

足輕

御小屋詰り候ニ付當分御陣屋江其俣残り

一九日

一昨日御蔵屋敷ニ引越し被仰付置候処 俄ニ今日之處先廻引ニ相成り候段 今朝組頭方
申通し

一十一日

公方様今日御帰京被遊事申通し

組頭

銃頭

組中

支配有之面と者支配之者共江も

一十三日

今日忝番組夜御番ニ出勤ニ而左之通り御持場當番丈ケ江申し参り候由

小笠原図書頭殿去ル八日江戸表御発船 今日比目印山沖合江御着 直様川船ニ而土佐
堀川筋御通船之分申来候間 左様被相心得 此旨今日天保山當番之一手江相心得可

被申渡候 尤若し今日中御通船ニ無之候者 御通船有之候以上其心得ニ而罷在候様ニ
与 後日之當番江順ニ申送りニ致し置候様 是又可被申渡候 以上

五月十二日

今日増し組宮川源次郎到着 宮城久之丞 佐藤辰之丞 小子与同宿致ス

一十五日

今日御条目ニ番之方非番ニ候得共 朔日ニ罷出候ニ付 一番組与交り合ニ番當番ニ而不参

一廿一日

左之通り申通し

出張為御手當白米搗込有之候所 此節柄追と損米ニ成り而者不相成ニ付 御警衛詰末

と迄御扶持方米當分左之割ニ而白米御渡し被遣候間 左様相心得候事申通し

但し觸口之者共江も

搗代搗減り等見込割引ニして御渡し

今日承り候處 昨廿日彦根當所江被為入東願寺江御旅宿与申事之由

一廿二日

今日昼御番出勤 香河相詰候所 昼比三浦騎馬ニ而参り 香河江御用有之由ニ而同道ニ而罷
出ル

今晚七ツ半時 代り合引取候處 香河一手大西一手左之通り被仰付候ニ付 早と取懸り用
意致し同夜八ツ時御陣屋出立致ス

香河伊賀

其方儀京都表不輕風説有之候ニ付 大急上京致候様被 仰付候間今日中出立 尤京

着之上和田邦之助承り合可被申候 且又一手組中小頭足輕ニ至迄同様上京被 仰付

候間 此旨被申渡し召れ可有上京候

但し大炮懸り者半数上京被 仰付候間 名前取分直ニ被申渡 右申渡候名前可被申

達事

右之通り被 仰付候ニ付 荷物等不殘穀具ニ至ル迄御陣屋前安治川ニ而上荷船御渡しニ而

御蔵屋敷河岸与罷出ル 夫方淀川船江積替御組一統共船ニ而罷出ル 右御船者御上作廻也

同夜五ツ時伏見江着ス 夫方御組共着船相見合揃候上伏見表八ツ時出立翌廿四日朝正六

ツ時京都御屋敷江着ス 夫方下宿北野之由ニ而北野江罷出ル 和田殿下宿江参り御達し致ス

荷物者伏見方矢張御上作廻ニ而伏見より車ニ而北野迄御廻しニ相成ル 尤具足箱等步行持

之分ハ昨夜人足ニ而御上作廻ニ而相廻ル 北野下宿左之通り

一得松院

和田

一神光坊

香河

一竹林防

大西

一松梅院

佐分利

一梅林院

組頭新兵

一長生坊

福原 中山 矢嶋
後醍院 中村 落合

一 玉鳳坊	佐治	田中	崎井
	桂	坪井	鷯沼
	木村		
	箕浦	宮城	石黒
	佐藤	山崎	宮城
一 源松防	香河	銃頭	
一 壽徳防	同	大炮	
一 松栄防	大西	御組	
一 梅深防	同	銃頭	
一 今小路堀井	同	大炮	
一	裏判		

一廿五日
左之通り被仰出

左之趣被 仰出候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

五月廿五日

左之両様之趣被 仰出候間 左様被相心得 佐分利軍兵衛申合 昼夜組十五人 足輕 一人召連可有出勤候 尤勤向之儀者御留守居承り合 可被相勤候 此旨一手之面と江も可被申渡候 以上

五月廿五日

五月廿一日	清和院門	寺町門	堺町門	下立賣門	蛤門	今出川門	乾門	中立賣門	石薬師門
	土州	肥後	長州	仙臺	水戸	備前	薩州	因州	阿州
					後會津		廿九日方雲州		

昨夜於朔平門邊 姉小路少将刃傷之儀有之甚以不容易候間
右九門今晚方固之儀 人数者相應 被 仰付候
勘考可有之

昼之内者名前不相糺 日暮方四ツ時迄者潜り差寄置 往来之者御所御門撰家方官方 門跡方堂上方御家来も名前行先相尋 可被差通候 四ツ時方切り 前順通り名前 相糺差通し候事

一 武器之事
鎗被立置可然銃炮小頭五六挺持等可然事

一見廻り場所之事

一御築地外撰家方 宮方 堂上方折と見廻り氣を可被付事

猶以非常之儀ニ付 関白様御始 宮方 御門跡方 堂上方等惣而下座禮節ニ不及旨

被 仰出候得共 旧冬禮節御改廻 尊奉之儀者厚相心得罷出候儀ニ付 自分心得を以 関白様 宮方 大臣方江者下座可被致候 以上

香河方書付ニ而相廻ル

長谷様御供毎日兩人ツ、

朝 五ツ時

晚 七ツ半時

五節句者 麻上下

常者 継上下

右組中之由

一廿二日

今日方御番相立老番出勤

一廿九日

今日二番組夜御番にて罷出ル并乾御門薩州御受之所御様子有之ニ付 御免ニ相成り右仮番所引取之上者薩人老人も御門通し不申候様可致之旨 傳奏坊城様方御申通し 右御引拂後雲州侯江御固メ被 仰付候 右御廻文又と同夜相廻ル并ニ今日左之通り被 仰出候

一松平修理太夫殿先日以來乾御門御守衛被 仰付置候所 今日方御守衛被 免候間相

達候 就而者御守衛人数之詰所 仮小屋無程取拂可有之候間 右取拂相濟候ハ、薩州

人九口御門内往反無之様可被制候 右之趣留守居中江申達し置候得共 各様為御心得被申達候 以上

両傳奏 雜掌

追而御廻覽後坊城家江可被成御返候

右御廻紙今出川備前様方相廻り蛤御門會津様江相廻ス

右下座見江小使老人差添相廻ス并ニ同夜左之通り

御廻状

乾御門御守衛松平出羽守様被 仰出候 今夜方人数被差出候間 各様方迄為御心得申

達候事

右前同断蛤御門江相廻ス

昨日左之通り被 仰付候

一萬里小路様御参 内之節御送り迎之儀 傳奏坊城様方御達し有之 万里小路様方も御

頼御座候 右御家老中江御達し申置候間 定而御沙汰御座候儀与奉存候 今日者最早御

帰館相濟候間 前刻御使も参候間 明日方御兩人御右御方江御参殿可被下候 明朝御参

内之御時刻右御殿方御案内之人参候筈ニ御座候 右様御承知御都合宜敷様御取計可被
下候 御着用万端長谷様之御振合ニ而宜候間 御頼□迄如斯御座候

猶以万里小路様御事 勸修守様之御継兼而此御方様御通家へ御座候為念後御着候

○六月朔日

左之通り申通し

出火之節九門内乗馬不苦旨被 仰出候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有
通達候 以上

六月朔 日

別紙

一 中立賣御門御番所仮成ニ出来ニ相成り候付 右御番所并別紙御道具類今日御門渡し
ニ相成り候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

六月朔日

猶以本文之通りニ付 明二日方大弁當不被遣候 尤夜中老度被遣候間 是又左様可
被相心得候 以上

一 塗木弓拾張 弦共

一 黒塗空穂 十穂

一 征矢 百本

一 弓胴乱 拾 腰釵共

一 種ヶ島十匁筒 十五挺

一 同早合胴乱 十五 釵共

一 火縄筒 十五

一 同口薬入 十五

一 同皮覆 十五枚

一 御長柄 十筋 鳥毛鞘共

一 三ツ道具 壺通り

一 寄棒 十本

右之通り御番所付ニ相成候事

亥ノ六月朔日

裏判所

一三日

今日大樹公御参 内

一八日

今日大樹公御下坂

今晚左之通り手形相廻し候様裏判方組頭迄申参り受取相廻ス

覚

一金壺両式歩

右者御渡し金壺ヶ月分無何角御取替ニ而受取申候

追而御立用可被下候仍如件

亥六月九日

石井十右衛門殿

一十日

別紙之通り御達し有之候ニ付 左様被相心得此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

六月十日

非常之節禁裏御所口向勤仕之仕分帯刀仕 丁平 仕丁等致取持 往来江提灯今度印改
革 別紙雛形通り治定候ニ付而者諸藩中右同様之印不相用候様 夫々江可被申達事

禁裏御所持分
紅胴輪黒自分
紋寸法八寸

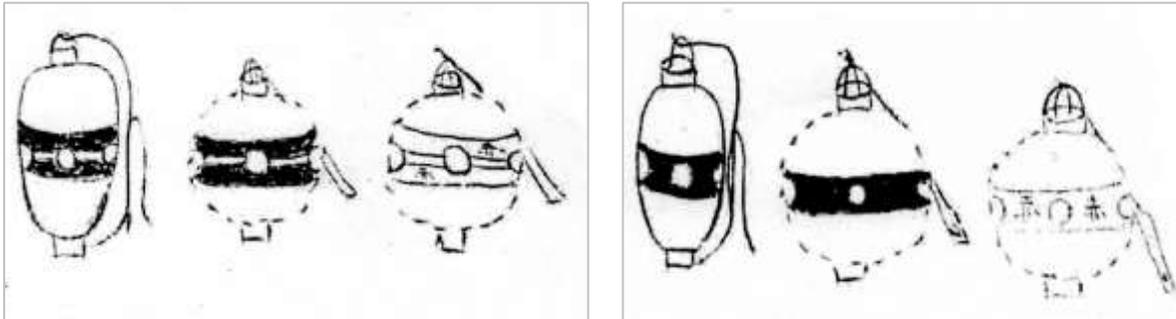
帯刀仕丁黒胴
輪白自分紋

平仕丁黒胴輪
白自分紋

准后御殿侍分
赤二筋胴輪黒
自分紋

帯刀仕丁黒
胴輪白自分紋

平仕丁黒胴輪
白自分紋



一番組式番組之組替ニ而今日昼御番江罷出ル 長谷様江御迎江罷出ル 其節御内家御家来
田中隼人之咄しニ而 昨夕内丸太丁東 久世様江浪人者と相見へ十人余り御門前江集り居
候由 尤袖摺一張を燈し紋ニハ菊崩し之由相咄し候ニ付 其段交代之節咄し置候事 尤其
後子細不承候事

一十五日

昨十四日大坂表江夷人参り候由ニ而 和田殿御使番 福原御使役 中山等下坂致ス

一十八日

今夕河毛文蔵 奥田万次郎早追御使者として江戸表伊勢守様江罷出候 召御用也
左之通り申通

左之趣被 仰出候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

六月十八日

非常之砌 後院御鎮守江為守衛吉田家人数召連候 駆付候節 昼者陣笠 夜者提灯
左之雛形之通り被改候 且出火之節 禁中局会所侍分 左之雛形之通り挑灯致持参
候就而者諸藩中右同様之印不相用候様 夫と可達事

後院御鎮守非常御手当

人数自分提灯上下紅

山道黒紋并ニ黒自分紋

寸法九寸

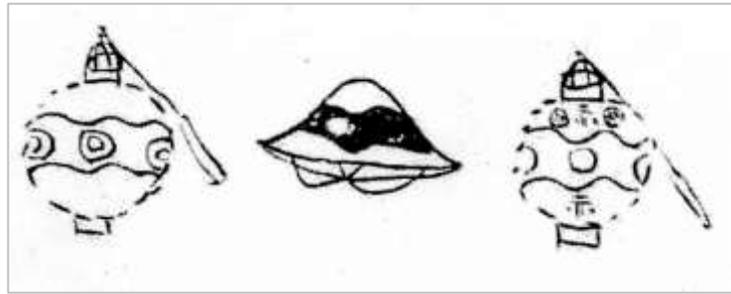
後院御鎮守非常御手当

人数自分陣笠表上下

金山道金自分紋裏金

禁中局會所侍

自分紋



一去ル十四日大坂表江異国船渡来之節 同所御留守居方御達相成り申候写し

口上覚

一今日九分時頃明石鼻方天保山三十丁程沖合江蒸気船一艘乗込碇泊之体ニ相見へ帆
印等も不相分ニ付 実否取糺候處英吉利凶人と相聞へ 直様致手配打拂仕候處 紀州

江向迹去申候 不取敢此段申上候 以上

御名内

赤座為蔵

六月十四日

右之趣を以御當所御留守居方御達し申写し

去ル十四日天保山沖合江異船渡来ニ付打拂候處 紀州之方江迹去候段 別紙之通り御届ケ書差出し申候 然る處御城代方別紙之通り御達し御座候得共 右者背 勅意候儀ニ付御書付返却致し 已後異国船見懸ケ次第打拂可申段相届ケ置候旨 彼地詰合方申越し候ニ付 此段申上候 以上

御名内

安達清一郎

六月十七日

御城代方参り候御書付左之通り

御城代方御達し書写

攘夷之儀未於横濱表談判中ニ付 承伏之有無難決内此方方手向候儀者見合 弥手切ニ相成り候節者猶相達し御品も可有之間 彼方襲来不申内者 僮忽之所行不致様御申付可被成候 尤攘夷之儀被 仰付候ニ付而者片時も警衛向油断者難相成 乍然通船之外 国船無謂打拂之儀者御見合可被成候 右之趣御達し可被置候 以上

六月十四日

一廿一日

左之通り御書附御頂方相廻り候事

御名

去ル十四日天保山沖江英艦渡来之處 奉勅意速打拂候趣神妙之至ニ候 尚又不失其機可有攘斥候事

六月

右転奏野宮中将宰相殿ヨリ御留守居御呼出し御渡し

六月十八日

先達而左之通申通

八日 香河 昼 中村 廻り九日 大西 昼 坪内 夜 後醍院 菅

十日 佐分利 昼 河毛 十一日 大西 昼 菅 夜 坪内 渡辺

廻り十二日 佐分利 昼 渡辺 十三日 香河 昼 後醍院 夜 中村 河毛

十四日 佐分利 昼 河毛 廻り十五日 香河 昼 中村 夜 渡辺 後醍院

十六日	大西	昼	坪内	十七日	香河	昼	後醍院
廻り十八日	大西	夜	菅	十九日	佐分利	夜	河毛
廿日	大西	昼	坪内	廻り廿一日	佐分利	昼	河毛
廿二日	香河	夜	菅	廿三日	佐分利	夜	渡辺
廻り廿四日	香河	昼	中村	廿五日	大西	昼	坪内
		夜	後醍院			夜	菅
非常							
八日	香河			九日	大西		
十一日	大西			十日	香河佐分利		
十四日	大西佐分利			十一日	香河		
十七日	香河			十二日	香河佐分利		
廿日	大西			十三日	大西		
廿三日	大西佐分利			十四日	香河		
廿六日	香河			十五日	大西		
廿九日	大西			十六日	香河佐分利		
				十七日	大西		
				十八日	香河		
				十九日	大西		
				廿日	香河		
				廿一日	大西佐分利		
				廿二日	香河		
				廿三日	大西		
				廿四日	香河		
				廿五日	大西		
				廿六日	香河佐分利		
				廿七日	大西		
				廿八日	香河		
				廿九日	大西		

壹番

- 落合勝次郎
- 宮城久之助
- 坪井善太郎
- 田中岩之丞
- 桂 修助
- 木村才助
- 平田権内
- 箕浦東之進
- 佐治幾之丞
- 浅井又蔵
- 佐藤辰之丞
- 鵜沼鉄太
- 山崎篤允
- 宮川源次郎

貳番

一廿二日
 今晚七ツ前頃を俄ニ下坂之噂有之由ニ付承り合罷出候所 弥下坂之趣ニ付用意致ス 則左
 之通り被 仰付候

一大坂表御人少ニ付 急ニ下坂被 仰付并其方共儀一手組之面と同様下坂被 仰付候
間 左様被相心得 夫と可被申渡候 以上

六月廿二日

一廿三日

今朝五ツ時過京北野出立致し 九ツ時過伏見江着ス 夫方仕度相仕舞 八ツ時頃出船 同夜
四ツ時頃大坂江着船 御藏屋敷乾江只今至着之御達し致ス 尤御陣屋近辺ニ而仕度相仕舞
翌廿四日六ツ半過御陣屋江罷出越し 先達而之御小屋江入申候

一廿四日

左之通り申来ル

其方共儀御陣屋詰被 仰付候間 名札之所江引移可被申候 以上

組頭

銃頭

組中

一廿六日

左之通り申通し

乾雅樂之助儀去ル十四日天保山沖江異国船渡来之節 不念之儀有之恐入差控之儀申上
候 左様被相心得 當分拙者儀旗頭之御用向諸事取扱候様被 仰付候間 左様可被相心
得候 依之御藏屋敷詰之面と火急之御門出等者差支候ニ付 都而其等之節者直ニ御目
付江書廻し跡ニ而可申達候様申渡し置候 以上

六月廿六日

左之通り御書参り候由ニ而則写し置候

一 申遣る 去ル十四日英吉利亞船天保山沖合江相見へ候ニ付 其方始出張早と打拂玉
届き三者無之趣ニ候得共 掃攘致し候段満足之事ニ候 然而其御城代伊豆守方達し有
之以来心得方等申達し候趣ニ而其段承り候得者 先達而從 天朝蒙 仰之品も有之
且一橋中納言殿 松平春嶽殿在京中見懸ケ次第打拂之儀者伺済ニ相成り居儀ニ候得
者 城代方いヶ程達し者有之候而も方一手後れ有之候而者 我對 天朝候而不相済 且
者 幕府江も伺済候事ニ候間 城代之差図ニ拘るべき事ニ無之候間 其方始必死を極
め 重而異船相見へ候ハ、不及手間似無ニ無ニ打拂 若城代方之差図ニ而も 天命
背き難き趣を以て返答ニ及て 主人方方沙汰無之儀者軍中儀御城代之差図ニ而も進
退者不仕趣可及返答 今度川口江端船を以乗込之砌打拂候ハ、実以勇と敷かるべし
にと残念ニ存候 重而来候ハ、是非共死力を盡し候様頼改監物初一同江も厚可申聞
候 委細大隅駿河可申達也

六月十八日

猶以本文之趣伊豆守江も及文通候間 無無念有之間敷候事

左之通り申通し

天保山御番割

香河一手

大砲築田権之丞

能勢金蔵

多羅尾大八

辻中幸松

高濱良蔵

村田代次郎

加島伊之丞

和田為之丞

石原虎之丞

廿七日

岩越作之右衛門

中山猶之丞

足羽立見

織田一手

大砲渡辺勝蔵

伊藤島之助

坂川和右衛門

三村小次郎

遠藤儀兵衛

岩越松之丞

安田小藤太

遠藤猪三郎

鳥飼季次郎

廿八日

竹村平次郎

下清太夫

岡本有器

三浦一手

支配片山長三郎

園城寺鉄四郎

神崎丹治
村岡幾見

廿九日

遠藤半太夫
佐藤金太郎
佐分利外三郎
赤座久蔵
大庭亀之助

福原惣之助
美田源太郎
太田春暉

荒尾一手

支配加須屋右馬久
岩越喜五郎
波多野八之丞

七月朔日

佐分利鉄五郎
荒賀隼人
中山雄太郎
梶川彌之助
伊藤平太夫

柄本竹之助
石上鉄三郎
御番山下清太夫
足羽立見

一廿七日

今朝當番ニ罷出ル 尤先頃迄と違ひ近頃者一昼夜通しニ而一手宛罷出張ニ相成り候事并ニ
右當番之節 天保山ニ於て人壱人ニ付九合ツ、上下なく御渡しニ相成り候 其請取手形
覚

一今日當番ニ付御扶持米左之通受取申候

主従式人

裏判取

○七月朔日

今日御条目ニ付老番組非番ニ而罷出ル

一六日

左之通り被 仰出候

左之趣御所司代方相廻り候由 御城代松平伊豆守殿方御達し有之候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

六月廿四日

攘夷期限之儀先達而布告ニ相成り既於長州遵奉叡慮断然及掃攘候間 此後外方渡来候ハ、無二念打拂可申候 尤警衛之諸藩互ニ相援老力防禦可有之候様被 仰出候事

六月

右者乾雅樂之助殿失念致し候居延引ニ相成候由

一八日

今晚右之通り香河御小屋江組頭呼出しニ而合渡ス

一 昨三日被成 御参 内候所別紙之趣傳奏衆を以被為 仰蒙候ニ付 別紙差越し申候

右ニ付而者猶又嚴重ニ相心得御恥辱不相成候様取計可被申候 以上

七月五日

荒尾千葉之助
御名

別紙

一 自當月三ヶ月御警衛先達来心得候所 外御用も有之早々上京可有之 去月 御沙汰之所速御詰登 京御満足候 大樹帰府後追々時勢切迫深被惱 震裏候 弥誠忠猶又 国事ニ付被御守下之許ニも可有之 其節無覆蔵存意等委細言上有之候様 御沙汰之事

七月

御名

撰海警衛之儀今度被免候處 去月十四日英艦渡来之節打拂候ニ付而者 暫之所人数其 俣差出し置嚴重ニ手當有之 重而渡来之節者不失其機攘付有之諸藩之規範与可被成 様 御沙汰之事

七月

右者京都方申参り候事

一十三日

今日左之通り被 仰出候事

左之趣昨十二日町御奉行松平大隅守殿江御留守居方申上置候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中大炮懸り江も可有通達候 以上

七月十三日

御警衛持場沖江異船渡来之節打拂之儀奉畏居候所見紛敷御手船并ニ諸家之手船等
碇泊有之打拂致し候節萬一風与飢惣之儀有之間敷共難計詰合一統心配仕候依之
御印能見分ケ付申候様御頭し置被下度兼而此段申上置候以上

七月

御名内

赤坐為蔵

一十九日

今朝御番交代之處勅使四条殿東園殿海岸御巡見として四条殿安治川口御下り東園
殿木津川御下り夫方紀淡之間江被為入候之御事ニ而惣出張ニ相成り候ニ付交代無之香
河手吉屋江溜り頭役會所江溜り則左之通り被仰出候

監察使東園様四条様今日御着坂明十九日陸地泉州堺江御越し夫方御乗船ニ而紀
州加田浦迄御越し御帰り模様ニ寄り天保山江御乗廻り之趣ニ相聞ニ付何連も明日
四ツ半時迄ニ同所江出張被仰付候間左様被相心得此旨銃頭并ニ組中江も今日當
番之面江も可有通達候以上

七月十八日

今日方天保山御番大西下坂ニ付相改ル

天保山御番割

十八日	香河一手	大砲九人	岩越	中山	足羽
十九日	大西一手	大砲八人	福原	美田	岡本
廿日	織田一手	大砲八人	大銃頭式人	柄本	石上 太田
廿一日	三浦一手	大砲八人	河合	山下	勝部
廿二日	荒尾一手	大砲九人	岩越	中山	石村

一廿日

今日も矢張吉屋江出張 晚七ツ半時先引取之後申来り御陣屋江引取候事一昨十八日朝方
今晚迄相詰候事

一廿一日

左之通り被仰出候

監察使天保山江御乗廻り相済候迄同所御番割別紙之通り候間左様被相心得此旨
銃頭并ニ組中江も可被申渡候以上

七月廿一日

廿二日	荒尾一手	大砲十七人
	香河一手	岩越 中山 美田 医師壹人
廿三日	大西一手	大砲十六人
	織田一手	竹村 柄本 河合山下 石上 医師一人
	大銃頭	
廿四日	三浦一手	大砲十七人

荒尾一手 福原 中山 美田 医師老人

一廿八日

今日方見張番所江昼夜共出ル

一晦日

今日當番ニ付初致し候所 左之通り申来り候ニ付 同晚六ツ時引取御陣屋江入

監察使天保山御乘廻り相濟候迄 當分同所出番相増居候處 未夕御間有之趣ニ付 追而及差凶候 御番割之通り可有出番候 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

七月晦日

又左之通り被 仰出候

一柳包五郎殿方左之通り申来候段御留守居申達候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

七月晦日

一柳包五郎様此度當表安治川口御船手御番所御警衛被 仰付候 右ニ付而者御用之筋以来者御詰合御家老中江此方出張南安治川壱丁目正光寺へ旅宿之詰合家来共方御談可仕儀御座候処 小家之儀ニ付万端不都合も有之候得共 御腹臍無之御教示被下候様被成度段御使有 井上勝内を以御頼候旨到来仕候 此段御達申上候

七月晦日

赤坐為藏

○八月

一二日

左之通り申通し

御目付成瀬弥五郎殿并御徒目付 御小人目付衆當表御警衛并ニ御臺場築立 其外為御用近々被来候筈之旨江戸表方申越し候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

八月二日

左之趣先達而惣方江沙汰ニ相成り候趣候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

八月二日

自用御門出之儀者當節柄之儀ニ付何連も相心得居可申候得共 難去要用之外者相見合可成丈ケ御屋敷御陣屋近邊不相離臨時御間厭ニ不相成様專一ニ相心得 此旨末々迄可被申渡候 此段無急度及沙汰置候事

一三日

昨二日夜八ツ時頃方北久宝寺町方出火 今日九ツ時慎火

一六日

先達而方頂戴候酒今日頂戴被 仰付 頭役一升 組頭 銃頭御組大砲共鯛式酒五合ツ、足輕式酒三合ツ、御小人右同

一七日

左之両通被 仰出候

當表御警衛詰之面と足輕ニ至る迄 此度大砲修行左之通り被 仰付候間 左様被相心得此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

八月七日

山口謙之進取立

西洋

御先手組士足輕共

大砲足輕共

遠藤儀兵衛是迄之通り門人共取立可申 尤山口謙之進申談し

渡辺勝蔵取立

神發

式御旗本組士足輕共

大砲足輕共

去月十二日傳 奏飛鳥井中納言様方御家老御呼出しニ而左之趣御達し有之候之談申来候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

八月七日

安治川方南是迄之通り松平相模守 安治川方北立花飛驒守 右之通り持場所相心得 夷船渡来之節者共と盡く掃攘可有之事

一八日

今日九ツ半頃香河方御組頭呼寄せられ被申渡候ニ者明石鼻（浦）□夷船相見へ候趣ニ付増し番被 仰付候間 用意致し候様ニとの事ニ而用意ニ取懸り 尤頭御蔵屋敷江乗切ニ而被参候ニ付 帰之上出張可致旨ニ而帰り後直ニ出張 時刻八ツ半頃吉屋江溜ル

右ニ付周旋として荒尾御組ニ而三宅実篤 三浦御組内ニ而上村儀一郎 清水吉之進 明石迄罷越ス 尤天保山ニ而御使役中山猶之丞同道ニ而同所方上荷船ニ而西宮迄船ニ而罷出ル

一九日

今日大西手 織田手當番之所 織田手出張遅刻致し引取九ツ過并ニ左之通り申通し

天保山當番明日方近來之通り一隊宛ニ相成り 明日者三浦手當番廻り候間 左様被相心得 此旨銃頭并ニ組中江も可有通達候 以上

八月九日

一十(カ)日

去ル八日出船之周旋方帰り承り候所 明石沖ニ而砲発之船者式本帆ニ而長州之船之由 右者暮方ニ入船致し候所印等者相見へ不申 淡州ニ而発砲致し候ニ付 明石方も打出し 前右船江式発當り穴も明き候由 其内下高船を以て明石江乗付ケ長州船之段相届ケ候由 右者長州家老上京懸ケ之由也

一十一日

左之通り申通し

四条様明曉七ツ時堺御立 一旦御堂江御帰 夫方天保山江御出 且又東園様明朝貝塚

御立与風同所江御出ニ可相成哉ニ相聞候間 明朝六ツ時迄ニ同處江可有出張候 此旨銃頭并ニ組中江も可被申渡候 以上

八月十一日

一十二日

今日當番出勤八ツ時頃四条様天保山江御出 御臺場御筒實玉御見分御人数惣出張

一十三日

今日四ツ時頃御船ニ而東園様御出 昨日同様實彈御見分御帰り 今日も惣出張引取九ツ半過

去ル七日京都方被 仰出候御固場之内 立花侯方者御請無御座 是非共天保山受取之様被仰付候由 尤公辺方も立花江御催促有之由風聞

一十五日

今日御條目出勤并ニ夜前組頭江香河方明十六日甲冑勢揃有之候由乾方内沙汰有之候間 差支へ者無之哉之談し事

一十六日

今日甲冑勢揃無之 左之通り天保山御定令被仰出有之候

定

一御番頭一手宛日と交代之事

但し臨時出張同様相心得可申 荷物之儀者可相成丈ケ可致減少御上賄ニ而御運送可被遣候事

一騎馬之面と御門前方下馬之事

一遠見番所江者組士炮手之面と同夥三人式十式分合無懈怠出番可有之 尤人数之多寡ニ寄り二夥ニ而も致出番 組頭 銃頭 炮長之面とも右ニ准し可申候 若異船近海江相見へ候得者速ニ頭江届ケ可申 暫も御番致油断間敷事

一御番頭御使有遊隊鉄砲頭御使役諸隊御目付者昼忝度夜忝度不時ニ相廻り諸番所と改可申 若し懈怠之輩於有之者其段旗頭江達し可申事

一通用御門番所江者昼夜足輕一伍宛相談嚴重ニ相守出入を改一時を限り可致代り番事但し明ケ六ツ時暮七ツ半時御門致開閉 御鍵者諸隊御目付江差出し置可申事

一御門出入之儀者同夥を打離し申間敷罷出候節者頭と江致届ケ罷帰り候節も同様届ケ可申并ニ小頭 足輕も銃頭之手札を以可致出入 都而要之可為停止事

一御番頭初メ自分家来御門出入之節主人之手札を以て御門番之足輕江相渡し置 帰り之節請取 夫と主人江返し可申事

但し小人者裏判役所之手形を以可致出入 火兵も相渡し之主人之手札を以て罷出罷帰り候節も同様主人江差返し可申事

一御門出入之儀者都而御役人裏判手たり共其日之主将ニ届ケ致し 妄りニ致出入申間敷事

一毎日不定刻限忝度聚軍螺を立 此号を聞時者組頭者組士并ニ從卒 銃頭者銃卒 炮長

者炮手并炮卒等人別を相改メ闕無之段其日之主將江達し可申 酒更も人数之不足を流し不正之改方有之間敷事
右之條々堅相守可申もの也

一十七日

今日當番出勤昨日被 仰出候通りニ相成り 尤上ノ御門御^レ切り 下ノ御門通用御門ニ相成り北側御門者吉屋江御任セ^レ切り 家来者手札を以て御門出入之事并ニ左之通被 仰出候事

一御小屋請取渡し立合之儀御止メ此以後江戸表ニ振合ニ而被 仰付候事

一御陣屋詰之面々自用出之節者同夥同道罷出候事ニ候得共 此已後御藏屋敷詰之通り不及同夥勝手ニ罷出不苦旨^カ被 仰付候事

一昨十六日

御城代松平伊豆守殿方御留守居御呼出しニ而左之御書付御渡しニ相成り候事

尾張大納言殿

大坂表防禦主將之儀兼而 御所方被 仰出候趣も有之方 今之時勢難被捨置場所ニ付 大納言鎮撫被致候筈被 仰上候間 早^ク御登坂撰海防禦筋其外共十分指揮被在之候様ニ与被 仰出之

右之通り先般尾張殿江被 仰出候旨 老衆方申来候間 此段御達申候

八月

一十八日

左之通り左之面々願書出ス

私儀當表為御警衛相詰居申候所 兼而勝手向難渋仕候者給米等も差支當惑仕居申候ニ付 御時節柄御物入續之御中奉恐入候得共 何卒相應之御銀拝借被 仰付被為下候ハ、難有仕合奉存候 此段奉願候 以上

文久三年亥八月日

山崎篤允判

香河伊賀殿

左之通り無足之面々不残差出し候事

浅井又蔵	石黒弥太郎	田中岩之丞	佐藤辰之丞
桂 修助	鶉沼鉄太	木村才助	平田権内
宮川源次郎	山崎篤允		

今夜八ツ時香河^{口頭}方呼ニ参り罷出候所 左之通り被 仰出并ニ乾當夕急御用ニ而上京ニ相成り申候ニ付 香河江旗頭御用取扱被 仰付候

今度於京地異変之儀有之候得共 不致動揺何れも鎮靜可罷出候筈 心得違之向も有之候ハ、急度被 仰付品も有之候間 左様相心得 此旨末^ク迄申渡候様被 仰付旨頭^ニ江被 仰渡候事

八月

一十九日

今朝六ツ時左之通り京都千葉之助殿方申来り直様用意致し候様被申渡候

一筆致啓上候 然者其表定詰之外 御警衛御人数不残御引上ケニ相成り候間 夫と致
通達其方始急ニ可致上京候 恐惶謹言

八月十八日

右者用意致し夜九ツ過御陣屋出立致ス 御渡し物三両ツ、但し御小人御渡し之面と之由

一廿日

四ツ半時平方迄参り同所方伏見江晚七ツ半時頃着し即刻出立 同夜五ツ時比京都本国寺
江罷越乾江御達致し同寺内祖師堂江止宿致ス 然ル所 中将様者昨十八日方御参内ニ相成
り 已後未夕御帰館ニ相成不申候 去ル十七日之夜左之面と徒黨致し 高沢 黒部 早川三
人を切殺し逃去候之由 徒黨之人数太田権右衛門 清水七之丞 詫間半六 奥田万次郎
足立八蔵 山口謙之進 河田佐久馬 同人弟新庄恒蔵 塩川孝次 佐膳修蔵 加須屋右馬見
渋谷平蔵 同金蔵 永見和十郎 中井範五郎 太西清太 伊吹市太郎 加藤助之進 中野治
平 吉田直人 吉岡平之進、式十式人中ニ奥田九郎出候後切腹 詫間半六 加藤助之進両
人手負之由 此連中去ル十八日御参 内之節も御窺与して御所江罷出候由 右之連中江者
御書も被遣候由 尤智恩院内御宿坊江居候由 右之御書者心願相達候段之暫く慎静可有
之様との被 仰付候由

御側御用人兼黒部権之助

一右者河田左久馬御用之儀ニ付面会致し度と申座敷へ罷通り挨拶致し候内余黨切入り
而即死之由

御勤役御用人兼早川卓之丞

一右者詫間半六参り面会之段申込候由 其俣抜打ニ致し候由 俣久之助 半六を見懸ケ
切付候所半六も上段方切付候所 鴨居江打込其俣ニ外去候由

表御用人高沢省己

一右者加藤助之進切込候由 高沢も一太刀者切付候得共 其内ニ逃去候 然れ共高沢者
左之カイナを切られブラヅク(カ)位之由 其外胸アバラ骨二本打切レ候由 乍併未夕
息者切レ不申候由

御側役加藤十次郎

一右者其日當番出勤致候 其留守中ニ付「今日當番之由ニ付後日罷出候と」云事認メ
置候所留守方御殿江持出候由 左候得共其俣御用打仕舞翌十八日退審之上切腹

去ル十八日長州様御隠謀ニ而公家衆退身并ニ御所近邊騒ケ敷ニ付 御所内御固メ人数共不
残甲冑ニ而相談候由

一廿一日

昨廿日中長州御人数御引拂堺町御門御免雲州江被 仰付候由并ニ此度之異変之儀者別ニ
記ス 公家衆之退身名前共

一廿三日

今日祖師堂方御本陣江引越ス 六十八疊之間江相組十四人同宿致ス 惣御供之面と共不殘
長者町室町下宿

一廿五日

今日方御所御固メ等平服与被 仰出候由申通し事

一廿六日

左之通り申通し

左之趣被 仰出候ニ付為御固不及出張候間 左様被相心得 此旨組中江も可被申渡候
以上

八月廿六日

九門十八日以前之通開門御番所者平生方二三入増し不審之者番所江止置其行先江
致通達免許之上可通事

一日と御番御出張ニ不及并

天氣御伺ニ不及先仮陣所江奇宿之事

一廿七日

今夕九ツ時頃火事黒谷邊と云

一廿八日

左之通り被 仰出候

此以後出火之節洛中者不及申洛外ニ而も 御本陣前江可有出張候 此旨組中江も可被
申渡候 以上

八月廿八日

別紙

其方一手之面と當分九門内相廻り候様被 仰付候間 御軍式方頭取申談し一手計相
廻り候様可被申渡候 尤大西義左衛門儀も同様被 仰付左之割合ニ候間 左様可相
心得候 以上

八月廿八日

廿八日大西

廿九日香河

一廿九日

昨日被 仰付之趣ニ付廻り左之割ニ相成り順ニ昼夜替合相廻候事

朝	炮長高濱	昼	後醍院
夜	中村	夜	石黒
内播			

夜中 炮長荒木

右之通り杵番組ニ付昼後相廻候 尤九御門入てハ出出てハ入て相廻り候事并ニ左之通り
申通し

左之趣被 仰付候間 左様被相心得 組中江も可被申渡候 以上

八月廿九日

香河伊賀

大西儀左衛門

荒尾千葉之助附屬

一 一手九門内廻り被 仰付置候処 此已後 御所内外共昼夜廻り被 仰付候間 圓山勘
ケ由共申合御軍式方頭取申談し可被相勤候 以上

八月廿九日

右ニ付廻り番ニ番ニ相成り 矢張以前之通り昼二度夜式度都合四度廻り 着用割羽織 小袴
一晦日

京着方御焚出しニ而主従上下之差別なく竹皮江包梅干一ツ 茄子漬一切レツ、包 三度ツ、
御渡し之所 今日切りニ而明朝日も自分賄ニ致し候様申参り候ニ付 米者油小路万寿寺通
り八百屋清助と申米屋江被遣候事 彼方通ニ致し相廻候事 其外諸道具者裏判所方請取候
事

○九月朔日

今日九ツ時之御供ニ而御参内之由 今日方自分賄

一二日

今日九ツ時御参内

一三日

左之通り申通し

其方共組中足輕等當表江相詰居申候面と名前取調 今明日之内差出し候様可被申渡候
以上

九月三日

今日九ツ時御参内

一七日

左之通り裏判御吟味役方左之通り申来ル

以 手紙得御意候 然者瀬田にも本国寺江被遊 御帰候 御沙汰ニ付何れ下宿替と相
成り候ニ付、ご用意被成候 尤何方と取極り候得者後刻迄ニ御左右可致候間 御然方へ
御通し置可被下候 此段為可得御意如斯御座候 以上

九月七日

後醍院半之丞様

中村彌市様

景山加耶次郎

右ニ付昼七ツ時前同寺内ニ而壇林江下宿替ニ相成ル

今日頭香河伊賀左之通り被 仰付候由 組頭後醍院呼ニ参り 組中江も通達致し候様被相
頼候由之所 用意次第^(虫撰)□□□者都合ニ付 必何れも参り呉不申候様ニとの事 殊ニ晚景ニ
相成候ニ付 一統不参之事被 仰渡写し左之通り

其方儀去月廿三日御人数御届出し之節不心得之儀有之 殊ニ如何之趣も相聞候ニ付
御国江御差帰し 追而被 仰渡候筋有之候間 道中相慎罷帰り候様被 仰付候

右ニ付大西義左衛門江跡之儀被相頼置候由

一八日

昨日壇林下宿替ニ相成り候所 甚た手狭ニ付其段申談し 同寺内ニ而常澄院江亦下宿替ニ相成ル 尤組頭丈ヶ者壇林内妙見堂ニ兩人共下宿 大西者醒ヶ井通り江町下宿ニ相成ル并ニ大西方左之通り申来ル

左之趣被 仰出候間 左様被相心得 此旨組中江も可有通達候 以上

九月八日

明後十日五ツ時之御供揃ニ而本国寺江被成 御引取旨被 仰出候事

但し右御行列之儀者御目付承合可申事

一 此度本国寺江被成 御引取候処 以前与違ひ追々詰増ニ相成り申候ニ付而者下宿手狭ニ付不当ニ相宿等ニ相成り候得者 成丈ヶ勘弁致し候様

一 先達而以来 御所近辺江相詰居申候御供中 末々迄御支度被遣候所 本国寺江御引取之翌日迄ニ而其後者自分賄ニ被 仰付候

一九日

明十日弥御引取ニ而者御組之方共惣御供之御都合之処 御模様相替り御止メニ相成り候ニ付 明朝大西迄着到ニ参り候様組頭方申聞ル并ニ今日迄者御所内外廻り被 仰付居候得共 今日限りニ而先相見合候様 尤弥之儀者追而被 仰出候之由 口達ニ而右ニ付而者南門御固メも御引拂内丸太町ニ相成り御先手組ニ而持候由

一十日

今朝六ツ時大西江着到ニ罷出ル并ニ本国寺御引取四ツ半時 尤右御迎として惣方共何方江も不罷出

一十一日

左之通り被 仰出

別紙

近来不時御物入節湊何れも及承知候通り御窮迫ニ被為在無御據先達而七ヶ年之間御家中物成三步通り被成御借増 既ニ来年方御返し可被成候之処 去冬被遊御参府候以来 御滞京中并三都之御警衛向 且武器御製造銀等誠ニ莫大之御出高相高 其外不時御入用多之折柄中々以御返之処ニ至兼候得共 御家中之面々何れも当今之時勢 武器用意等可致難儀与深く 御配慮被為在候 依之格別之御繰合を以て未々御年限中ニ者候得共 當秋方物成りニ歩通り御返し被遣 都合ニツ物成り被 仰付候間 先例仕来り杯与申旧習ニ不泥 法外之儉約相努専一ニ相心得 臨時ニ出張等急速之御用 向差支無之様相嗜可申旨被 仰出候

右ニ付御請与して荒尾千葉之助 大西儀左衛門江罷出ル

一十二日

今夕四ツ時組頭方御殿後人丸社江御番所出来ニ付 只今より出番致し候様御殿ニ而御目付方組頭江申聞候由ニ而 即刻ニ番組ニ而出番 尤圓山組とニ組ニ而右御番所相持可申之旨出

番昼夜共時刻六ツ時方六ツ時迄

一十三日

御参内御當番今日方相始り 已後今日方五日目之御出張之事 右ニ付而者御人数も御固メ
罷出ニ方御行列書別紙有之 尤御人数者御参内之有無ニ不拘罷出候事 右ニ付今日者老番
組出張御番組者夜前御番并ニ 御参内無之ニ付罷出ス 則御参内之節者香河組 大西組之
二組 重而之節者圓山 佐分利之ニ組ニ而替りく出張之事
左之通ニ通申通し

御家中之面と従者之背章 胸章御定メ被 仰付候間 早と可有用意 尤委細之儀者御
軍式方頭殿承合可被申候 此旨組頭江も可有通達候 已上

九月十三日

其方共初組中共左之御番所昼夜出番被 仰付候間 御目付承合相勤可被申候 此旨
組中江も可有通達候 以上

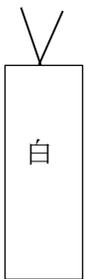
九月十三日

人丸後御番所

此度多人數相詰自他難見分儀も有之候ニ付 夜ニ入候得者直と賦之無差別 左之袖印
来ル十五日方嚴重ニ相用候様 尤兼而法皮御渡し申分江者裏判方御渡し被遣候 其外
之分者自分ニ出来相用候様被 仰付候間 左様被相心得 此旨組中江も可有通達候
以上

九月十三日

一尺二寸



二 木綿ニても晒ニ而も足し
寸 尤片袖ニ付て宜し

一十五日

去ル十三日去月十七日之御裁許被 仰付候由ニ而写し則左之通り

黒部権之介

高澤省己

早川卓之丞

右者去月十七日之夜逢斬殺候段重御役儀を相勤候身分候得者兼と心得方も可有之處
右等不容易場合ニ相成り候上者家断絶被 仰付筈ニ候得共 此度之儀者非常出格之
御含を以家名其俣御立被遣候旨被 仰出候間 家續之儀者間柄方相願候様被 仰付
候事

加藤十次郎

右者高澤省己 黒部権之介 早川卓之丞儀 此度逢斬殺候儀ニ付 御上を憚り致自殺
候段尤之事ニ者候へ共 心得も可有之處 右等不容易次第ニ相成候上ハ家断絶被 仰
付候筈ニ候へ共 左様自殺致し候儀ニ付非常之御含を以家各其俣御立被遣候間 家續

之儀者間柄方相願候様被 仰付候事

此度之一条ニ付而者骨肉之面と難黙止儀も可有之候得共 既ニ非常出格之 御含を以て其御所置被 仰付候 且方今變動且冬迫り御形勢ニ付 多分死士之命を其節迄御差延候 一廉之御用ニ御立被成度 思召之處 私之迷恨を以展腹復讐無数之壯士 今日ニ相果候而者国家臨時之御努ニ相成候儀 甚以 御残念ニ被 思召候間 此邊篤与勘弁致御為第一と相心得差止候様被 仰付候事

此度骨肉之面々其情態を以て悲歎之餘り進退極處ニ至可申与深察入候 此度之一条ニ付而者 中将様種々御配慮被遊 実以御寢食も不被安程之御次第 難黙止儀者尤之事ニ候得共 平生尋常ニ計らい被 仰付難く不得止事御場合 殊ニ方今之御時勢一卒と云共御大切ニ 思召候處 私之復讐止事無シテ天誅壯士数多死亡候事 御国之隊先弱り候儀 深く御残念ニ 思召 実以御苦心被遊候間 此度之儀者非常無御據臨時之御所置被 仰付候儀ニ付 其邊深く相心得忠節を第一と存格別相忍候之様可致 全ク即今之死を御差延 後日非常之場合迄一命を被遺候儀与存候間 御深慮を恐察致し 忠を以孝と可致様厚く及諭候人等此方ニ免シ厚く勘弁可致候 乍去元ハ忠節之心方掛る場合ニ及せる事ニ付 非常之以 思召家名其俣御立被 遊候事ニと存候得者其邊之處厚相考 格別相忍可申 此旨各親族之面と江も可申諭候事

伊勢守様御判

右者御諭之御書之写し 尤詰合之親族不殘被為召御直と御諭し有之由

脱走連中江被 仰渡左之通り

詫間半六

清水乙之丞

河田左久馬

同 清之丞

吉田直人

塩川孝治

次郎八二男足立八蔵

吉岡平之進

渋谷平蔵

同 金蔵

虎夫倅山口鎌之進

隼允弟加須屋右馬久

惣右衛門倅中井範五郎

佐善修蔵

永見和十郎

勘右衛門倅伊吹市太郎

辰之助倅大西清太

大太郎倅中野治平

太田権左衛門

金右衛門倅加藤助之進

其方共儀去月十七日之夜重き御役人共下宿江罷越し及斬殺候段 全ク 君上御大事
之場合与存込身命を忘非常之及所行候段 於其志者尤之事ニ候 乍去重き為法憲御場
所柄をも不憚御役人を斬殺し 良正院江立退御裁許を相待候段 其罪不輕候得共 此
度者非常之御含を以て當職之面々ハ家名其倅御立被遣候間 家續之儀者間柄方相願
可申候 右ニ付一同先當所御屋敷江御呼返し急度慎被 仰付候間 嚴重相心得罷在候
様被 仰付候

右者二十人也 今二人之内奥田万次郎御切腹之由 新庄恒藏御退身之由也 依て左之廿人
者伏見御屋敷江御呼返しニ相成候由

一十九日

左之通り申通し

御家中御認簾背旗自分指物ニ至迄 白之短冊付候様 尤小具足陣羽織野腹等ニ而出張
致し候之節者 先達而被 仰付候袖印相用様被 仰出候間 左様被相心得 此旨組中
江も可有通達候 以上

猶以御軍式方頭殿江承合可被申候 且又組中江も可有通達候 以上

一廿日

左之両通申通し

来ル廿二日 御参内御當番日ニ有之 已後同日方五日目迄之御當番日ニ候間 左
様被相心得 此旨組中江も可有通達候 以上

九月廿日

左之趣被 仰出候間 左様被相心得 此旨組中江も可有通達候 以上

九月廿日

御家中之面々勝手向難渋之向江者是迄簡略場ニ而役場限之見計を以當座御取替致し
来候處 追々拝借高想高間ノ者即年差別立不申向も有之 彼は大枚之御貸高二相成り
無據御勝手方御限繰出し取賄居申候得共 追々御限御繰合付不申処 此度物成りニ
歩御返し被遣候儀ニ付 向後御貸渡し之儀者御差止被成候 尤実分差支候向者同所當
時有限丈ケを以て少し宛之儀者役場限ニ取計可申候得共 身上不相應高御借之向候
者御取替不被遣其内不時入用等無余儀訳有之面々及出願候者取調候上御取替可被遣
候間 即年物成御支配を以て可致上納當御時節柄之儀者何れも相心得居候儀ニ付 万
端厚く奉恐察 成丈ケ御役介筋相願申間敷事

一當節柄何れニ不寄ニ都御警衛詰等被 仰付候処 武器類質物ニ差入 金銀致借用居申

差懸り無據簡略場江拝借申談候向も有之哉ニ相聞以之外之事ニ候兼而被 仰出も有之儀ニ付 此後右等之儀相聞候ハ、双方取糺シ之上 品物御取上ケ急度御答被 仰付候事

一廿三日

五ツ半時御供揃ニ而 御参内御供壹番組今日明ケ番ニ付 式番組出張御出懸ケ備前様江被為 入候由

一廿四日

御供揃五ツ時ニ而御帰懸ケ備前様江被為入候ニ付 御先江御人数御返しニ相成り候由 本国寺江御引取昼九ツ半時

一廿六日 御参内

昨日方御番割改り 伊藤大砲相加り候之由

一廿七日

今日五ツ半時之御供揃ニ而御参内并ニ左之通り申通し

當詰合御人数御取調ニ付 其方共始組中名前并ニ家来人数其品取分明日中可被申達候 此旨組中江も可有通達候 以上

九月廿七日

猶以諸取居申候御渡し手江人之儀者申達しニ不及候之間 左様被相心得 是又組中江も可有通達 候以上

右者組頭方書廻ス

今夕八ツ比方二条御城内出火ニ而先達而被仰出候通り 御本陣前江相固メ候得共 御當番御出張ニ付御所江罷出候様ニとの事ニ而大西初香河一手共出張 菊亭之前ハ相固メ御門内ニ而着到ニ而鎮火ニ付引取

一廿九日

今日飛脚到来致し桂宿師方左之趣被申越候由ニ付写置

宮城権之進殿

阪田猪太殿

鵜殿大隅

桂 六蔵殿

香河伊賀之儀此度隠居被 仰付候ニ付 同人組暫時右隊江御差置被成候間 左様被相心得 相組中江も可有通達候 以上

九月廿三日

今日細川侯御父子被為入早々御帰り 夫方 中将様二条殿江被為入候 御帰り暮六ツ時

○十月二日 但馬殿出立

今日御参内無之一手不残之出張ニ而菊亭江相詰ル并ニ左之通大西方組頭迄申来ル

香河伊賀儀此度隠居被 仰付候ニ付 同人一手組共 暫時遊隊ニ御置被成候間 左様可被相心得候 以上

十月

猶以組之面と江者御国表江相残居申面と方相組江も申通し候様申渡し有之筈ニ候
間 左様被相心得候 以上

一三日

今日四ツ時本国寺江引取御筒テীগキと引替

一四日

伊勢守様 御発駕

一五日

四ツ半時之御供揃ニ而尾州侯被為入 御帰り夜五ツ過

一七日

昨六日御當番日之所御番日相替り候趣ニ而人丸後番所繰上ケニ相成り 今日壹番組組出番
左之趣相觸ル

御扶持方米之内御買上ケ代明八日御渡しニ相成り可申候事

一八日

御勘定所

五ツ半時之御供ニ而 御参内

一十一日七ツ時

中将様 御国江被遊御発駕候事

一十二日

御徒御供被 仰付京地出立致候事

一十八日 帰看致ス

山崎信敬

— 乾三の部 承前 —

小林 孔

(大阪城南女子短期大学教授)

高井 悠子

(三重大学特任講師)

本稿は、前稿の乾三の部の続稿として、以下の凡例にしたがい目録稿としたものである。本稿をもって既発表分の坤の部四冊と、乾一から乾三の部三冊すべてが目録化されたことになる。あわせてご覧いただきたい。

〔凡例〕

- 一、本稿は、大阪府立中之島図書館所蔵『萬色一瞞』全七冊(朝日新聞文庫 226・311)のうち、乾の部三分冊目に含まれる俳諧一枚摺を収録したものである。
- 一、配列は、原本の順にしたがい小番号を記し、該当する年次を冒頭に▼を付して明示した。
- 一、記載項目は、前記の小番号、分類、判型、主催者、画者、画題、彩色、画の配置、筆耕、入集者、段組の順でこれを示し、必要事項を備考に※を付して加えた。
- 一、分類は、歳旦、春興、夏興、秋興、冬興、歳暮、追善、慶賀、その他とし、その他に分類したものはその内容を備考に記し

た。

一、判型は、大半が全紙大であるが、半裁以下のものについては坤の部の凡例にしたがった。

一、主催者は詞書などで判明する場合を除き、おおむね最終行の人名を採録した。

一、作品に画が含まれる場合、画者、画題、彩色、画の配置を記した。

一、彩色は、多色摺の場合は○を付し、単色摺の場合は「単」と記した上で()内に色を示した。

一、画の配置は、一枚摺を四分割した場合の右上をア、右下をイ、左上をウ、左下をエとし、画像が含まれている箇所を記号を用いて示した。

【例】

ウ	ア
エ	イ

一、画者の情報がない場合は「画者不明」と記し、現時点で判読できない印記がある場合は「画者未詳」とした上で画像を付した。

一、入集者は、一枚摺に含まれる作者名をすべて採録した。また、

肩書がある場合は人名の前に（ ）で示し、連句、漢詩、和歌等の作者は□で囲むこととした。なお、段移りがわかるように、段末の作者に「印をいれた。「斑竹」、「班竹」等、入集者の表記が二種類確認できる場合は一方に統一した。同一人物とおぼしき番号に表記のゆれのある場合は、「ゆきを」、「ミき雄」、「多代女」、「きく雄」、「起久守」のように統一を加えたものがある。「己有」・「已有」・「已有」、「烏律」・「烏津」及び「萬頂」・「萬頃」は同一人物かと思われるが、判読上、文字通りに活字化した。

一、句数は、半裁以下のものについてのみ採録したが、全紙の一段組のものは原則として句数を数え、連句などが含まれる場合はその旨別に明記した。なお、前項の入集者に関連して、連句の場合、同一連衆でくり返されるものは、たとえば、五吟半歌仙などとした。

一、行数は、同様に半裁以下のものを対象とし、年記、人名、画中詞および画にまつわる記載を除いた本文とした。

一、備考には、年記がある場合は原本の通りこれを採録し、その他については前記の内容を含め、必要に応じて適宜記載を加えた。

一、表記は可能な限り原文どおりとした。なお、経年の擦れで判読できなかった文字および想定される文字が表記できなかったものに関しては□で、推定できる文字に関しては「」で示した。

▼嘉永元年

61 慶賀 全紙 花溪 清亮 伊勢海老・橙図 ○ アイ ×

梅明・花溪・芭枝・二芳・文暁・鷗哥・恕堂・北冬・(京)梅室・杜鷲・木容・素瓦・有節・(ナニハ)鼎左・素屋・(エド)見外・墨芳・一菜・(カヅ)卓丈・北山・大夢・悠平・柳壺・翠臺・里魴・丹嶺・霞郎・鶯呼・賀水・(エツ中)可丈・可庭・(ノト)晚籟・初六・眉月・重峰・春江・梅朗・白之・雪蛩・以外・呂鳳・冠李・廉宣・柳堤・白桃・真人・樂只・松山・大路・魯川・古雀・竹塢・文洞・佳暁・李旭・竹遊・梧郷・士交・柏茂・紫麦・葛山・鳩来・李山・梅良・和柴・兔白・呂水・其兆・花汀・一松・柳翠・甫雪・免洩・恕堂・花溪 一段組

※ 「嘉永申のはる」／三巴園花溪初老賀

62 慶賀 全紙 野巢 圭岳 橘懸図 ○ イ 半儷

由誓・祖郷・荷少・瓦村・葱水・夷則・充・松什・逸洩・半月・見外・好甫・茶静・流芝・臥春・坦々・奇洩・伯遠・西馬・溶々・南枝・松宜・普水・在爾・山外・良兔・遅流・謝堂・得蕪・淇斎・丁知・為山・太珉・梅室・岱年・祭魚・松芳・九起・梅通・杜鷲・文翠・林曹・白鷗・鼎左・松隣・素屋・冬岐・礪山・映門・悠々・半谷・桑葉・柳壺・雀叟・雅琴・黄山・而后・月底・鵬居・蓬宇・岱完・立宇・五渡・欽哉・嵐斎・乙良・春室・茶山・鳳羽・璫山

古翠・二丘・擔月・水竹・吟霞・御風・和好」・多代女・清民・
英泉・太費・尊阿・禾月・一止・心阿・よし香・左涯・友甫・陶々・
香為女・蝶巢・可都良・古文・青洲・かね女・みつ女・五粒・
尺葉・市居・貞松尼・以戌・野巢・野巢・一具・一具 二段組

※ 「戌申弥生」／小林野巢母堂七十二の賀

63 その他 全紙 梅室 吞舟 御車函 ○ イ ×

由誓・松什・山外・亀渕子・鬼阿仏・羅紅女・卓郎・惟草・得蕪・
丁知・茶静・半月・大鵬・伯遠・万古・見外・流芝・祖郷・梅笠・
百丈・双・秋香・南枝・小柯・荷少・鳥吟・ミもと・萬里・幻外・
氷壺・西馬・充・吾老・文明・梅岐・逸渕・一具・遅流・弄化・
普陽・為山・(上毛) 布水・(下毛) 嵐斎・未足・(デハ) 御風・(ラク)
一止・多代女・清民・松洞・禾月・溶々・(越后) 桝儀・春室・
茶山・乙良・(越中) 恕兮・(カヅ) 柳壺・大夢・(ヲハリ) 而后・
黄山・鳥律・一清・梅裡・李曠・思文・応知・月底・(ミカハ)
蓬宇・石采・(遠江) 杜水・聴雨・(スルガ) 漣山・碧山・(カヒ)
欽哉・可轉・(サガミ) 立宇・(安房) 玄亥・金呂・(武) 太良彦・
野中・五渡・(上サ) 呼丈・音人・霞雪・菁莪・嵐湖・明樂・月之・
(下フサ) 鳩羽・江月・李峰・良召・既来・圭齋・春雄・星齋・
吳麦・文宜・春水・賈舶・玉秀・南窓・吳山・白毛・松朗・帟立・
柳雪・松月・可実・俊風・東代・龜遊・竹山・雨柳・東山・
そのめ・市産女・白錦・市隠・大乃・恵山・旭窓・砂一・羽中・

柴藤・里忠・寒橋・丈山・弥生・松青・融州・芝生・山芝・桃雨・
分雅・さくめ・成雨・大眠・美白・完倉・(アフミ) 礪山・月坡・
霞瀧・(イセ) 都岐雄・霞汀・柳塙・岐蝶」・(イセ) 雀叟・梅曦・
恵雨・桐一・(大坂) 林曹・白鷗・素屋・松隣・桃室・鼎左・
(サカイ) 此松・休叟・(ハリマ) 必山・(ミマサカ) 真厩・(ビゼン)
布国・(サヌキ) 木長・(イヨ) 鶯居・(トサ) 古鳳・(ヒゼン) 悠々・
(タンバ) 九花・(京) 岱年・梅通・有節・道機・丈翠・禾明・百古・
杜鷲・淡節・素屋・石堂・木容・(在京) 溪斎・梅室・交水・梅室・
更水 二段組

※ 「嘉永紀元首夏」／更水浪花送別。更水は北総の人、京から浪
花へ下る送別の摺物。

64 秋興 全紙 里作 圭岳・南叟 鬼灯・菓子函 ○ イ ×

梅室・岱年・杜鷲・有節・梅通・九起・鼎左・素屋・曲阜・虚白・
(イセ) 雅琴・黄山・野巢・多代女・(上毛) 一朗・五渡・南々・
由誓・伯遠・山外・岳陰・松什・為山・西馬・溶々・一具・
(在北越) 抱儀」・(古人) 卓池・乙良・春室・鼎湖・北洋・茶山・
加孫・流憩・かつミ・山斗・好静・柳村・松涛・吏川・世拳・春
洲・梅村・和夕・鶯里・湯斎・乙語・守哉・緑太」・蕉古・花芳・
長翠・一亭・里風・巨石・椿雨・憲貴・東茂・其東・宗外・有中・
はた雄・文帯・古棠・其山・春遊・李朗・(催主) 里作・(百明更)
岱雲・ちから 三段組

※ 「丁未とし」／弘化四年

65 春興 全紙 西畴 小邱 蕪村画練供養図 ○ アイエ

淳堂幽人

梅室・岱年・道機・梅石・虚白・有節・默池・芳英・九起・鶯宿・
鼎左・其山・為聲・柿守・杜鴻・松隣・素屋・礪山・文翠・石外・
曲澗・淡節・芹舎・梅通・而后・李曠・梅理・一清・應知・鵬居・
思文・李裳・我竟・黄山・可大・杜陵・如々・悠平・季節・御風・
落丈・清民・江三・多代女・二柏・湧瀧・塞馬・蓬宇・水竹・
一具・万古・祖郷・波鷗・西馬・小柯・見外・伯遠・幻外・松什・
溶々・樹石・水壺・丁知・逸澗・鶯所・流芝・永久・白起・半月・
瓦村・静池・為山・由誓」・季珉・眉白・夕照・飛亭女・梅逸・
道雄・芹洒・白峯・古巷・壯王・木山・可静・穉香・錦嶺・守年・
阿水・葦沙・芽昌・汀柳・蕉月・稻臺・梧葉・鷺眠・乙良・竹堂・
西畴 二段組

※ 「戊申春」

66 慶賀 全紙 鼎左 画者不明 童翠棋書画風揚図 ○ イエ ×

草斎・水月・素屋・松隣・可兆・眉年・倚州・月江・其珀・斑竹・
里柳・梅弟・有中・不角・芝耕・可就・芦郷・香隣・四竹・柳華・
竹馬・松雪・万頂・秋岨・(天和)奇翠・(伊せ)五鈴・(伊せ)龜山・
(伊せ)角洲・桃室・鳳車・卦龍・井資・眉山・其山・青山・光林・

友之・松翁・雨外・買山・草居・月人・清機・荷涼・楓可・古松・

李曉・柳柯・杜鴻・柿守・芦室・奇選・松塘・旭峯・文賀・林亭・
秋亭・流霞・蒼江・桐江・友月・朝霧・俗洲・寰一・板山・柳井・
庵女・半学女・美角女・井竹女・呂国・鶯宿・白鷗・林曹・祇白・
月桂・桃年・盾尺・臥堂・蘭操・三津里・桃雨・万寿人・秦舎・
素外・三松・嗽石・(江戸在坂)春光・(江戸在坂)蟻水・(宇和島同)
狙雨衆・(秋田同)國彦・(和哥山)月下・(和哥山)琴風・(和哥山)巴曉・
(和哥山)芦汀・(南山)閑那・(南山)一峯・(南山)蟻石・(大和)
幹陰」・(甲斐)欽哉・(三河)枝墨・(伊勢)梅曦・(伊勢)雅琴・(伊勢)
素留・(伊勢)禾麦・(伊勢)惠雨・(伊勢)いはほ・(伊勢)稻雲・
(近江)蕙逸・月坡・(若サ)水哉・(丹バ)湧滝・(加賀)悠平・(加賀)
柳年・(加賀)素玉・(加賀)固来・(加賀)柳壺・(加賀)卓丈・(出羽)
御風・(兵庫)星谷・(兵庫)白雪・(兵庫)菁々・(兵庫)孔阜・(兵庫)
北策 二段組

※ 「嘉永紀元戊申春」／鼎左結庵記念／67と一対

67 慶賀 全紙 鼎左 画者不明 鳳凰風図 ○ ウ ×

(京)梅室・岱年・杜鷺・有節・道機・淡節・祭魚・曲澗・九起・
瓢斎・默池・芹舎・禾明・雨翠・束塢・枝月尼・(嵯峨)石外・
(嵯峨)文翠・(嵯峨)柏翠・(鳥羽)如柳・(鳥羽)芦風・(伏水)岳鳳・
(江戸)由誓・一具・松什・得蕪・卓郎・溪斎・見外・流芝・為山・
祖郷・西馬・鷺眠・柏椅・一菜・丁知・伯遠・荷少・白起・言山・

和集・月臺・永久・山外・可籥・茶靜・太良彦・逸瀨・(奧)

多代女・(奧)清民・(奧)宗古・(奧)一止・(奧)江三・(秋田)蝶齊・

(秋田)素山・(秋田)西池・(秋田)山秀・(越后)北洋・一雨・春室・

(越中)恕兮・(能登)呂鳳・(能登)其村・(能登)荷月・(傳法)宋洋・

(傳法)一東・(伊丹)紫金・(伊丹)太乙・(伊丹)曲阜・(伊丹)松齋・

(伊丹)除夕・(伊丹)桃雄・(伊丹)太峰・(伊丹)夏玉・(伊丹)有三・

(池田)光山・柳家・(柱本)都春・(茨木)鼎居・(茨木)蓬壺・(茨木)

茨童・(茨木)柳月・(茨木)茶朝・(西宮)さく雄・(灘)一樵・(灘)

素樹・(河内)不二門・(河内)左栗・(河内)自来・(河内)松眉・

(河内)瀧川・(河内)南齡・(住吉)波山・(堺)麥雨・(堺)此松・

(播磨)必山・(播磨)為風・(播磨)悟一・(播磨)牙睡・(播磨)竹賀・

(播磨)聰洋・(播磨)仙羽・(播磨)春郊・(播磨)白鳳・(美作)謂孝・

(美作)龜由・(美作)岳久山・(美作)耕雨・(美作)芝英・(備中)

香雨・(備中)梅雪・(福山)蘭雨・(福山)鳶哉・(福山)東塙・(福山)

可咲・(福山)紅顔・(福山)化石・可然・(福山)雪塙・(廣島)甘古・

(廣島)寫山・(伯雲)松語・(伯雲)亜草・(伯雲)久米人・(伯雲)

秀翠・(伯雲)春坡・(石見)青池・(石見)一桃・(石見)一池・(石見)

一松・(石見)梅日・(石見)半月・(石見)夕嵐・(石見八才)一舟・

(石見)可陵・(石見)土篤・(石見)花舫・(石見)霞松・(筑前)

与かろ・(筑前)醉里・(筑前)古柳・(筑前)由太・(五島)雪洞・

(淡路)鷗池・(淡路)希康・(小豆島)樂水・(阿波)左一・(松山)

鶯居・(松山)春蟻・(松山)小鸞女・(宇和島)蘇来・(宇和島)外一・

(土佐)物海・(土佐)魚村・(土佐)素六・(土佐)壺通・(土佐)棹露・

(土佐)花佛・鼎左

二段組

※ 66と一對

68 追善 全紙 稻彦 南嶺 群鶴図 ○ イエ 淳堂幽人

蓬仙居士・積翠居士・梅室・淡節・道機・梅石・梅通・而后・

季曠・鶯宿・松隣・素屋・水竹・蓬宇・柳壺・悠平・多代女・

一止・露丈・御風・一具・祖郷・万古・西馬・由擔・春室・鶯眠・

玉岱・飛亭女・和風・尔弓・季眠・淇水・椿斎・香哉・些龍・

五綱・于均・守般・茶好・泰岱・志興・且令・鶯聲・東輕・鶯庭・

文水・文今・草丘・秀乙・此雪・自專・草蛩・巨椎・理明・雄飛・

夕照・竹堂・木山・可靜・芹洒・白峰・葦沙・道雄・守年・北里・

古巷・梧葉・秤香・眉白・梅逸・汀柳・芳昌・蕉月・水涛・阿水・

西疇・乙良・稻彦 一段組

※ 「戌申之暮春」／積翠十七回忌

69 夏興 全紙 静里 圭岳 百合図 ○ イ 仙鳧 ×

(上総)一澄・梅守・水哉・藍守・月守・黒守・里山・田水・玉山・

柳窓・椿齡・梅鶯・石什・浦民・龜豊・百度・東湖・積善・泰山・

渭丈・黒照・素蕾・二雨・(安房)平雄・三友・遲翠・あや雄・

鳳兮・悦寿・鏡湖・波靜・玉池・松雫・汀月・玉瀨・月園・龜恐・

龍花・牛舞・桃里・道雄・木二・月人・梅室・由誓・松什・得蕪・

伯遠・西馬・椿齡・隸宇・一雅・逸瀨・南枝・叩月・石居・為山・
由之・卓郎・一具・(出羽)御風・(伊勢)惠雨・(下毛)菫香・(武蔵)
墨農・(越后)乙良・(浪花)素屋・(加賀)柳壺・見外・梅什・静里

※ 「嘉永戊申水無月」

二段組

70 秋興 全紙 一具 関岱 杵兔図 ○ アイエ 半橋閑人

乙良・沙堂・鷺眠・巴陵・応居・天郎・嘯松・雪潮・抱儀・茶山・
春成・清水・晴楓・素年・花都・友徳・春湖・梅逸・越彦・可成・
李年・碩宇・半橋・以逸・春室・四山子・如息子・亀洌子・為山・
西馬・柳塘・太乙・曲洌・阜雄・野巢・琴堂・太年・賀水・臥雲・
里水・梅通・未成・涛鯉・丁知・梅曦・芹舎・楓下・得蕪・遅流・
有節・蓬陽・文仙・御風・梅室・素屋・吟霞・松什・鼎左・惠雨・
交水・素楓・万頃・直有・江三・雅琴・鶯呼・南枝・曲阜・祖郷・
雪居・柳壺・静池・伯遠・言山・一具

※ 「嘉永紀元秋」／散らし書き

71 秋興 全紙 青池 吞舟 紅葉狩図 ○ アイエ ×

(洛)梅室・岱年・杜鷺・九起・祭魚・禾明・(鳥羽)如柳・(浪華)
鼎左・鶯居・素屋・松隣・光林・可兆・卦龍・杜鴻・秋唾・里柳・
文賀・井竹女・一菜・(いたミ)太乙・曲阜・(傳法)采洋・(江戸)

龜洌子・由誓・一具・逸瀨・卓郎・得蕪・淡斎・見外・松什・
為山・祖郷・西馬・和集・丁知・荷少・伯遠・柏樹・可簫・南枝・
東洲・白起・言山・太良彦」(ミカハ)水竹・流芝・(ヲク)多代女・
(アキタ)御風・(在坂)国彦・(アキ)甘古・(トサ)花仏・魚村・
(素六改)南洋・棒露・(イセ)五鈴・雅琴・稻雲・(イヨ)鶯居・
(左海)此松・麦雨・此方・(かふち)左栗・不二門・(石見)一池・
一桃・青池

二段組

72 秋興 全紙 巴陵 抱儀 露草図 ○ アイ 仙鳧

抱儀・春室・蕪生・等椽・麻三・夏木・好静・巴陵・半湖・乙良・
玉岱・岳陰・月舫・得蕪・一具・松什・伯遠・見外・南枝・丁知・
西馬・為山・由誓・卓郎・梅室・岱年・芹舎・鼎左・素屋・蓬陽・
祭魚・梅通・道機・奇哉・可長・大受・波同・有節・悠々」碎圭・
澄秋・凌再・嘯松・雄飛・西畴・鷺眠・天花・如瓶・哥月・五峰・
後水・曾道・魚陳・かつら・石漿・鳳梨・竹雅・雪叟・自水・
三保・太柳・里秀・水月・綺山・積流・巴陵

※ 「戊申の秋」

二段組

73 秋興 全紙 波同 圭岳 雷神図 ○ アイエ 仙鳧

(京)梅室・風光・岱年・文翠・有節・禾明・九起・杜鷺・梅通・
節之・松秀・旭洲・(ナニハ)鼎左・白鷗・虎尺・其山・素屋・
(ヒゼン)悠々・岱雲・(イヨ)鶯居・漁翁・葵笠・蓼村・呉雪・

(アフミ) 霞洲・(イセ) 鶴悠・五鈴・昌風・鶴渚・岐蝶・都岐雄・
 (ヲハリ) 李曠・思文・而后・黄山・(ミカハ) 流芝・(遠江) 杜水・
 烏谷・(スルガ) 碧山・岱完・麗々・漣山・(エチゼン) 布珀・(カヅ)
 大夢・柳壺・梅嶺・(ノト) 竹塙・龍枝・鳳兮・(越中) □□・□□・
 (エチゴ) 五全・茶山・安雅・乙良・西畴・春室・(テハ) 璪山・
 月山・二丘・(オク) 禾月・舍用・多代女・(下毛) 其翼・子蓉・
 嵐齋・(シモフサ) 交水・(ムサシ) 五渡・得蕪・南枝・峽舍・萬頃・
 言山・春山・叩月・松什・伯遠・荷少・成可・山外・範成・東盛・
 森布・左岳・徐道・怡兮・杜有・湖十・一具・龜渌子・為山・
 遲流・鬼阿仏・双・青柿・百丈・雪年・普陽・豊川・甫山・雪哉・
 みもと・万里・如草・太年・大鵬・卓郎・穹外・万千・淨勇・
 雨清・帰一・西馬・見外・一雅・(在府) 雨堂・惟草・秋香・南柯・
 潤翠・芝角・米山・尾山・□□・静池・半月・青府・禾丈・瓦村・
 祖郷・可簫・弄化・松堂・桃交・花外・溪齋・木容・桐古・念々・
 夷則・雨江・一簑・平々・万古・鳥吟・拙誠・了枝・太珉・在尔・
 由誓・ちかき・兔園・波同・波同・波同・波同・波同 三段組

※ 「戌申季秋」

74 秋興 全紙 馬兄 月窓 桜島図 ○ アイウエ 得齋

(京) 梅室・杜鷲・九起・有節・岱年・(ナニハ) 鼎左・白鷗・林曹・
 一菜・素屋・(チクゴ) 山公・(ヒゴ) 十帟・(ヒウガ) 双鳥・駝岳・
 (ナガサキ) 駟童・(ヒゼン) 悠々・大素・眉山・寸長・有両・(イヨ)

鶯居・竹烟・(テハ) 鳳樓・松丈・楚宮・穎甫・芝葉・(トサ) 古鳳・
 雲外・撫外・婦牛・元史・夢迹・素六・大龜・嵐夕・(アハヂ) 希康・
 (アフミ) 砺山・(イガ) 養瓜・(イセ) 桐一・雅琴・(オハリ) 黄山・
 而后・(ミカハ) 水竹・完伍・蓬宇・流芝・(トホツウミ) 杜水・
 (スルガ) 漣山・(サガミ) 可合・立宇・(カヒ) 欽仲・(カヅ) 鶯呼・
 (エチ中) 恕兮・(エチゴ) 春室・茶山・月昇・好静・乙良・(テハ)
 御風・稻州・(オク) 多代女・禾月女・(ヒタチ) 李郷女・(シナノ)
 葛古・青池・□老・(上ツケ) 心足・臥雲・雪居・琴堂・米室・
 谷郊・吳羊・雫山・如石・文河・俗郊・木公・(下ツケ) 嵐齋・
 (ムサシ) 竹山・琴松・汶乎・誠盧・千瑞・都丸・寄三・南々・
 由誓・一具・遲流・山外・念々・見外・為山・伯遠・松什・萬古・
 祖郷・杉雨・普陽・惟草・梅笠・可簫・瓦村・得蕪・四山・逸渌・
 月窓・鶴翁・永久・木虬・螻翁・塘芝・巴雪・秀守・斗文・史涼・
 数子・月ふる・鶯所・三和・柴遊・鳥吟・東柳・楠陽・柳絮・
 苜丸・千波・五雀・梅彦・呂風・保山・音好・弘湖・素明・西馬
 (サツマ) 惺々・素郊・得焉・鍊冠・馬兄 三段組

※ 「嘉永紀元晚秋」

75 冬興 全紙 五畝 虚舟 笛図 ○ アエ ×

梅室・溪齋・梅通・松隣・柿守・素屋・鼎左・岱年・胡蝶・香池・
 介焉・橘林・白止・舟横・米止・杞柳・松圃・米山・蟻秦・松柏・
 (女) 香山・萬丸・回溪・虚舟・蕪一・五畝

26 27

※ 「戌申初冬」

76 秋興 全紙 呂国 岸讓 瀧紅葉図 ○ ウエ ×

(京) 梅室・芹舎・禾明・岱年・(三河) 水竹・石宋・(江戸) 茶静・伯遠・(越后) 春室・乙良・(出羽) 御風・(加賀) 悠平・(能登) 呂鳳・(撰州) 曲阜・都春・(明石) とく女・(備中) 岱静 (在坂肥前) 寄思・月坡・其山・鼎左・井左・松隣・素屋・卦竜・松静・春光・厩尺・松室・烏誠・友之・杜鴻・稻處・芦室・不角・蘿月・耕水・磯遊・呂国・呂国 二段組

77 その他 全紙 百古 義亮 岩間竹図 ○ アイ ×

(エド) 得蕪・南枝・琴碩・伯遠・為山・(カナ川) 潮月・(玉川) 繁茂・(在エド) 万那・(カミ) 悠平・棋推・(フト) 白然・九五・立所・鳳兮・(エチゴ) 春室・九室・偉父・大経・子英・五調・雨静・孤舟・(サド) 周斉・為言・(タンバ) 桂眉・耕雪・呉秀・子享・(タジマ) 桂秋・忠雄・(ハリマ) 愿泉・古谷・北梅・此石・尺西・必山・鴉雛・聴洋・一簣・(ミマサカ) 真屑・(ヒゼン) 討風・北明・(サヌキ) 松子・(イヨ) 鶯居・春蟻・少鸞・宗雪・葵笠・(トサ) 燹外・文操・霞柳・化昇・(アワヂ) 暁梅・玉梅・希康・才蟻・(ワカサ) 水哉・微笛・柏石・(周ハフ) 柳坡・長瓠・(周ハフ) 椿斎・文水・素兄・(チクゴ) 吐雲・葵堂・(大スミ) 柳爽・季風・滄川・和流・竹哉・(ナニハ) 鼎左・林曹・(ナニハ) 素屋・李暁・

松隣・(兵ゴ) 柏翠・(玉川) 都春・(ナダ) 一撫・草居・(サカヒ) 此松・(カハチ) 孤杉・稻海・(イガ) 養瓜・(イセ) 雀叟・梅曦・一圭・梅西・(アフミ) 楓下・盧岳・虚栗・千翠・(ヤマト) 芳举・宗眠・(ヨシノ) 霞暁・可撫・西坡・(ヨシノ) 静洌・木谷・里喬・瓢斎・杜蓼・丈翠・桃下・松郎・芹舎・梅通・黙郎・梢羅・東樹・始風・尺木・松雨・禾明・黙池・乙雅・枝月・可久・玉芝・石堂・九起・岱年・梅室・百古・百古 二段組

※ 四季混在

78 追善 全紙 湧瀧 画者不明 活花図 ○ イ ×

芭蕉翁・(京) 梅室・鸞兄・乙雅・(ナニハ) 鼎左・松隣・稻處・光林・素屋・(イセ) 雅琴・(サガ) 百和・(ヒカミ) 真澄・野卵・(サハ山) 湖舟・湖静・童遊・栗广呂・松月・基居・一鷺・鳩籟・(ホウキ) 一簣・斗才・(穴太) 三千雄・竹葉・(西条) 兼馬・秀月・(寺ムラ) 愚佛・小島・椿交・(神原) 南枝・一枝・梅枝・(ホツ) 世外・龍眼・魯雄・其松・耕雪・(シノムラ) 源尾・九華・大年・雲帶・竹坡・芦風・百工・思楽・梅林・富山・於二丸・草楽・一堀・梅溪・一藤・湧瀧 二段組

※ 翁忌

79 追善 全紙 蘭操 秋亭 菊・椿・香炉図 ○ イエ 一菜

蘭秀居士・蘭操・鼎左・桃雨・三津里・(女)井竹・光林・秋暉・
可兆・桃室・不二門・左栗・松隣・荷涼・雨外・草居・素屋・

楓可・卦龍・月所・買山・松塘・月人・文賀・井左・水月・呂国・

秋亭・鶯宿・里桃・友之・井資・桃枝・寿船・鳳車・一菜・呂国・

桃室・井左・水月・素屋・松隣・井資・光林・可兆・鳳車・卦龍・

友之・雨外・買山・荷涼・草居・月人・翠園・秋暉・楓可・里桃・

秋亭・松塘・文賀・井竹・万頂・一菜・(かふち)月所・不二門・

左栗・三津里・桃雨・桃枝・寿船・鼎左・蘭操

※ 「嘉永紀元仲冬霜降月始二日」／蘭秀一周忌追善

▼嘉永二年

80 慶賀 全紙 臥堂 梅洲 梅・椿図 ○ イ ×

(洛)梅室・杜鷺・鼎左・呂国・水月・鶯宿・素屋・井資・船齋・
松隣・砂月・如樂・哥友・里水・化夷・井蛙・花谿・玉呂・松月・
茂雄・斥友・芦笛・乙鵝・桐月・豐水・逸伯・竹葉・驥朝・朝一・
都宿・枝雀・山雪・有公・旭峰・松陽・棠初・芦影・荷涼・吳鳥・
貴笛・丸人・花居・一澄・梅茶・照門・米山・五葉・鶯室・松室・
指山・為聲・大年・青山・可兆・光林・咄屑・井左・白鷗・竹児・
曾洲・青良・湖石・竹一・山朝・竹人・菊英・其聲・春好・三瓜・
英之・青友・松霏・不角・巢夜・山東・九瓜・米老・艸齋・臥堂

二段組

※ 「嘉永二鷄旦」／臥堂立机披露／81と一對

81 慶賀 全紙 臥堂 米冲 終鬪頭図 ○ ウ ×

天来・蟻兄・月江・松齋・月桂・牛角・並隆・九花・松笠・白馬・
林亭・其翠・其柳・静升・梅子女・其雪・蒼江・橘子・千万女・
庵女・梅壺・木岱・鯨室・篤逸・都迎・蒼々・蒼流・貞路・桂之・
素雪・崑友・石橋・芦雀・芦江・芦泊・春雅・万利・眉山・百堂・
桃室・山麗・矩洲・貞眠・井竹女・一菜・史山・(直九更)奈良丸・
觀山・梅蒼・松寿・友月・小蔦・月方・魚柳・三五・貞祥・春生・
珉朝・春鳥・松寿・荷村・芦外・残月・(未七巳)月景・雪逕・
句月・桃岐・(テンホ)一東・此山女・柳守・蝶雅・枯雪・艸賀・
艸左・艸峰・艸洲・可丈・湖風・桃歲・八重女・好一・月丸・
桃左・王巴・砂山・二木・丹柯・春樂・梁女・臥溪・乙三・
子日庵・葦庵

二段組

※ 「嘉永元申冬」／臥堂立机披露／80と一對

82 春興 全紙 崑年 圭岳 猪午睡蓬菜図 ○ アイ 世笑

龜瀨子・花瀨女・瀨叟・瀨鯉・由誓・伯遠・成可・折桂・得蕪・
萬頂・南枝・丁知・松什・□村・□□・□□・□□・□□・欣志・
梅笠・卓郎・叩月・帰一・萬子・暇々・魯心・見外・山外・祐之・
宗一・琴雅・逸瀨・松堂・花外・桃交・波静・保山・豊川・巴雪・
芝角・みち雄・五石・雪年・葱水・白桂・梅露・文明・吾老・

孤山・本光寺・(雲水) 桐古・索行・鱸江・淡節・夷則・月坡・
 柳五・石堂・音好・静池・岳陰・一菜・立器・石體・素明・南涯・
 佳峰・石聲・玄子・波同・(日向) 双鳥・駝岳・(サツマ) 馬兄・
 族冠・(トサ) 嵐夕・元史・古鳳・花仏・(アハ) 木兔・鳳棲・(イヨ)
 鶯居・菊圃女・□□・□□・□□・□□・□□・□□・鼎左・
 白鷗・林曹・(サカイ) 此松・(京) 杜鷲・禾明・道機・文翠・祭魚・
 有節・芹舎・梅通・風光・岱年・(近江) 砺山・(イセ) 桐一・雅琴・
 雀叟・恵雨・岐蝶・(ヲハリ) 李曠・思文・蓬陽・一清・而后・
 梅裡・静嘉・應知・黄山・(ミカハ) 水所・蓬宇・(遠州) 杜水・
 (スルガ) 漣山・見洛・肆山・(サガミ) 立宇・丹堂・如々・可合・
 (ムサシ) 墨卷・五渡・素竹・寄三・南々・太良彦・(房州) 元玄・
 (カツサ) 呼牛・未成・柳塘・霞雪・明樂・音人・(上毛) 梅椎・
 布水・飯俗・琴堂・(下毛) 嵐齋・其翼・未足・(ヒタチ) 義香・
 野巢・友甫・(ムツ) 清素・清民・英泉・江三・一止・禾月・(デハ)
 御風・露丈・素山・里塘・西池・二葉・□□・□□・□□・□□・
 □有・帰山・小鯤・(サド) 月潭・為言・文仙・梅齡・(フト) 勤泥・
 (カゴ) 大夢・柳壺・丹嶺・(越中) 筍堂・不及・恕兮・(越后) 乙良・
 鷺眠・茶山・好静・巴陵・ちから・芳水・(シナノ) 圭布・文叔・
 梅塙(カヒ) 可轉・雪底・如山・(下フサ) 江月・李峰・春雄・圭齋・
 その女・以兄・大乃・恵山・呉山・帟立・素信・白毛・すかを・
 霜因・良台・斗文・玉秀・山芝・羽中・砂一・芝生・俊風・竹山・
 斐石・可実・成雨・(九々翁) 梅室・梅室・(ヒゼン) 悠々・
 (チクゼン) 雨堂・(越后) 春室・(ムツ) 多代女・(ムサシ) 溪齋・

(江戸) 一具・垣々・好甫・祖郷・惟草・峽香・大鵬・念々・幻外・
 鳥吟・秋香・太年・漣々・夏・波鷗・氷壺・大英・可簫・万里・
 普陽・弄化・百丈・梅岐・充・守耕・萬古・木容・遅流・(下総)
 鳩羽・白錦・交水・為山・岳年
 四段組

※ 「嘉永二酉春」

83 春興 全紙 琴堂 素英 絵馬堂休息図 ○ アイウエ 半仙

(ミヤコ) 梅室・杜鷲・九起・淡節・岱年・(ナニハ) 鼎左・白鷗・
 稲處・素屋・(アハ) 鳳棲・木虬・穎甫・桑葉・(イヨ) 鶯呼・(トサ)
 古鳳・雲臥・市鷗・化昇・婦牛・曾逸・貨外・嵐夕・(ヒゼン) 悠々・
 大素・(サツマ) 鍊冠・馬兄・(エチゴ) 春室・鷺眠・茶山・月昇・
 ちから・好静・巴陵・乙良・(デハ) 御風・素山・稲洲・(ヲク)
 多代女・(イガ) 養瓜・(イセ) 桐一・雅琴・(ヲハリ) 黄山・梅裡・
 (ミカハ) 流芝・□□・(トホツウミ) □□・(シナノ) 葛古・圭布・
 青池・雪老・常風・(下ツケ) 嵐齋・桃仙・(ムサシ) 南々・寄三・
 竹山・誠庵・為一・玉芝・琴松・千瑞・汶平・五渡・魯仙・(雲水)
 抱儀・肆山・竹煙・亀渕子・一具・由誓・得蕪・遅流・松什・
 伯遠・山外・卓郎・念々・見外・氷壺・成可・太年・祖郷・萬古・
 梅笠・杉雨・瓦村・折桂・静池・可簫・惟草・千兮・鳥吟・為山・
 百丈・(四山子) 又々・月窓・永久・柴遊・巴雪・月ふる・蝮翁・
 鶯所・苜丸・(女) 鳳子・(女) 数子・初女・竹臣・千波・楠陽・
 柳絮・保山・玉甫・梅彦・白雀・音好・弘湖・素明・逸渕・西馬・

(上ツケ)分尾・臥雀・雲居・□□・□□・□□・六園・真笑・
一朗・良斗・飯岱・薺垣・東雲・心足・半湖・逸芙・春水・梅丸・
緑葉・俣朗・如石・無名・蛙園・素三・三封・如僊・几笑・松蔭・
如牛・可考・笥言・吳羊・吞吹・律調・雫山・雷村・各朗・天朗・
巴明・原堂・可申・立志・白鷗・松雨・霞村・吳澄・一呂・琴堂

二段組

※ 「己酉春」／奉納額二面に春興の句を記す。一面の額に是真
の梅花図がある。

84 歳旦 全紙 英泉 椿年・臥春 梅花・七福神扇図 ○

イエ 仙亀

(京)梅室・岱年・有節・枝月・梅通・淡節・嬰齋・石外・閑令・
九起・(ヒゼン)悠々・甫田・岱雲・菊圃女・(アハ)桑葉・鳳棲・
(ヲハリ)而后・梅裡・一清・黄山・(ミカハ)水竹・塞馬・蓬宇・
(エンシウ)嵐牛・(スルガ)漣山・碧山・(ヒタチ)野巢・友甫・
(エツ中)盧先・(日光)未足・(エチゴ)乙良・春室・好静・桐齋・
鷺眠・茶山・(イセ)霞汀・雅琴・春魚・五齡・いはほ・虚舟・
桐一・文外・都岐雄・淇石・(大坂)鼎左・其山・素屋・林曹・
(デハ)御風・素山・霞山・二葉・璫山・玄子・二丘・(雲水)呂川・
如草・繁茂・銀岱・貞士・石聲・桐古・田禾・(江戸)一具・由誓・
万古・抱儀・卓郎・太良彦・西馬・伯遠・松什・惟草・夷則・
祖郷・遅流・流芝・為山・(仙ダイ)心阿・禾月・白水・一止・

舍用・宗古・詠柳・双魚・江三・(アイヅ)阜雄・松圃・其山・
直有・半岱・曉村・清器・宗一・清素・佛孫・(スカ川)多代女・
清民・静先・春齋・(ミハル)南鶴・其秀・(アサカ)扇々・一蓑・
(黒羽)大蟻・(ウツノミヤ)其翼・(相馬)鬼風・(上湯)白扇・東曉・
(高湯)かつミ・(モトミヤ)蒼丘・五陵・帰厚・土由・(シノブ)
大費・直樹・桑五・桑湖・玉湖・春童・五秀・西美・竹堂・柳村・
守三・(ダテ)尊阿・東里・菊也・一旦・つや女・泉里女・埋山・
鼻端・文鶴・鳥光・中介・少也・児川・和洞・斗翫・洩水・汀鳧・
夷菊・邦泉・梅井・丁酉・淡水・光居・兆鶴・清容・謹養・執齋・
於泉・玉肌・得知・英泉

三段組

※ 「己酉とし」／英泉耳順の慶賀も兼ねる

85 歳旦 全紙 元史 吞舟 桜鯛図 ○ アイエ ×

(江戸)遅流・永久・西馬・逸洩・乙良・(カミ)悠平・(フト)呂鳳・
菴塙・米逸・旭泉・松雨・北涌・(イヨ)鶯居・(ナニハ)鼎左・白鷗・
素屋・糝山・知風・(アハ)左一・(トサ)古鳳・市鷗・化昇・嵐夕・
婦牛・岱年・大亀・壺通・元史

二段組

※ 「己酉年春吉旦」／岱年還暦の慶賀も兼ねる

86 その他 全紙 夷逸 秋亭 鯛群泳図 ○ イエ ×

雨外・荷涼・草居・李暁・月人・秋啞・楓可・芝耕・有中・松塘・

又湖・芦亭・里柳・文賀・文景・(蒼江更)鼎湖・梅圃・一澄・

竹馬・梅一・素外・園中・万頃・秋亭・杜鴻・斑竹・稻處・芦室・

枝鳩・龜游・不角・草洲・米老・可丈・友月・(ラク)梅室・有節・

九起・岱年・(エド)見外・為山・西馬・祖郷・米山・可簾・莛丸・

和柳・山海・一之・柏樹・卓郎・(ムサシ)太良彦・墨農・竹山・

(エド在坂)夫雪・(秋田在坂)国彦・(イセ)雅琴・五鈴・(泉州)

此松・麦雨・(傳法)柳守・一東・(西宮)岳久雄・(ナダ)草居・

(兵ゴ)白雪・(ハリマ)聴洋・悟一・(作州)龜由・岳久山・耕雨・

松人・雪塘・(ビツ中)香雨・(ビンゴ)慎齋・淇風・扉道・(アキ)

甘古・(アハヂ)半谷・希鱗・墨雨・(トサ)花仏・節園・文操・

(在坂)棹露・梅什・(イヨ)鶯居・(河内)左栗・秋亘・馬遊・

(イナバ)雨節・(伯州)仙溪・(イツモ)秀翠・完臺・(イハミ)青池・

一池・青々・其流・一桃・(チクゼン)与加ろ・由太・(ヒゼン)悠々・

(日向)双鳥・駝岳・素屋・卦竜・井竹女・隣草・臥堂・鶯宿・

松隣・可兆・光林・林亭・鼎左・(二菜改)夷逸 二段組

※ 「嘉永己酉夷逸詞兄應需」／芳山吉野山曳杖記念

87 歳旦 半裁 鶯居 月峯 福寿草鉢植図 ○ イ ×

梅室・有節・芹舎・淡節・岱年・鼎左・松隣・素屋・一具・伯遠・

為山・永久・西馬・逸瀾・竹烟・兔白・宗雪・銀岱・蘭窓・鶴巢・

鷺橋・洞月・一葉・雪眠・鶯居

25 18

88 歳旦 半裁 可兆 稻處 橙・羽根図 ○ アイ ×

可兆・月坡・鼎左・稻處・素屋・呂国・鼎左・素屋・呂国・(遊客)

月坡・(和高庄)八千男・(ハンアコ)温故・(ハンアコ)羽白・(イヨ)

桃水・(イヨ)桃里・国彦・杜鴻・斑竹・稻處・枝鳩・芦室・不角・

米山・藜々・二桎・五躑・花水・霞松・花黍・蘭月・一菜・

井竹女・木岱・月桂・有中・可黍・巴水・友古・石史・松枝・

桃月・可猿・田窓・可朗・栖香女・梅雅・杜園・可兆

表六句+41 37

※ 可兆新庵迎春の祝を兼ねる

89 春興 全紙 一具 臥春 花見帰路図 ○ イ ×

梅室・九起・杜鷺・白鷗・素屋・雅琴・而后・護民・岱完・文叔・

巴陵・春室・乙良・嵐齋・雪堂・野巢・多代女・清民・大費・

鶯阿・禾月・璫山・二丘・緑峰・二兆・水竹・吟霞・御風・普水・

寿瀾・在尔・見外・荷少・得蕪・為山・西馬・逸瀾・太珉・祖郷・

充・謝堂・瓦村・由誓・惟草・坦々・好甫・松亘・葱水・夷則・

臥春・歛山・以肅・素羅・松什・伯遠・冰壺・静池・桐古・一馬・

莞尔・阜山・柏茂・桐陰・傘車・承風・田市・斗耕・其聲・良賞・

吐月・興之・知風・松谷・步南・夢覺・范父・友甫・一具

二段組

※ 「己酉春興」

90 春興 全紙 伯遠 圭岳 瓦・桜花図 ○ イ 仙覺

(京) 梅笠・岱年・杜鷲・有節・梅通・芹舎・黙池・成祇・瓢齋・祭魚・禾明・東升・雨翠・柏翠・淡節・芳英・道機・(大坂) 林曹・鼎左・蟻兄・素屋・采洋・白鷗・鶯宿・可兆・稻處・斑竹・杜鴻・枝鳩・光琳・其山・松隣・(傳法) 一東・(伊丹) 曲阜・露中・太乙・(三田) 冬岐・(播摩) 必山・可大・(伊豫) 鶯居・(土佐) 化昇・市鷗・吉鳳・(高野) 閑那・(近江) 砺山・乙也・月坡・(伊勢) 桐一・雅栗・梅曦・惠雨・雀叟・(尾張) 而后・烏律・梅裡・李曠・黃山・蓬陽・我竟・靜嘉・靜座・醉雨・呂川・月底・(三河) 蓬宇・波文・(遠江) 澄霞・(駿河) 岱充・(相模) 如々・(下総) 崑來・交水・(安房) 金呂・椿園・桃里・文酬・(本牧) 惠珠・(神奈川) 桃郷・(鳩ヶ谷) 厩角・(大宮) 花臥・杉曉・一具・松什・丁知・南枝・大鵬・□村・龜六・可簫・豐川・為山・祖郷・西馬・冰壺・見外・香以・知節・菜山・采扇・茶好・市民・桃叟・雪簫・素伯・文昇・芥舟・成可・折桂・岳陰・萬古・遲流・素明・拙誠・山外・溪齋・逸澗・卓郎・惟草・得蕪・由誓・荷少・伯遠・素行

※ 素行吉野出立餞別を兼ねる

二段組

91 春興 全紙 ちから 椿年 童子独楽廻図 ○ イ 松敬老入

梅室・岱年・素屋・由誓・逸澗・為山・西馬・太年・伯遠・岳陰・一具・水竹・悠平・心足・鼎左・悠々・梅通・南々・一朗・茶山・麻三・抱儀・多代女・春室・乙良・(カンバラ) 帰一・一保・令哉・

素重・霞汀・崑月・桐花・(長岡) 好静・石為・巴陵・(エド) 千さめ・(トチヲ) 貫子・鮭亭・頂樹・里蚩・虚由・(マツノ山) 湯齋・浮嶋・巴妙・(ツマリ) 緑園・守愚・乙語・互文・守哉・緑太・柳村・桂二・禾秀・二晃・芥舟・梧葉・鳳哉・破摩矢・たかき・泉石・鶯里・世挙・梅村・千ふる・(七十九叟) 可得・悠久・柳文・章寿・文鵬・兀兮・一桂・春隆・岱雲・里作・憲貴・二三四・椿雨・崑覺・其東・東茂・雪丸・簑夕・春遊・蝸角・對松・湖月・花芳・田衛・崑月・鹿山・野笛・宗兆・篤之・文帶・有中・正躬・凉岱・李朗・古棠・其山・(七十齡) ちから

※ 「嘉永二の春」

二段組

92 慶賀 全紙 湧瀧 桜杉庵 群鶴図 ○ イエ ×

王溪融・寛隆・望月・せい子・(京) 有節・乙雅・若雅・風光・(ナニハ) 鼎左・松隣・稻處・枝鳩・杜鴻・斑竹・井資・井左・眉山・素屋・(イセ) 雅琴・(サガ) 文翠・百和・(ラムロ) 榎香・(ヒカミ) 野卯・龜悅・羽人・(サ、山) 湖舟・湖静・□□・(ノセノナシ) 飛蝶・土寿・梅香・(大ツフナミ) 丹楽・(八木) 鹿角・(寺ムラ) 愚佛・小嶋・椿交・(穴太) 三千雄・(コクラ) 臥龍・午逸・巴遊・(シノ村) 深尾・(ホツ) 龍眼・紫山・葉山・魯雄・耕雪・小雅・(八十三翁) 丁々・富山・渭橋・九華・大年・香雪・逢雨・竹波・帶丸・松夢・朗雪・百工・住之・萬山・正布・古蛙・芦山・居角・於二丸・草楽・一堀・梅溪・一藤・(京) 梅室・岱年・杜蓼・

杜鷺・鸞兄・九起・梅通・(フシミ) 岳鳳・(サガ) 柏翠・佳柳・
石外・(ナニハ) 光林・(イハミ) 青池・(ヒゼン) 悠々・(ナガサキ)
岱雲・(チクゼン) 斗丈・宇逸・(アフミ) 砺山・楓下・(ヲハリ) 而后・
蓬陽・鶴叟・(エチゴ) 乙良・西畴・竹堂・春室・茶山・北洋・
(江戸) 一具・三星・三和・抱儀・(オク) 御風・多代・溶々・
(オクタナクラ) 北鱗・湧瀧
二段組

※ 桜桃庵湧瀧還暦の賀

93 歳旦 変形 水月 岸天岳 旭日雀囀 ○ アウエ ×

(京) 岱年・(イヨ) 柴山・(イヨ) 其嵐・(日向) 双鳥・(日向) 月雄・
(秋田在坂) 国彦・(江戸在坂) 春光・(セツ北) 都春・(高野) 閑那・
百堂・草斎・天来・呂国・鼎左・素屋・竹水・臥堂・指山・花虫・
史友・玉枝・知風・亀川・其水・桃年・五諳・月桂・霞山・友之・
松室・梅蒼・里風・祇白・白鷗・松人・蜂紀・其暁・起鳳・蘿月・
桃雨・登龍・子蝶・子桃・其雀・章山・加水・松朝・松風・一星・
舞樂・芦洲・里松・松月・左逸・里暁・まつ女・みんし女・花調・
風月・羅光・梅笑・其雪・花雪・里梅・珉朝・栄山・ひさ女・
抱月・麗月・和照・水月・水月
三段組

※ 縦型

94 春興 全紙 糸女 臥春 花見帰路囀 ○ イエ ×

(京) 梅室・岱年・(大坂) 鼎左・素屋・(ヒゼン) 悠々・(ヒウガ)
夏馬・(近江) 砺山・(イセ) 雀叟・(ヲハリ) 黄山・(遠江) 杜水・
(サガミ) 立宇・(上フサ) 呼牛・未成・柳塘・霞雪・(下フサ) 交水・
崑年・白錦・可實・斐石・斗文・以兄・鳩羽・(ヒタチ) 義香・
野巢・(上毛) 雪居・臥雲・布水・琴堂・鶴周・梅辰・(下毛) 嵐斎・
雪堂・苞竹・(シナノ) 葛古・(エチゴ) 春室・乙良・(越中) 恕兮・
(越前) 布珀・(カミ) 大夢・(オク) 清素・多代女・清民・英泉・
鶯阿・大費・禾月・一止・(デハ) 二丘・璵山・緑峰・吟霞・西池・
二葉・御風・(ムサシ) 太郎彦・玉英・水佳・南々・寄三・竹山・
五渡・淡斎・逸瀨・一水・巳雪・風子女・塘芝・西馬・保山・
永久・蝮翁・魯心・欣志・伯遠・成可・荷少・坦々・好甫・松宜・
葱水・充・夷則・臥春・瓦村・祖郷・由誓・一具・双湖・岱里・
紫麦・斗水・一蛙・鬼国・ちかき・惟草・秋香・□翠・南柯・
水谷・芝角・氷壺・祐之・波鷗・雪年・米山・旬光・念々・漣々・
卓郎・方有・崑川・叩月・丁知・松什・峽舍・言山・萬頂・南枝・
得蕪・龜瀨子・遲流・萬古・百丈・大鵬・守耕・可簫・萬千・
波静・松堂・萬々・桜露・太年・大箕・普陽・幻外・弄化・萬里・
石聲・木容・為山・古む良・長樂・湖堂・金莖・兎洲・桂素・
立左・素吟・□□・石羊・梅雄・錦枝・花舟・花月・てる・不曲・
樂哉・醉月・(カヅ) 真澄・(カヅ) 多瓢・浚賀・露郷・有樂・西山・
其雀・節丈・醉月・一水・露谷・風斎・麻噌・鶯所・千可是・
曲江・杏岱・晚翠・乙彦・(金令舍) 糸女
三段組

※ 「己としの春」

95 春興 全紙 一桃 圭岳 桜花・茶道具図 ○ イ 春世

鼎左・松隣・一菜・素屋・梅室・梅通・芹舎・岱年・水竹・而后・
烏洋・漣山・立宇・黄山・蓬宇・月底・一具・得蕪・祖郷・見外・
由誓・松什・南枝・叩月・立朝・旭斎・貞之・言山・波鷗・水哉・
東洲・一府・羽人・花晨女・南汀・松舟・村雄・知遠・可嘯・
不染・羽雪・金波・枝玉・瓦村・茶瓢・拙誠・白起・丁知・田龍・
竹滴・皐圃・雀洲・和風・重山・梅充・知篤・霞松・其山・全和・
可凌・藤園・島泉・鷺川・六水・慎斎・柏年・漁唱・梅日・半月・
一松・其流・秋香・夕嵐・一池・青々・梨雪・(在石見) 举一・
青池・一桃

二段組

※ 「嘉永己酉の春」

96 その他 全紙 蝶翁 月窓 湯島天満宮華表図 ○ アイ ×

晉公神詠・蝶翁・逸瀨・了全・南々・素明・詠久・素人・西馬・

一得・(晉神三十七世之孫) 一想・(京) 梅室・杜鷺・九起・岱年・

(大坂) 鼎左・林曹・白鷗・素屋・(アハチ) 希康・(ハリマ) 必山・

(イヨ) 鶯居・菊圃女・(アハ) 鳳棲・露泉・木兔・桑葉・(トサ)

古鳳・婦牛・夢迹・化昇・市鷗・焚外・雲外・嵐夕・(伯耆) 杜陵・

(イナバ) 寸風・(イハミ) 一桃・青池・(アキ) 甘古・(チクゴ) 山公・

(チクゼン) 宇逸・(ヒゼン) 悠々・寸長・眉山・大素・(長サキ)

駒童・甫旧・(ヒゴ) 青年・十席・(日向) 双鳥・駝岳・(サツマ)
馬兄・惺々・桃交・鉄冠・(イヅミ) 此方・(イガ) 養瓜・鷺州・

(イセ) 桐一・雅琴・雀叟・(近江) 砺山・楓下・(ヲハリ) 黄山・

而后・(三河) 水竹・蓬宇・(遠江) 嵐牛・(スルガ) 漣山・(カヒ)

雲里・(サガミ) 立宇・丹堂・貞止・宣頂・(上ヅサ) 呼牛・岳年・

(下フサ) 江月・得老・その女・東湖・李郷女・桃二・(下ツケ)

嵐斎・未足・桃仙・一止・多代女・舍用・(テハ) 御風・稻洲・

璵山・(エチゴ) 春室・鷺眠・好静・茶山・左角・ちか良・乙良・

抱儀・(越中) 恕兮・(加賀) 大夢・暁山・翠溪・(ノト) 淇洲・

(シナノ) 葛古・圭布・琴堂・米室・吳羊・谷郎・雪居・一郎・

臥雲・心足・半湖・竹烟・(ムサシ) 太郎彦・竹山・為一・誠盧・

汶平・溪斎・天由・千瑞・寄三・南々・五渡・四山子・如息子・

春鶴子・龜瀨子・室窓子・三志子・由誓・一具・遲流・得蕪・

為山・惟艸・卓郎・祖郷・松什・見外・梅笠・丁知・萬古・伯遠・

念々・謝堂・氷壺・山外・魯心・弄化・漣々・杉雨・秋香・南枝・

萬頃・普陽・桃山子・如泉子・萬江子・芝角・大鵬・半月・鳥吟・

幻外・五石・古山・桐古・草宇・流芝・北司・双・梅司子・

求古子・松旭子・松友子・里山子・叩月・帰一・ミち雄・木容・

萬里・衆女・銀岱・良台・竹青子・三巴子・青峨子・花仙子・

東岸・芝鶴子・普水・暉松・夜曉・圓里・錦水・松靄・巨濤・

巴雪・太年・蔦守・小柯・千波・柳絮・雪年・岱里・曙柳・柳雅・

方堂・東吳・柳我・桃李・鵬一・觀夢・湖十・竹夢・冬映・恋稻・

紀逸・小知・江左・水徳・乾什・青宜・鷄口・室斎・銀谷・□□・

田社・章二・章齋・松堂・吳笠・花外・不来・梧青・橋水・月窓・
鶯所・駿臺・野堂・詠久・鶴翁・乙雄・芝遊・洒一・又々・了全・
一水・聽雨・五雀・梅彦・苜丸・保山・竹堂・史涼・二栗・蝶六・
寄春女・和哥女・登次郎・桃子・徳丸・閑山・秋翠女・文車女・
渭川・羅梅・松山・三造・藤亘・里遊・遊笑・一得・素人・橋好・
音好・弘湖・素明・泉外・竹巨・西馬・逸瀨・蝶翁 三段組

※ 「嘉永二己酉首夏」／法樂

97 追善 全紙 得蕪 圭岳 花祭図 ○ アイウエ 仙鳧

餘力仏・餘力仏・餘力仏・餘力仏・梅室・岱年・梅通・九起・
禾明・杜鷲・芹舎・石外・有節・(ナニハ) 素屋・其山・松隣・
柳守・可兆・鼎左・雅琴・(ミカハ) 水竹・蓬宇・(ヲハリ) 而后・
月底・(イハミ) 一桃・青池・(スハ) 権山・(□南) 亘山・(日向)
双鳥・駝岳・(エチゴ) 好静・□□・□□・□□・麻三・乙良・
抱儀・由誓・瓦村・羽雪・素友・春山・芝角・柳窓・崑川・見外・
木容・山外・逸瀨・一丸・魯心・祖郷・氷谷・卓郎・大桜・為山・
桂風・貞之・寿山・文省・仙鳧・抱叔・萬古・安枝・樂齋・詠久・
西馬・南柯・潤翠・惟草・珪琳・由之・不染・波鷗・未山・拙誠・
香以・一具・梧井・叩月・(太田原) 一兆・逸川・大瓦・樵頭・
有光女・小車女・かつら女・蒼葉・薺裡・蘭芽・(半田) 瓶因・
(下総連) 汎翠・崑鶴・和清・文翼・清水・立朝・崑美丸・国吉・
多采・尚古・柳川・杉暁・二鳩・旭齋・江月・南枝・峽舎・東洲・

言山・竹賀・一水・(足利) 梅谷・崑成・豊見女・青林・月夕・
峻路・重羽・琴碩・白起・村雄・寿文・晴山・感造・揺石・柳女・
松舟・ミの女・羽人・南汀・枝玉・萬頃・丁知・(上毛連) 正路・
澤猿・呂竹・掬月・梅辰・崑員・濱市・為谷・遊祝・為碧・曉月・
為筥・西遊・尚日・兼二・為笠・為得・ミツ女・得齋・景山・
友蝶・萩露・秋江・千卷・松什・蕙畝・雪哉・金波・素明・茶瓢・
由也・未英・翼民・石亭・萬里・犀陽・竹堂・如中・百之・月之・
銀岱・挙一・得祥・多貢古・留木女・得蕪 三段組

※ 「嘉永己酉夏日」／餘力老人一周忌追善

98 春興 全紙 晚成 吞舟 夾竹桃図 ○ アイ ×

梅室・淡節・茶岡・野鶴・九起・(サヌキ) 木長・(サヌキ) 五蕉・(サ
ヌキ) 流泉・(オハリ) 烏津・(オハリ) 籟一・(オハリ) 三江・(アハ)
鳳棲・自来・(イヨ) 宗雪・(イヨ) 鶯居・(シガラキ) 楓下・(イタミ)
太乙・(エチゼン) 布珀・(エチゴ) 巴陵・(タンゴ) 龍起・(タジマ)
湧月・(タンバ) 栗磨・(イト) 呂鳳・(イツモ) 鱸充・(イハミ) 臯圃・
(イハミ) 霞松・(トサ) 元史・(ナニハ) 素屋・由誓・逸瀨・伯遠・
荷少・為山・一具・岱年・晚成」**岱年・晚成** 二段組

※ 「己酉のとし」、画中年記「嘉永己酉首夏」

99 その他 全紙 得蕪 是真 天守虹図 ○ アイウエ 仙鳧

丁知・蓬陽・得蕪・南枝・梅室・岱年・有節・梅通・芹舍・雨翠・
 風光・文翠・柏翠・石外・禾明・等明・仙步・朗風・豊見・巴江・
 如柳・祭魚・九起・杜鷺・鼎左・林曹・其山・素屋・采洋・白鷗・
 大乙・曲阜・五鈴・畚麦・岱月・禾麦・蛾扇・芳禾・雅琴・水竹・
 蓬宇・碧山・南輝・漣山・立宇・太良彦・未足・溶々・多代女・
 一止・好静・巴陵・乙良・鷺眠・春室・抱儀」由誓・松竹・伯遠・
 一具・瓦村・半月・流芝・峽舍・卓郎・東洲・水哉・江月・為山・
 萬頃・松舟・兔郷・見外・竹賀・惟草・米山・尾山女・朗泉・
 旭齋・羽林・萬古・□□・潮くミ・一桃・山外・白龍・立朝・
 祖郷・帰風・抱叔・みの女・忍齋・芝角・更古・芦鶴・直女・
 柳女・豊里・香以・白也・留木・其咲・柳宇・逸古・西馬・歩山・
 知風・遅流・青林・完鷗・普陽・逸淵・由之・珪琳・鳥吟・玉卮・
 凌霜・桑民・未央・東枝・成可・溪齋・永年・挙一・叩月・南汀・
 言山・白起・枝玉・拙誠・丁知」而后・黄山・呂川・梅裡・一清・
 露井・應知・旭嶂・金樵・我竟・鵬居・修竹・桃里・聴松・□□・
 □□・□□・□□・□□・岳甫・滴齋・半嶺・李裳・泥牛・梅五・
 穂李・可仙・微遊女・山遊・山里・烏津・李曠・登江・雨篁・
 鱗亭・籟一・茂東・文之・底知・蓼臺・桃齋・素南・季玩・其節・
 雨耕・花央・東宇・芦窓・茶瓢・白鳥・迂仙・枳東・芝兮・一可・
 五柳・鶴叟・月底・南枝・得蕪・蓬陽

三段組

※ 「戌申の夏日」／嘉永元年／蓬陽帰国留別

100 夏興 全紙 柳塘 圭岳 兜飾図 ○ アイエ 仙鳧

(京) 梅室・岱年・梅通・芹舍・風光・淡節・有節・杜鷺・禾明・
 (大坂) 林曹・炉雪・白鷗・杜鴻・斑竹・松隣・鼎左・素屋・
 (ヒゼン) 悠々・(イヨ) 菊圃女・(アハ) 鳳棲・(アフミ) 蛭山・(イセ)
 雀叟・□□・梅裡・芦江・李曠・烏律・黄山・(三河) 蓬宇・水竹・
 (遠州) 聴雨・烏谷・嵐牛・(カヒ) 雪底・(サガミ) 立宇・如々・
 (シナノ) 可厚・(エチゴ) 春室・鷺眠・乙良・(越中) 恕兮・(カド)
 大夢・(ヲク) 多代女・清素・英泉・三枝・(デハ) 御風・(上毛)
 関市・うめ雄・(下毛) 嵐齋・(ヒタチ) よし香・(下フサ) 交水・岳年・
 以兄・江月・(ムサシ) 五渡・太良彦・(雲水) 木容・石聲・月之・
 静和・天遊・波同・可大・抱儀」一具・由誓・溪齋・逸淵・卓郎・
 見外・西馬・得蕪・祖郷・兮外・万千・氷壺・□□・魯心・尾山・
 米山・瓦村・叩月・松竹・伯遠・惟草・亀渕子・大鵬・充・寸松・
 大年・荷少・萬古・白桂・百丈・梅莪・岱里・波静・杉堂・秋香・
 弄化・可簫・普陽・素羅・大莫・念々・雪年・守耕・みもと・漣々・
 遅流・為山」(□□) 禾味・遜和・露彦・湖鶴・斗筮・虚齋・兮齋・
 秋嶺・紫雄・里鷄・花逸・蘭阜・一羽・蓬雨・枝鳩・一水・杜入・
 楽只・南甫・友志・雨兮・音人・霞雪・未成・呼牛・柳塘 三段組

※ 「嘉永己酉とし」

101 夏興 全紙 菖丸 是真 花簾図 ○ アイウ 得齋

梅室・梅通・有節・九起・淡節・石堂・岱年・鼎左・素屋・玉芝・
 一栄・木容・鍊冠・馬兄・鳳棲・蘿彦・嵐夕・婦牛・春室・好静・

巴陵・里采・璣齋・荳村・南々・寄三・竹山・誠廬・千瑞・琴堂・
一郎・吳羊・谷郎・多代女・立宇・無端・如風・雲涯・眺崖・
葛古」・逸瀨・月ふる・蛭翁・巴雪・鶯所・卓郎・松什・旬光・
梅笠・為山・由誓・祖郷・桐古・普陽・一具・西馬・詠久・梅彦・
五雀・素明・遲流・萬古・大鵬・念々・山外・得蕪・由之・帰一・
雨清・叩月・見外・道雄・柏棹・草笠・護松・菊雄・素交・月之・
松室・弘湖・崑川・徐道・清風・龜遊・和柳・苜丸 二段組

※「永二己酉夏」

102 夏興 全紙 萬里 臥春 杜若・鉢植図 ○ ウエ 仙鳧

(京) 梅室・淡節・(大坂) 素屋・稻處・鼎左・(阿房) 鳳棲・桑葉・
涼枝・(イセ) 桐一・雅琴・(ヲハリ) 黃山・馬暁・(サガミ) 立宇・
(上サ) 里孝・未成・樂只・柳塘・(下サ) 崑年・交水・(常陸) 友甫・
(上毛) 関市・梅雄・琴堂・一郎・布水・(下毛) 嵐齋・(ムツ)
多代女・清民・尊阿・(デ) 吟霞・綠峯・西池・(越後) 春室・
乙良・茶山・篤之・其山・ちから・(越中) 恕兮・(ムサシ) 南々・
寄三・五渡・一具・好甫・坦々・荷少・葱水・以肅・顧山・素遊・
素羅・護樂子・護岳・素風・一雅・見外・成可・折桂・(古人)
伯遠」・丁知・峽舎・春山・言山・峻路・不染・東洲・(水哉更)
汎翠・知遠・柳窓・羽雪・竹賀・松舟・百之・留木・琴碩・拔玉・
南汀・素友・叩月・萬頃・南枝・得蕪・珪琳・由之・苜丸・詠久・
五雀・杉雨・素明・鶴翁・西馬・松什・氷壺・念々・米山・

古むら・山外・芝角・乙彦・仙鳧・梅笠・魯心・桃月・古山・
琴雅・山暁・宗一・風巢・北因・素柳・鶯所・三和・歸一・卓郎」・
呂風・柏樹・惟草・潤翠・南柯・半月・瓦村・祖郷・木公・鶯守・
五石・貞濤・貞二郎・万千・露谷・崑川・久兔女・金羅・雨鶴・
得志・白雨・龜瀨子・溪齋・遲流・萬古・大莫・百丈・大鵬・
可簫・鳥吟・鳥水・波静・松堂・千さ女・たけ女・□□・泰我・
泰甫・兔昇・山子・秋年・木容・みもと・為山・萬里 三段組

※「酉のとし夏」

103 その他 全紙 西馬 是真 松嶋図 ○ アウ 半嶺

西馬・逸瀨・萬像・萬像・萬像」・(ヲハリ) 黃山・思文・李曠・
梅裡・而后・(イガ) 養瓜・(イセ) 雅琴・桐一・(アフミ) 玉脂・
楓下・芋丈・(ミカハ) 水竹・蓬宇・(トホトウミ) 杜水・(カ) 卓丈・
(エチゴ) 春室・月舫・茶山・好静・乙良・(シナ) 雪蓑・三都里・
(ヒタチ) 野采・(下ツケ) 未足・(上ツケ) 琴堂・(ヲク) 多代女・
清民・一山・杉芽・甫石・江三・舎用・(デ) 璣山・月山・郁甫・
もとか・御風・(サカタ) 魯長・左静・介二・□中・□風・撫松・
(ムサシ) たら彦・寄三・南々・(エド) 一具・由誓・遲流・松什・
丁知・得蕪・為山・祖郷・見外・桐古・惟草・溪齋・萬古・
(在エド) 砺山・詠久・苜丸・渡江・瑤華・弘湖・素明・六亜・
不改・泉之・自休・紫山 二段組

※「萬像陸奥行脚記念」／104と一対

104 その他 全紙 西馬 是真 松嶋五大堂図 ○ イウ 半嶺

四山子・亀淵子・白涯子・(京)梅室・岱年・有節・杜鷲・九起・
杜蓼・黙池・百古・梅通・芹舎・禾明・祭魚・淡節・石堂・曲淵・
(サガ)丈翠・石外・(大坂)自来・林曹・白鷗・爐雪・其山・祇白・
五景・蟻兄・知風・松隣・素屋・鼎左・(イタミ)曲阜・太乙・
(タンバ)九華・(ヒゼン)悠々・(アハチ)半谷・鯨康・蔣池・(イヨ)
鶯居・柴人・(サヌキ)今是・(トサ)嵐夕・古鳳・雲封・大路・
一鼠・素兆・元史・(アハ)露泉・鳳棲・思風・涼枝・釣月・蘿彦・
聽泉・順美・茶雷・桑葉・梅守・友樵・洞居・愛象・催市・木兎・
山月・(雲水)有遊・風阿・可大・波同・茶岡・玄子・竹煙・素行・
桃五・秀何・勝錦・碩水・馬谷・岳陰・抱儀」**萬像・西馬・逸淵**

二段組

※ 「萬像陸奥行脚記念」／103と一対

105 秋興 全紙 ミもと 臥春 火山遠望図 ○ イウ 仙覺

(京)梅室・淡節・風光・岱年・(セツン)素屋・稻處・鼎左・太乙・
(ヒゼン)悠々・(イヨ)鶯居・(トサ)元史・樊外・(アハ)涼枝・
(タンゴ)双・(アフミ)秀洲・(イセ)雅琴・惠雨・春除・又甫・
香山・茶山・杞柳・梅西・(ヲハリ)而后・梅裡・一清・芦江・
李曠・思文・應知・不退・烏津・黄山・(ミカハ)蓬宇・(遠州)
杜水・聽雨・(スルガ)漣山・(カヒ)雪底・(相模)立宇・天均・

鈴石・布丈・可合」・(武蔵)五渡・素儼・五八九・春友・梅悅・
崑聲・竹山・(上総)柳塘・未成・(下サ)崑年・その女・交水・

(ヒタチ)義香・(越ゼン)布珀・(カミ)丹嶺・柳壺・大夢・(エツ中)
完哉・蚊和・恕兮・(エチゴ)乙良・友耕・ちから・篤之・其山・
孤舟・好静・春室・(サド)周斎・(信濃)葛古・可厚・(上毛)布水・
一庭・梅雄・龜松・木風・竹麿・田扇・常盤・一左・吉枝・松月・
みつ女・郡平・仏花・一郎・閑斎・松風・関市・(下毛)請雨・崑
得・玉紫・抱江・嵐斎・(陸奥)多代女・英泉・三枝・清泉・一止・
(出羽)御風・(雲水)抱儀・野鶴・茶園・波同・得蕪・松什・氷壺・
念々・素羅・欣志・蛭翁・素明・崑川・万千・荷少・波鷗・臥春・
米山・久米女・西馬・芝角・魯心・瓦村・祖郷・一具」・龜淵子・
遲流・溪斎・大鵬・(在府)砺山・雨堂・木容・百丈・松堂・淵叟・
大曾・淵翠・普陽・弄化・淵鯉・雪年・鳥吟・大年・免昇・山子・
波静・萬里・秋香・守耕・可簫・萬古・為山・ミもと 三段組

※ 「己酉初秋」

106 秋興 全紙 舍用 素雪 蓮・色鳥図 ○ アイ ×

梅室・岱年・有節・九起・梅通・杜鷲・其山・鼎左・白鷗・素屋・
松隣・呂國・錦城・馬亭・梅下・董洲・十全・可及・左外・黄山・
而后・月底・水竹・塞馬・蓬宇・万像・漣山・如々・立宇・安成・
月年・朴遜・千溪・可合・鶴翁・一具・逸淵・由誓・三和・西馬・
為山・念々・卓郎・□□・半月・詠久・山外・得蕪・祖郷・惟草・

見外・夷則・素明・松什・太良彦・溪齋・春室・乙良・竹烟・
其翼・未足・草雨・蘇郷・御風・古翠・璵山・玄子・野巢・
多代女・清民・清素・英泉・東里・大費・紫山・魯因・石芝・
燕山・圭浦・帰来・茶良・風止・梅成・素洲・江三・直哉・知三・
權道・梧葉・趣白・董路・里瓢・去律・三和・可有」・虬山・里女・
松秀・一笑・登水・如拙・禾英・立沙・山道・一扇・岨月・簡齋・
桑里・金波・樗室・三ツ丸・露調・仙菜・心哉・放言・春人・
止鉤・(九十一才) 而来・白知・一青・節人・舎月・東樹・米磨・
鳳直・里堂・心阿・塘水・拳堂・五更・五雲・秋風・智幽・鶴子・
英國・南谷・松眠・通山・一止」・禾月・道子・龜子・梅露・天洲・
白水・素好・杉芽・子由・紫仙・千里・一叟・素席・城思・貫山・
巨葉・文林・南預・古推・九山・菊道・洞月・篤人・斗周・可交・
如水・宗古・如雲・雨竹・南成・對青・露菽・如風・六川・泉溪・
冰骨・季風・碩哉・好々・吳春・舎用
三段組

※ 「嘉永己酉之秋」

107 秋興 全紙 鼎左 秋亭 湖畔図 ○ イウ ×

荷涼・秋岬・蘭操・松塘・有中・鼎湖・梅圃・土行・荒木・萬頂・
阿老・希心・卦龍・呂国・(かふち) 不二門・龍川・左栗・自来・
松眉・如月・月洲・(都麻呂更) 公然・古鏡・(いよ在坂) 水哉・(行脚)
素行・(江戸) 龜瀨子・為山・可簫・(秋田) 国彦・(鳥羽) 如柳・
(伏水) 岳鳳・(左海) 麦雨・岐山・柳吾・半癩・此松・(若山) 倚鳳・

月虛・(大和) 幹陰・(西宮) 崑久雄・(尾林) 非木・(泉洲) 柳渚・
(茨木) 鼎居・(赤穂) 聴伴・(姫路) 悟一・(あいち) 奇鯨・(うハ島)
素雪・狙口・(在郷) 分一・(在坂) 春和・(土佐) 花佛・南逸・是屋・
燹外・(いせ) 五鈴・(出雲) 寬臺・(石見) 青池・一他・一桃」・雨外・
買山・草居・月人・清機・李暁・柳柯・梅弟・北梅・楓可・翠葉・
文賀・文景・園中・龜月・桃雨・桃榎・寿船・其鶴・自由・
笛ミち・二有・有隣・有流・三得・二寿・大車・芸臺・庵女・
半学女・井竹女・杜鴻・稻處・白馬・萬寿人・友月・旭峰・花芳・
井案・其桃・草洲・不角・草齋・鶯宿・素屋・可兆・眉年・萬齋・
光林・松隣・鼎左
二段組

※ 「酉仲秋」

108 秋興 全紙 雪湖 周岱 群龜図 ○ アイエ 淳堂

梅室・一具・梅通・而后・祖郷・多代女・為山・見外・西馬・
黃山・松隣・素屋・烏谷・万古・鼎左・水升・可大・岱年・由誓」・
淇齋・冰壺・抱儀・岳陰・春室・鷺眠・秀女・竹堂・梅逸・春成・
一花・以逸・菊水・北里・半橋・西疇・乙良・(眉白更) 雪湖・
雪湖
二段組

※ 「つちのとのとりの穂」

109 秋興 全紙 羽長 南涯 秋祭踊図 ○ アイエ ×

羽長・天遊・茶雷・梅室・有節・杜鷲・瓢齋・芹舎・默池・杜蓼・
丈翠・九起・梅通・岱年・鼎左・白鷗・素屋・松隣・太乙・林曹・
四山子・龜瀨子・由誓・一具・為山・得蕪・遲流・伯遠・見外・
丁知・氷壺・寄三・梅笠・詠久・竹山・卓郎・松什・祖郷・西馬・
逸瀨・砺山・桐一・雅琴・而后・黄山・蓬宇・水竹・悠々・鶯居・
其秀・希鱗・蔣池・嵐夕・古鳳・焚外・婦牛・鳳棲・露泉・松丈・
釣月・思風・夷岳・左一・卜雅・夏庭・桑葉・木龜・山月・應吏・
天遊・茶雷・羽長 三段組

※ 「嘉永己酉秋」

110 秋興 全紙 一篇 無従 色鳥図 ○ アイ ×

(京) 梅室・九起・禾明・(トミタ) 友田・(サガ) 丈翠・石外・
(江戸) 西馬・為山・遲流・音好・逸淵・(大坂) 素屋・杜鴻・白鷗・
林曹・(サヌキ) 流泉・(イヨ) 鶯居・宗雪・蓼村・(アハ) 鳳棲・
萬像・木龜・(ビゼン) 涼呼・(ビゼン) 砂年・(ビゼン) 北年・(イセ)
梅笠・(エチゼン) 布珀・嵐夕・婦牛・壺通・而康・五峯・露江・
李青・顆山・梅汁・星戸・茶畦・百丈・梧園・吐月・一蔦・主杖・
柿実・きく雄・元史・岱年・大路・一篇 二段組

※ 「嘉永二酉秋」

111 秋興 全紙 得蕪 是真 菊花魚釣遊具図 ○ イエ 松教

梅室・岱年・窓丸・梅通・芹舎・丈翠・石外・淡節・杜鷲・九起・
有節・林曹・白鷗・一東・素屋・柳守・雅琴・一桃・鼎左・月底・
一圓・蘆窓・黄山・呂川・而后・抱儀・好静・麻三・水溪・春室・
乙良・東来・有笑・孝竹・淡遊・金波・雪哉・萬頂・春山・直女・
かつら・蒼葉・香羽・才和・東洲・松舟・崑川・完鷗・竹賀・
瓦村・松什・南汀・山外・枝玉・忍齋・柳窓・大桜・一水・如籟・
波鷗・素友・芝角・蕙畝・峽舎・珪琳・崑来・抱叔・樂齋・不染・
安枝・言山・南枝・丁知・立朝・汎翠・旭齋・梢山・牛欄・一花・
梅蝶・梅翁・白龍・痴鈍丸・清竹・(清齋更) 得成・(和清更) 得宜・
崑鶴・冑山・百度・青月・南雄女・瓶因・斗陵・梅辰・百年・
由之・叩月・砺山・素行・月之・静池・茶瓢・秀何・銀岱・举一・
卓郎・逸瀨・由誓・惟草・萬古・白起・西馬・米山・揺石・近人・
南柯・其吹・見外・潤翠・豊見女・柳女・鶴髪・双谷・琴舟・
琴碩・桐古・樵哥・知遠・帰風・守一・麗水・月夕・嘉上・村雄・
秋香・貞之・樹石・桂風・宗一・大英・一丸・昌年・祖郷・為山・
氷谷・羽人・拙誠・一具・双鳥・駝岳・雨清・春世・峻路・遊水・
由也・犀婦・如中・多美古・槿隨・瀧女・晴山・感造・素明・
尋香・得祥・蓑月・樂樽・百之・良台・文省・千之・青林・壽文・
(夙々庵) 留木女・得蕪 三段組

※ 「嘉永二己酉のとし」／風々庵、娘の留木女へ庵号譲与を兼ねる。

112 追善 全紙 湧瀧 光孚 住吉文台図 ○ イエ ×

芭蕉翁・(ナニハ)素屋・(ナニハ)鼎左・(ナニハ)松隣・(イハミ)
青池・(京)乙雅・(京)九起・(雲水)月坡・(サガ)丈翠・(サガ)
百和・(サガ佳柳更)静之・(上サ大タキ)不点・(デハアキタ)国彦・
(サ、山)湖静・(サ、山)栗曆・(大ツクナミ)丹楽・(犬カンノ)瓢堂・
(ホウキ)九一・(ホウキ十二才)吐珠・(神ハラ)梅枝・(ホヅ)龍眼・
(ホヅ)紫山・(ホヅ)魯雄・(ホヅ)其鶴・耕雪・(シノムラ)源尾女・
(氷上)野卵・(タンゴタナベ)豊遊・九華・大年・蓬雨・雲帯・
竹破・世夢・曉堂・南涯・百工・朗雪・居角・柳枝・遊楽・龜遊・
馬月風・芦風・思楽・古蛙・富山・於二丸・草楽・一掘・梅溪・
一藤・湧瀧 二段組

※ 芭蕉忌

113 その他 全紙 琴岳岸岱 芭蕉「涅槃会や」句碑図 ○ アイ ×
翁・梅室・香園・爐香・千里・芦江・梅子・子篤・文子・壽月・
濃齋・午子・知性・東子・有響・祠冠・珂省・竹窓・麴車・吳風・
棠齋・寄木・銅鷄・精禾・月光・琵琶洲・延柯・吳陵・慈鹿・凌月・
葩紅・かせを・杉丸・棹哥・長水・旭洲・法無・松破・一英・
其友・六財・春律・自来・不二門・松眉・藍水・南齡・舎笠・
岳鳳・素屋・桃室・蟻兄・豊水・乙鵝・忍之・芦笛・志園・松庵・
道楽・芋路・山楽・寸松・花暁・左栗・月所・瀧川・如月・北梅・
湖水・蘭旭・其凸・如水・一習・(大ツ)吐月・楓下・柴人・山蔭・
古鏡・梅雄・梅舎・梅扇・桃紅・李松・可城・一幸・釣月・梅雪・

素菊・可静・以静・以外・千益・可掬・萬寿人・(フシミ)近雄・
(伯キ)五陵・(ミノ)藍庭・(ミノ)白麿・(ミノ)幽風・(ミノ)卓露・
(ミノ)蘭家・(アフミ)不苦・(アフミ)八子・(アフミ)養齋・
(アフミ)桃民・一雄・琴岳 三段組

※ 「嘉永己酉冬」／芭蕉句碑建立記念(河内国野崎観音)

114 歳旦 全紙 呂川 玉溪 通し矢図 ○ イエ ×

梅室・岱年・有節・芹舎・梅通・瓢齋・芳英・默池・九起・杜鷲・
道棧・松朗・其翠・蔦堂・淡節・祭魚・百古・曲洌・石堂・草陽・
龜洞・柳水・桃下・南徳・虚真・禾明・石外・丈翠・岳鳳・月樵・
九華・林曹・鼎左・白鷗・松隣・蟻兄・其山・素屋・白雀・稻處・
斑竹・冬岐・太乙・曲阜・此方・閑那・可大・必山・雄嶽・耕雲・
□□・布国・涼呼・希康・蔣池・今是・鳳棲・万像・映門・鶯居・
柴人・半谷・甘古・一桃・悠々・眉山・甫旧・馱童・岱雲・宇逸・
慶五・駝岳・双鳥・砺山・古樵・米友・芋丈・月坡・楓下・遠水・
養瓜・雀叟・梅蟻・雅琴・恵雨・石罪・東宇・鶴渚・昌風・桐一・
大夢・柳壺・悠平・素玉・丹嶺・呂鳳・鶴堂・露樵・得之・有美・
御丈・杜水・一具・由誓・遲流・松什・為山・卓郎・伯遠・富女・
溪齋・山外・逸洌・惟艸・岳陰・抱儀・得蕪・丁知・半月・祖郷・
見外・西馬・茶静・瓦村・南枝・冰壺・素明・荷少・萬古・梅笠・
魯心・鳥吟・太年・聴雨・水竹・塞馬・蓬雨・三岳・完伍・波丈・
石采・茶岡・青可・圭布・青坡・春麗・杜水・漣山・碧山・欽哉・

立字・可合・□□・茶曉・月大・南々・五渡・竹山・太郎彦・
水佳・葛堂・折桂・水哉・里雪・交水・喜年・臥雲・琴堂・呼牛・
野巢・よし香・春室・茶山・鷺眠・巴陵・西疇・乙良・多代女・
清民・愛山・尊阿・宗古・心阿・英泉・一止・江三・太橋・左琴・
御風・二葉・露丈・西池・素山・二丘・天遊・波同・玄子・可久・
桃五・銀岱・石聲・烏谷・呂川
二段組

※ 帰郷迎旦記念

115 春興 全紙 而后 画者不明 御輿行列図 ○ アイ ×

可櫟・琴之・修竹・露井・一府・釜月・以清女・季杏・龜聲・
古庭・溪居・羨鳥・里鳥女・梅枝・文之・求可・其玄・錦水・
国水・百川・霞汐・白水・蔦渚・□□・一雄・霞溪・籟一・阿籟・
英齋・金毛・耳洗・左柳・自聽・三江・可端・一嶋・生麦・壽石・
千樹・寄汀・家井・佳定・已凡・古俗・里瓶・関雄・貳齋・桂圃・
葦津・花央・素陽・季阮・其節・吾道・龜遊・(少年)しげ女・
貞福・古道・波静・樹好・閑覺・青白・梅五・伯恵・蘭渚・寄船・
蟻足・幸里・二得・梅閒・月底・静嘉・静崑・三聲・櫓水・芝耕・
□□・大年・貴朴・梅樹・篤志・友之・佳友・綺川・季徳・芦江・
芳臺・思文・市雪・烏朝・梯雲・知風・有秀・自然・橘賀・羅雪・
西甫・勘七・賀斤・華梁・舒陽・李山・有橘・魚山・松石・自笑・
和專・何言・里月・可有・吟雪・其奴・芝仙・露石・飛鳳・兔尺・
玄之・文丸・素陪・玄一・三壽・鶴叟・烏律・李曠・梅裡・聴松・

金樵・旭嶂・我竟・鵬居・應知・桃里・醉雨・一清・李裳・農守・
半嶺・蓬弄・桃洲・梅女・桂李・五柳・可仙・不退・九冪・晴虎・
三楓・梅南・馬曉・雨耕・蓬陽・黄山・而后
二段組

※ 嘉永三年の可能性あり

▼ 嘉永三年

116 慶賀 全紙 富子 貫州 寿老人図 ○ イ ×

梅亭・吐鳳・其秀・魚楽・秋朝・魚逸・筍露・玄乙・雲耕・霞丈・
堯洲・孤峰・朝径・富艸・白魴・芦角・塘雨・秋園・泥洲・李雪・
東里・松蔭・丈池・藤窓・園水・梅畝・可然・湖秋・栞月・月處・
方之・龜遊・移三・呂川・蘭山・花轉・梅圃・禾遊・朝楽・里雄・
播茶・嶋齋・希鱗・回風・撫雨・秋十・一朗・楓處・世粟・裁霞・
才蟻・盧十・竹齋・春山・化龍・梅廬・(女)柏影・(女)梅園・(女)
樹々・(女)旦梅・(女)玉梅・(女)奧丸・(女)兔月・(女)暁梅・
半谷・抱月・佳城・梅堂・梅白・龜跡・茶城・蔣池・梅宇・尤美・
蔡々・自来・鳳棲・孤洲・静眠・静人・龍孫・青笠・蓬壺・青栗・
播亭・仙翁・古梅・千桃・撫華・鷗池・桃里・梅士・鶯路・行逸・
子正・芦北・東樵・可笑・月窓・南園・嵐逸・梅長・李九・米堂・
鶴頂・素丈・(丙)水・花喬・原子・壺天・知甫・虛白・文鷲・
玉鳳・有梅・梅曲・眠平・露濃・糸竹・景中・松子・一二・吟龍・
星介・(在淡)東黍・(在淡)孤鳳・(在淡)杉雨・(在淡)素行・(在淡)

墨雨・(在淡) 必山・鳳吾・龜嶋・夢中・地柳・橘丸・春草・雪橋・
柳喬・芦南・曲笠・羅十・青林」・花鳥・壺生・南乙・木岱・紀堂・
〔路〕竹・五調・竹甫・文明・寿山・松洲・江村・芦因・白朗・
赤岸・鶴友・長江・松波・青鷺女・米花・寿女・鼎左・素屋・
其山・(女) 白雀・林曹・鳥岬・淡節・枝月・九起・岱年・梅室・
富子
三段組

※ 「庚戌春」／富子還曆

117 春興 全紙 龜渕 圭岳 春夜弾弦図 ○ アイ ×

梅室・淡節・岱年・杜鷺・鼎左・素屋・鶯居・双鳥・悠々・砺山・
五鈴・雀叟・應知・梅裡・黄山・蓬宇・杜水・立宇・溪齋・五渡・
露明・寄三・関市・梅雄・布水・松月・松風・一圭・一庭・梅谷・
可吉・布山・琴堂・其翼・嵐齋・柳塘・未成・鳩羽・交水・崑年・
よし香・多代女・清民・御風・素山・大夢・恕兮・ちから・立器・
春室・乙良・麻三・抱儀・一具・吸月・探響・陶有・蓬交・清足・
寿測・好甫・坦々・尋香・祖江」・由誓・瓦村・波鷗・南枝・丁知・
松什・得蕪・惟草・秋香・芝角・南柯・潤翠・幻外・大英・卓郎・
見外・崑川・大鵬・万千・糸女・米山・漣々・念々・山外・氷壺・
萬古・桐古・萬里・江乎・月之・秀何・松陽・雖花・欣志・孤堂・
魯心・逸測・音好・松室・弘湖・五雀・詠久・梅笠・素明・西馬」・
遅流・花丈・普陽・弄化・太年・鳥吟・松堂・□々・岱里・清溪・
紫蜺・可笑・由岐雄・素英・豊川・栗熊・泰我・由々・泰甫・

山子・山方・波静・可簫・守耕・ミもと・為山・花橘女・花山女・
花裡女・花遊女・花宥女・花夕女・龜汀女・龜汀女・測叟・測翠・
測斜・測静・測松・測鮎・測古・測蔭・測底・測鱗・測鯉・龜測・
龜測・龜測
三段組

※ 「戌の春」

118 慶賀 全紙 京魚 九嶽 梅花朱盆図 ○ イ 得齋堂

(京) 梅室・杜鷺・芳英・有節・岱年・(浪華) 素屋・鼎左・(尾張)
黄山・鵬居・(須賀川) 多代女・(加賀) 柳壺・(出羽) 御風・(松前)
一旭・(越后) 乙良・(安房) 静里・(水戸在上毛) 松風・(武蔵) 龜成・
(上サ) 一澄・(江戸) 一具・由誓・卓郎・逸測・西馬・得蕪・為山・
祖郷・松什・一雅・(水戸) 潮花・規外・方居・野巢・(岩城小石)
芦帆・武介・南溪・栄徳・魯齋・(上田) 桜哉・(上遠野) 甫山・(平)
黙釣・(少年) 青橘・草南・冷馬・香橘・鬼佛・蓬児・東菊・西嶽・
鶴堂・三省・柳里・甘之・花橘」・(江戸) 鶴雅・瑤池・卜早・石居・
有松・素風・可簫・莖丸・(少年) 草笠・良甫・かつら女・素交・
(舟尾) 金風・東止・(泉) 鮫水・(湯本) 三青・一陽・腸谷・桃操・
卜雅・殖杉・魯甚・末山・鶴齋・草瓢・振衣・(岩城湯本) 京魚・
京魚・見外
二段組

※ 「嘉永三庚戌の新政」／京魚初老賀

119 慶賀 全紙 崑久里 梅洲 正月遊び図 ○ アイエ ×

梅室・岱年・有節・一具・荷少・雅琴・素屋・白鷗・可大・自来・
 爐雪・停雲・霞洲・霞外・春風・知堂・紫莛・其雪・大青・糠人・
 琴齋・朗寿・春人・以一・米露・駒房・鳴々・一東・太乙・
 よね女・五柳・曲阜・林曹・崑久里・崑久里
 二段組

▼嘉永二年

120 秋興 半裁 由誓 圭岳 菜小禽図 ○ アウ 仙鳥

(京) 梅室・淡節・風光・(大坂) 鼎左・素屋・(肥前) 悠々・(アキ)
 甘古・(アハ) 涼枝・(イヨ) 鶯居・(タンゴ) 双・(ヲハリ) 黄山・梅裡・
 而后・(ミカハ) 蓬宇・(サガミ) 立宇・(ムサシ) 五渡・(上サ) 未成・
 (下サ) 交水・崑年・(下毛) 嵐齋・(上毛) 関市・梅雄・(ヒタチ)
 義香・(エチゴ) 乙良・春室・抱儀・(エツ中) 恕兮・(カヅ) 大夢・
 (デハ) 御風・(オク) 清素・多代女・亀淵子・遅流・百丈・雨堂・
 楠楊・松堂・瀏翠・瀏鯉・瀏叟・大鵬・秋香・可簫・波静・萬千・
 岱里・泰甫・泰我・栗熊・鳥吟・守耕・万古・千さめ・溪齋・
 大英・太年・兮外・素羅・弄化・ミもと・木容・砺山・為山・
 山子・(兎昇更) 山方・一具・西馬・久米女・魯心・叩月・祖郷・
 得蕪・由誓

※ 「とりのあき」／山方改号披露を兼ねる

65 59

121 秋興 四裁 悠平 素玉 松茸図 ○ イエ ×

芹舎・松朗・素屋・梅裡・希康・国彦・南枝・荷少・魯心・為山・
 (勤泥更) 涼瓜・竹塙・恕兮・季節・素玉・(在カヅ) 桃下・悠平

17 18

122 その他 半裁 水哉 画者未詳 短冊挿図 ○ ア ×

水哉【画中短冊句】・唇風・浩風・三省・雲路・三居・嵐圭・
 秀露・蝸亭・石苔・東花・一風・野口・比良・微角・蓮茎・艸蓋・
 貫昇・孝哉・若實・水哉・曹州・蕙江・(ワカサ) 柏石・(イセ)
 雅琴・梅室・有節・杜鷲・桃五・百古・淡節・鼎左・素屋・柴人・
 器椎・太花・銅馬・雨草・萬寿人・水哉

※ 若狭留別記念



40 37

123 追善 全紙 梅巖 清暉 枯蓮図 ○ アイ ×

霞潮居士・梅巖・岳鳳・梅室・有節・九起・淡節・風光・石堂・
 蘭翠・乙雅・月坡・祭魚・杜鷲・岱年・梅通・禾明・雲更・貞我・
 霞川・桃下・鳥岬・文翠・芹舎・(なには) 鼎左・素屋・松隣・
 水月・桃室・西坡・寿扇・其山・蟻兄・(さかい) 此方・此松

※ 「己酉仲冬」(画中年記)／霞潮居士追善

二段組

124 追善 全紙 梅嶺 画者不明 夜半月図 単(青) ア ×

(かど) 卓丈・(大つ) 蕙逸・(江東) 松月・(たにば) 九華・(いたみ) 太乙・(はった) 梅雄・(雲水) 風阿・(東都) 杉雨・(東都) 素行・

(のと) 呂風・(越中) 可庭・(高野) 閑那・(雲水) 可大・(雲水) 百古・
拾権・(をはり) 而后・(いよ) 其嵐・(阿八) 梅守・(阿八) 瑞花・

(阿八) 古樵・(なには) 乙鷺・(なには) 井左・(雲水) 野鶴・(かど) 紅波・(出羽) 御風・(岱美)・(かうち) 古鏡・(かうち) 孤杉・

(かうち) 自来・(かうち) 一表・(かうち) 梅塵・(よど) 貫祐・
(やはた) 鳩里・(上なら) 元祐・(長池) 玉好・(たが) 蛙出・(たが)

梅曉・(とバ) 如柳・(ふか艸) 吳雪・(ふか艸) 巾笑・掬海・鶴巢・
碧溪・柳渚・渭水・千直・默庵・醉山・白水・若猿・丁翁・明良・
露樵・羊之・霞柳・机友・柳旭・梅雫・岳鳳・梅嶺・梅嶺

※ 霞潮十回忌追善
二段組

125 秋興 全紙 左一 南涯 詩箋図 ○ アイエ ×

(京) 梅室・岱年・柳絲・梅通・芹舎・禾明・杜鷺・有節・(フシミ) 雨喬・岳鳳・(ナニハ) 水月・白鷗・素屋・春宥・鼎左・(サカイ)

此方・此松・(イヨ) 鶯居・圓室・葵笠・(トサ) 樊外・婦牛・習竹・
琴石・元史・花佛・巳志・次竹・(サヌキ) 木長・(ハリマ) 必山・
(粟津) 礪山・(イセ) 桐一・東宇・香山女・米山・(東都) 一具・

逸潤・西馬・南々・寄三・音好・詠久・多代女・天遊・吳風・
竹烟・(アハチ) 曉梅・希鱗・蔣池・鷗池・露泉・鳳棲・思風・
松丈・茶雷・羽長・楚宮・夷岳・笋路・林叡・指月・推泉・期鳳・
椿六・為外・南底・桑葉・山月・木龜・應吏・石堂・半壺・鷗羽・
竹鳴・默史・拾葢・大夢・李春・太举・呼来・穎甫・青芽・其象・
有問・騏郷・湖堂・旦水・舍芳・梅雄・佳長・佳亮・化雄・季風・
三好・鷗河・其憶・花律・素外・可楽・蘭史・波友・甫六・龜浮・
吳竹・可大・龜卜・梅史・晴呼・左一
三段組

※ 「酉のとし」
126 春興 全紙 北峯 梅仙 飛鶴松梅図 ○ アイエ ×

布國・三有・君玉・砂年・北年・莎泉・汶居・沙明・涼呼・珍宇・
雪洞・子阮・立石・馬佛・梅左・素屋・松隣・其山・鼎左・可大・
百古・默池・芹舎・梅室・蟻遊・墨池・瓊樹・若水・花翁・楳翁・
射風・鼻山・大素・群鶴・蘭畝・石丈・一馬・婦来・山水・月峯・
吳水・眠居・
眠居・北峯・蘭畝・射風・山水・三有・北峯・九起
二段組

▼嘉永三年

127 歳旦 全紙 一景 五碩 座頭・犬図 ○ アイ ×

(水月事) 一景・洲史・且碩・(日向) 双鳥・山麗・里梅・茶朝・

梅蒼・五韻・湖月・呂國・(阿波)自来・松隣・里松・竹水・(アハ)
左一・井龜・里風・帀尺・(イヨ)其嵐・舞樂・卦龍・(秋田)国彦・
白鷗・風月・洲吏・(養月事)且碩・一景・洲吏・梅笑・桃室・
其曉・春聲・(小倉)菊徑・梅雪・(京)梅室・桃年・子蝶・井柳・
一星・可兆・梅月・壽扇・雨外・鶯宿・花調・鼎左・井左・(日向)
駝岳・和照・湧水・且碩・洲吏・且碩・一景・祇白・楨立・栄山・
潮水・(傳法)一東・子桃・萬利・芦村・稻處・起鳳・素屋・鳥誠・
梅弟・貴水・花雪・松月・羅光・其月・左逸・(でんほ)柳守・
章山・一景

三段組

128 春興 全紙 此松 直入 柳花図 単(墨) アイ ×

(洛)梅室・瓢齋・芹舎・梅通・黙池・桃下・祭魚・淡節・百古・
岱年・(エド)一具・為山・西馬・岳年・ゆき雄・由誓・(ナニハ)
鼎左・松隣・稻處・竹仙・其山・素屋・桃室・此角・眉松・
(アハチ)半谷・蔣池・鷗池・魚逸・去乙・樵雨・希鱗・墨雨・
(兵ゴ)可大・(イタミ)太乙・曲阜・蘭風・(イハミ)青池・(アハ)
左一・(トサ)漁村・花仏・(デハ)国彦・(泉ハカタ)舟柴・瓦水・
静左・玉静・可雪・其静女・其逸・休叟・此方・麦雨・金江・
拾翠・松玉・竹啞女・井峰・五柴・翠山・柳雲・柳撒・貴遊・
乙柳・鳥曉・梅章・柳眉・晴方・竜枝・半癩・(イツミ)竹泉・
玉瀧・司諷・梅暎・砺齋・粒雨・(下フサ)交水・(イセ)雅琴・
雲桃・如阜・嗽石・白丈・支角・醉居・可醒・雨萍・梅岳・葎左・
春寵・南暉・野螂・馬風・笑方・梅方・子麦・史梅・史友・孤鳳・

松雨・此雀・春黛・此松

四段組

※ 縦型

129 その他 全紙 史白 南涯 夕照帰帆図 ○ アイウエ ×

松丈・四山子・由誓・鬼阿仏・西馬・遅流・得蕪・詠久・為山・
南々・見外・寄三・音好・又々・素明・月ふる・逸瀧・自来・
岱年・雪簑・白鷗・炉雪・鼎左・壺山・素屋・藜々・梅室・去乙・
希鱗・左一・鳳棲・聽泉・其樂・百仙・芦百・白羽・如園・朱唇・
釣月・茶雷・筭路・夷岳・仙友・涼枝・木龜・木雞・桑葉・蘿彦・
應吏・楚宮・思風・羽長・空花・大年・茂翠・黛乙・梅村・鯉丈・
一史・露映・其丈・青螺・静屋・鳥司・虬窓・越二・野馬・積翠・
照雄・雀志・朶文・桐屋・疎影・九江・梅圃・春水・鸞奴・之從・
梅郷・俗々・西裏・斯近・塘李・史白

二段組

※ 松丈東下送別

130 春興 全紙 呼亭 東陽 桜花図 ○ アイウ ×

(京)梅室・九起・淡節・石堂・芹舎・桃下・杜鷲・石外・有節・
岱年・(ナニハ)林曹・鼎左・稿馬・素屋・(ヒゼン)悠々・(ハリマ)
可大・(ヲハリ)黄山・梅裡・李曠・而后・(イセ)雅琴・(エド)
由誓・見外・茶静・為山・(ムツ)多代女・一止・(デハ)御風・
露丈・二葉・素山・(エチゴ)春室・下樹・以逸・乙良・(越中)

廉夫・都盤・可庭・恕兮・(ノト) 呂鳳・(アフミ) 蛎山・玉脂・
 欣齋・芙蓉・松巢・(フ中) 東升・(ホンホ) 且来・(フクイ) 布珀・
 (九ヲカ) 人ヒ那・(兵ゴ) 如恒・梅交・(吉ザキ) 樗・而立・珉子・
 仁哉・(ミクニ) 桜溪・觀潮・可幽・路敬・一睡・遊室・不一・
 甫山・可笑・瀧溪・如醉・(河ノ) 土籠・(金沢) 黄年・柳壺・江波・
 悠平・雪枝・北州・葛路・素玉・白玉・北山・柳年・晴江・三志・
 磨弥・卓丈・大夢・(ツバタ) 賀水・鶯呼・我柳・(ツルギ) 梅嶺・
 芦腰・(ハ子ダ) 子用・(テラ井) 南圃・(小マツ) 吳隆・不睡・千齡・
 蘭波・春湖・鞞石・長流・楽雅・林静・葦窓・松坡・里魴・(山中)
 肅叟・田二・北園・旦山・梅景・溪鶯・可道・蜩洲・梅谷・豊収・
 桃下・北楊・季石・我来・一甫・東陽・斗和・我醒・可計・何笠・
 東居・梧井・東雅・木圭・丹嶺・呼亭
 二段組

131 歳旦 半裁 夷岳 真澄 獅子舞図 ○ イエ ×

(京) 梅室・岱年・有節・梅通・芹舎・淡節・黙池・杜鷺・
 (大坂) 鼎左・白鷗・素屋・松隣・蓁々・林曹・(イセ) 桐一・雅琴・
 (ヲハリ) 而后・黄山・(ミカハ) 水竹・蓬宇・(サガミ) 立宇・
 (アハチ) 其秀・(トサ) 樊外・嵐夕・婦牛・(イヨ) 鶯居・(江戸)
 逸瀨・為山・音好・寄三・詠久・西馬・(ヲク) 多代女・鳳樓・
 松丈・釣月・思風・蘿彦・木鷄・左一・桑葉・木鳥・楚宮・冬柱・
 羽長・順美・可瀨・筭路・宇椎・梅道・鶯室・其庭・天馬・應吏・
 茶雷・夷岳

132 春興 半裁 愛山 臥春 盆上多福人形図 ○ イエ 以肅堂

一具・尋香・臥春・陶有・好甫・坦々・以肅・祖郷・西馬・為山・
 春年・古年・萬古・龜瀨・黙池・瓢齋・祭魚・芹舎・素屋・松隣・
 稻處・枝鳩・鼎左・黄山・我竟・梅裡・底知・醉雨・李裳・静嘉・
 而后・悠々・萬像・魚楽・鷗池・雀叟・乙良・春室・茶山・清水・
 麻三・抱像・御風・二葉・素山・國彦・璫山・二丘・未足・交水・
 五竹・鳥谷・友甫・一止・禾月・心阿・宗古・江三・舍用・蔦阿・
 大費・東里・梅井・児川・英泉・里水・鳳毛・多代女・土國・
 春齋・清民・壯山・愛山
 73 73

※ 「嘉永三庚戌春」

133 春興 全紙 雨事 作洲 扇 青梅図 ○ イ 仙覺

梅室・岱年・有節・梅通・杜鷺・淡節・九起・芹舎・祭魚・砺山・
 稻處・松隣・素屋・鼎左・白鷗・黄山・而后・李曠・應知・月底・
 蓬宇・立宇・交水・崑年・恕兮・悠平・柳壺・大夢・丹嶺・聰泉・
 順美・蘿彦・万像・悠々・龜瀨子・一具・由誓・松什・見外・
 逸瀨・西馬・祖郷・萬古・念々・山外・尋香・鳥吟・坦々・松宜・
 好甫・萬子・てる久・夷則・山方・山子・守耕・太年・波静・
 可簾・みもと・遲流・溪齋・為山・春室・乙良・ちから・茶山・
 一止・舍用・宗古・清民・多代女・可慎・三長・東里・吾水・
 雪河・梅仙・池月・茶水・柳涯・松堤・幽年・可亭・桃曉・梅与・
 渭泉・龍溪・一枝・江邨・伍朗・吏川・玄冢・怡々・栗南・薰曉・

枳北・河曉・吳月・貞谷女・春水・卷居・松陽・覃々・幽雅・
梅里・馬山・雪蹄・松雅・清奇・春塘・文車・兔友・必流・一民・
砺砢・雲涯・雪彦・松陰・雪鮮・露丈・二葉・素山・御風・雪琴・
雪琴
二段組

※ 「庚戌のとし」

134 春興 全紙 山海 圭岳 花見図 ○ アイウエ 松教

梅室・岱年・梅通・有節・九起・鼎左・素屋・松隣・夷逸・閑那・
雨堂・悠々・双鳥・駝岳・古鳳・一桃・蛎山・二朗・霞州・雅琴・
窓雨・而后・立宇・榎堂・太良彦・花外・水佳・五渡・南々・
溪齋・墨農・雪底・彦貫・松芽・寿山・文叔・双柳・二鷄・事松・
嵐齋・雪堂・文窓・雲岳・木公・渡来・関市・布山・□□・以兄・
汎翠・旭齋・立朝・多代女・美泉・遜阿・宗古・禾月・一止・
精器・みねめ・乙良・抱儀・春室・璫山・一素・綿呼・水竹・
二兆・御風・素美・恕兮・柳壺・一旭・和好・一甫・由誓・枹叔・
松什・瓦村・禾丈・崑川・大費・由之・萬順・得蕪・峽舍・竹賀・
雨清・叩月・秀阿・南枝・春世・南汀・丁知・東洲・言山・茶瓢・
みち雄・波鷗・為起・春峨・拙誠・卓郎・□□・普陽・万千・
よしえ・惟草・秋香・苜丸・和柳・柚樹・梅笠・芝角・燭翁・
風采・五石・帰一・荷少・幻外・一向・山河・橘松・若枝・魯心・
可簫・梅峨・波静・かつら・卜早・見外・素交・素風・良輔・
一雅・有松・久米女・尾山女・月之・念々・山外・百丈・霞亭・

詠久・西馬・素明・逸瀾・萬古・鳥吟・きく雄・弄化・龜瀨子・
遲流・大鵬・万里・みもと・山子・山方・守耕・桐古・為山・
一具・坦々・好甫・松宜・探響・衛足・春甫・吸月・以肅・陶有・
蓬交・梅岐・春坡・卧春・太珉・夷則・尋香・似春・山谷・夏月・
友蝶・四郎・火水・對少・保丈・山月・歩生・桃茶・古常・草月・
金集・黄山・(二之改) 雨兮・芝山・祖郷・山海
三段組

※ 「嘉永三戌年如月」

135 夏興 全紙 可底 江鷄 漁見物図 イエ ×

梅室・禾明・秋香女・芹舎・(ノト) 埜艾・草洲・艸賀・梅奴・
艸雨・朝霧・草齋・鼎左・挙一・井資・可兆・栖香女・不角・
鶯宿・井左・賤遊・井湧・井花・井辛・井雅・(アカシ) とく女・
井龜・子雀・松隣・杜鴻・枝鳩・稻處・素屋・梅茶・欽山・草弘・
眉屋・荷村・虹夕・眉山・米老・梁女・春翠・(トヤマ) 魯外・
碧中・丹柯・可丈・羽逸・青良・卧堂・蛾兄・芦笛・豊水・百濟・
逸伯・富秀・桐月・芦江・乙鵝・春宥・(風月長志) 芦江・鶯室・
費栖・月景・筏礼・梅客・竹明・(ナダ) 枝雄・(ナダ) 遊水・五葉・
素陶・桃室・可底
72 72

※ 「戌夏」

136 夏興 全紙 得蕪 是真 笠幟図 ○ アイウ 春世

梅室・窓丸・岱年・有節・禾明・九起・杜鷺・石外・丈翠・秀何・
 雅琴・窓雨・若寅・五鈴・鼎左・素屋・柳守・白鷗・拳一・一桃・
 青池・双鳥・駝岳・三岳・蘆窓・月底・呂川・而后・淡遊・車俵・
 大洲・泰山・一止・多代女・乙良・春室・麻三・巴陵・九室・
 扇守・里英・好静・抱儀・龜洞」・丁知・東洲・南汀・松舟・知遠・
 花晨女・松友・茶瓢・仙裾・鼓汀・完鷗・春世・白起・枕斎・
 言山・松什・瓦村・万古・波鷗・遅流・岳川・可京・堂見女・
 素友・昌年・禾丈・一水・琴舟・栞碩・柳女・直女・帰風・範成・
 蕙求・不染・羽雪・柳恵・□上・魯心・汎翠・旭斎・二鳩・岳鶴・
 梢山・里磬・白龍・花遊・得亘・（静嘉父）知九・南茂・得成・
 立朝・江月・芝角・香明・卜早・かつら・安枝・楽斎・岳来・
 一丸・大凌・光葉・茗荷・朱頂・梅枝・孝雨・布雪・重羽・盤雨・
 由誓・梧井・万頂・竹賀・其咲・羽人・大桜・枝玉・味舎・一具」・
 南枝・叩月・由之・珪琳・青林・鶴髪・田子・遊水・鈍岱・月之・
 桃虹・米山・山外・祖郷・卓郎・為山・西馬・桐古・可簫・
 みもと・見外・鳥吟・月夕・鳩鳴・由也・真斎・双谷・成泉・
 峻路・姜磨・要五・逸洌・氷谷・空蛙・古笠・□山・□影・□中・
 犀陽・金波・權隨・尋香・糸女・南竹・米彦・青好・南都女・
 洗柴・村雄・無々・桂風・貞之・琴雅・拙誠・惟草・得祥・千之・
 可雪・葱青・如此・菊丸・梅年・青節・蕙里女・幸山・たみこ・
 桂布・長雄・主拙・栄雨・蕪玉・暁柳・留木女・得蕪 三段組

※ 「嘉永三庚戌のとし」

137 夏興 全紙 春成 周岱 杉間蜘蛛巢図 ○ アイ 淳堂

龜洌・梧青・一具・為山・西馬・溪斎・松什・丁知・氷壺・祖郷・
 萬古・折桂・太年・平湖・岳陰・逸洌・未足・五渡・米室・遜阿・
 多代女・雨石・禾月・御風・露丈・二柴・素山・石聲・素楓・
 文仙・梅室・岱年・梅通・九起・曲洌・鼎左・素屋・林曹・白鷗・
 木繩・守青・蕙逸・芋丈・桐一・蕙雨・希鱗・凶水・閑那・悠々」・
 茶山・市猿・嘯松・亘風・子相・晴淇・凌再・麻三・抱儀・乙良・
 驚眠・孤舟・友耕・守磨・一水・月昇・晴楓・雪湖・花朝・菊水・
 以逸・青湖・清水・春室・春成 二段組

※ 「かのへ戌の夏」

138 その他 全紙 未足 圭岳 桜下御所車図 ○ イ 仙覺

（京）梅室・有節・梅通・岱年・（ナニハ）鼎左・素屋・（ヲハリ）
 而后・黄山・（ヒゼン）悠々・（カヅ）大夢・（アハ）鳳棲・（トサ）
 婦牛・（イヨ）鶯居・（近江）蛭山・（サガミ）立宇・（スルガ）漣山・
 （ヒタチ）義香・野巢・（ムサシ）五渡・南々・寄三・太良彦・
 （エチゴ）春室・乙良・茶山・驚眠・好静・抱儀・（テハ）御風・
 （オク）心阿・一正・江三・舍用・禾月・清民・多代女・（江戸）
 龜洌子・一具・為山・西馬・見外・大莫・祖郷・念々・古山・
 氷壺・得蕪・卓郎・遅流・魯心・万古・太年・素明・無外・叩月・
 半月・（ムサシ）溪斎・松什・丁知・南枝・拙誠・白起・瓦村・
 由誓」・（トチギ）露朝・きち女・廣岡・二良・（ウツノミヤ）秋壽・

柴蘭女・一葉女・白水・永明・柳泉・桃李・(カヌマ) 聡長・春遊・
谷水・松鶴・如桂・(イマイチ) 柴郷・(イマイチ) 杏雨・(オク郡山)
桑圃・(下妻) 桐遊・(足尾) 夕和・金才・夢外・抱節・きく女・
知則・一亀・錦生・崑文・一景・頂雨・桐只・禾周・松暁・竹水・
一松・蓼湖・林梧・甘雨・魯亥」・孤貞・米舛・諫梅叟・桂風・
琴口・菊羽・登志女・(十才童) 一朝女・護心・琴風・五政・素兄・
二巴・池文・江左・玄然・鶴歩・焉哉・弦溝・玄同・斧成・未成・
一白・清友・清友・扇和・扇和・竹村・竹村・未足 三段組

※ 「庚戌晩春」／清友・扇和二生の後披露摺

139 夏興 全紙 市猿 抱儀 郭公・苗代図 ○ イウ ×

梅室・有節・淡節・曲洌・杜鷲・九起・梅通・岱年・鼎左・素屋・
松隣・黄山・呂川・而后・月底・亀洌子・一具・萬頂・万千・
丁知・得蕪・溪齋・南枝・素明・西馬・為山・卓郎・峽舍・友竹・
松什・氷壺・太良彦・立宇・二丘・芳山・一止・□□・白水・
禾月・舍用・江三・詠柳・加菊・悠耳・大費・守三・東里・英泉・
多代女・清民・宗茂・奇哉・其翼・紫郷・未足」・春室・春哉・
木山・古巷・清水・季珉・多照・芹洒・玉岱・半橋・乙良・雄飛・
三餘・尤儀・南石・其則・富海・嘯松・千布・一水・友耕・嘯月・
□□・蝶友・井轄・義珎・其佛・耕川・小車・魚佛・春塘・痴佛・
荷龍・雲撫・半佛・区陵・好静・雪潮・柳涯・宜風・令哉・千牛・
茶了・柳邨・三貫・雲汀・逸交・岱鵬・雲濤・徒因・暁波・二龍・

龜年・梅暁・莞示・觀山・器山・隆々・月虫・寸松・嵐窓・一度・
買楓・季橘・松采・季笋・松蘚・蓬亭」・抱儀・市猿・茶山・麻三・
市猿・抱儀・麻三・茶山・抱儀・市猿・茶山・麻三・市猿・抱儀・
麻三・茶山・抱儀・市猿・凌再・虚吹・碎圭・椎雨・一貫・淇竹・
朱律・茶山・鷺眠・抱儀・麻三・市猿 三段組

※ 「庚戌夏日」

140 夏興 全紙 篤之 椿年 童子蚩狩図 ○ アイ 松教(天真)

悠々・布水・淡節・螻翁・岱里・崑年・栞堂・有節・九起・杜鷲・
梅通・御風・亀洌子・洌耕・洌鯉・逸洌・祖郷・卓郎・遅流・
可簫・太年・詠久・千瑞・三和・尋香・ミもと・溪齋・氷壺・
萬古・鼎左・素屋・一具・百丈・山外・為山・西馬・三星・素明・
一朗・半湖・舍用・雨石・多代女」・春室・乙良・柳涯・雪潮・
抱儀・之白・石為・虚由・帰一・令哉・吏川・世挙・松舍・巨童・
楳村・五瓢・柳村・文志・蕉古・里作・李朗・一桂・花芳・其山・
泉花女・古棠・涼岱・文帶・有中・千代女・逸泉・ちから・
ちから・篤之・篤之 二段組

※ 「庚戌の夏」

141 その他 全紙 弄化 圭岳 海浜小社図 ○ イエ 松教(天真)

(京) 梅室・岱年・九起・梅通・淡節・(大坂) 林曹・鼎左・素屋・

松隣・白鷗・(アフミ) 礪山・(イセ) 五鈴・(ヲハリ) 月底・鳥律・
梅裡・馬曉・黄山・不退・三楓・而后・(サツマ) 桃交・(ヒゼン) 悠々・

(ミカ) 蓬宇・(サガミ) 立宇・(エツ中) 恕兮・(カミ) 大夢・

(エチゴ) 春室・乙良・(仙ダイ) 一止・多代女・(秋田) 御風・(南都)

卓堂・(下サ) 汎翠・立朝・白龍・夏柳・旭齋・二鳩・新曉・梅鮮・

太齋・梧成・為翁・銀狐・圃水・宝所・弄蓬・清古・左文・文翼・

朱甫・水石・椿城・兔什・越卯・水明・有人・可吟・角丸・露水・

擇木・蔵六・如鵬・鳩羽・崑年・交水・その女・錦□・貞齋・

石腸・仁里・菊后・柳水・察峨・江月・(上サ) 未成・柳塘・雨兮・

霞雪・萊雪・南甫・可水・米味・槐圃・之綱・徐竹・松風・鯉水・

貞知・對雪・青林・隨馬・閑之・萬嶺・花雪・龜叟・兀雨・子瓢・

政二・一至・真史・(ムサシ) 五渡・南々・寄三・溪齋・龜洌子・

萬古・可簫・波靜・大莫・普陽・太年・守耕・鳥吟・秋香・松堂・

山子・山方・遲流・為山・逸洌・西馬・渡江・雪山・螻翁・詠久・

瑤華・雨清・方宇・青林・祖鄉・一具・卓郎・叩目・荷少・雨兆・

大鵬・鳶守・萬里・岱里・秀鄉・梅笠・得蕪・山外・芳山・梅守・

鳳菊・漣々・雪年・冰壺・彙女・風竹・竹山・惟草・見外・

多珈女・由岐雄・羽人・言山・東訓・閑鷗・丁知・松什・石外・

江波・幻外・相古・ミもと・素明・月之・茶瓢・佳峯・鯉朝・

梅英・知言・一中・吳笠・花外・秋室・唐土・万年・山姥・百年・

京水・東石・龍甫・弄月・化猷・弄楊・楚江・弄羽・掬草・弄化

※ 新宅移居披露

三段組

142 その他 全紙 由岐雄 是真 荷舟図 ○ イエ ×

梅室・杜鷲・梅通・風光・芹舎・黙池・岳鳳・禾明・融朗・如柳・

仙步・輿角・野鶴・乙雅・九起・淡節・石外・石堂・岱年・

(ナニハ) 林曹・白鷗・鼎左・万寿人・素屋・蟻兄・松隣・一東・

(幼年) 一柳・一井・水哉・重威・有水・箕年・太乙・一撫・草居・

季鯨・帟踞・寸松・白翠・(ワカサ) 微箏・(イナバ) 寸風・宋真・

仙林・其雄・素玄・羅文・(ハウキ) 杜陵・龜友・南山・一室・

枝旭・梧雄・佳秀・(ハリマ) 可大・梅潤・一簣・聽洋・春郊・

玉芝・鴉雛・一鳳・必山・(ミマサカ) 真屑・閑舟・耕雨・夢人・

松人・燕居・九溪・雪塘・(イヨ) 器椎・稻香・大花・白雀・九丈・

墨池・竹屏・稍雲・鶴圃・為山・黎杖・曉雲・梧隣・梅溪・春水・

雲洞・梅雅・雲獎・茶籟・花戒・苧岬・蘇澄・二蝶・旭子・半窓・

井政・焮谷・坡堂・梅冢・青巴・烏丁・凌翠・花仙・井冢・左笠・

佳笑・大素・枕石・撫石・柳圃・巨柳・隱外・十寸穗・春蟻・

少鸞・葵笠・雨柳・心養・守真・村亭・一青・(トサ) 古鳳・

(サカイ) 桃枝・此方・此松・休叟・(アフミ) 礪山・(ヲハリ) 而后・

馬曉・(イセ) 春愁・(カヒ) 卓牛・由美・竹由・歲道・微應・石集・

文友・時雄・年良志・無底・柳生・美興太・一二太・柳山・紫玉・

柳谷・蓮花・嵐谷・青禾・行幸・月曆・樂山・魚明・文鳥・柳鳥・

梅木・蓮二・おつら・石友・春鳳・其月・あらし・仙胤・月守・

卜生・芳蘭・桜哉・南瓜・錦哉・袖子〔少〕・末水・不二園・布杉・

龍溪・度生・斗歌・蒼川・峽菊・松軒・桑夫・梅幸・花眠・□□・

※ 由岐雄帰郷披露

梅月・松翠・竹子・龜山・金守・桂山・角守・笑山・竹夫・松夫・遊月・柳夫・梅夫・抱寿・花守・青氷・逸槌・舟魚・柳霧・胤苍・有年・星美・其徳・きい女・孔夷・米水・可楽・梅守・一朝・一斗・一柳・一布・一發・柳波・藍光・和睡・其楽・全把・杉夕・猿里・烏里・橋南・南海・有隣・藤壺・巢栗・梅旭・雪底・(ムサシ) 溪齋・五渡・(サガミ) 茶香・立宇・(下サ) 吉甫・朝鳥・浦鳥・嘉幸・鳩羽・崑年・(上ツケ) うめ雄・松月・龜松・関市・(ヲク) 一有・栄徳・龜淵・翠谷・龍丸・桂子・梅里・真魯・(所ザ) 一二三・紫藤・(カナ川) 其友・(カナ川) 丹頂・一具・由誓・惟草・逸淵・秋香・弄化・大英・氷壺・祖郷・卓郎・普陽・(行脚) 無外・徳峯・大年・豊臺・硯寿・空堂・月ふる・曳布・文岱・信鳥・介藻・朶城・九臯・空蛙・湖山・西馬・遅流・山外・松什・萬古・山霧・波静・松堂・可簫・守耕・山子・百丈・淵叟・淵翠・淵鯉・桃虹・迎長・梅年・竹溪・詠久・蓮一・清二尼・旭窓・好一女・有隣・星文・消水・花夕・松涛・角松・其猿・千李・路曉・一梅・不言・仏鳥・雨笛・孤龍・喫茶・是楽・風也・仙羽・崑夕・帟杖・峯雪・晴志・文佛・寛眉・稔市・橋彦・茶伯・不物・柳志・雪馬・雪明・萬里・左山・ミもと・為山・青松・来清・雨月・章臺・雪守・雌雄・哥雪・雄一・萬寿雄・文外・由岐雄 三段組

※ 小笠庵艸雨立机祝

花屋菴・此花庵・二畳庵・芙蓉庵・八日庵・井眉庵・松蔭・井圃庵・八千房・自在庵・寿扇堂・寸松庵・松緑舎・遅柳庵・放雀園・落橙舎・蔦舎・茶飯堂・五彩堂・翁堂・五竹堂・苜陰舎・反古庵・梅香庵・半仙屈・春秋園・(伊陽はせを元社) 春里・静柯・市雪・梅井・月歩・佳葉・(長月庵) 蓬寄・井竹女・葉女・(七十五叟) 月江・友之・松月・珉朝・芦笛・其月・乙鵝・不角・牛角・秋崖・松寿・圓中・梅圃・挙一・梅花・荷村・草弘・眉屋・虹夕・巨柳・芦外・謂久・一來・万英・風月・花雪・三得・龜遊・梅笑・羅光・貴遊・井龜・烏城・梅蒼・走馬・梅弟・蝶雅・枯香・(芦州更) 子燕・よし揃・(松枝更) 楚遊・雪操・(都宿更) 春門・花松・風山・已逸・梅枝・茂禮・蕉寄・春宥・青良・其聲・春好・霞松・有言・成二・臥六・一知・松霏・碧中・丹柯・湖風・几艸・春翠・可丈・英之・米老・艸洲・艸賀・艸逸・艸路・艸巴・嵐水・松彦・梅公・万稻・朝霧・万齡・千齡・千郷・(玉蘭更) 香雨・庭雨・艸左・良左・木脂・董庵・子日庵・(小笠庵) 艸雨 三段組

144 秋興 全紙 茶雷 南涯 豌豆 蝸螂図 ○ ウエ ×

(京) 梅室・岱年・芹舎・杜鷲・九起・淡節・黙池・石堂・瓢齋・有節・(サガ) 文翠・(大坂) 鼎左・素屋・松隣・自来・蓁々・白鷗・(兵庫) 可大・(伊丹) 太乙・(肥前) 悠々・(日向) 駝岳・双鳥・(イヨ) 鶯居・菊圃女・(土佐) 婦牛・古鳳・雲外・梅汁・頼山・市鷗・

(イナバ) 棲鳳・(近江) 礪山・楓下・(イガ) 養瓜・(イセ) 雀叟・
桐一・(ヲハリ) 月底・季曠・黄山・(ミカハ) 蓬宇・(遠江) 烏谷・
杜水・(スルガ) 漣山・(サガミ) 立宇・(江戸) 逸瀨・為山・得蕪・
祖郷・氷壺・遲流・卓郎・松竹・梅笠・見外・詠久・素明・音好・
てる久・山子・梧青・西馬・(ムサシ) 南々・寄三・(上毛) 琴堂・
真年・(シナノ) 葛古・(エチゴ) 春室・(デハ) 御風・(ヲク) 多代女・
清民・一止・舍用・(阿波) 應吏・鳳棲・松丈・釣月・蘿彦・思風・
左一・穎甫・越二・茂翠・万像・桑葉・木龜・「楚宮・天馬・木鳥・
冬柱・羽長・万淵・順美・鶯室・平蕪・露映・卜雅・山賀都・
半山・月海・雨蓼・夏庭・蒼郎・権雨・烏暁・宇均・梅道・宇権・
筭路・夷岳・茶雷」 三段組

※ 「嘉永庚戌秋」

145 秋興 全紙 舍用 東菜 樓閣秋月図 ○ イエ 水竹

(京) 梅室・岱年・梅通・有節・九起・(大坂) 鼎左・素屋・白鷗・
蟻兄・其山・(イセ) 桐一・(ヲハリ) 黄山・呂川・茶瓢・而后・
(アハ) 万像・(ムサシ) 潮月・逸淵・一具・雀翁・為山・遲流・
由誓・念々・又々・山子・尋香・杉雨・素明・西馬・(エチゴ)
春室・(下毛) 其翼・(デハ) 御風・稲州・月山・觀素・礪山・(オク)
多代女・清民・清素・英泉・泰山・也明・遜阿・(カクダ八十三叟)
文和・(大ガハラ) 江三・(ツルシ) 梅成・風止・(シバタ) 一旭山・
(ケセン) 古山・楚流・華月・(サヌマ) 卯啼・(モナフ) 鶴里・錦岱・

(金ナリ) 露調・(ワカマナキ) 一青・節人・白知・心阿・宗古・
一止・五雲・桃林・甫竹・梅露・塘水・禾月・如水・古椎・九山・
米山・南榮・貫山・巨葉・湖立・泉溪・一晴・蕉霽・如雲・吳春・
好々・南成・豊李・東谷・芝庭・蔦山・一初・智雄・茶園・田豊・
露菊女・雨竹・舍用」 二段組

※ 「嘉永庚戌の秋」

146 秋興 全紙 立宇 路逸 遠山薄野図 ○ イウエ ×

而后・黄山・茶瓢・不退・三楓・月底・梅室・九起・淡節・砺山・
鼎左・素屋・雅琴・悠々・多代女・舍用・御風・乙良・春室・
春成・ちから・好静・鷺眠・抱儀・崑年・野巢・交水・未足・
柴郷・嵐斎・一朝・鷄周・貞秀・寄三・南々・竹山・千瑞・関市・
龜瀨子・子鶴子・遲流・百丈・秋香・守耕・ミもと・鳥吟・山子・
松竹・丁知・羽人・完鷗・楓湛・鶴翁・梅笠・魯心・漣々・雪年・
丹頂・柏水・雨堂・臥雲・鈴石・布丈・穂ふる・林国・向月・
左人苔・如々・天均・圭甫・羽仙・閑鷗・石山・五澤・角彦・
子遊・梅明・國彦・一路・護民・北松・文湛・山方・可簫・波静・
千登女・岱里・萬里・松堂・無外・雪雄・為山・佳峰・大筌・
ミち雄・桐古・太年・雨清・氷谷・旬光・一京・経雨・芳山子・
月之・山外・一具・祖郷・卜早・かつら・由誓・西馬・詠久・
素明・荳丸・逸瀨・卓郎・見外・氷壺・萬古・惟草・大鵬・
月ふる・得蕪・市月・五楼・山翠・龜游・布川・楓九・越鳥・

扇丈・梅之・笠雪・知鳥・逸江・穢石・鶴雄・幻史・無岳・荷風・
蛙夕・輝雄・素竹・露明・素儻・角浪・翠隱・霞村・三員・正坡・
薰宇・可合・富哉・知足・位松・巨川・湖月・御風・保堂・史玉・
真澄・榎堂・立字・五渡・湛齋・立字・五渡・湛齋・立字・五渡・
湛齋・立字・五渡・湛齋・立字・五渡・湛齋・立字・五渡・湛齋・
湛齋・吳雪・立字・五渡・吳雪・立字・五渡・吳雪・立字・五渡・
吳雪・立字・五渡・吳雪・立字・五渡・吳雪・立字・五渡・吳雪・
五渡・立字・立字

三段組

※ 「庚戌季秋」

147 秋興 全紙 山子 圭岳 蹴鞠奉納図 ○ アイ 松教 (天真)

(京) 梅室・淡節・風光・石堂・杜鷲・有節・祭魚・禾明・丈翠・
梅通・九起・岱年・(天坂) 鼎左・素屋・松隣・白鷗・林曹・(伊丹)
太乙・(肥前) 悠々・柳絮・有阿・(豊前) 榎舎・(日向) 双鳥・駝岳・
(紀伊) 閑那・(淡路) 鷗池・希鯁・(阿波) 涼枝・調長・夷岳・茶雷・
万像・(伊豫) 鶯居・菊圃・(土佐) 嵐夕・樊外・雲外・婦牛・古鳳・
(播磨) 沙月・(備前) 晚成・(備中) 香雨・(因幡) 棲鳳・(伯耆) 杜陵・
(石見) 青池・(出雲) 慎儀・(丹后) 雙・(近江) 礪山・楓下・(伊賀)
養瓜・(伊勢) 鶴叟・蕙雨・五鈴・□□・李曠・思文・馬曉・月底・
黃山・(三河) 三岳・蓬宇・(遠江) 杜水・(駿河) 漣山・(甲斐) 雪底・
如山・(信濃) 昔夢・葛古・武栗・(越前) 布珀・古籠・(加賀) 丹嶺・
柳壺・大夢・(越中) 恕兮・完哉・蚊和・(越后) 乙良・春室・春成・

清水・孤舟・友耕・麻三・好静・巴陵・茶山・其山・ちから・
立器・抱儀・(佐渡) 文仙・為言・梅顔・(出羽) 御風・素山・西池・
唼風・可亭・鶴二・雪琴・閑淋・吟霞・(陸奥) 多代女・清民・
清素・美泉・江三・榮徳・禾月・□□・□□・一府・葎室・(南都)
南江・(津輕) 素席・(松前) 一旭・一帆・小鯤・(上野) 関市・萬山・
龜松・三枝・松月・石鳴・萬水・梅嶺・桐漁・梅雄・(下野) 嵐齋・
雪堂・一圭・靖雨・岳得・桃仙・里麦・一峰・竹雨・其翼・(常陸)
よし香・友甫・野巢・(安房) 文雄・(上総) 霞雪・柳塘・未成・

(下総) 交水・岳年・鳩羽・その女・山芝・土朗・南岨・(相模)

可合・坡丈・立字・(武蔵) 五渡・竹山・溪齋・(在府) 佳峰・南瓜・
雨堂・雄飛・卓堂・江波・石外・一具・由誓・逸淵・得蕪・卓郎・
祖郷・西馬・氷壺・見外・萬古・松什・丁知・山外・魯心・素明・
音好・月之・夷則・松室・素交・久米女・漣々・大英・雪年・
杉雨・不染・てる久・荷少・青牛・岱里・波鷗・尋香・詠久・
鳥吟・瓦村・惟艸・幻外・桐古・龜渕子・子鶴子・遅流・百丈・
松堂・栗々・太年・秋香・普陽・弄化・由岐雄・萬里・左山・
可簫・守耕・波静・山方・ミもと・為山・山子

三段組

※ 「嘉永庚戌秋」

148 秋興 全紙 梢山 孤村 生花 茶道具図 ○ イ ×

丁知・梢山・梅翁・梅室・礪山・梅通・九起・芹舎・双鳧・龍翁・
鶴湖・禾明・有節・秀何・岱年・林曹・素屋・蟻兄・白鷗・松隣・

鼎左・而后・黄山・苞惠・文之・李曠・田文・一圓・馬曉・不退・
 一清・烏津・呂川・月底・蓬宇・若寅・杜水・烏谷・漣山・五鈴・
 塞馬・立宇・抱儀・春室・西畴・鷺眠・乙良・若夢・大江・芽二・
 蝶居・梧丈・素月・夫草・風之・夏蔭・一具・祖鄉・為山・山外・
 杉雨・萬古・霞五・銀岱・举一・三猿・杉曉・花卯・瓦村・波鷗・
 完鷗・貞之・抱叔・立聲・汲古・下笠・清山・雲瀾・文雅・發機・
 仙裾・恒外・清厓・其丸・完嶺・季山・鶴步・山粧・萬甫・教汀・
 てる久・夢遊・楓溪・貫俗・山海・成泉・可簫・松友・南汀・
 芝角・春世・氷谷・羽人・見外・西馬・由誓・江月・万丸・榷江・
 鶴聲・可川・蔵六・宇猷・半探・調鶴・かね女・如月・白羽・
 浦人・龍枝・如水・甫吟・季成・水明・麥翠・馬麥・仁里・種麥・
 自然・里仙・立賀・梢翠・崑水・惠之・松邨・一曉・溪春・一郷・
 柳翠・秋月・里月・里石・遠山・琢之・一簑・麟止・橋齋・椿山・
 蓬壹・寸蔭・簑臺・一花・初風・和秀・桃醉・太郎・家遊・梅風・
 柳生・梅蝶・兔什・桜五・兔郷・葛良・土祥・歩山・龜成・谷耕・
 方多・一聲・船光・里磐・夏柳・蟻月・苞鶴・苞川・路長・更古・
 其明・箕風・耕必・茶坡・如笠・其成・龜年・学川・緒有・爐雪・
 事旦・蓬仙・卷石・子梅・圃水・自言・成澗・齡川・聲水・井之・
 冬嶺・知喬・一梨・知泉・南茂・封節・影守・知精・知外・茶節・
 知來・羽林・知風・得蕪・惟草・茶瓢・笠山・文翼・(ヒタチ)
 一桃・文車・知南・霞雪・知山・知九・肖可・知馨・崑春丸・仙
 子・知素・汎翠・金芽・松舟・裁宜・淇竹・花晃女・清古・梧成・
 茂翠・東洲・知及・佳照・板尺・知遠・村雄・風成・佛之・素英・

白龍・二鳩・旭斎・言山・立朝・白起・松什・梢山・立朝・丁知・
 言山・茶瓢・梅翁・丁知・梅翁・梢山 三段組

※ 「嘉永庚戌菊涼日」

149 冬興 全紙 湧瀧 漆揮 松図 ○ ウエ ×

芭蕉翁・(ナニハ) 鼎左・(ナニハ) 松隣・(ナニハ) 稻處・(ナニハ)
 素屋・(イワミ) 一桃・(京) 乙雅・(京) 閑萑・(京女) よう・(京女)
 秋香・(サガ) 百和・(ホウキ) 一簑・(ホウキ) 斗戈・(ホウキ) 吐珠・
 (ホウキ) 白駒・(ホウキ) 小蝶・(ホウキ) 秀柳・(ホウキ) 九一・
 (犬カンノ) 光浪・(中ムラ) 吞々・龜樂・(シノムラ) 涼尾・(ホヅ)
 龍眼・其鶴・(ホヅ) 魯雄・九華・雲帶・竹坡・穆如・大年・笛山・
 朗月・遊樂・思樂・梅林・於二丸・草菓・一堀・梅溪・一夢・
 湧瀧 二段組

150 慶賀 全紙 等裁 臥春 冬籠図 ○ イ 松教

(京) 梅室・有節・杜鷺・禾明・淡節・松秀・九起・梅通・岱年・
 (大坂) 鼎左・林曹・而來・煙雪・素屋・松隣・其山・可兆・五諳・
 蕾江・椿立・文鷺・貞華・桃年・春彦・白鷗・(日向) 双鳥・(阿波)
 釣月・萬像・(ミマサカ) 古尺・青湖・(ランゴ) 素恒・(ヲハリ) 黄山・
 而后・應知・月底・(ムツ) 多代女・清民・遜阿・素山・也明・
 清素・里水・宗古・如水・举堂・白水・梅露・禾明・燕山・心阿・
 圭甫・舍用・杉芽・一止・卓堂・(□□) 陽山・一帆・而先・己有・

一旭・耕雪・頼芝・小鯉・(出羽)御風・國彦・(伯耆)杜凌・柏山・
 (イヅモ)一婦・一誠・尺山・(シナノ)葛古・寫月・(三河)蘇雪・
 (近江)礪山・東逸・(サガミ)立宇・護民・榎堂・布丈・(遠江)
 杜水・聰雨・(スルガ)岱亥・漣山・見路・(ヒタチ)聰松・松塙・
 樊圃・如泉・友甫・(カヅ)江波・(イセ)都岐雄・雅琴・(カヅサ)
 霞雪・睡鷗・一澄・(下総)文哉・山資・そのめ・越卯・崑年・
 梅村・(下毛)未足・竹雨・林曹・(上毛)梅雄・米室・布水・桃仙・
 琴堂・吳年・谷朗・関市・(ムサシ)竹山・南々・寿山・和堂・
 龜城・五渡・涼花・閣当・杉暁・花外・一具・坦々・好甫・
 庭理女・眉岳・明甫・探閣・吸月・閑雅・蓬交・完・漸足・苞月・
 夷則・臥春・在爾・節之・瓦村・波鷗・拙誠・範成・三朗・鍊丸・
 龜玉・□□・金瓶・省我・かつらめ・卜早・祖郷・龜渕子・
 子鶴子・百丈・山方・波靜・素賀・栗熊・みもと・可簫・山子・
 遲流・為山・見外・大鵬・鶴雅・寵古・素風・素交・一雅・左波・
 鳩崑・逸渕・渡江・香明・可川・一水・松室・半湖・素明・五雀・
 てる久・詠久・西馬・得蕪・峽舎・竹賀・萬頃・南汀・汎翠・
 知風・旭齋・交翼・其深・茶瓢・春世・言山・東川・完鷗・推經・
 丁知・松什・卓郎・叩月・詹々・五律・山外・一京・□雨・寫山・
 三楓・梅笠・古む良・惟艸・氷谷・南柯・潤翠・芝角・秀江・
 秋香・氷壺・菊葉・漁藻・儷月・北賀・梅彦・不染・荷少・米山・
 雨清・貞士・磯石・方宇・成守女・ふつ女・尾山女・萬里・鳥吟・
 仙覺・普婦・古山・柏樹・千号・五石・由岐雄・漣々・幻外・
 弄化・念々・道雄・萬古・大莫・苜丸・桐古・龍守・由誓・

(佳拳園)等裁

三段組

※ 「嘉永三戊初冬」／佳拳園等裁新居祝

▼嘉永四年

151 秋興 全紙 思風 素真 水辺荷車図 ○ イエ 涛斎

(山シロ)梅室・岱年・九起・禾明・有節・芹舎・梅通・杜鷲・
 丈翠・石外・百古・淡節・杜蓼・默池・(在京)石堂・雪蓑・瓢齋・
 (セツノ)白鷗・林曹・鼎左・素屋・松隣・秦々・爐雪・自来・
 (ヤマト)可推・(イヅミ)此方・(カハチ)古鏡・(イガ)養瓜・(イセ)
 雅琴・雀叟・(ヲハリ)黄山・而后・(ミカハ)蓬宇・(トホツウミ)
 杜水・(スルガ)漣山・(カヒ)竹良・(イヅ)靜退・(サガミ)立宇・
 貞止・(アハ)静里・(上サ)未来・霞雪・(下サ)仁里・(ヒタチ)
 李郷女・(アフミ)砺山・(ミノ)一居・(ヒダ)有美・(シナノ)葛古・
 雲老・三都里・雪蓑・(上ツケ)心足・逸芙・雪居・琴堂・可考・
 筈言・朱室・吳羊・一郎・分尾・三封・谷郎・(下ツケ)嵐齋・
 桃仙・(ムツ)一止・舍用・如雲・多代女・(マツマヘ)榻雪・(キイ)
 閑那・(アハチ)希鯨・蔣池・鷗池・(サヌキ)今是・(イヨ)鶯居・
 菊圃女・(トサ)古鳳・嵐夕・婦牛・雲外・半外・元史・晚成

※ 152と一対

二段組

(デ) 御風・稲洲・璣山・郁甫・素山・二葉・月山・(エチゴ)
 春室・茶山・乙良・大経・好静・里英・(サド) 為言・(エツ中)
 恕兮・(ノト) 淇洲・(カ) 江波・(エチゼン) 布珀・(ワカサ) 微簫・
 (タンバ) 九華・(タンゴ) 崑節・(タジマ) 無着・(ハリマ) 必山・
 (イナバ) 棲鳳・(ミマサカ) 耕雨・(ハフキ) 杜陵・(イツモ) 尺山・
 (イハミ) 一桃・青池・(ビゼン) 布國・(ビツ中) 香雨・(ビンゴ)
 雪塢・(アキ) 甘古・(スハウ) 閑雲・(ナガト) 左逸・(フゼン) 鶴歩・
 (チクゼン) 方井・(チクゴ) 山公・(ヒゼン) 悠々・大素・(ナガサキ)
 驢童・(ヒゴ) 十帟・(ヒムガ) 双鳥・駝岳・(オホスミ) 虫三・(サツマ)
 軼冠・馬兄・(イキ) 淇水・(ツシマ) 曙堂・(雲水) 抱儀・可大・
 岳陰・竹烟・玄子・(ムサシ) 南々・寄三・誠盧・為一・竹山・
 (エド) 四山子・亀渕子・培堂子・可川子・梧青・遲流・一具・
 由誓・為山・見外・得蕪・松什・萬古・念々・卓郎・祖郷・丁知・
 又々・梅笠・詠久・普陽・螻翁・松可・柏水・一水・五雀・菀丸・
 英鳥・月窓・寄春女・渡江・瑤華・鶴翁・てる久・半湖・音好・
 弘湖・松室・素明・幻亜・瓢鯨・松塘・東左・逸渕・思風・西馬・
 逸渕・(ア) 露泉・鳳棲・米雪・桂花・米仙・鈞月・涼枝・酸泉・
 其樂・百仙・苜白・一風・怨園・化仙・白羽・空琴・仙友・木釜・
 順美・梅宇・史白・一史・静居・鯉丈・木鶴・蘿彦・野雪・積翠・
 (ア) 照雄・西裡・楚宮・夷岳・筭路・梅守・麗象・穎甫・左一・
 里月・風香・不染・風和・露映・青螺・烏司・竹英・茂翠・麦鳥・
 百之・史山・卜雅・羽長・萬像・茶雷・松丈・木龜・山月・桑葉・

※ 「嘉永辛亥年」 / 151と一對

153 春興 全紙 月挙 花洲 梅花明鳥図 ○ アイエ ×

(京) 梅室・岱年・梅通・杜蓼・芹舎・九起・月坡・淡節・石堂・
 芳英・雨翠・禾明・太計彦・東樹・蒼雪・虚真・湖風・湖月・
 孤南・曲淵・有節・(江戸) 亀渕子・一具・逸渕・卓郎・得蕪・
 為山・西馬・祖郷・見外・山外・梅笠・惟中・遲流・松什・氷壺・
 萬古・半湖・弄化・由之・幻外・尋香・魯心・念々・城舎・鳥吟・
 可合・叩月・万里・崑城・由誓・(尾張) 而后・梅裡・一清・鳥律・
 李曠・金樵・醉雨・李裳・我竟・有橘・蓬陽・黄山・(加賀) 大夢・
 霞郎・丹嶺・(越中) 野乙・恕兮・(大坂) 鼎左・素屋・其山・(ア) 万像・
 春整・(オク) 多代女・(ムサシ) 溪斎・五渡・(下サ) 呂叟・交水・
 (上毛) 布山・(天草) 戊峨・(越后) 春室・抱儀・うつを・里声・
 箕玉・虚栗・霞洲・錦城・可及・南鷺・九齡・一石・如庸・馬山・
 鈞月・石花・十全・月挙 二段組

※ 「嘉永四辛亥の春」

154 慶賀 全紙 鈴石 臥春 乙御前図 ○ アイ ×

梅室・岱年・砺山・素屋・鼎左・蓬宇・崑年・五渡・多代女・

泰山・舍用・葛古・好静・抱儀・黄山・月底・而后・一具・臥春・古峯・尋香・祖郷・萬古・丁知・松什・由誓・山外・月ふる・龜瀨子・太年・山方・山子・ミもと・為山・西馬・詠久・南々・寄三・可考・逸瀨」如々・觀堂・凡和・植ふる・榎堂・吳丁・友飛呂・木比・丹堂・宜頂・可合・天均・三曉・圭甫・完東・井蛙・三芳女・對石・如泉・北松・半風・宜徳・雄之・菊人・花山・鶴睡・一湖・壽山・溪水・樽路・如翠・千歳・白羽・希丈」

鈴石・完和・立宇・斗筵・希丈・三曉・木比・白羽・圭甫・如翠・鈴石・完和・斗筵・希丈・三曉・植ふる・立宇・北松・完和・

そて女・(少年)貞太郎・斗筵・立宇・鈴石

三段組

※ 「辛亥のはる」／鈴石崑寿慶賀

155 その他 全紙 為春 圭岳 袴図 ○ イ 竹窓

梅室・淡節・岱年・鼎左・素屋・雀叟・萬像・悠々・黄山・大夢・恕兮・春室・乙良・御風・唸風・多代女・一止・布山・雷村・うめ雄・関布・義香・嵐齋・未成・柳塘・南崖・崑年・五渡・溪齋・石外・雪簫・肆山・岳陰・蘓山・且齋・一具・由誓・得蕪・逸瀨・萬古・祖郷・太英・念々・惟艸・氷壺・龜瀨子・山外・たけめ・百丈・西馬・不染・可簫・千さめ・見外・幻外・山方・泰我・栗熊・ミもと・由岐雄・弄化・丁未・桐古・泰甫・山子・普陽・秋香・苜丸・峽舎・松什・遲流・為山」草也・可轉・道求・雲里・緑簫・文谷・雪底・貴齋・五楽・通春・麦里・斯咏・里哉・

蛙水・麦齋・梅圃・如作・斗一・菅守・為一・大年・鷹彦・半山・ミち雄・竹経・松具・宰多・三圭・ときは・丁之・西甫・一步・蛙堂・一号・左旦・菟焉・逸我・保居・為春

二段組

※ 「亥の春」／為春改号披露

156 春興 全紙 雲涯 圭岳 老武士春遊図 ○ イエ ×

梅室・岱年・有節・九起・杜鷲・淡節・礪山・鼎左・素屋・松隣・悠々・菊圃・鳳棲・茶雷・五鈴・黄山・月底・而后・應知・李曠・鵬居・可大・柳壺・大夢・丹嶺・立宇・銀岱・未足・無名・鬼風・寄三・南々・五渡・関市・梅雄・交水・崑年・乙良・茶山・ちから・春室・二丘・一止・舍用・宗古・清民・多代女・龜瀨子・梧青・一具・由誓・松什・見外・逸瀨・祖郷・念々・萬古・幻外・荷少・泰山・鳥吟・尋香・西馬・大英・氷壺・魯心・等栽・山外・松塘・丁未・淡齋・守耕・百丈・可簫・ミもと・弄化・波静・山子・山方・遲流・為山」唸風・如春・幽雅・薰曉・雪琴・可亭・洗耳・松陽・松雄・渭泉・堯西・怡々・河曉・青逸・枳此・桃曉・其曉・味風・雪鮮・國彦・落城・化鵬・二葉・其仙・詠之・雲岱・良和・雪貫・撫泉・月想・素山・御風・可慎・雲涯

二段組

※ 「辛亥晚春」

157 春興 全紙 稻彦 乙良 八幡宮桜並木図 ○ アイ
江雪山人(乙良)

由誓・為山・西馬・見外・遲流・東洲・波鷗・太年・可簾・詠久・
魯心・白起・精美・萬古・一具・長者園・琳峰・左痴・和風・
雅竹・精阿・而后・黄山・未足・旭齋・琴堂・御風・雲外・
多代女・清民・一止・二柏・精器・阜雄・柳壺・悠平・半谷・
松隣・素屋・梅通・芹舎・梅室・乙曆・清人・梅雄・加青・如水・
其曉・春室・季眠・鷺眠・凌再・あやめ・ひで女」・雪湖・竹堂・
北里・東徑・可靜・道雄・汀柳・尺池・雄飛・阿水・夕照・梧葉・
芹洒・古蒼・守年・秤香・五岳・晴楓・春成・清水・李年・梅逸・
柳枝・柳碧・出立・北郎・三知・照波・自風・梅光・鳳歳・乙美・
西疇・半橋・乙良・稻彦
二段組

※ 「嘉永辛亥春」

158 春興 半裁 布国 来章 吉野桜図 ○ アイエ ×

(京) 梅室・石堂・岱年・梅通・有節・月坡・淡節・九起・禾明・
芳英・文翠・芹舎・杜鷺・(江戸) 一具・(江戸) 租郷・(イセ) 只青・
(イセ) 千歩・(江戸) 龜遊・為山・尋香・溪齋・由誓・(大坂) 林曹・
素屋・鼎左・白鷗・蟻兄・(陸) 多代女・(下ツケ) 南涯・(下ツケ)
其翼・(オク) 清素・(サガミ) 立宇・(サガミ) 北松・(オク) きよめ・
(オク) 丁酉・(オク) 英泉・(オク) 一旦・(オク) 鶯仰・(オク) 東里・
(オク) 清民・(エチゴ) 春室・(エチゴ) 乙良」・(オク) 情器・(オク)
応居・(オク) 峯女・(オク) いせ二・(オク) 桃源・(オク) 白外・
(オク) 東枝・(オク) 麗湖・(オク) 梅二・(オク) 梅溪・(オク) 吐月・

(オク) 嵐和・(オク) 湖山・(オク) 如松・(オク) 布山 57 4 3

※ 「辛亥春」

159 冬興 小 宇均 雲間鶴炉開図 ○ イエ ×

岱年・芹舎・黙池・淡節・有節・鼎左・素屋・松隣・蓁々・白鷗・
悠々・希鱗・鶯居・半外・嵐夕・黄山・月底・蓬宇・龜渕子・
逸渕・為山・遲流・西馬・鳳棲・思風・桑葉」・天馬・冬柱・夷岳・
筆路・宇権・平蕪・明美・椎雨・夏底・蒼明・鳥曉・雨蓼・
山賀都・露映・梅道・可渕・羽長・木鳥・楚宮・茶雷・宇均

※ 「庚戌冬」／縦三裁／嘉永三年

47 2 6

160 春興 小 落梧舎 半山 魚壳図 ○ イエ ×

花屋菴・松陰・八千坊・此花庵・(江戸) 一器・貞隣・(作勝山)
無案・松声・竹波・(豫宇和島) 白水・(左界) 柳吾・(作倭文社) 鴨里・
琴調・文鶴・素柳・文雅」・雪香・菖利・(松寿更) 涼松・圓中・
柳室・羅光・可松・登渕・有静・桃里・落橙舎 27 1 3

※ 「辛亥春」／縦三裁

161 歳旦 小 湧瀧 桜杉庵 小松引図 ○ イエ ×

(ナニハ)素屋・(京)鳥舟・(京女)松人・(京女)琴松・(フノヘ)錦子・(フノヘ)翠子・(フノヘ)其月・(フノヘ)谷水・(寺ムラ)愚仏・(シノムラ)霞董・(ナヒカ)遊水・(ホヅ)龍眼・(サガ)百和・(サガ)静之・(カヤ)方水・青月・寫山・馬耳風・玉英・(十四才)光月・吉丸・帛杖・思樂・青波・王二丸・一藤・湧瀧 三段組

※ 縦三裁

162 春興 全紙 ちから 圭岳 機織図 ○ イ 竹窓

悠々・素屋・杜鴻・松隣・鼎左・梅室・淡節・石堂・杜鷺・有節・九起・梅通・砺山・桐古・黄山・立宇・一具・祖郷・為山・水壺・幻外・山外・西馬・逸瀨・龜瀨子・遲流・百丈・詠久・山子・可簫・萬古・溪齋・五渡・南々・崑年・多代女・舍用・琴堂・布水・心足・茄言・一朗・乙良・春室・之白・巨童・梅村・たかき・尚樹・緑太・蕉古・里作・李郎・一桂・其山・古棠・文節・有中・篤之・ちから・涼岱・涼岱・ちから 二段組

※ 「辛亥夏」

163 秋興 全紙 其山 岸讓 綿花・雀図 ○ アイウエ ×

梅室・艸齋・鼎左・林曹・白鷗・鶯宿・桃室・素屋・松隣・呂國・可兆・臥堂・碩水・岱年・(江戸)一器・(尾ハリ)兔尺・蒼雪・(伊セ)梅笠・五鈴・白臺・棟陰・(大和)松翠・八千男・水男・

和翠・(寿樂更)子剛・いつは・(尼ケサキ)梅愛・(ミカゲ)一值・(兵ゴ)醒花・(紀伊月虚更)虚心・梅鳳・嵐翠・可翠・(アハヂ)墨雨・鷗池・(アハ)佳長・松堂・(サヌキ)素鷗・化友・竹溪・松里・流藻・穂屋・(伊与)圓室・斜水・斗仙・松月・東里・宗雪・白雉・馬槿・其嵐・(ハリマ)牙睡・如清・旭瀾・羽白・(美作)半桂・貞素・九臯・(美作)正蛙・芳洲・抱月・五泉・十步・如石・桃李・二舟・雪茶・米至・龜遊・蘭兄・寸志・七尺・無案・佳年・松声・竹波・瓢哉・勘好・洌水・菊阜・桃波・鷗浪・倭水・玉水・琴調・琴風・鴨里・可樂・一花・誠賀・益雄・松尾・其雀・春暉

二段組

※ 164と一対

164 秋興 全紙 其山 岸讓 雀図 ○ ウ ×

(備前)布国・楚狂・几麗・友彦・杏塢・可樂・一橘・青柳・竹友・海玉・五尺・馬貢・晴湖・瓶月・(備中)香雨・北涌・埜屋・(備后)菊雄・(伯耆)春保・榮明・(イナバ)柏葉・(出雲)一誠・尺山・雲和・慎俄・(豊后)州人・其三・其石・(松丘更)松溪・木鷄・桃李・紫虹・梅窓・半秋・文江・竹陰・桃齡・吳石・大分・翠羽・駟郷・杏雨・(豊后)朝翠・吳山・仙杖・暉山・利選・初月・松叟・山稜北・兔白・机雪・千里・鴉青・梅笏・梅敏・梅彦・梅谷・梅員・梅遜・梅貫・梅路・石友・柳翠・芦舟・敬欽・一簑・兔角・竹露・醉石・静山・楚萍・帶雲・吟松・萬里・竹宇・巢鳩・先木・吳郎・

千齡・(肥前) 帶月・(日向) 双鳥・駝岳・(サツマ) 冬州・自来・
 南岨・樵松・藜々・二桎・菊一・梅雅・是水・艸茂・桃年・春芳・
 招鶴・堯丸・桃霞・仙夢・柏年・粧山・浪燕・知風・祇白・棠居・
 杜園・九瓜・曾州・米老・青良・英之・可丈・霞松・鮎居・楨立・
 春彦・旭石・長久・鷺兄・納義・公朴・其昇・其実・帛尺・吳雪・
 梅底・其雪・鍊撫・榮井・如石・玉壺・風帛・文鷺・鶴齡・米山・
 花兄・潮沖・素室・秀葉・竹児・竹人・椿枝・洋齋・烏白・鳥誠・
 帛来・遅竹・古槩・其山
 三段組

※ 「亥の秋」 / 163と二対

165 秋興 全紙 鼎左 画者未詳 談笑図 ○ アイエ ×

(六十六翁) 卦龍・蘭操・秋岨・松塘・北梅・梅圃・龜月・理藩・
 三得・倚松・香山・旭峯・吾柳・園中・涼松・杜亭・萬穂・松花・
 藍淵・鷺洲・一蜴・幽石・万頂・扇涼・京涉・涉鶴・京鶴・
 (かふち) 不二門・龍川・左栗・桃水・月洲・公然・抱水・一表・
 (武蔵) 醒花・雨外・黄山・草居・月人・清機・有中・杜鴻・梅弟・
 楓可・(米子在坂) 鶴棲・(松山在坂) 椿臺・(尾張在坂) 兔尺・必方・
 花兄・隣草・芝耕・芦郷・冬翠・二壽・文景・はる女・井竹女・
 里柳・(京八十三翁) 梅室・(江戸) 為山・月村・可簫・(在京) 夫雪・
 (左海) 麦雨・荒野女・其芳・米升・翠山・五葉・此松・(西宮)
 崑久雄・(池田在) 里橋・里川・(濱村) 楽山・(郡山) 花嘯・禾烁・
 (若山月虚改) 虚心・(高野山) 柯童・(赤穂) 聴洋・(姫路) 悟一・

(福山) 紅顔・(淡路) 鷗池・(徳島) 夷岳・(松坂) 五鈴・(石見) 一池・
 青池・(七十二翁) 草齋・鶯宿・素屋・井資・可兆・光林・鼎左
 二段組



166 秋興 半裁 龜年 南涯 小菊小箱図 ○ アイエ ×

(京) 岱年・芹舎・梅通・淡節・向月・黙池・杜鷺・有節・(大坂)
 鼎左・素屋・松隣・藜々・其山・林曹・(アフミ) 礪山・(イガ)
 養瓜・(イセ) 雀叟・(ヲハリ) 黄山・李曠・(ミカハ) 蓬宇・(遠江)
 鳥谷・杜水・(エド) 龜渕子・逸渕・為山・祖郷・遅流・山子・
 見外・西馬・(ムサシ) 南々・寄三・(ヒタチ) 李郷女・(上毛) 米室・
 栗堂・(ラク) 多代女・清民・一止・舍用・(ヒゼン) 悠々・(イヨ)
 鶯居・菊圃女・(トサ) 嵐夕・翠竹・婦牛・(アハヂ) 其秀・蔣池・
 希鯨・鷗池・墨雨・(アハ) 應吏・桑葉・天馬・万像・冬柱・楚宮・
 木鳥・順美・思風・山賀都・樗風・月古・梅道・東阡・露映・
 左一・雨蓼・蒼朗・椎雨・平蕪・宇均・筭路・羽長・夷岳・茶雷・
 たゞ女・青枝女・龜年
 78 42

※ 「嘉永辛亥秋」

167 秋興 半裁 ちから 圭岳 落馬図 ○ アイエ 竹窓

一具・氷壺・萬古・岱年・鼎左・南岨・多代女・礪山・有節・

心足・太年・茀翁・為山・溪齋・一具・帰一・緑太・一桂・月周・
鹿山・蕉古・文帯・有中・篤之・涼岱・李朗・古棠・其山」・
ちから
28 28

※ 「亥の秋」

168 秋興 全紙 故厓 臥春 月下砧函 ○ イウ 得齋

(京) 梅室・岱年・平府・(大坂) 鼎左・林曹・其山・素屋・白鷗・
松隣・(アハ) 鳳棲・漲湖・思風・聴泉・積翠・茶雷・(トサ) 雲外・
元史・嵐夕・(アキ) 四端・桃雨・梅思・花柳・一蝶・其翠・(ヒゴ)
林士・(サツマ) 馬翁・桃戴・(サヌキ) 蓬洲・(イヨ) 鶯居・(ムサシ)
竹山・南々・寄三・支英・天由・月雄・短長・(スルガ) 漣山・
(サガミ) 立宇・竹司・素外・(上毛) 琴堂・吳羊・一郎・谷郎・
米室・(下ツケ) 桃仙・(シナノ) 葛古・芦川・(ムツ) 舍用・如雲・
一止・(デハ) 御風・璣山・(エチゴ) 乙良・茶山・(サド) 霞昇・
龜遊子・柳椅子・遅流・寿齡・松堂・鷄里・為員・南齋・松林・
慶秀・まもる・唏衛・貴柳・東英・高山・水曲・久義・湖柳・
一具・卓郎・松什・見外・苜丸・柏水・錦露・素什・清露・柏枝・
湖明・一是・鬼丸・(雲水) 杜涼・有佛・等栽・惟草・祖郷・西馬」・
詠久・柳枝・暁山・湖鳥・桃里・禾柳・つたを・近松・梅司・
魚交・里椿・北生・珀雄・歌雄・三津人・可和井・落笠・五苾・
移月・遊厓・夢厓・柳霞・由誓・為山・念々・萬古・氷壺・鳥吟・
五雀・木風・柳雨・樵路・柳糸・閑齋・かしく・洒雄・薰道・

岱中・得蕪・梅笠・逸洌・(湖外更) 故厓
二段組
※ 「嘉永辛亥秋」

169 追善 全紙 古棠 圭岳 法会帰路函 ○ イ 竹窓

(京) 梅室・淡節・芹舎・有節・九起・杜鷲・梅通・岱年・(大坂)
素屋・鼎左・(ヒゼン) 悠々・(イヨ) 菊圃・(アフミ) 砺山・楓下・
(イセ) 只青・雅琴・(ヲハリ) 而后・黄山・(サガミ) 立宇・(上毛)
心足・布水・穎甫・(ムサシ) 一朗・南々・五渡・溪齋・(下ヲサ)
崑年・(オク) 多代女・舍用・(デワ) 御風・(江戸) 由誓・逸洌・
祖郷・遅流・百丈・万古・詠久・茀翁・可簫・太年・山子・抱儀・
万里・幻外・山外・西馬・為山・氷壺・一具・(ツマリ) 觀之・
羅齋・蛭堂・可常・嵐路・石屋・緑太・(小リヒ) 東洋・(小ヂヤ)
寿泉・(チャ川) 尚樹・(ナガオカ) 好静・(ハチヲ) 可庭・(カンバラ)
帰一・雪潮・茶山・乙良・(ニイガタ) 甫山・(川口) 世挙・(ホリノ内)
松舎・椋村・須童・柳塙・(小イケジマ) たかき・(五ケ) 文志・
(ウラサ) 路由・(僧) 扇守」・涼岱・篤之・□□・有中・蕉古・
其東・東茂・里作・岱雲・東明・里風・須石・公木・雪丸・春及・
為仙・春遊・李朗・清之・月叟・一桂・兀兮・花芳・野笛・其山・
月周・流石・牧明・松里・鶴寿・芝栄・年豊・荷笠・赤牛・陽杞・
梅崑・梅豊・夢泉」・ちから・泉花女・古棠・ちから・泉花女・
古棠・泉花女・泉花女・泉花女・泉花女・泉花女・ちから・
(十二童) 那々吉・古棠
三段組

※ 「辛亥季秋」／泉花女追善

170 秋興 全紙 鶯居 素真 花笠行列図 ○ アイウエ 得齋

(京) 梅室・芹舎・岱年・(ナニハ) 鼎左・松隣・素屋・(アハ) 鳳棲・
漲湖・茶雷・桑葉・釣月・松丈・積翠・聽泉・穎甫・(アハヂ)
希鯁・(トサ) 嵐夕・婦牛・元史・雲外・梅十・(ヒゴ) 十席・林士・
(ヒゼン) 悠々・(ヒフガ) 双鳥・(サツマ) 馬翁・(イガ) 養瓜・
(ヲハリ) 黄山・一清・(ミカハ) 蓬宇・(トホツウミ) 杜水・(上サ)

霞雪・(ヒタチ) 李郷女・(ムツ) 多代女・一止・如雲・舍用・(デハ)
御風・稻洲・璣山・(エチゴ) 乙良・茶山・(エツ中) 恕兮・(シナノ)
芦川・(上毛) 分尾・琴堂・吳羊・米室・梅雄・可考・茄言・半湖・
(下ツケ) 桃仙・(ムサシ) 南々・寄三・竹山・千瑞・支英・月雄・
天由・四山・慎堂・可川・梧青・一具・由誓・遲流・為山・得蕪・
松什・念々・祖郷・等栽・萬古・苜丸・一枝・直入・詠久・四端・
巴雪・素伯・搬柴・錦露・五雀・鳥吟・梅思・柏水・里椿・杜涼・
岱中・湖外・弘湖・洒雄・薰道・梅笠・逸瀨・西馬・薺徑・默翁・
蘭窓・鶴巢・鶯居 二段組

※ 「嘉永辛亥秋」

171 追善 全紙 鶯居 素真 自然堂七物之一龍角図 ○ イエ 得齋

鳳朗居士・詠久・西馬・鳳棲・鶯居・念々・逸瀨・筆・(京) 梅室・
九起・有節・杜鷲・杜蓼・陵雲・芹舎・石外・岱年・(大坂) 林曹・

白鷗・其山・素屋・松隣・自来・蔡々・鼎左・(大和) 可撫・(薩摩)

鉄口・馬翁・(筑後) 文老・馬朝・(肥前) 悠々・(長崎) 希靖・(肥後)
稻波・東居・素丈・一叟・卜桑・謹路・巫山・青年・仙翅・秋湖・
白辰・十席・(日向) 駝岳・双馬・(石見) 一桃・(讃岐) 天歳・(土佐)
嵐夕・古鳳・雲外・婦牛・翠竹・梅十・壺通・元史・晚成・栗青・
明美・杏山・蟬名・(阿波) 應吏・文笠・思風・松丈・釣月・桂花・
茶雷・太挙・有問・穎甫・苜白・廣詠・一風・百仙・海門・掬月・
薄風・素尺・万像・山月・桑葉 二段組

※ 「嘉永辛亥霜月廿八日於」／谷中天王寺興行、自然堂鳳朗居

士七回忌追福／三枚組のその一

172 追善 全紙 鶯居 素真 伝来書卷子図 ○ エ 得齋

(淡路) 希鯁・鷗池・半谷・蔣池・竹斎・(伊豫) 菊圃女・葵笠・
薺徑・默翁・蘭窓・鶴巢・(伊賀) 養瓜・(伊勢) 雅琴・東作・雀叟・
蕪雨・杜衡・(因幡) 棲鳳・(伯耆) 杜陵・(安藝) 梅思・(近江) 砺山・
花朴・東逸・(遠江) 杜水・鳥谷・(尾張) 黄山・而后・李曠・梅裡・
烏律・(三河) 蓬宇・三岳・(相模) 宣頂・白吟・丹堂・拔堂・千哉・
蘭砂・吳丁・立宇・(駿河) 漣山・(甲斐) 竹良・(信濃) 葛古・湘玉・
白齋・月外・(越中) 恕兮・(越后) 乙良・ちから・雪潮・其山・
古棠・李郎・茶山・(佐渡) 西塘・(陸奥) 多代女・二栗・一止・
如雲・舍用・(出羽) 御風・璣山・月山・稻洲・介二・(松前) 己有・
(常陸) 李郷女・(安房) 翠齋・(下総) その女・(上総) 嵐斎・桃仙・

(上毛) 心足・逸芙・琴堂・谷郎・無名・一郎・米室・一兮・吳羊・可考・茄言・分尾・臥鶴・(武蔵) 南々・寄三・千瑞・天由・支英・短長・竹山・五渡・(雲水) 抱儀・幻外・百古・(江戸) 一具・由誓・遅流・松什・為山・卓郎・得蕪・見外・念々・祖郷・□古・等栽・古山・惟草・氷壺・きく雄・荷少・素伯・良台・素白・可柳女・竹醉・木兔・寒梅・由岐雄・山子・山方・杜涼 二段組

※ その二

173 追善 全紙 鶯居 素真 伝来書卷子図 ○ イエ 得齋

(在江戸阿波) 漲湖・瓢鯰・東左・松塘・与竹・聴泉・黛乙・白羽・春鳩・栗子・里喬・彩霞・米仙・(江戸) 龍風・四山・如息・□・春鶴・可川・梧青・真青尼・一夢尼・又々・箕山・一器・一孤・月窓・鶴翁・月ふる・乙雄・螻翁・竹堂・洒一・野堂・室秋・角羽・□□・不一・未成・茄笠・真齋・天馬・若海・徳丸・羅梅・沢井・泉外・竹臣・蝶六・繁茂・蕪青・駿臺・四端・鶯所・柳巴女・巴雪・鳥吟・柏水・一水・五雀・錦露・林土・万里・俗中・半湖・音好・洒雄・均外・素明・薫道・故厓・梅笠・竹烟・逸瀨・西馬・鳳棲・詠久・鶯居 二段組

※ その三

174 慶賀 全紙 九竹園 公美 太夫・煤竹壳図 ○ アイエ ×

(八十三翁) 梅室・艸齋・天来・呂国・鼎左・蟻兄・一景・鶯宿・井左・吐屑・大年・井資・万利・眉山・寿扇・素屋・光林・松隣・休叟・葛齋・可兆・青山・臥堂・桃兮・春雅・花蟲・其涛・艸雨・荷村・米中・鷄室・月江・友之・春芳・梅弟・棠齋・豊水・乙鵝・芦笛・有隣・得處・化実・悠々・帟友・稻處・枝鳩・豊村・杜鴻・龜年・桃翠・春窓・凍洲・春門・梅壺・梅雅・柳美・米老・延柯・可蕉・一來・月景・巨柳・双鳩・李蝶・竹明・義禮・素陶・五柴・芦月・芦江・芦雪・方水・花涛・如水・一閑・由翠・其隣・松嶺・崑雀・梅肴・茶村・蕉室・米女・三甫・都水・此竹・桃牛・浮月・桃瀨・松一・卜隣・夏雪・桃室・鶯室 三段組

※ 鶯室立机披露(嘉永四年冬) / 175と一对

175 慶賀 全紙 九竹園 公美 釣玉図 ○ ウエ ×

崑良久・素鶴・素柳・其流・省月・澤雉・曾洲・湖石・可丈・英之・霞松・一知・春翠・几艸・丹柯・碧中・松雫・柳室・青良・松柏・湖山・舞楽・舞蝶・井蛙・梅蒼・不角・松月・見齋・珉朝・井龜・石史・羅光・艸逸・雪窓・香山・崑曉・梅園・涼松・寿山・百枝・(鳥石更) 芦石・郎鶴・玉呂・玉壺・一瓜・曲窓・了猿・耕簍・帟の家・芦室・雪逕・芳林・梅升・楚山・龜楽・梅茶・艸弘・一澄・万鳳・吸川・其遊・素外・佳水・眉屋・富秀・知流・芦勇・艸流・眠鳥・寸馬・蘭席・馬禿・(サンバ) 芦外・(ナンバ) 一千・(荒陵) 祇桃・楚文・梅迎・(ラツタ) 雨柳・楠窓・(アマ)

其文・峨月・(ミヤ) 朗笛・柳鶺・(ナダ) 井花・南景・一徳・(カウ)
艸岳・□翠・枝雄・梧遊・(サカイ) 柳吾・其逸・(ヤマト) 芳吾・
芳屋・龜淵・南岳・我好・(玉川) 都春・法橋桃室・九竹園

三段組

※ 鶯室立机披露(嘉永四年冬) / 174と一對

176 秋興 全紙 怡々 筠斎 鷹小禽図 ○ イ ×

梅室・有節・梅通・九起・杜鷲・芹舎・野鶴・淡節・白鷗・鼎左・
素屋・松隣・林曹・悠々・鳳棲・万像・茶雷・菜圃・悠平・卓丈・
丹嶺・柳壺・大夢・ちから・乙良・五鈴・月底・□□・李曠・
而后・黄山・立宇・溪齋・南々・寄三・友甫・砺山・璪山・一止・
清民・舍用・多代女・一具・大鵬・見外・逸淵・西馬・等栽・念々・
幻外・荷少・泰山・鳥吟・桃郷・萬古・祖郷・氷壺・松什・為山・
由誓・□□・月撫・撫泉・雪貢・唸風・如春・雲岱・其仙・可慎・
霞山・枳填・雲涯・雪琴・可亭・南好・桃曉・松霞・詠之・良和・
二葉・踏大・雪鮮・御風・河曉・河曉・怡々・怡々 二段組

※ 「辛亥とし初冬」

177 慶賀 全紙 桑陽 祥木 雪中千鳥図 単(茶) アイウエ ×

(京) 梅室・淡節・石外・素尺・向月・石堂・芹舎・岱年・(大坂)
白鷗・自来・藜々・素屋・(大村) 悠々・(イヨ) 鶯居・(土佐) 壺通・
翠竹・雲□・(淡路) 梅亭・蔣池・曉梅・鷗池・半谷・還水・青栗・

墨雨・希鯨・(北越) 茶山・素明・(雲水) 野鶴・蘇山・(仙ダイ)

舍用・一止・(江戸) 西馬・為山・詠久・遲流・薰道・松室・音好・
半湖・逸淵・松丈・涼枝・思風・龜年・楚宮・史白・茶雷・樗風・
夷岳・宇均・筭路・万像・應吏・太举・有問・左一・其象・佳長・
唸阿・騏郷・盤偶・[亘彦・亘風・鍼旧・仙魚・節堂・蘭々女・
角山・澹齋・春塘・薄詞・一露・月燭・梅仙・枝月・可成・忍世・
橘集・素羊・一阿・湖儂・鳳棲・里鶯・彩霞・杏邨・掬月・廣詠・
指月・林□・簾峯・其伯・知軒・兔月・漁洲・ミと女・野風・

大夢・簾栗・寄晴・秋湖・穎甫・文笠・友撫・可候・(葉改陽)

桑陽・桑陽・桑陽 二段組

※ 「嘉永辛亥冬」 / 桑陽改号転庵披露

▼嘉永五年

178 歳旦 全紙 一具(江戸連) 素真 江戸名所双六図 ○ アイウ ×

由誓・為山・萬古・鳥吟・百古・萬車・きく雄・長宣・魯心・
四端・由水・世員・薰道・祖郷・梅思・照子・舍孝・鯉水・拙誠・
俗中・卜早・幻外・尋香・見外・氷壺・千竹女・桜盛・一室・
山方・波鷗・波静・大鵬・祐之・吞龜・不醒・可簫・庵守・素訣・
詠久・五雀・木公・山子・清風・狐堂・唐人・雖可・西馬・逸淵・
一具

※ 双六仕様

179 慶賀 全紙 土容 千松 翁舞図 ○ イエ ×

梅室・土容・天来・春蔭・鼎左・鶯宿・井資・祇白・素屋・賀曉・

百紫・吟風・恕江・巢居・蘆月・里祥・土甫・豊橋・秋輔・魚全・
不及・花映・樵哥・路春・田井女・梅園・春蔭・桃園・扇頂・
孚月女・茂郷・子直・梅枝」・天来・鼎左・鶯宿・芦汀・祇白・
井資・素屋・土容 二段組

※ 梅室前書に「嘉永壬子后如月」とある。／土容還曆並びに新
庵祝

180 歳旦 全紙 春松 高雅 子日松図 ○ アイウエ ×

(京)勇魚・梅室・岱年・有節・梅通・芹舎・丈翠・淡節・杜鷲・

九起・乙雅・禾明・郎風・篤明・明良・仙歩・勝錦・石堂・雪徑・
月坡・(島原)八重機・(大ツ)蕙逸・(江戸)一具・由誓・逸淵・
西馬・為山・松什・(イセ)雀叟・五鈴・梅兄・忝圃・花因・梅西・
(三河)蓬宇・三岳・(イヨ)鳥岬・黙翁・花戎・(オク)多代女・
(デハ)御風・(カヅ)大夢・(カヅ)卓丈・(越中)卜少・勢斎・
(筑ゼン)乙國・(行脚)三草・(行脚)野鶴・(行脚)波同・(行脚)
梅庭」・(浪花)白鷗・鶯宿・可庭・蟻兄・乙鷲・林曹・素屋・鼎左・
其山・桃室・草斎・(在大坂)兔尺・月底・而后・黄山・聴松・
鳥津・列根・蓬陽・一清・鵬居・金樵・醉雨・梅裡・李曠・文之・

一武」・鶯道・樹鶴・古道・楽々・成里・夏両・義行・陶嶺・一桃・
其迹・葉堂・春松 三段組

181 歳旦 全紙 故厓 三拙 袴義図 ○ イエ 山彦

(京)梅室・岱年・有節・梅通・芹舎・九起・淡節・禾明・(サガ)
石外・(大坂)鼎左・林曹・其山・松隣・白鷗・素屋・(アハ)鳳棲・
思風・積翠・茶雷・(トサ)雲外・元史・嵐夕・(イヨ)鶯居・
(サヌキ)蓬洲・(アキ)四端・桃雨・梅思・一蝶・(ヒゼン)悠々・
(ヒゴ)林土・(サツマ)馬翁・桃戴・(イガ)養瓜・(イセ)東作・
(アハツ)砺山・(スルガ)漣山・(カイ)可轉・竹良・(シナノ)葛古・
芦川・(エチゴ)乙良・茶山・素明・(サド)西塙・(デハ)御風・
璫山・(ムツ)舍用・如雲・一止・(松前)己有・一旭・榻雪・北嵜・
一甫・(下フサ)得老・旭斎・(下ツケ)桃仙・(上ケ)琴堂・吳羊・
一郎・朱室・竹烟・(ムサシ)竹山・南々・寄三・支英・天由・
護民・月雄・短長・桃郷・月織・(サガミ)立宇・宣頂・丹堂・
白齡・拔堂・天狗・梅堂・貞止・竹司・柳明・素外・卓郎・見外・
松什・遅流・古武良・柳樹・巴雪・詠久・有佛・普陽・雪可・
雄太・英鳥・鳥吟・杜涼・月之・等栽・祖郷・惟草・為山」・一具・
念々・萬古・百古・古山・鬼丸・錦露・五雀・柏水・里椿・一水・
里鶴・かしく・禾柳・つたを・寿・北生・柳雨・珀雄・柳糸・
松堂・鷄里・南斎・松林・為員・慶秀・啼衛・敬幾・柳枝・曉山・
桃里・湖鳥・魚交・三津人・梅司・柳霞・近松・湖柳・水雨・
久義・東英・哥雄・可和井・掃月・二針・均外・薰道・弘湖・

青好・俗中・氷壺・得蕪・梅笠・由誓・西馬・逸瀨・故厓

※ 「嘉永壬子春」

二段組

182 その他 半裁 應叟 九華 松竹梅活花図 ○ イエ ×

朴亭・**稲直**・見外・御風・素山・素屋・石外・梅室・葛露・野石・
一峰・梅英・氷花・松甫・五桑・晴江・清由・雲峨・柳壺・應叟

18十一首一聯 26

※ 「嘉永壬子年二月」／北野聖廟九百五十年忌

183 春興 半裁 和泉 北明 初釜図 ○ イエ ×

梅室・有節・月波・芳英・(ナニハ) 鼎左・林曹・素屋・(エド)
由誓・一具・祖郷・五雀・四端・均外・薫道・詠久・(イヨ) 鶯居・
(トサ) 壺通・(アキ) 梅思・(ヲハリ) 黄山・而后・(上毛) 心足・
春山・清風・老池・伯園・碩栄・臨川・(古稀翁) 松蔭・如牛・
(近江) 錦城・月挙・素瀨・梅真・秋湖・桃園・古瓢・烏月・備極・
知風・玉峰・昇水・紫袴・逸洲・路鶴・洗斗・在竹・一聲・木壺・
十全・逸瀨・西馬・東逸・如泉 52 29

※ 「嘉永壬子春」

184 春興 全紙 雪当 来章 桜図 ○ アイウエ ×

(洛) 梅室・有節・梅通・杜鷲・杜蓼・禾明・黙池・淡節・烏岬・
石堂・蒼山・雪径・祭魚・(大坂) 鼎左・素屋・其山・井左・南洋・
(丹バ) 九華・(信樂) 楓下・(ハリマ) 可大・(イガ) 養瓜・(竹川)
蕙雨・(松ザキ) いはほ・(四日市) 岐蝶・(津) 雀叟・蟻扇・畚麦・
子遷・梅先・梅后・柳眉・柳固・春窓・春留・春門・雅琴・(同)
不山・素充・千丈・一二三・林友・(梅柳社連同) 士文・野鳥・初哉・
芦暁・竹有・花因・南枝・松堤・紫玉・野芳・春整・蓬洞・春霞・
梅一・松涛・梅曆・圓月・来守・鞞涛・千久保・桜村・笋村・
雪当 二段組

※ 「子の春」

185 慶賀 全紙 如檉 文麟 桜花楼門図 ○ イウエ ×

(京) 梅室・梅通・淡節・石堂・月坡・(カメ山) 空峰堂・冬斎・
(山田) 只方・梅臺・不一庵・素留・梅蔭女・枝形・雨柳・彌月・
春門・(タンバ) 九華・蘭圃・緑池・雪当・雅棗・士丈・芦暁・
紫玉・松提・花因・竹有・池柳・野鳥・(大坂) 里川・其實・梅宿・
素屋・有節・(春整更) 如檉・野芳・如檉・野芳・如檉・野芳・
如檉・如檉・如檉・如檉・如檉 二段組

※ 「壬子之春」／瀬々居如檉改号披露並びに送別

186 春興 全紙 普陽 山方 春山・夫婦岩図 ○ イウ ×

普陽・為山・淡齋・萬古・遲流・百古・可簫・山方・山子・波靜・
 閑那・ミもと・(京)梅室・淡節・石外・梅通・芹舎・九起・黙池・
 有節・丈翠・杜蓼・祭魚・禾明・篤明・朗風・明良・杜涼・松南・
 松朗・響角・草陽・始風・蒼山・石堂・乙雅・杜鷲・(伏見)岳鳳・
 (大阪)林曹・素屋・其山・漁隱・秋栞・鼎左・(伊丹)太乙・曲阜・
 (堺)此松・白丈・(兵庫)醒花・似蘭・(紀州)閑那・(近江)砺山・
 蕙逸・月坡・(伊勢)五鈴・蕙雨・梅西・雀叟・(尾張)而后・黄山・
 李曠・籟一・錦水・玄至・蓬陽・烏津・(三河)蓬宇・(遠江)杜水・
 澄霞・聽雨・嵐牛・烏谷・(駿河)漣山・古堂・其國・月栖・烏麦・
 (甲斐)雲里・(伊豆)青霞・松宇・重霞・五尺・蓼花・草塙・梅山・
 寿久二・龜山・(相模)立宇・柳明・□□・秀浦・竹山・窃々・
 乙居・雪蕉・木鷄・由岐雄・(武蔵)茶暁・潮月・月大・桃郷・
 梅堂・月雄・素外・短長・岱里・(雲水)江平・(江戸)漣々・四端・
 梅思・詠久・弘湖・音好・故厓・薰道・雄左・魯牛・素伯・瓦村・
 黙齋・蘆雪・曆明・曆外・然々・波鷗・祐之・世員・龜稗・叩月・
 荳丸・樹石・梅峨・きく雄・鳥吟・秋香・大鵬・萬古・双壺・
 如是・直女・知□・□□・冬川・錦川・萬芳・棣宇・子実・一具・
 由誓・松什・冰壺・祖郷・大英・古山・魯心・幻外・惟草・見外・
 得蕪・卓郎・梅笠・等栽・念々・西馬・逸洌・遲流・松塘・芦友・
 松堂・雪哉・雪年・百丈・洌叟・弄化・万里・冬守・ミもと・
 波靜・山子・山方・可簫・百古・溪齋・為山・普陽

三段組

※「嘉永子のとし」

187 春興 全紙 万里 臥春 木蓮・掛軸図 ○ イエ 潜先

(京)梅室・禾明・淡節・(大坂)鼎左・松隣・素屋・柳守・史山・
 其山・(ヒゼン)悠々・(日向)双鳥・(イヨ)鶯居・菊圃・(アハ)
 鳳棲・桑葉・(越中)恕兮・(越后)ちから・乙良・鷺眠・清水・
 子希・及耕・好靜・茶山・(オク)多代女・一止・梅成・如雲・
 六槐・舍用・(デハ)御風・吟風・(近江)月峯・蘆雪・嵐后・砺山・
 (ヲハリ)烏津・籟一・黄山・(遠江)烏谷・杜水・(スルガ)漣山・
 (カヒ)竹良・焉哉・(サガミ)如々・宣頂・素外・柳明・南窓・
 榎堂・桃郷・拔堂・立宇・(上毛)栞堂・米室・梅雄・素城・如松・
 石鳴・布山・関市・(下毛)崑淅・嵐齋・(安房)あや雄・(上サ)
 柳塘・未成・東齋・(下サ)崑年・以兄・士朗・志交・美靜・黙知・
 その女・(武蔵)竹山・五渡・南々・寄三・天由・溪齋・一具・坦々・
 好甫・蓬交・芦月・泰山・採響・臥春・北松・尋香・梅思・五雀・
 四端・詠久・西馬・遲流・可簫・波靜・山子・山方・松堂・梅峨・
 松塘・雪年・雪栽・冬守・ミもと・普陽・百古・為山・(江戸)
 梧青・(越後在府)巴陵・(紀伊在府)閑那・古むら・鶴翁・一水・
 雄太・楼翁・故厓・渡江・竹巨・音好・弘湖・逸洌・丁知・峽舎・
 言山・竹賀・松鷄・栞舟・崑来・南枝・得蕪・龍守・荷少・素伯・
 古春・桃宇・湯山・荳丸・等栽・一雅・紫端・如柳・見外・波鷗・
 世員・祐之・冰壺・炉雪・慶寿・漣在・鳳菊・念々・漣々・曆明・
 方江・葉垣・曆外・普然・然々・北正・北扇・雨清・此衣・鶯勢・
 古山・秋香・惟草・青厨・蒼梧・米丈・かつら・卜早・南外・
 祖郷・松什・抱儀・万古・瓦村・大鵬・菊雄・叩月・拙誠・完鷗・

由之・仙鳧・珪琳・月村・鳥吟・白起・月之・山外・不染・芝角・草仙・孚門・卓堂・勾宿・帰一・浄勇・琴雅・無外・巢晃・米山・魯心・梅笠・卓郎・少太郎・万里 三段組

※ 「壬子のとし」

188 追善 半裁 連中 景文 梅花図 ○ アイウエ ×
はる女・箕輔・連中

3 7

189 夏興 全紙 山子 圭岳 牡丹図 ○ イウエ 竹窓

梅室・芹舎・鼎左・素屋・砺山・月拳・雀叟・五鈴・黄山・李曠・杜水・立字・竹良・可樵・醒花・舍用・如雲・禾用・多代女・清風・唸風・璵山・大夢・丹嶺・恕兮・乙良・たから・峩香・嵐齋・崑得・関市・梅雄・あや雄・柳塘・未歳・崑年・□□・悠々・双鳥・菊圃・元史・万像・思風・鳳棲・閑那・一具・由誓・得蕪・松什・祖郷・西馬・万古・尋香・幻外・波鷗・普陽・拾椎・氷壺・溪齋・遅流・きく雄・百丈・松堂・松塘・弄化・蓬友・泰山・鳥吟・大蒼・みもと・冬守・可簫・波静・山方・百古・為山・山子 二段組

※ 「子初夏」

190 その他 全紙 夫雪 吞舟 揚簾図 ○ アイ ×

梅室・夫雪・梅通・丈翠・有節・淡節・石堂・草陽・月坡・有節

草陽・梅通・丈翠・淡節・文海・雪径・石堂・化蜀・蒼雪・夢跡・蒼仙・月坡・鼎左・素屋・蟻兄・而后・鳥律・一清・芳英・黙池・禾明・杜蓼・静山・菓郷・笈雲・野霍・董子・蒼山・石外・逸淵・一具・由誓・卓郎・為山・梅笠・遅流・詠久・五雀・半湖・音好・松室・念々・見外・西馬・孤月・其盛・其昔・蝶二・漱石・呉仙・鷄時・雨麦・武陵・紫交女・古松・蘭友・種月・英右・古川・蘭径・其風・紫川・旭昇・梅陰・柳月・松園・菊後・夫雪 二段組

※ 「壬子首夏」／夫雪送別

191 その他 全紙 挙一 梅居 筍 桜花図 ○ イ 春世

(逸) 梅室・芹舎・禾明・丈翠・淡節・也然・有節・梅通・(大坂) 鼎左・素屋・光林・梅圃・井竹女・卦龍・涼松・井資・可兆・其山・鶯宿・杜鴻・(堺) 此松・(伊賀) 養瓜・(尾張) 而后・鳥津・李曠・一清・梅裡・黄山・月底・(三河) 蓬宇・三岳・(越前) 竹雅・豆歳・(越中) 卜少・完爾・發遲・蘭圃・不及・完哉・恕兮・(越後) 大醒・子英・好静・千布・乙良・(下毛) 竹醉・其雪・露草・(常陸) 一桃・一雪・二三・竹人・清山・知麦・宜山・窓丸・(石見) 青池・一池・雀洲・夕嵐・藤園・梅日・霞松・青々・一桃・(出雲) 松椽・(播磨) 聴洋・悟一・(備中) 耘籽・(阿波) 茶雷・宇均・夷岳・筍路・鷗池・(江戸) 由誓・松什・為山・山方・波静・山子・瓦村・完鷗・等栽・素伯・龍守・苜丸・桃宇・荷少・卓郎・見外・惟草・榮晃

水谷・秋香・憐鶴齋・冬守・均外・草仙・千之・崑末・一水・
龜遊・樂之・宗玉・叩月・不染・羽雪・松鶴・成泉・琴舟・西馬・
抱像・一具・(下総)汎翠・旭齋・二鳩・知風・歩山・羽井・知九・
文翼・知来・立朝・完嶺・鶴歩・文耕・居六・季山・**丁知・挙一**・
得蕪・茶瓢・挙一・丁知・得蕪・茶瓢・得蕪・南枝・万頃・東洲・
無山・松舟・鼓汀・茶瓢・松友・留木・竹賀・其瀾・汲古・拙誠・
知走・春世・枝玉・峽舎・南汀・白起・丁知・挙一 三段組

※ 「壬子の初夏」／挙一送別

192 夏興 全紙 撫泉 筠齋 郭公・早乙女図 ○ アイウエ ×

梅室・岱年・有節・淡節・九起・杜鷲・松隣・稻所・素屋・鼎左・
黃山・而后・李曠・鳴居・應知・菊圃・大夢・丹嶺・悠平・柳壺・
悠々・乙良・茶山・春室・江三・一止・清民・多代女・龜渕子・
一具・遲流・松什・見外・溪齋・逸淵・念々・幻外・百丈・鳥吟・
荷少・みもと・萬古・氷壺・守耕・等栽・祖郷・西馬・山外・
為山・由誓・兎月・淇月・英齋・樗風・二木・文我・一頂・夏夕・
梅月・如桃・良佳・里月・對梅・奇峰・楓二・幽雅・玉泉・迎風・
里竹・棟明・一桃・雪友・雨柳・松霏・一步・可慎・(行脚)音好・
雪鮮・誘之・素玄・太嶺・薰暎・雪琴・可亭・一民・竹雄・碧水・
清風・如仙・風知・素雪・露城・唸風・松霞・蟻道・其風・月岡・
其東・吳蓼・菊仙・三笑・怡々・河暎・鶴二・月想・清齋・二葉・
雲岱・其仙・桃暎・覃々・枕石・松陽・如春・良和・雪貢・素山・

御風・撫泉 二段組

193 夏興 全紙 甘古 岸讓 瀧・蚩図 ○ ウエ ×

(京)梅室・梅通・芹舎・月坡・蒼仙・孤南・文海・有節・(大坂)
素屋・蟻兄・松隣・鼎左・(ナゴヤ)而后・黃山・(デハ)國彦・
素山・(アハ)思風・茶雷・(アハチ)鷗池・希鱗・(トサ)壺通・
(イタミ)曲阜・太乙・(近江)月舉・(イヨ)暉紅・(イガ)養瓜・
(イツモ)百年・(エチゴ)茶山・(イセ)惠雨・(カミ)文艸・丹嶺・
(江戸)一具・為山・流芝・(在江戸)梅思・西馬・(アキ)一鳳・
蘭陵・鶴居・米齋・聽雨・芳笠・荷雪・菊年・等兒・豐齋・瓜畦・
梅卜・流左・梅父・芝蕙・梅珉・清芙・霞鶴・丸扇・花喬・嵐峯・
旭翠・蓬壺・露暎・松園・古徑・程喜・柳塘・松派・西夢・木居・
甘古 一段組

※ 「壬子夏」

194 歳旦 変形 落橙舎 霞居 燈・鼠・福寿草図 ○ イエ ×

花屋庵・松陰・(大和)松翠・八千男・和翠・子順・(美作)佳年・
松声・益雄・(神間)如清・桃雨・羽白・(備前)竹友・八麓・(江戸)
一器・(サカイ)柳吾・素柳・梅圃・涼松・一千・冬翠・葛利・
蘆勇・眠鳥・米山・竹人・二桎・可梁・花笠・落橙舎 30 32

※ 「壬子春」／三裁

195 歳旦 変形 可兆 画者不明 初鳥図 ○ アウ ×

此花庵・八千坊・(因幡)木尾・学之・雨節・(神間)梅所・(山戸)徐光・竹陰・静居・子剛・文雅・竹兔・鳥誠」・(備前)楚狂・(美作)無案・竹波・其鶴・九臯・鴨里・羅光・佳才・知流・富秀・富隣・有静・可松・桃里・可兆

※ 「壬子春」／三裁

196 秋興 変形 湧瀧 長春 月雁図 ○ アウ ×

(エド)一具・(エド)尋香・(米沢)朶峯・(米沢)一草・(ナニハ)鼎左・(ナニハ)素屋・(京)可成・(京)霞棲(サガ)百和・(タナベ)羊仙・(タナベ)宝翠・(タナベ)縮斎・(ホウランジタナベ)一琴・(ソノベ)露柱・(ソノベ)錦子・(ソノベ)竹葉・(ホウキ)一箕・(ホウキ)瓢堂・(ホウキ)竹林・(ホウキ)九一・(モリ)九價・(シノムラ)深尾・(ホヅ)魯雄・(寺ムラ)愚仏・(寺ムラ)小嶋・(寺ムラ)椿交・(中ムラ)亀楽・(中ムラ)卜笑・(カヤ)方水」・九臯・耕雲・暁堂・蘭斎・光月・(女)花の家・其玉・對石・葵雨・梅林・大年・王二丸・草楽・一堀・梅溪・一藤・湧瀧・湧瀧・湧瀧

※ 三裁

49 52

197 追善 全紙 袖女 圭岳 水辺秋草図 ○ イエ 梅寓

鈴石居士・鈴石居士・鈴石居士・鈴石居士・完和居士・完和居士・完和居士・完和居士・(日向)双鳥・(肥前)悠々・(阿波)万像・(京)梅室・淡節・芹舎・(丹波)九華・(大坂)鼎左・松隣・素屋・(近江)礪山・(伊勢)蕙雨・(尾張)月底・黄山・而后・(三河)蓬宇・(遠江)杜水・(駿河)漣山・(越後)乙良・(信濃)葛古・(越中)恕兮・(加賀)柳壺・大夢・(陸奥)多代女・梅月・如雲・舍用・一止・(出羽)御風・唸風・(常陸)一兆・(上毛)関市・梅雄・(下毛)嵐斎・(下総)崑年・淇水・交水・(安房)あや雄・(武蔵)護民・天由・南々・寄三・五渡・溪斎・(在江戸)閑那・黍丘・一具・由誓・祖郷・尋香・萬古・等栽・等柴・荳丸・不染・瓦村・抱儀・得蕪・松什・月村・月ふる・兮外・詠久・西馬・逸渕」・遅流・鳥吟・きく雄・大年・松塘・苜友・松堂・普陽・弄化・百丈・冬守・ミもと・山方・可簫・波静・山子・百古・(イタト)尚水・(ヤナカハ)凡和・(大山)宣頂・(ミノケ)丹堂・(□□□)榎堂・觀堂・(サカヒ)斗薙・(□□□)木比・(トヨタ)天均・圭甫・一山・一亜・春紅・飛斎・東居・露翠・(イセハラ)井蛙・玉泉・完東・(天山)・升平・簾水・(チカツタ)兔来・(アイカワ)柔人・(大山)三霸・(花水)梅明・(タカツボ)大椿・真人・桂女・(アツキ)三扇・(下シマ)林鳥・(一ノ宮)一層・(ヤサキ)三舎・(ヨシザハ)月好・(イケハタ)燕桂・三芳女・(ヌマメ)露山・(エチ)吳丁・蘭砂・(川入)桃兆・(イ、山)米斎・(タシロ)牛将・(小ノ)千歳・(クラミ)杉樹・(ミネキシ)鳳巢・(川上)為不可・友飛呂・(トツカ)梅堂・(ヲダハラ)素外・

(フヂサハ) 植不流・如々・(ウラガ) 木鶏・由岐雄・(タムラ) 樵路・可合・布丈・布丈・如翠・二曉・笑草・白羽・半風・宜徳・醉齋・旭翠・壽山・雄之・巴丈・花山・鷄睡・一湖・溪水・立宇・立宇・為山・為山・袖女・(十三歳) 完山・完山・袖女 三段組
※「子初秋」／鈴石、完和小祥忌追善

198 夏興 全紙 柯童 清暉 猩々図 ○ イエ ×

梅室・梅通・月坡・可大・鼎左・松隣・素屋・由誓・一具・遲流・松什・祖郷・西馬・得蕪・萬古・山子・幻外・山方・百古・冬守・為山・閑那・潮水・嵐岱・杉里・杉露・一峯・鼠仙・水齋・竹居・梅雪・快々・南可・山庵・石雄・志友・春陰・逸中・柯童

39 39

※「嘉永五子夏」

199 追善 全紙 寛女 一信 供文台図 ○ アイ ×

故台州山人・故狂哥庵・吾朝・千柳亭綾彦・千菊園訓彦・百古鳥
屋排・六種園望遐・壺徑園秀樹・上水亭篤見・玉桃亭金俊・東几
堂金交・□□□□□□・六樹園一門・森鶯亭里住・峯松亭琴足・櫻
木館條雄・洋々亭竹廣・臨史軒関雄・吳綿堂永良・山中庵鷹住・
敵能鷹子・梅月庵春定・燕栗園千寿・梅室・岱年・九起・鼎左・
素屋・桃花・雪江・竹圃・花明・典令・水聲・魚踊・楠斎・
澤花女・錦糸女・春水女・花官女・惠雨女・梅士・三湖・大有・

無莫・三千世・禾月・舍用・江三・一止・禾山・吳陵・新甫・
曆山・鵬山・三素・一峰・好静・乙良・未足・泰山・南鶴・太素・
有我・洋々・遜阿・由誓・卓郎・松什・西馬・為山・祖郷・見外・
等栽・尋香・幻外・丁知・抱儀・逸澗・一具・多代女・清民・
乙丸・三柳・英泉・東里・丁酉・也明・一保・とめ女・八鶴・
萊史・六明・大費・守三・左吾・文草・西美・直樹・葉五・佳州・
松唱・一英・しげり女・栗丸・甘堂・山甫・□□□□□□□□□□
慎水・致道・花仙・三巴・久遊・蘇泉・月村・疊耳・東閣・木公・
甘谷・鶯谷・梅城・梅香・梅隣・揃葉・梅月・寛女 四段組

200 春興 全紙 不角 長水・公圭 小虎・牡丹・木蓮・桜図 ○
アイ ×

百堂・草齋・鼎左・呂國・鶯宿・桃室・井左・瓢六・水月・井資・
其山・素屋・万利・貞蘿・貞珉・松軒・矩洲・船齋・指山・光林・
寿扇・葛齋・芦汀・青山・臥堂・可兆・米中・草雨・桃兮・花霞・
其澇・春雅・鷄室・鶯室・蕉室・蟻兄・祇白・休叟・舍笠・此松・
此方・白鷗・士容・公祐・朗興・一三・杜鴻・夏好・兔脚・松葉・
見蒼・芝滴・柳雅・松保・正年・一木・大物・月江・友之・楓良・
曾洲・(ウツボ) 松月・乙鵝・米老・梅蒼・芦笛・珉朝・厝友・
井龜・素陶・佳水・五葉・照門・子雀・万遊・万英・化夷・一千・
(ヲワタ) 雨柳・白馬・賀柳・佳之・五諫・九瓜・梅弟・滿雪・
芦角・里水・卦龍・井竹女・(カワチ) 左栗・(カワチ) 不二門
(不二門以下十一句分破損のため不明)・丹柯・一到・碧中・松霽・

霞松・深翠・鮎居・三瓜・白賀・綾雄・貞甫・龜樂・圓中・涼松・
 万頂・春門・器水・香山・花郷・花松・三得・(下市)可撫・春岱・
 几草・残月・松月・一草・馬禿・芦影・桃渚・李蝶・烏誠・梅應・
 到風」草弘・如醉・梅朗・秋容・松翠・燕遊・芭笠・桃移・一雄・
 吾柳・花暁・一好・哥聲・鷺洲・梅圃・梅窓・我樂・磯遊・梅暁・
 有溪・三枝・扇風・南明・文昇・其遊・荷水・荷橋・歛山・虹夕・
 有屋・玉友・青友・青良・有山・荷村・有年・大年・天來・不角

三段組

※ 破損のため不明箇所多し

201 秋興 全紙 鷺道 高雄 木賊図 ○アイエ ×

(雲水) 百古・青雀・栖霞・秋湖・(雲水) 蒼山・霞汐・茶嶺・眉峰・
 (雲水) 春湖・仰河・柿谷・星坡・蟻足・英斎・烏洋・鶯俊・星岬・
 荷阜・玄堂・鷺道

20 4 1

※ 「嘉永壬子秋」／天目軒探題

202 秋興 全紙 鼎左 画者未詳 月下鹿鳴図 ○アイウエ 鼎左

松塘・龜月・(三得更) 了然・(万穗更) 移石・けん・あさ・朝鶴・
 糸鶴・ひて・磐松・萬頂・香山・喜暁・みさき・圓中・吾柳・
 涼松・井竹女・雨外・買山・草居・月人・清機・春女・楓可・
 倚松・梅弟・北梅・梅圃・花兄・理齋・(二世) 月桂・蘭月・秋崕・

里柳・文賀・松吟・竹葉・二寿・(さかひ) 麦雨・柳吾・其芳・
 米升・荒野女」(かふち) 不二門・左栗・松眉・龍川・月洲・桃水・
 一表・(少年) 其乙・雪山・秋宣・(冠山) 花嘯・禾秋・龜齡・梅嶺・
 寿栢・石雄・(針間) 鼎跡・梅六・如一・雅昇・玉光・悟一・
 (小豆嶋) 樂水・一峰・秋起・(津山) 松人・登竹・翠竹・愛三・
 (米子) 鶴棲・(上ノ関) 梅年・(石見) 一池・青池・(在江戸) 蘭操・
 可簫・(松坂) 五鈴・草斎・鶯宿・素屋・松隣・光林・卦龍・起雪・
 (左海) 此松・(在石見) 挙一・鼎左

二段組



203 追善 全紙 一峰 素真 桜図 単(墨) アイウエ 得齋

樂水居士・(京) 梅室・九起・梅通・有節・(大坂) 鼎左・白鷗・
 林曹・素屋・其山・(ヒゼン) 悠々・(イヨ) 鶯居・(トサ) 古鳳・
 雲外・(アハ) 鳳棲・(イセ) 雀叟・(ヲハリ) 黄山・月底・(アウミ) 斫山・(スルガ) 漣山・(サガミ) 立宇・(カヅ) 大夢・(ムツ) 多代女・
 (アハ) 御風・(エチゴ) 乙良・(下サ) 如昇・(下毛) 未足・(上毛) 分尾・一朗・琴堂・竹烟・(シナノ) 葛古・(ムサシ) 千瑞・南々・
 寄三・竹山・汶平・大嶺・來陽・逸野・鶴臺・隣山・一晁・為存・
 青荷・斗六・其椎・玉我・以貞・為一・大瓠・誠虛・政平・雪甫・
 成隣・朶英・白悠・文蝶・友義・良護・一溪・秀谷・得所・嶺外・
 素耕・而耕・湛來・可梯・三九・竹聿・暉遊・甫水・鶴夢・風也・
 其英・素文・雪窓・梅芳・紫石・一詠・一遊・一兆・吳頂・扇要・

如柳・逸雲・芹雪・楚南」・(ムサシ)月雄・雪山・可昌・龜雄・
俄水・一啓・祐之・珉雪・瓊友・閣勇・鉄志・田光・桂山・楚山・
一之・文遊・露江・保遊・東英・一慶・千寛・一露・魯山・青岬・
左真・竹嶺・春秋・副水・眉月・鶴遊・石孚・石黄・青布・(江戸)
由誓・松什・抱儀・遅流・丁知・惟草・見外・為山・氷壺・一具・
卓郎・古武良・波平・弘湖・西馬・梅笠・逸淵・(孝子)一峰・
(曙連)可南江・艸方・一嶺・花城・藤枝・柳蔵・一栗・竹二・寥々・
清逸・雲和・可也・柳舟・楽只・有柳・一暁・日二 二段組

※ 「壬子春」

204 歳旦 全紙 ちから 圭岳 新春遊鼠図 ○ アイ 竹窓

梅室・芹舎・九起・杜鷲・有節・禾明・祭魚・石外・淡節・梅通・
岱年・鼎左・素屋・松隣・悠々・可大・菊圃・砺山・楓下・五鈴・
而后・黄山・立宇・栗堂・一朗・布水・筳言・南々・五渡・溪斎・
交水・崑年・南厓・友甫・多代女・舍用・御風・四山子・由誓・
逸淵・祖郷・得蕪・卓郎・遅流・百丈・松什・萬古・詠久・螻翁・
可簫・山子・念々・山外・幻外・等栽・梅笠・萬里・尋香・西馬・
為山・氷壺・一具・ちから・素恭・ちから・蕉古・ちから・其山・
ちから・古棠」・(雲水)立器・(信中)寄芳・(ハチヲ)可庭・
(カンバラ)帰一・機介・一保・令哉・岱鵬・蓬栖・土龍・素蚪・
(ナガラカ)竹司・(小グニ)東洋・(ナミヤナホ)柳塙・禾秀・占雲・
鳳鳴・哉二・(五ケ)文鳥・有國・(ウラサ)扇守・路由・(ツマリ)

文雪・緑太・巨童・樸村・たかき・文志・其東・東茂・秀岳・友
之・公木・箕夕・春遊・蝸角・長翠・文貞・文鵬・一桂・桂逸・
花芳・鶴壽・年豊・春江・須石・里風・二翠・千岱・有中・文帶」・
七十三老人・篤之・篤之・七十三老人・七十三老人・篤之・素恭・
篤之・李朗・月周・其下・古棠・為仙・里作・蕉古・ちから・
ちから 三段組

※ 「子の春」

205 歳旦 全紙 西甫 麓亭 豆人形図 ○ イウエ 麓亭

梅室・由誓・可大・梅通・楓下・林曹・一具・立宇・抱儀・波同・
松什・白鷗・塞馬・西馬・二葉・為山・岳陰・瓢竹・丹嶺・駝岳・
得蕪・雅琴・布国・鶯居・太乙・卓郎・九華・波文・月坡・蟻兄・
漣山・野鶴・有節・拾椎・素屋・一止・悠々・圭布・甫旧・女子・
養瓜・見外・杜水・溪斎・曲阜・砺山・惟草・可庭・交水・丁知・
芳英・双鳥・必山・閑那・月撫・潮月・九起・蓬宇・尊阿・淡節・
柳壺・百古・西疇・艸陽・蒼山・茶山・雀叟・茶暁・乙良・万像」・
青坡・一桃・烏谷・祖郷・有美・其山・清民・松隣・御風・鼎左・
芹舎・多代女・月底・烏津・李曠・呂川・梅裡・欣雨・鵬居・
旭嶂・醉雨・應知・鶴叟・修竹・桃里・我竟・櫓水・桂李・三楓・
馬暁・聽松・半嶺・三聲・玄堂・栖霞・蓬陽・雨耕・青白・桂甫・
琴之・露井・松良・野丈・一斎・知風・大年・一清・黄山」・而后・
李裳・桃舟・士芳・蘿雪・久三・蓬弄・烏月・西甫 三段組

※ 「壬子春」

206 夏興 全紙 晴江 九華 月鉾玩具曳行図 ○ アイ ×

梅室・梅通・淡節・月坡・石堂・蒼山・(近江) 砺山・(ナニハ)
蟻兄・素屋・(雲水) 可大・平府・南涯・世川・野鶴・(ヲハリ)
而后・烏津・李曠・(エド) 由誓・西馬・見外・卓郎・一具・為山・
祖郷・(若クリ) 如蝸・(三日市) 完哉・恕兮・(大門) 杏尾・(シマ)
井里・(芥川) 竹子者・(今石ルギ) 都哉・来々・(トヤマ) 都盤・廉夫・
ト少」・(杉壬) 蓼牙・(高ヲカ) 有水・可中・素月・一邦・素桐・
石香・兎石・是洲・(ツルギ) 旭汀・松軒・梅堂・(トクマル) 禾城・
(大正ジ) 丹嶺・(ミクニ) 土籠・(丸ヲカ) 三巴・全那・(福井) 布珀・
(宮ウラ) 柳年・霞堤・(粟ウラ) 龜齡・林坡・清由・俗口・淇六・
可柳・梅時・鳩世・飛蝶・白燕」・鶯庭・烏長・世夕・太俵・試風・
雪溪・松庭・買葉・知石・辰壬・滄翠・芝雄・里仙・西巷・松玉・
江亭・三外・蘭尺・北撫・児游・卓丈・晴江 三段組

※ 「子の夏」

207 秋興 全紙 冬守 古峰 秋野名月図 ○ アイエ 梅富

(京) 梅室・芹舎・梅通・淡節・百古・有節・(天和) 可撫・(タンバ)
九華・(タンゴ) 双・(大坂) 松隣・鼎左・其山・素屋・(兵庫) 醒花・
(ハリマ) 可大・(アハ) 万像・思風・茶雷・(トサ) 古鳳・元史・
婦牛・梅十・(イヨ) 菊圃・(ヒゼン) 悠々・(日向) 双鳥・(近江)

砺山・(イセ) 五鈴・蕙雨・(ヲハリ) 黄山・而后・李曠・一清・

鳥津・(三河) 蓬宇・(遠江) 杜水・(カヒ) 斗一・竹應・竹良」・(下サ)
交水・崑年・桃雨・山芝・南里・すか雄・斗文・對坡・呉麦・
竹雄・山賀・斗光・撫海・松泉・可実・斐石・市隱・麟之・為水・
如蟻・湛水・雨麦・羽中・越神・以兄・士明・(カツサ) 霞雪・
柳塘・(安房) あや雄・(上毛) 関市・(下毛) 嵐斎・希得・(ヒタチ)
一兆・(ムツ) 多代女・舍用・一止・梅成・三泉・英泉・如雲・
清井・梅月・光花・(ツガル) 冬松・童波・(松マハ) 小鯤・(テハ)
唼風・素山・璫山・撫泉・御風・(カド) 柳壺・文器・大夢・晴江・
(エツ中) 恕兮・(エチゴ) 乙良・茶山・ちから・孤舟・(サド) 左山・
谷守・斧山・三省」・(サガミ) 立宇・布丈・白羽・由岐雄・木鷄・
(ムサシ) 五渡・溪斎・(江戸) 一具・由誓・逸渕・西馬・祖郷・
松什・等哉・見外・氷壺・得蕪・卓郎・惟草・抱儀・古山・魯心・
尋香・音好・無外・萬古・俗中・□綱・梅思・不染・等柴・苜丸・
瓦村・秋香・漣々・きく雄・芝角・叩月・波鷗・雪年・慎園・
古むら・貞之・月之・北松・泰山・(在江戸) 黍丘・閑那・遅流・
百丈・松堂・青柿・松塘・弄化・千さ女・梅露・芦友・普陽・
ミもと・山方・可簫・波静・山子・為山・冬守 三段組

※ 「子仲妖」

208 秋興 全紙 晴江 画者未詳 秋野旅女図 ○ イエ ×

梅室・梅通・禾明・淡節・石堂・董子・也然・芳英・月坡・

(アフミ) 砺山・(ナニハ) 素屋・可庭・(兵ゴ) 季駿・可大・(尾ハリ) 而后・李曠・梅裡・金撫・鳥津・鳥谷・(エド) 西馬・祖郷・崑川・梅笠・万古・為山・(ト山) ト少・都盤・(大ツ) 杏庵・(タカ丘) 是洲・秋鼎・芝石・橙園・石香・(イナミ) 陸平・(タナ田) 和水・(本領) 霞翠・(シマ) 井里・(放生ツ) 柳溪・(三日市) 恕兮・(水ハシ) 定爾・(若クリ) 如蝸・(飯夕) 凉瓜・(ラク井) 布珀・(ミクニ) 土籠・(大正寺) 丹嶺・呼亭・(トク丸) 禾城・(ツルキ) 旭汀・(宮ノコシ) 柳年・霞堤・(粟ウラ) 龜齡・有磯・萊丈・悠河・新月・俗口・梅英・蕙山・野夕・一峰・西巷・鉉・霞翠・里仙・望晴・溪岸・美艸・静鵝・鳳石・見山・嚴臺・梅時・蘭尺・徳二・季節・風翠・江波・柳壺・林坡・清由・素桃・如水・忝玉・江亭・可樂・雪溪・鶯庭・鳥長・梅亭・児游・卓丈・晴江 三段組

※ 「子乃秋」



209 慶賀 半裁 梅左 蘆中 浦島太郎図 ○ イエ ×

梅左・蟻兄・素屋・石叟・見齋・(和五条) 龜淵・月人・花蟲・可庭・辰齋・不角・眉山・其月・荷村・蘆中・呉山・楓良・素柳・無一・杜鴻・豊水・藍水・井左・(七十才) 岸女・桃兮・艸雨・鶯室・耕蓑・井竹女・其丈・石叟・萬頂・鼎左・可猿・瓢六・
 執筆
 歌仙 19

※ 七十齡自祝

210 冬興 半裁 呉城 華巢 雀・雪囲椿図 ○ アイエ 閑隙齋

(京) 有節・公成・淡節・(大坂) 素屋・其山・(ラシミ) 岳鳳・(ハリマ) 守三・(サヌキ) 林水・(カ) 大夢・(越中) 楽子・恕兮・竹外・(信ノ) 一之・(上毛) 木節・尚曰・魚魯・居之・嵐秋・(下毛) 凉雨・文東・三空・(ムツ) 如室・一止・(ヒタチ) 李郷女・(下サ) 以兄・吟松・(サガミ) 木鷄・柳江・貞止・貞齋・(ムサシ) 五渡・夏暁・秀暁・大雅・白紙・月口・持丸・可久・(江戸) 西馬・鳥吟・踊雀子・翠山子・風節・香雲・氷月・春妓・春二・冠山・伊三吉・為山・抱儀・苜明・梅窓・一響・末佛・秦我・永機・大鵬・不染・呉城 60 30

211 秋興 半裁 湧瀧 長春 月雁図 ○ アウ ×

(エド) 一具・(エド) 尋香・(米沢) 朶峯・(米沢) 一草・(ナニハ) 鼎左・(ナニハ) 素屋・(京) 可成・(京) 霞棲・(サガ) 百和・(タナベ) 皐仙・(タナベ) 宝翠・(タナベ) 縮齊・(ホウオンジタナベ) 一琴・(ソノベ) 露桂・(ソノベ) 錦子・(ソノベ) 竹葉・(ホウキ) 一簣・(ホウキ) 瓢堂・(ホウキ) 竹林・(ホウキ) 九一・(モリ) 九價・(シノムラ) 深尾・(ホツ) 魯雄・(寺ムラ) 愚仏・(寺ムラ) 小鴻・(寺ムラ) 椿交・(中ムラ) 龜樂・(中ムラ) 卜笑・(カヤ) 方水・九皐・耕雲・暁堂・蘭齊・光月・(女) 花の家・其玉・對石・葵雨・梅林・大年・王二丸・草樂・一堀・梅溪・一藤・湧瀧・湧瀧・湧瀧・

湧瀧 49 3 1

212 冬興 半裁 蒼仙 雙石 雪達磨・鶏図 ○ アイウエ ×

有節・素英・杜鴻・松隣・素屋・一千・可蕉・岩溪・其月・鶯室・
松塘・鼎左・豊水・桐月・菊淵・芦笛・(乙鷺改) 石叟・可庭・
蟻兄・蒼仙 20 2 0

※ 「壬子初冬」

213 追善 全紙 素交 三拙 赤大根・孫手図 ○ イ ×

(故人) 梅室・(洛) 有節・淡節・黙地・梅通・芹舎・(浪花) 鼎左・
素屋・林曹・白鷗・蟻兄・松隣・其山・(尾張) 而后・一清・李曠・
黄山・烏津・(肥前) 悠々・(阿波) 万像・思風・鳳棲・(丹波) 九華・
(ハリマ) 可大・(近江) 砺山・(イセ) 蕙雨・(三河) 蓬宇・完伍・
塞馬・(遠江) 杜水・嵐牛・烏谷・(越前) 布珀・(加賀) 柳壺・鳩岳・
文彦・如流・大夢・(越中) 恕兮・(越後) 乙良・好静・立器・有木・
茶山・巴陵・冠妓・(テハ) 御風・唸風・璣山・桂儂・如松・車皐・
(奥) 多代女・舎用・一止・三泉・京魚・(松前) 旭・(常) 一兆・
(下毛) 其翼・五耕・和風・梅膽・岱得・一圭・嵐斎・(土毛) 関市・
杉月・竹麿・一郎・ミツ雄・玉英・嗽石・花然・(雲水) 春湖・
江平・少哉・幻外・半湖・百古・ミもと・月之・桐古・(上サ)
一澄・節守・黒守・藍守・梅守・富年・祖父・一来・林子・睡鷗・
倍年・閑々・霞雪・(安房) 静里・木二・松雫・葎松・可轉・雲里・

無底・(ムサシ) 竹山・汶平・□□・亀成・玉蛙・栄枝・眠水・

墨農・悠山・星峰・(下サ) その女・黙知・越水・(信濃) 左波・
嵩月・貞夫・月恒・雪簑・迎祥・雪頂・長荘・生々・梅月・鳥霞・
一之・梅塵・鶯室・其秋・一静・崑水・一保・菊雅・撫頭・和春・
朝鳥・(江戸) 四端・百寿・龜昇・不門・遅流・(在江戸) 閑那・
尾山・曆明・芝角・古む良・米山・(呉由) 花朝女・卜早・可都良・
一具・由誓・逸淵・為山・□□・卓郎・抱儀・等栽・祖郷・得蕪・
惟草・氷壺・念々・萬古・鳥吟・不染・羽雪・俗中・由之・古山・
等葉・苜丸・波鷗・葛布・葛二・花吾・雨兮・芙一・溪節・潮堂・
露丸・簑甲・思楽・一好・霞嶋・一瓢・園守・波玉・多戸門・
舜雅・いろと・暁笠・草笠・一雅・見外・素交 三段組

※ 梅室追善

〔付記〕

当初、音読による五十音順俳号索引をかねて、一枚摺の入集情報
を一覧する付録を考えていたが、発表媒体の性格上、俳号の検索が
容易なため、このたびは『萬色一欄』に見る改号一覧、生歿年推定
一覧を付載し、目録稿を結ぶことにした。
なお、作業行程の中で、誤植及び誤読と思われるものがいくつか
発見されたが、諸般の事情によって、正誤一覧を掲載する機会を得
なかった(改号一覧、生歿年推定一覧には修正部分が反映されてい
る)。

— 改号一覧・生歿年推定一覧 —

〔凡例〕

【改号一覧 凡例】

- 一、前号ないしは初号と思われる俳号を立項し、その改号と年次を示し、所収一枚摺の分類番号を併記した。
- 一、人物の読み方は原則として現代仮名遣の漢音とし、五十音順に配列した。なお、一部に通例に従ったものがある。

- 一、「大夢」「梅弟」等、複数の一枚摺に改号情報が確認できる人物は、分類番号を複数併記した。

- 一、前号が不明のものは末尾に「不明」としてまとめた。

- 一、年次が改元の年にあたる場合は改元前の元号を優先し、『萬色一瞶』の編集元号に従った。

- 一、一覧表をするにあたり、俳号の誤読を訂正したものがあつた。その場合は、「*」を付しその旨を明示した。

- 一、個々に説明が必要な場合は「▼」を付し、その内容を記した。

【生歿年推定一覧 凡例】

- 一、生歿年推定一覧は、生年がわかるものを【生年推定一覧】、歿年がわかるものを【歿年推定一覧】とし、二つに大別した。

- 一、【生年推定一覧】【歿年推定一覧】ともに、俳号、読み方、推定年次、分類番号の順番で配列し、それぞれの俳号の五十音順にし

た。読みは改号一覧に準じた。

- 一、年次の算出にあたっては、肩書のほか、前書等の記述も情報として採用した。

- 一、年次を計算する際は数え年により算出した。ただし、複数の一枚摺により計算が合わないものに関しては*印で説明した。

- 一、【改号一覧】と同様に、個々の俳人に対して説明が必要な場合は「▼」を付し、その内容を記した。

【改号一覧】

一 鷗 (いっおう)	↓ 桃古	嘉永七年	乾一	31
一 貫 (いっかん)	↓ 知秋	安政三年	乾一	93
一 貫 (いっかん)	↓ 可生	天保十五年	乾二	40
一 江 (いっこう)	↓ 春和	安政三年	坤四	204
一 菜 (いっさい)	↓ 夷逸	嘉永二年	乾三	86
一 三 (いっさん)	↓ 素梅	安政三年	坤四	178
一 之 (いっし)	↓ 雨兮	嘉永三年	乾三	134
一 翠 (いっすい)	↓ 松翁	天保十五年	坤二	124
一 仙 (いっせん)	↓ 香嘯	文久二年	坤三	40
一 琢 (いったく)	↓ いさ吉	嘉永六年	乾一	16
* 「いみ夫」とあるが誤読と判明したため「いさ吉」とする。				
一 蛸 (いっりん)	↓ 一鏡	嘉永六年	乾一	1
雨香 (うこう)	↓ 雨江	天保十四年	坤二	53
英居 (えいきよ)	↓ 耳洗	弘化二年	坤二	157

永長 (えいちよう)	↓ 敬黒	天保十五年	坤二 102	其雄 (きゆう)	↓ 帰松	天保十四年	坤二 5
乙鷺 (おつが)	↓ 石叟	嘉永五年	乾三 212	龜遊 (きゆう)	↓ 只青	安政三年	坤四 220
我詠 (がえい)	↓ 素流	天保十五年	坤二 124	吸川 (きゆうせん)	↓ 雀良	嘉永五年	坤四 34
花暁 (かぎよう)	↓ 花郷	安政二年	乾一 78	暁人 (ぎようじん)	↓ 冠里	安政三年	乾一 86
哥好 (かこう)	↓ 扉丸	嘉永六年	坤四 36	玉蘭 (ぎよくらん)	↓ 香雨	嘉永三年	乾三 143
花考 (かこう)	↓ 節之	安政二年	乾一 59	其隴 (きろう)	↓ 水月	天保十五年	乾二 34
禾持 (かじ)	↓ 護道	明治三年	坤三 77	勤泥 (きんでい)	↓ 涼瓜	嘉永二年	乾三 121
花調 (かちよう)	↓ 可兆	弘化四年	乾三 33	近峰 (きんほう)	↓ 吾蝶	安政四年	乾一 115
佳柳 (かりゆう)	↓ 静之	嘉永二年	乾三 112	金令 (きんれい)	↓ 半月	弘化三年	乾三 13
完湖 (かんこ)	↓ 抱節	安政三年	乾一 94	九四丸 (くしがん)	↓ 梅仙	安政四年	乾一 131
磯喜 (きき)	↓ 為梁	明治三年	坤三 92	具物 (ぐぶつ)	↓ 愚佛	天保十四年	坤二 54
掬月 (きくげつ)	↓ 如水	嘉永五年	坤四 23	恵月 (けいげつ)	↓ 柏年	天保十五年	乾二 33
其月 (きげつ)	↓ 梅家	天保十五年	坤二 77	月虚 (げつきよ)	↓ 虚心	嘉永四年	乾三 163
起月 (きげつ)	↓ 白浦	安政五年	乾一 150	月江 (げっこう)	↓ 葛路	安政三年	乾一 99
其山 (きざん)	↓ 其堂	天保十五年	坤二 102	月坡 (げつぱ)	↓ 赤甫	安政三年	坤四 202
器山 (きざん)	↓ 有底	嘉永七年	乾一 25	向月 (こうげつ)	↓ 江月	安政四年	乾一 138
其丈 (きじよう)	↓ 清節	弘化四年	乾三 37	好更 (こう)	↓ 凸山	嘉永六年	乾一 10
淇水 (きすい)	↓ 魯丈	嘉永六年	坤四 54	五栄 (ごえい)	↓ 如蚰	安政三年	乾一 94
既醉 (きすい)	↓ 克吾	弘化四年	乾三 35	湖外 (こがい)	↓ 故厓	嘉永四年	乾三 168
曦石 (ぎせき)	↓ 閑谷	嘉永六年	坤四 52	黒馬 (こくば)	↓ 静嘉	弘化四年	乾三 39
器叟 (きそう)	↓ 珪琳	弘化二年	乾二 61	蓑月 (さいげつ)	↓ 且碩	嘉永三年	乾三 127
淇竹 (きちく)	↓ 采可	安政三年	乾一 93	石歳遊 (さいゆう)	↓ 淇石	嘉永七年	乾一 42
橘丸 (きつがん)	↓ 旭来	天保十四年	乾二 2	左々 (ささ)	↓ 成基	安政二年	乾一 78

三卯丸(さんうがん)	↓爽暁	明治三年	坤三	77	松翠(しようすい)	↓鶏子	安政五年	坤三	91
山芝(さんし)	↓桃月	弘化二年	乾二	71	如山(じよさん)	↓為春	嘉永四年	乾三	155
三得(さんとく)	↓了然	嘉永五年	乾三	202	如蝓(じよゆ)	↓甘史	安政三年	乾一	100
枝猿(しえん)	↓椿友	天保十三年	坤初	108	▼前出「五栄」と同一人物。				
しかす	↓慈光	天保十一年	坤初	12	自楽(じらく)	↓春萌	天保十五年	乾二	20
竺魚(じくぎよ)	↓春岱	安政四年	乾一	125	紫嵐(しらん)	↓紫郊	年代不明	坤三	94
思村(しそん)	↓蓬固	安政三年	乾一	88	伺柳(しりゆう)	↓養臥	明治三年	坤三	77
自然(じねん)	↓悉川	天保十一年	坤初	8	水月(すいげつ)	↓一景	嘉永三年	乾三	127
十交(じゆうこう)	↓杜鴻	天保十四年	坤二	51	水哉(すいさい)	↓汎翠	嘉永二年	乾三	102
秀峯(しゆうほう)	↓幽々	文久二年	坤三	40	醉青(すいせい)	↓史郷	安政三年	乾一	93
守香(しゆくこう)	↓梅漁	天保十五年	坤二	57	醉諷(すいふう)	↓桃雨	天保十三年	坤初	105
寿堂(じゆうどう)	↓道機	弘化二年	坤二	164	清斎(せいさい)	↓得成	嘉永二年	乾三	111
寿楽(じゆらく)	↓子剛	嘉永四年	乾三	163	石苔(せきたい)	↓碩大	安政二年	坤四	121
珠林(じゆりん)	↓玖林	弘化三年	乾二	15	石蓼(せきりょう)	↓世外	天保十四年	坤二	29
春器(しゆんき)	↓良湖	嘉永七年	乾一	61	雪居(せつきよ)	↓松年	天保十三年	坤初	100
春整(しゆんせい)	↓如檉	嘉永五年	乾三	185	雪橋(せつきょう)	↓詠之	弘化四年	乾三	37
松霞(しようか)	↓露丘	安政二年	坤四	169	雪郎(せつろう)	↓如好	弘化二年	坤三	7
松丘(しようきゅう)	↓松溪	嘉永四年	乾三	164	千来(せんらい)	↓賀暁	弘化二年	坤二	167
松玉(しようぎよく)	↓琴雄	弘化二年	坤三	10	双鶴(そうかく)	↓休叟	天保十一年	坤初	23
松好(しようこう)	↓汶室	天保十五年	坤二	140	蒼江(そうこう)	↓鼎湖	嘉永二年	乾三	86
松枝(しようし)	↓楚遊	嘉永三年	乾三	143	蒼薦(そうちよう)	↓右柏	安政五年	乾一	150
樵二(しようじ)	↓南舍	天保十五年	乾二	30	草廬(そうろ)	↓折桂	天保十四年	坤二	27
松寿(しようじゆ)	↓涼松	嘉永四年	乾三	160	素英(そえい)	↓闌曹	安政三年	乾一	94

▼「蘭曹」は乾一101に「(蘭曹)嵐艸」とある。

素質(そしつ) ↓双年 嘉永六年 坤四59

*「素質」とあるが誤読と判明したため「素質」として立項。

素堂(そどう) ↓道機 弘化二年 坤二164

素六(そろく) ↓南洋 弘化五年 乾三71

大湖(たいこ) ↓芝耕 弘化元年 乾二20

俗中(たいちゅう) ↓貫乎 安政二年 乾一72

苔庇(たいひ) ↓橘外 安政三年 乾一89

大夢(たいむ) ↓半夢 安政二年 坤四169 201

▼坤四169以外は安政三年の一枚摺であるが、改号年次は年代の一

番早いものを採用。

竹浪(ちくろう) ↓古存 安政二年 乾一50

池草(ちそう) ↓草守 安政三年 坤四223

鳥石(ちようせき) ↓芦石 嘉永四年 乾三175

聽澤(ちようたく) ↓鼎跡 嘉永五年 坤四15

蝶文(ちようぶん) ↓文明 弘化四年 乾三46

蝶夢(ちようむ) ↓一之 弘化二年 乾二63

直丸(ちよくがん) ↓奈良丸 嘉永二年 乾三81

樗風(ちよふう) ↓思遠 嘉永七年 坤四96

稻彦(とうげん) ↓積翠 安政五年 乾一149

東枝(とうし) ↓宗也 明治三年 坤三75

吐雲(とうん) ↓撫石 天保十五年 乾二20

都宿(としゆく) ↓春門 嘉永三年 乾三143

兎昇(としよう) ↓山方 嘉永二年 乾三120

都麻呂(とまろ) ↓公然 嘉永二年 乾三107

梅栄(ばいえい) ↓桃左 安政四年 乾一131

梅郷(ばいきよう) ↓柿守 天保十五年 坤二65

梅素(ばいそ) ↓木兄 天保十五年 坤二83

梅茶(ばいちや) ↓眉鳳 嘉永五年 坤四34

梅弟(ばいてい) ↓梅鼎 安政三年 坤四189

梅年(ばいねん) ↓梅念 嘉永七年 乾一62

梅坡(ばいは) ↓青溪 安政四年 乾一117

馬年(ばねん) ↓太鳳 天保十一年 坤初10

馬勇(ばゆう) ↓双鳳 天保十一年 坤初10

晩人(ばんじん) ↓冠里 安政三年 乾一86

万穂(ばんほ) ↓移石 嘉永五年 乾三202

萬羅(ばんら) ↓何之 嘉永六年 坤四54

美月(びげつ) ↓旭翠 天保十五年 乾二41

眉白(びはく) ↓雪湖 嘉永二年 乾三108

百之(ひやくし) ↓栖山 天保十五年 乾二41

百明(ひやくめい) ↓岱雲 弘化五年 乾三64

米司(べいし) ↓稻谷 慶應四年 坤三64

米也(べいや) ↓如草 天保十五年 坤二121 128

*坤二121には「来也」とあるが誤読と判明したため「米也」として立項。

て立項。

芳齋 (ほうさい)	↓ 路菫	弘化四年	乾三	32
峯松 (ほうしよう)	↓ 五柳	嘉永七年	乾一	64
鳳尾 (ほうび)	↓ 梧井	弘化五年	乾三	51
麻三 (まさん)	↓ 契史	安政三年	乾一	93
未足 (みそく)	↓ 甘海	明治三年	坤三	77
溟海 (めいかい)	↓ 横聲	安政五年	坤三	91
黙樞 (もくぶ)	↓ 定貫	年代不明	坤三	94
雄喜 (ゆうき)	↓ 為果	明治三年	坤三	69
友古 (ゆうこ)	↓ 花映	安政二年	乾一	56
有無 (ゆうむ)	↓ 守蔭	安政三年	乾一	87
瑩儼 (ようせん)	↓ 草尺	嘉永六年	坤四	63
葉陽 (ようよう)	↓ 桑陽	嘉永四年	乾三	177
蘿丈 (らじょう)	↓ 蟻城	安政三年	乾一	89
李螻 (りご)	↓ キ外	天保十五年	坤二	67
李旦 (りたん)	↓ 白水	弘化三年	乾三	13
里椿 (りちん)	↓ 月杵	嘉永七年	乾一	23
柳花 (りゅうか)	↓ 羽長	安政五年	坤三	91
流霞 (りゅうか)	↓ 桑飛	天保十五年	乾二	21
龍海 (りゅうかい)	↓ 一賀	安政四年	乾一	115
緑峰 (りよくほう)	↓ 五鳳	安政四年	乾一	115
芦舟 (ろしゅう)	↓ 松栄	天保十四年	乾二	1
芦州 (ろしゅう)	↓ 子燕	嘉永三年	乾三	143
芦十 (ろじゅう)	↓ 鷺洲	安政四年	乾一	134

芦笛 (ろてき)	↓ 鳳梧	嘉永六年	坤四	36
和清 (わせい)	↓ 得宣	嘉永二年	乾三	111
不明	↓ (風月堂) 佳悠	安政五年	坤三	25
不明	↓ (律庵) 雨桐	安政五年	坤三	25
不明	↓ (静松舎) 菊彦	安政五年	坤三	25
不明	↓ (寸帆庵) 畝月	安政五年	坤三	25
【生年推定一覧】				
一具 (いちぐ)	安永十年	乾一	5	
一舟 (いっしゅう)	天保十二年	乾三	67	
一朝女 (いっぢょうじょ)	天保十二年	乾三	138	
英泉 (えいせん)	寛政二年	乾三	84	
詠柳 (えいりゅう)	文化五年	乾一	103	
雅琴 (がきん)	安永五年	乾二	62	
花溪 (かけい)	文化六年	乾三	61	
霞雪 (かせつ)	安永八年	乾一	5	
可得 (かたく)	明和八年	乾三	91	
花遊女 (かゆうじょ)	明和四年	乾三	60	
完山 (かんざん)	天保十二年	乾三	197	
岸女 (がんにょ)	天明三年	乾三	209	
菊丸 (きくがん)	天明五年	坤四	102	
菊畦 (きくけい)	天明二年	坤四	67	
崑久里 (きくくり)	寛政二年	乾三	119	

京魚 (きょうぎよ)	文化八年	乾三	118
虚白 (きよはく)	安永三年	乾二	48
琴吹 (きんすい)	安永二年	乾一	12
慶翁 (けいおう)	天明七年	坤三	110
月江 (げつこう)	安永五年	乾三	143
卦龍 (けりゆう)	天明五年	乾二	48
		乾三	165
* 乾三 165 からは天明六年生まれと計算される。			
幻芝 (げんし)	明和九年	坤初	60
岡翁 (こうおう)	明和五年	乾二	67
光月 (こうげつ)	天保九年	乾三	161
古谷 (ここく)	天明六年	乾三	27
三貫母 (さんかんぼ)	安永二年	乾一	25
二丘 (じきゆう)	安永七年	乾一	5
			87
* 乾一 87 からは安永六年生まれと計算される。			
習竹 (しゅうちく)	寛政十年	乾一	150
春湖 (しゅんこ)	文政十一年	坤三	55
春峯 (しゅんぽう)	天保二年	坤三	70
士容 (しよう)	寛政四年	乾三	179
松蔭 (しょういん)	享和三年	乾三	183
嘯月 (しょうげつ)	寛政六年	乾一	12
絮八 (じよはち)	天保四年	坤初	118
而来 (じらい)	寛延二年	乾三	106
新甫 (しんぽ)	文久四年	坤三	78

晴霞 (せいか)	安永五年	坤四	64
静華 (せいか)	天保七年	乾三	39
清岳 (せいき)	天保七年	乾三	43
清知 (せいち)	弘化三年	乾一	47
清民 (せいみん)	寛政五年	坤四	67
草斎 (そうさい)	安永十年	乾一	12
		乾一	165
* 乾三 165 からは安永九年生まれと計算される。			
岱年 (たいねん)	天明九年	乾三	85
卓池 (たくち)	明和五年	乾二	48
多代女 (たよじよ)	安永五年	坤四	67
		乾一	5
		乾一	47
		乾一	62
* 乾一 162 からは安永六年生まれと計算される。			
湛露 (たんろ)	宝暦九年	乾二	15
ちから	安永九年	乾三	91
茶山 (ちやざん)	寛政六年	乾一	25
樗一 (ちよいつ)	安永六年	乾一	5
丁々 (ちようちよう)	明和四年	乾三	92
遅流 (ちりゆう)	安永八年	乾一	5
		乾三	58
当丸 (とうがん)	天明三年	乾一	102
吐珠 (とじゆ)	天保九年	乾三	112
那々吉 (ななきち)	天保十一年	乾三	169
梅室 (ばいしつ)	明和六年	乾一	12
		乾一	169
		乾二	48
		乾三	82
		乾三	165
		乾三	174

* 乾一 12 からは明和七年生まれと計算される。

白翁 (はくおう)	明和二年	乾二	67
蟠龍 (ばんりゅう)	天明五年	乾二	37
百庵 (ひやくあん)	天明三年	坤四	21
富子 (ふうし)	寛政二年	乾三	116
璵山 (ぶざん)	寛政十年	乾一	154
布丈 (ふじょう)	寛政五年	乾一	5
武川 (ぶせん)	安永四年	乾一	44
文起 (ぶんき)	寛政十三年	乾一	47
文和 (ぶんわ)	明和五年	乾三	145
平山 (へいざん)	天保十四年	乾二	16
方珠 (ほうじゆ)	宝曆十三年	乾二	34 48
鳳朗 (ほうろう)	宝曆十二年	乾二	48
北仲 (ほくちゆう)	安永十年	坤初	52
木父 (ぼくふ)	明和三年	乾一	5
妙立 (みょうりつ)	明和九年	乾一	5
悠々 (ゆうゆう)	安永五年	乾一	5 47 62
湧瀧 (ゆうろう)	天明九年	乾三	92
羅村 (らそん)	文政二年	乾一	162
鈴石 (れいせき)	安永四年	乾三	154
朗寿 (ろうじゆ)	天明五年	乾二	47
和照 (わしょう)	天明六年	乾三	2

【歿年推定一覧】

惟草 (いそう)	安政三年	坤四	220
一具 (いちぐ)	嘉永七年	坤四	103 104 乾一 37
一徳 (いっとく)	安政四年	乾一	141
雨柳 (うりゅう)	天保十三年	乾一	66
霞潮 (かちよう)	天保十年	乾三	123 124
禾木 (かぼく)	天保十三年	坤初	130 坤二 47
甘志 (かんし)	明治四年	坤三	98
完和 (かんわ)	嘉永四年	乾三	197
其道 (きどう)	弘化五年	乾一	124
虚白 (きよはく)	嘉永七年	乾一	41
慶翁 (けいおう)	明治五年	坤三	110
光林 (こうりん)	嘉永七年	坤四	162
呼亭 (こてい)	安政三年	乾一	104
護物 (ごぶつ)	天保十五年	乾二	43
枝鳩 (しきゆう)	嘉永五年	坤四	33
春瓢 (しゅんひょう)	天保十一年	坤初	7
如雲 (じょうん)	安政二年	坤四	146 乾一 55
如雪 (じよせつ)	安政三年	乾一	134
助宣 (じよせん)	弘化四年	乾三	42
青芽 (せいが)	安政六年	坤三	27
積翠 (せきすい)	天保三年	乾三	68

泉花女(せんかじよ)	嘉永四年	乾三	169
蒼虬(そうきゆう)	天保十三年	乾一	153
岱年(たいねん)	嘉永五年	乾一	148
卓池(たくち)	弘化三年	乾三	18 32
鳥吟(ちようぎん)	安政五年	乾一	152
田丸(でんがん)	嘉永四年	乾一	129
梅室(ばいしつ)	嘉永五年	乾三	212
梅露(ばいろ)	嘉永七年	乾一	33
風葉(ふうよう)	弘化三年	乾三	14
平山(へいざん)	天保十四年	坤二	35 36
鳳朗(ほうろう)	弘化二年	乾三	53 171 172 173
木仙(ぼくせん)	文化十二年	乾三	30
餘力(よりき)	弘化五年	乾三	97
楽水(らくすい)	嘉永五年	乾三	203
巒三(らんざん)	嘉永六年	乾一	69
蘭秀(らんしゅう)	弘化四年	乾三	79
葦左(りつさ)	元治二年	坤三	47
龍渚(りゅうえん)	嘉永六年	坤四	59
柳涯(りゅうがい)	安政七年	坤三	29
鈴石(れいせき)	嘉永四年	乾三	197
露渚(ろえん)	弘化二年	乾二	67
呂国(ろこく)	嘉永六年	乾一	32
和文雄(わぶんゆう)	天保十年	坤初	7

編集後記

大阪府立図書館紀要第 44 号をお届けします。

業務に関しては今年、開館 20 周年を迎える「中央図書館の蔵書点検の変遷について」と平成 3 年に終了した「大阪府史」の修史事業についての報告を掲載しました。

当館所蔵資料の目録として、大阪府立図書館第 2 代館長長田富作の遺した資料の整理が終わり、紀要 42 号に掲載の〈文書の部〉に引き続き〈書簡の部〉を掲載するとともに、萬色一圃についても整理が終わり、目録を提出して頂くことができました。

また、職員有志による当館所蔵資料の翻刻についても掲載しました。

今後とも職員の研究成果の発表の場としての紀要の充実を目指し、職員一同、日々研鑽に励んでまいりますので、引き続きご愛読いただき、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当紀要に掲載された著作物に係る著作権は執筆者に属し、その著作の使用に関しては、大阪府立図書館は著作権者の了解を得ています。

編集委員（◎は編集長）

中之島図書館 ◎井上好文 大北智子 赤野未知 北川敬子 辻 沙樹 袋井龍成
中央図書館 吉川逸子 仙田ひろ子 小杉裕枝

大阪府立図書館紀要 第 44 号

2016 年 3 月 31 日

編集・発行

大阪府立中之島図書館

〒530-0005 大阪市北区中之島 1-2-10

大阪府立中央図書館

〒577-0011 東大阪市荒本北 1-2-1

<http://www.library.pref.osaka.jp/> <無断転載を禁ずる>